山形県埋蔵文化財センター調査報告書第238集

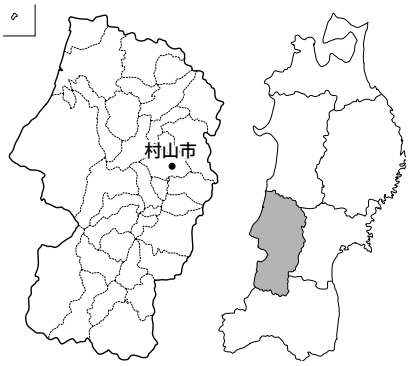
清水遺跡第1～7・9次発掘調査報告書　第一分冊　第1・3・7次編

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

清水遺跡

第１～７・９次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 238 集



第一分冊　第１・３・７次編

２０２０

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

清水遺跡（しずい）

第１～７・９次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 238 集

第一分冊　第１・３・７次編

令和２年

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 24 年 4 月 1 日に財団法人から移行）が発掘調査を実施した、清水遺跡第１～７・９次の発掘調査の成果をまとめたものです。

清水遺跡は、山形県のほぼ中央部に位置する村山市にあります。村山市は、中央に最上川が北流し、東に甑岳、西に葉山を望み、美田とそば畑が広がる豊かな土地にあります。

遺跡は、村山市名取地区に所在し、最上川が大きく蛇行する地域の右岸部に展開する河島山丘陵の東裾に立地します。その範囲は、南北 1.3km、東西約 150 ～ 380m を測り、縦長で広大な遺跡です。

この度、東北中央自動車道（東根～尾花沢）事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、清水遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡を検出し、それらのいくつかは 915 年に噴火した十和田火山の火山灰によって埋まっていました。遺跡からは大量の墨書土器をはじめとする多くの出土遺物が出土し、この地の歴史を解明する上で大きな成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和２年３月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　菅間　裕晃

凡　　例

1　本書は、東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設に係る「清水遺跡」の発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 24 年 4 月 1 日に財団法人から移行）が実施した。

4　本書の執筆編集は、伊藤邦弘、氏家信行、天本昌希が担当し、斎藤稔、黒坂雅人、荒木渉、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第１編　天本昌希

第２編　伊藤邦弘・氏家信行

第３編　氏家信行

5　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（世界測地系）により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。

6　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…竪穴建物	SB…掘立柱建物	SK…土坑・陥穴	SD…溝跡
SG…河川	SP…ピット	SX…性格不明遺構	
EP…遺構内柱穴	EK…遺構内土坑	EL…遺構内炉	

7　遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示しているが、基本は以下の通り。

遺構＝ 1/60・1/30　遺物（土器）＝ 1/3　遺物（須恵器甕）＝ 1/4

遺物ドット

○　・・・土師器坏類　■　・・・須恵器甕類

●　・・・須恵器坏類　□　・・・土師器甕類

遺構トーン

・・・火山灰単純層　・・・焼土

8　遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置は左から表面・裏面・断面の順に掲載した。

9　基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版票標準土色帖」によった。

10　遺物の法量について、単位はミリとグラムである。口径、底径の残存率をそれぞれ８分率で示し、径の復元は 2/8 をこえるもので行う。4/8 未満の復元値は、（　）で示す。ただし、歪みなどで有効な径が 2/8 以上確保できないものは復元径を出していない。有効な径が 2/8 に満たないもので径を復元したものは、(*　) で示す。破損などでの残存値は、＜　＞で示す。

11　本書を作成するにあたり、下記の方々からご指導とご助言を頂いた（敬称略）。

富山県埋蔵文化財センター

新潟市教育委員会

奈良文化財研究所　金田明大　山口欧志　中村亜希子

国立歴史民俗博物館　三上喜孝

調 査 要 項

遺跡名	清水遺跡（第１～７・９次）
遺跡番号	208‐114（平成 11 年度新規登録）
所在地	山形県村山市大字名取字清水
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 22・23 年度）
	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 26 年度以降）
受託期間	平成 22 年４月１日～平成 23 年３月 31 日（現地調査・整理作業）
	平成 23 年４月１日～平成 24 年３月 31 日（現地調査・整理作業）
	平成 26 年４月１日～平成 27 年３月 31 日（現地調査・整理作業）
	平成 27 年４月９日～平成 28 年３月 31 日（整理作業）
	平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日（整理作業）
	平成 30 年４月１日～平成 31 年３月 31 日（整理作業）
	平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日（整理作業）

現地調査	平成 22 年５月 17 日 ～ 11 月 30 日（第 1 次調査） 1 地区
	平成 22 年５月 18 日 ～ 11 月 30 日（第 2 次調査） 2 地区
	平成 23 年５月 16 日 ～ 10 月 27 日（第 3 次調査） 1 地区
	平成 23 年５月９日 ～ 11 月 11 日（第 4 次調査） 2 地区
	平成 23 年５月９日 ～ 12 月２日（第 5 次調査） 3 地区
	平成 23 年７月 20 日 ～ ９ 月 ９ 日（第 6 次調査） 4 地区
	平成 26 年６月２日 ～ ８ 月 ５ 日（第 7 次調査） 1 地区
	平成 26 年８月６日 ～ 12 月３日（第 9 次調査） 2 地区

調査担当者	平成 22 年度	調査課長	阿部明彦
		課長補佐	伊藤邦弘
	第１次調査	主任調査研究員	髙桑登（調査主任）
		調査研究員	三浦勝美・戸田敬・庄司昭一・天本昌希
		調査員	安部将平
	第２次調査	主任調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査研究員	中里秀樹・江波大
		調査員	伊藤純子・山田めぐみ
	平成 23 年度	調査課長	安部実
		課長補佐	伊藤邦弘
	第３次調査	調査研究員	天本昌希（調査主任）
		調査員	五十嵐萌・岩崎恒平
	第４次調査	主任調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	山田めぐみ

	第５次調査	専門調査研究員	氏家信行（調査主任）
		調査研究員	庄司昭一
		調査員	渡部裕司・濱松優介・齋藤和樹
	第６次調査	調査員	渡部裕司（調査主任）
		調査員	濱松優介
	平成 26 年度	調査課長	斉藤敏行
		課長補佐	須賀井新人
	第７・９次調査	専門調査研究員	氏家信行（調査主任）
		調査員	森谷康平
整理作業			
調査担当者	平成 27 年度	整理課長	伊藤邦弘
		課長補佐	須賀井新人
		主任調査研究員	天本昌希（調査主任）
		調査員	岩崎恒平
	平成 29 年度	業務課長	伊藤邦弘
		課長補佐	須賀井新人
		主任調査研究員	天本昌希（調査主任）
		調査員	五十嵐萌
	平成 30 年度	業務課長	伊藤邦弘
		課長補佐	須賀井新人
		調査研究専門員	氏家信行（調査主任）
		専門調査研究員	齋藤健
		調査員	吉田満
	平成 31 年度	業務課長	伊藤邦弘
		課長補佐	須賀井新人
		調査研究専門員	氏家信行（調査主任）
		調査員	安達将行
調査指導	山形県教育庁文化財保護推進課（平成 22 ～ 23 年度）		
	山形県教育庁文化財・生涯学習課（平成 26 年度以降）		
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所		
	村山市教育委員会		
	山形県教育庁村山教育事務所		
業務委託	基準点測量業務	株式会社山形用地補償研究所（平成 22 年度）	
		株式会社三和技研（平成 23 年度）	
		株式会社三和技術コンサルタント（平成 23・26 年度）	
	遺構測量図化業務	株式会社成和技術株式会社（平成 22 年度）	
		株式会社三和技術コンサルタント（平成 23 年度）	
		株式会社ワクニ（平成 22・23・26 年度）	
	理化学分析業務	パリノ・サーヴェイ株式会社（平成 23・26・30 年度）	
		株式会社加速器研究所（平成 27・29 年度）	

遺物保存処理業務　株式会社吉田生物研究所（平成 27・29 年度）

公益財団法人山梨文化財研究所（平成 29・31 年度）

発掘作業員	青木勲	相原繁雄	青柳直行	明石謙也	阿曽吾朗	安達ひとみ	阿部賢一
	阿部博幸	阿部保子	生島弥生	石井敏已	石川孝	石川政子	石川政治
	伊藤久美	伊藤耕平	伊藤義昭	井上恵司	井上耕一	今田英子	岩田正雄
	延藤正春	太田恵美	大沼善一	大場耕一	大場信行	大類千代子	大類彦一郎
	大類洋子	小川誠志	奥山和子	尾崎たつ子	押切康樹	小野ゆう子	折原たつ子
	海藤三男	加藤哲子	加藤美佐子	金子一子	穐葉敏一	菊田尚美	工藤一弘
	工藤秀昭	工藤美智子	公平滋	小関成一	後藤義満	小林正一	小松八十吉
	今晴夫	今野博子	今野弘	今野吉一	齋藤弘治	齋藤良一	笹崎梨奈
	笹原功	笹原庄司	笹原武司	佐竹由士	柴田春男	柴田みよ江	鈴木千秋
	鈴木智	須藤美知子	関敏雄	関美恵子	高橋浩二	髙橋惣太郎	土屋千光
	縄正治	西塚勉	沼沢富貴子	延沢好文	原田幸三	舩塚勝代	古瀬和樹
	星川敬子	星川正和	堀澄雄	堀雄一	増川多美子	松坂英勝	松田義洋
	村山良三	元木正治	森芳子	矢口和子	柳沢かおり	結城章雄	（五十音順）

整理作業員	池野仁	石山聡	板垣牧子	伊藤瑞	井上和誉	小川幸子	加藤道雄
	國井宏司	後藤幸子	志鎌久悦	鈴木薫	鈴木美香	玉木良子	土屋彩
	永岡陽一	中島夕佳	保科京子	矢野昌子	山口裕美子（五十音順）		

総　目　次

［第１分冊］　　序　編

Ⅰ　調査の経緯と経過
Ⅱ　遺跡の位置と環境

第１編　１地区（第１・３・７次調査）

Ⅰ　発掘調査と整理作業の方法
Ⅱ　遺構と遺物
Ⅲ　理化学分析
Ⅳ　まとめ
写真図版

［第２分冊］　　第２編　２地区（第２・４・９次調査）

Ⅰ　調査の概要
Ⅱ　遺構の概要
Ⅲ　遺構と遺物
Ⅳ　まとめ
写真図版

［第３分冊］　　第３編　３・４地区（第５・６次調査）

Ⅰ　３・４地区の調査概要
Ⅱ　３地区の概要
Ⅲ　３地区の遺構と遺物
Ⅳ　調査のまとめと考察
Ⅴ　４地区の概要
Ⅵ　４地区の遺構と遺物
Ⅶ　理化学分析
Ⅷ　遺跡の総括
写真図版

報告書抄録
清水遺跡第２・５次遺構配置図　付図

［第１分冊］目　次

序　編

Ⅰ　調査の経緯と経過
1　調査に至る経緯 …… 1
2　各年度の発掘調査の経過 …… 1
3　各年度の整理作業の経過 …… 4
Ⅱ　遺跡の位置と環境
1　地理的環境 …… 7
2　歴史的環境 …… 8

第１編　１地区（第１・３・７次調査）

Ⅰ　発掘調査と整理作業の方法
1　調査の概要 …… 13
2　発掘調査の方法 …… 13
3　整理作業の方法 …… 14
Ⅱ　遺構と遺物
1　竪穴建物跡と出土遺物 …… 27
2　掘立柱建物跡と出土遺物 …… 34
3　河川跡と出土遺物 …… 35
4　土坑ほかと出土遺物 …… 37
5　遺構外出土遺物 …… 41
Ⅲ　理化学分析
1　清水遺跡１地区における放射性炭素年代（AMS 測定） …… 163
2　種実同定 …… 166
3　火山灰の分析 …… 169
Ⅳ　まとめ
1　１地区出土の墨書土器について …… 173
2　火山灰の堆積について …… 174
3　調査のまとめ …… 174

表

表 1　山形盆地北部における古代遺跡 …… 12
表 2　清水遺跡 1 地区の遺構一覧　1 …… 23
表 3　清水遺跡 1 地区の遺構一覧　2 …… 24
表 4　清水遺跡 1 地区の遺構一覧　3 …… 25
表 5　清水遺跡 1 地区の遺構一覧　4 …… 26
表 6　出土遺物観察表　1 ……146
表 7　出土遺物観察表　2 ……147
表 8　出土遺物観察表　3 ……148
表 9　出土遺物観察表　4 ……149
表 10　出土遺物観察表　5 ……150
表 11　出土遺物観察表　6 ……151
表 12　出土遺物観察表　7 ……152
表 13　出土遺物観察表　8 ……153
表 14　出土遺物観察表　9 ……154
表 15　出土遺物観察表　10 ……155
表 16　出土遺物観察表　11 ……156
表 17　出土遺物観察表　12 ……157
表 18　出土遺物観察表　13 ……158
表 19　出土遺物観察表　14 ……159
表 20　出土遺物観察表　15 ……160
表 21　出土遺物観察表　16 ……161
表 22　出土遺物観察表　17 ……162
表 23　放射性炭素年代測定結果　（δ^{13}C 補正値） ……165
表 24　放射性炭素年代測定結果　（δ^{13}C 未補正値、
　　暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代） ……165
表 25　種実同定結果 ……167
表 26　テフラ分析結果 ……170
表 27　掲載墨書土器集成 1 ……176
表 28　掲載墨書土器集成 2 ……177
表 29　中央道調査による火山灰検出遺構 ……177

図　版

第 1 図　清水遺跡調査区概要図 1 …… 5
第 2 図　清水遺跡調査区概要図 2 …… 6
第 3 図　村山盆地北部の地形と遺跡の分布 …… 10
第 4 図　清水遺跡周辺の遺跡分布図 …… 11
第 5 図　清水遺跡全体と大・中グリッド配置図 …… 16
第 6 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置図と小グリッド配置図 …… 17
第 7 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　1 …… 18
第 8 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　2 …… 19
第 9 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　3 …… 20
第 10 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　4 …… 21
第 11 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　5 …… 22
第 12 図　竪穴建物跡 1　（1ST121) …… 42
第 13 図　竪穴建物跡 2　（1ST281) …… 43
第 14 図　竪穴建物跡 3　（1ST330-1) …… 44
第 15 図　竪穴建物跡 4　（1ST330-2) …… 45
第 16 図　竪穴建物跡 5　（1ST365-1) …… 46
第 17 図　竪穴建物跡 6　（1ST365-2) …… 47
第 18 図　竪穴建物跡 7　（1ST510) …… 48
第 19 図　竪穴建物跡 8　（1ST566、1ST581) …… 49
第 20 図　竪穴建物跡 9　（1ST740) …… 50
第 21 図　竪穴建物跡 10　（1ST777) …… 51
第 22 図　竪穴建物跡 11　（1ST1158-1） …… 52
第 23 図　竪穴建物跡 12　（1ST1158-2、1ST1184-1) …… 53
第 24 図　竪穴建物跡 13　（1ST1184-2) …… 54
第 25 図　竪穴建物跡 14　（1ST1290-1) …… 55
第 26 図　竪穴建物跡 15　（1ST1290-2、1ST1286) …… 56
第 27 図　掘立柱建物跡 1　（1SB657、1SB665、1SA667) …… 57
第 28 図　掘立柱建物跡 2　（1SB666、1SA668) …… 58
第 29 図　掘立柱建物跡 3　（1SB1405、1SA1406) …… 59
第 30 図　河川跡 1　（北部平面図） …… 60
第 31 図　河川跡 2　（北部断面図） …… 61
第 32 図　河川跡 3　（中央東側平面図） …… 62
第 33 図　河川跡 4　（中央東側断面図） …… 63
第 34 図　河川跡 5　（1SD186 遺物出土状況図 1） …… 64
第 35 図　河川跡 6　（1SD186 遺物出土状況図 2） …… 65
第 36 図　河川跡 7　（1SD186 遺物出土状況図 3） …… 66
第 37 図　河川跡 8　（中央西側上層平面図） …… 67
第 38 図　河川跡 9　（中央西側下層平面図） …… 68
第 39 図　河川跡 10　（中央西側上・下層断面図） …… 69
第 40 図　河川跡 11　（南部平面図 1） …… 70
第 41 図　河川跡 12　（南部平面図 2） …… 71
第 42 図　河川跡 13　（南部断面図 1） …… 72
第 43 図　河川跡 14　（南部断面図 2） …… 73
第 44 図　河川跡 15　（中央部平面図） …… 74
第 45 図　河川跡 16　（D・G 区平面図） …… 75
第 46 図　河川跡 17　（中央部、D・G 区断面図） …… 76
第 47 図　河川跡新旧関係図 …… 77
第 48 図　土坑ほか 1　（A 区 -1） …… 78
第 49 図　土坑ほか 2　（A 区 -2） …… 79
第 50 図　土坑ほか 3　（A 区 -3、B 区 -1） …… 80

第 51 図　土坑ほか 4　（B 区 -2）…… 81
第 52 図　土坑ほか 5　（B 区 -3、C 区 -1）…… 82
第 53 図　土坑ほか 6　（C 区 -2）…… 83
第 54 図　土坑ほか 7　（C 区 -3）…… 84
第 55 図　土坑ほか 8　（C 区 -4）…… 85
第 56 図　土坑ほか 9　（C 区 -5）…… 86
第 57 図　土坑ほか 10　（C 区 -6）…… 87
第 58 図　土坑ほか 11　（C 区 -7）…… 88
第 59 図　土坑ほか 12　（A 区 -4、G 区、H 区）…… 89
第 60 図　土坑ほか 13　（E 区 -1）…… 90
第 61 図　土坑ほか 14　（E 区 -2）…… 91
第 62 図　土坑ほか 15　（E 区 -3）…… 92
第 63 図　土坑ほか 16　（E 区 -4）…… 93
第 64 図　土坑ほか 17　（E 区 -5）…… 94
第 65 図　土坑ほか 18　（E 区 -6）…… 95
第 66 図　土坑ほか 19　（F 区 -1）…… 96
第 67 図　土坑ほか 20　（F 区 -2）…… 97
第 68 図　出土遺物 1　（1ST121・281・330-1）…… 98
第 69 図　出土遺物 2　（1ST330-2）…… 99
第 70 図　出土遺物 3　（1ST330-3）……100
第 71 図　出土遺物 4　（1ST330-4）……101
第 72 図　出土遺物 5　（1ST365-1）……102
第 73 図　出土遺物 6　（1ST365-2）……103
第 74 図　出土遺物 7　（1ST365-3）……104
第 75 図　出土遺物 8　（1ST365-4）……105
第 76 図　出土遺物 9　（1ST365-5・510）……106
第 77 図　出土遺物 10　（1ST566・581）……107
第 78 図　出土遺物 11　（1ST740-1）……108
第 79 図　出土遺物 12　（1ST740-2）……109
第 80 図　出土遺物 13　（1ST740-3）……110
第 81 図　出土遺物 14　（1ST740-4）……111
第 82 図　出土遺物 15　（1ST777-1）……112
第 83 図　出土遺物 16　（1ST777-2）……113
第 84 図　出土遺物 17　（1ST1158-1）……114
第 85 図　出土遺物 18　（1ST1158-2）……115
第 86 図　出土遺物 19　（1ST1158-3・1184）……116
第 87 図　出土遺物 20　（1ST1290-1）……117
第 88 図　出土遺物 21　（1ST1290-2・1286、1SB665・1405）……118
第 89 図　出土遺物 22　（1SD186-1）……119
第 90 図　出土遺物 23　（1SD186-2）……120
第 91 図　出土遺物 24　（1SD186-3）……121
第 92 図　出土遺物 25　（1SD186-4）……122
第 93 図　出土遺物 26　（1SD186-5）……123
第 94 図　出土遺物 27　（1SD186-6）……124
第 95 図　出土遺物 28　（1SD186-7）……125
第 96 図　出土遺物 29　（1SD186-8）……126
第 97 図　出土遺物 30　（1SD186-9）……127
第 98 図　出土遺物 31　（1SD186-10）……128
第 99 図　出土遺物 32　（1SD186-11）……129
第 100 図　出土遺物 33　（1SD186-12）……130
第 101 図　出土遺物 34　（1SD186-13）……131
第 102 図　出土遺物 35　（1SD186-14）……132
第 103 図　出土遺物 36　（1SD186-15）……133
第 104 図　出土遺物 37　（1SD186-16）……134
第 105 図　出土遺物 38　（1SD186-17）……135
第 106 図　出土遺物 39　（1SD186-18）……136
第 107 図　出土遺物 40　（1SD186-19・河川跡 -1）……137
第 108 図　出土遺物 41　（河川跡 -2）……138
第 109 図　出土遺物 42　（河川跡 -3、土坑ほか -1）……139
第 110 図　出土遺物 43　（土坑ほか -2）……140
第 111 図　出土遺物 44　（土坑ほか -3）……141
第 112 図　出土遺物 45　（土坑ほか -4）……142
第 113 図　出土遺物 46　（土坑ほか -5）……143
第 114 図　出土遺物 47　（遺構外出土 -1）……144
第 115 図　出土遺物 48　（遺構外出土 -2）……145
第 116 図　種実遺体 ……168
第 117 図　火山ガラスの屈折率 ……171
第 118 図　テフラ・砂分の状況 ……172
第 119 図　1 地区出土の墨書土器の集成 1 ……178
第 120 図　1 地区出土の墨書土器の集成 2 ……179
第 121 図　清水遺跡から検出した火山灰の堆積状況の集成 ‥180

写 真 図 版

写真図版 1　遺構写真 1 ～ 8（全景）
写真図版 2　遺構写真 9 ～ 10（全景）
写真図版 3　遺構写真 11 ～ 18（1ST121 ～ 330）
写真図版 4　遺構写真 19 ～ 26（1ST330 ～ 510）
写真図版 5　遺構写真 27 ～ 34（1ST566 ～ 740）
写真図版 6　遺構写真 35 ～ 42（1ST740 ～ 1158）
写真図版 7　遺構写真 43 ～ 50（1ST1158 ～ 1290）
写真図版 8　遺構写真 51 ～ 57（1ST1290 ～ 1SA1406）
写真図版 9　遺構写真 58 ～ 59（1SD186）
写真図版 10　遺構写真 60 ～ 64（1SD186）
写真図版 11　遺構写真 65 ～ 69（1SD186）
写真図版 12　遺構写真 70 ～ 77（1SD27 ～ 1378）
写真図版 13　遺構写真 78 ～ 85（1SD1378 ～ 1383）
写真図版 14　遺構写真 86 ～ 100（1SK98 ～ 351）
写真図版 15　遺構写真 101 ～ 115（1SK353 ～ 571）
写真図版 16　遺構写真 116 ～ 126（1SK639 ～ 1SX1163）
写真図版 17　遺構写真 127 ～ 141（1SK1208 ～ 1062）
写真図版 18　竪穴建物出土遺物写真 1 （上段：1ST121、中段：1ST281、下段：1ST330)
写真図版 19　竪穴建物出土遺物写真 2 （1ST330)
写真図版 20　竪穴建物出土遺物写真 3 （1ST330)
写真図版 21　竪穴建物出土遺物写真 4 （1ST365)
写真図版 22　竪穴建物出土遺物写真 5 （1ST365)
写真図版 23　竪穴建物出土遺物写真 6 （上段：1ST365、下段：1ST510)
写真図版 24　竪穴建物出土遺物写真 7 （上段左：1ST510、上段右：1ST566、中段：1ST581、下段：1ST740)
写真図版 25　竪穴建物出土遺物写真 8 （1ST740)
写真図版 26　竪穴建物出土遺物写真 9 （1ST740)
写真図版 27　竪穴建物出土遺物写真 10 （上段：1ST740、下段：1ST777)
写真図版 28　竪穴建物出土遺物写真 11 （1ST777)
写真図版 29　竪穴建物出土遺物写真 12 （1ST1158)
写真図版 30　竪穴建物出土遺物写真 13 （1ST1158)
写真図版 31　竪穴建物出土遺物写真 14 （上段：1ST1184、下段：1ST1290)
写真図版 32　竪穴建物出土遺物写真 15 （上段：1ST1290、下段左：1ST1286、下段中：1SB665、下段右：1SB1405)
写真図版 33　河川出土遺物写真 1 （1SD186)
写真図版 34　河川出土遺物写真 2 （1SD186)
写真図版 35　河川出土遺物写真 3 （1SD186)
写真図版 36　河川出土遺物写真 4 （1SD186)
写真図版 37　河川出土遺物写真 5 （1SD186）
写真図版 38　河川出土遺物写真 6 （1SD186)
写真図版 39　河川出土遺物写真 7 （1SD186)
写真図版 40　河川出土遺物写真 8 （1SD186)
写真図版 41　河川出土遺物写真 9 （1SD186)
写真図版 42　河川出土遺物写真 10 （1SD186)
写真図版 43　河川出土遺物写真 11 （1SD186)
写真図版 44　河川出土遺物写真 12 （1SD186)
写真図版 45　河川出土遺物写真 13 （1SD186)
写真図版 46　河川出土遺物写真 14 （1SD186)
写真図版 47　河川出土遺物写真 15 （1SD186-1SD27)
写真図版 48　河川出土遺物写真 16 （1SK28-1SK241)
写真図版 49　土坑ほか出土遺物写真 1 （1SK33-1SK692)
写真図版 50　土坑ほか出土遺物写真 2 （1SK358-1SK411)
写真図版 51　土坑ほか出土遺物写真 3 （1SK418-1SX1162)、調査区一括出土遺物写真 1
写真図版 52　調査区一括出土遺物写真 2
写真図版 53　墨書土器赤外線写真 1
写真図版 54　墨書土器赤外線写真 2
写真図版 55　墨書土器赤外線写真 3

序　　編

Ⅰ　調査の経緯と経過

1　調査に至る経緯

清水遺跡の発掘調査は、国土交通省による東北中央自動車道（以下、中央道）建設工事に伴って実施された。中央道は福島県相馬市から山形県内陸部を縦貫し、秋田県横手市まで 268km をつなぐ高速道路計画であり、敷設予定地内には数多くの埋蔵文化財が包含されている。

清水遺跡は平成 11 年に山形県教育委員会（以下、県教委）が中央道事業予定地内を踏査したところ、村山市大字名取字清水地内の畑に土器片の散布が認められたため、新たに登録された遺跡である。清水遺跡の取り扱いについて、国土交通省東北整備局山形河川国道事務所（以下、国交省）ならびに東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所と県教委は、慎重に協議を重ね、記録保存とする結果になった。記録保存は国交省からの委託を受けて平成 22 年から公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（以下、センター）が行う事となった。

清水遺跡は河島山丘陵の東裾部の等高線に沿って広がり、「３」字状を呈し、南北 1.3 ㎞に及ぶ細長い遺跡である。この遺跡範囲に対して、中央道は南側と北側の端部を貫くように計画されている。そのため同一遺跡内において、調査区が南北に大きく分かれることとなっている。平成 23 年度まで南側を清水遺跡（１）または１地区、北側を（２）～（４）または２～４地区として調査しており、それぞれの地区でさらに第～次調査としていた。年報や調査報告会においても同様の名称を用いている。しかし、同一遺跡において地点、調査次数がそれぞれ複数になり煩雑になるため、平成 26 年度の調査からは、南北すべての調査地点において、統一した連番の調査次数で管理することとなった。清水遺跡の調査は、調査開始日を起点として１次～８次までの調査が行われている。旧名称との対応は、以下の通り。

調査年度	旧名称	統一名称
平成 22 年	清水遺跡（１）	清水遺跡第１次
平成 22 年	清水遺跡（２）	清水遺跡第２次
平成 23 年	清水遺跡１地区第２次	清水遺跡第３次
平成 23 年	清水遺跡２地区第２次	清水遺跡第４次
平成 23 年	清水遺跡３地区	清水遺跡第５次
平成 23 年	清水遺跡４地区第２次	清水遺跡第６次
平成 26 年		清水遺跡第７次
平成 26 年		清水遺跡第８次
平成 26 年		清水遺跡第９次

調査地点を示す地区名は、便宜上そのまま残し、本報告書では、地区ごとにまとめている。

2　各年度の発掘調査の経過

平成 22 年度

平成 22 年度は、第１～２次調査を実施している。対象地区は、１地区と２地区である。

第１次調査

第１次調査は、１地区を対象としたもので、平成 22 年５月 17 日から３名の調査員で開始した。まず、地区全域を対象にトレンチを入れ、遺構の分布状況を確認した。この結果をうけて６月 16 日に国交省、県教委、センター間で協議がもたれ、南側には遺構が延長することから調査区を拡張すること、今年度は南側半分 6020 ㎡を調査対象とし、北半分は次年度とすることなどが決定された。

６月 24 日から重機を導入し表土の掘削に入り、次年度調査区の北側を排土置場とした。この表土除去と平行して８月３日まで遺構検出を行う。調査区南端から北進しながら作業を進め、農道などで区切られるため調査区をＡ～Ｃ区に分けた。検出を進めると、灰白色の火山灰で埋もれる竪穴建物や溝状遺構などが多数検出し、作業予定より上回る状況が把握された。この後の協議で９月より隣接する同一事業地内で調査中の経塚森遺跡、田向遺跡から調査員が配置換えで２名増の５名の調査員とすることや、調査終了期間を 11 月 30 日まで延長す

ることを決定した。

遺構精査は８月４日からＡ区南端より開始し、同月23日からは平行してＣ区南西端からも精査を始めた。面積の小さいＢ区は、10月18日からの精査開始である。調査初頭の確認調査によって南側に拡張する調査区をＤ区とし、10月25日から精査を開始した。Ａ区は、北進しながら溝状遺構を中心に調査を進めた。９月前半で1SD186から大量の土器が出土することが把握され、同月末までには床面から大量の墨書土器が出土する様子が明らかとなった。また、調査の進展によってＡ区の西側に重複して下層面があり、溝状遺構が南のＤ区まで延長することが確認されたため、11月10日の国交省との協議で､次年度の調査に加えることが決められた。10月24日には発掘調査現地説明会を開催し、80名の参加を得た。

調査の進展に伴い、記録を適宜作成しながら進めた。検出した遺構は、遺構検出図面の作成後、種別にかかわらず連番で001から登録し、出土遺物は、位置を記録したものをすべて連番で0001から記録していった。平面図は1/100で作成した検出図面を、隙間なく1/20の大きさで分割したものに記載した。測量は次節にまとめるグリッドを基準に、遣り方で測ったものを図化している。断面図の基準高や平面図のレベリングは、水準杭からの高さを基にオートレベル、トータルステーションなどで測量したものである。写真撮影は35ミリのフィルムカメラと６×７の中判カメラで撮影したものを調査記録とし、メモ用にコンパクトデジカメを併用した。同一のカットをそれぞれのカメラでカラーリバーサルとモノクロの両方のフィルムを用いて撮影している。

10月27日には､パリノサーヴェイ株式会社に委託し、遺構覆土中に堆積している火山灰の分析試料採取を行った。11月22日には成和技術株式会社に委託し、空中撮影と地形測量を行った。11月下旬に国交省と現地引き渡しの協議を行い、現地の状況を確認、次年度の３次調査の終了まで調査区内の工事は進まないことを確認し、同月30日に現場器材を撤収、調査を終えた。

第２次調査

第２次調査は、２地区を対象としたもので、隣接する東熊野苗畑遺跡の調査と並行しながら調査員５名で実施した。平成22年５月18日から２地区だけでなく、３・４地区を含む遺跡範囲北側全域を対象にトレンチを入れ、遺構の分布状況を確認した。この結果をうけて６月24日に県教委とセンター間で協議がもたれ、今年度は市道を挟んだ4900㎡を対象に行い、残りは次年度とすることなどが決められた。

７月７日から重機を導入し表土の掘削に入り、平行して10月初頭まで遺構検出を行う。市道で区切られる調査区を南側のＡ区・北側のＢ区に分け、 遺構精査は10月上旬からＡ・Ｂ区並行して開始した。調査の進展に伴い、Ａ区を中心に火山灰の堆積する竪穴建物や、焼失建物などが複数重複する様子が明らかになった。11月21日には発掘調査現地説明会を開催し、109名の参加を得た。

調査の進展に伴い、記録を適宜作成しながら進めた。記録の方法は、第１次調査のものと同じである。遺構番号は、Ａ区のものが１から連番で付けられ、Ｂ区は1001番から付けられる11月25日には株式会社ワクニに委託し、空中撮影と地形測量を行った。同月30日に現場器材を撤収、調査を終えた。

平成23年度

平成23年度は、第３～６次調査を実施している。対象地区は１～４地区に及ぶ。

第３次調査

第３次調査は１地区における調査で、平成23年５月16日より調査を開始し、10月27日まで、３名の調査員で実施した。第１次調査で行った確認調査の結果に基づき、昨年度に調査したＣ区の北側をＥ区、市道を挟んでさらに北側をＦ区とし、下層面で溝状遺構が確認されたＡ区、Ｄ区の一部を合わせた4450㎡を対象に調査している。

重機による表土掘削を北側のＦ区から始め、南側の第１次調査区の調査終了地を排土置き場とした。表土除去は６月２日まで行い、平行して７月６日まで遺構検出を行う。遺構精査は７月７日からＦ・Ｅ区と平行して始め、８月４日にはＦ区の精査が終了、９月１日からはＥ区と平行してＡ区の調査を開始し、10月11日にはＤ区に着手した。同月15日には、発掘調査現地説明会を開催し、70名の参加者を得ている。

調査の進展に伴い、適宜記録を作成しながら進めた。検出した遺構と遺物は、第１次調査と重ならぬよう桁を

変え、遺構は種別にかかわらず連番で 1001 から登録し、出土遺物は、連番で 3001 から記録していった。平面図、断面図ならびに写真撮影の方法については、第 1 次調査のものと同じである。10 月 25 日に現場引き渡しのための協議が国交省ともたれ、現地の状況を確認、翌々日 27 日に現場器材を撤収し、予定通り調査を終えた。

第４次調査

第 4 次調査は、２地区の南側を対象とし、第２次調査 A 区の南側 2260 ㎡を対象として５月９日から 11 月 11 日まで調査員２名、９月からは１名増員して３名で実施している。

表土除去を５月25日、遺構検出を７月22日まで行い、南西側より遺構精査を開始する。調査区南端の 2SG266 より灰白色火山灰の堆積や墨書土器の集中が見られた。また、東斜面黒ボク土中に多くの竪穴建物を検出している。調査も終盤に近づいた 11 月３日には調査の成果を広く公表する発掘調査説明会を 4 次調査と合同で開催し、121 名の参加者を得た。

調査記録の方法は、隣接する第２次調査のものと同じであり、検出した遺構番号は第２次調査で付されたものからの連番である。11 月２日に空中撮影と地形測量を株式会社ワクニに委託して実施した。11 月 10 日に現場引き渡しのための協議が国交省ともたれ、現地の状況を確認、翌日 11 日に現場器材を撤収し、予定通り調査を終えた。

第５次調査

第 5 次調査は、第２次調査で B 区とした調査区の北側を３地区として独立させたものである。当初の予定は、面積 5300 ㎡を５月９日から 11 月 11 日とし、調査員３名で実施した。

最初に、調査範囲を設定し周縁の線掘りを行い、遺構と遺物の検出できる深さを確認した後、重機による表土除去を５月12日から始め５月26日まで行った。その後、６月１日に格子点杭打ち作業（三和技建）を行い、遺構検出作業を７月 21 日まで行った。遺構検出を進めると、北側の遺構が調査区外に広がることが判明した。ただし、拡張する調査区の範囲内に調査事務所があることから、現調査区の調査をある程度進めてから、事務所を移動して範囲を確認することとした。

遺構検出終了後、検出状況の写真撮影を行い遺構に登録番号を付けた後に遺構配置図の作成と共に遺構精査作業を開始した。検出した遺構は、多数の掘立柱建物跡や区画溝、竪穴建物などである。これらの精査は、土層を観察するために覆土をベルト状に残したり、半截したりして掘り下げ、土層の写真撮影、断面図作成、覆土観察の後に完掘した。

遺物は、完形品及び一括土器などについては登録番号を付け、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げた。

調査が進んだ、９月 21 日に事務所の一部を移動し、９月 27・28 日には再度、重機による表土除去を行い北側の遺構の拡張範囲を確認した。その結果、竪穴建物や掘立柱建物跡、土坑などが検出され、調査面積が 400 ㎡増加し、5700 ㎡になることが確認された。国土交通省と協議を行い、面積の増加に伴い、調査期間を 12 月２日まで延長し、第６次調査を終了した調査員２名を増員することで合意した。そして、拡張部分も含めた調査を進め、11 月３日には発掘調査説明会を 4 次調査と合同で開催し、121 名の参加者を得た。

11 月 18 日には委託業務である図化のための調査区全体の空中写真撮影（成和技術）を行い、12 月２日に機材の撤収をした。現地調査の実働は、138 日間である。

第６次調査

第２次調査で行った確認調査で遺構の分布が確認された清水遺跡範囲の北端部の調査区である。この地区を 4 地区として独立して扱い、面積 1100 ㎡を対象に７月 20 日から９月９日の期間、調査員２名をもって実施した。

最初に調査範囲を設定し、西側平坦部は重機による表土除去を実施し、７月 22 日まで行った。その後、遺構の検出を行い、遺構番号を付け、写真撮影や遺構配置図を作成した。７月 29 日には格子点杭打ち作業（三和技建）を行った。そして、炭窯跡が確認されている東側斜面は、人力による表土の除去を行い、その後、検出作業を進めた。炭窯跡の検出終了後には写真撮影を行った。

遺構の精査は、西側の平坦部から開始した。精査は、土層観察のため覆土を半截し、土層の写真や図面を作成した後に完掘していった。平坦部の精査終了後、斜面の炭窯跡の掘り下げを行い写真撮影や図面を作成した。

調査終了日も近づいた９月６日には調査区全体の空中写真撮影（三和技術コンサルタント）を行い、その後、埋め戻しを行い、９月９日に現地調査を終了した。

平成 26 年度

平成 26 年度は、第７～８次調査を実施している。第７次調査は１地区における調査で、第８次調査は２～３地区にまたがる調査である。第８次調査は中央道に接続する県道の調査であり、すでに報告済みであるため、詳細はそちらを参照されたい（センター 224 集）。

第７次調査

第７調査は、平成 26 年６月２日から８月５日まで、３名の調査員により、第８次調査と一部平行して行われた。１地区の農道部と未買収地だった地区 1100 ㎡を対象にした調査である。

１地区は、第３次調査終了からすでに２年半が経過しており、調査の終了した南側のＡ・Ｄ区では、中央道本体の建設工事が進み、北側のＣ・Ｅ区には、７次調査区を貫いて事業地中央に土砂運搬のための工事用仮設道路ができていた。また、今回の調査は、農道部分のため、事業地内に迂回路を別に設けて周辺農地への進入路を確保しているため、調査面積が狭まっている。

調査は西端の水田部分のＧ区と、工事用道路に東西を分断される農道部分のＨ区の西側から始めた。重機による表土除去は６月６日まで行い、平行して遺構検出、遺構精査を同月 23 日まで行った。調査済みの調査区は、工事との関係から翌 24・25 日に埋め戻された。残るＨ区東側の調査は、７月１・２日に重機による表土除去、平行して遺構検出を同月４日まで行い２軒の竪穴建物などを検出、遺構精査は８月５日まで行った。

調査の進展に伴い、適宜記録を作成しながら進めた。検出した遺構と遺物は、第１次調査の続きから、第３次調査までの空き番号を用いた。作図方法はこれまでのものと変わりはない。写真撮影はフルサイズ判のデジタルカメラと、６×７の中判カメラのモノクロフィルムでそれぞれ撮影している。８月１日に空中撮影と地形測量を株式会社ワクニに委託して実施した。

７月 29 日に現場引き渡しのための協議が国交省側ともたれ、現地の状況を確認、調査終了後の８月５日に調査区内を埋め戻して第７次調査を終了、以降、担当調査員らは第８次調査区に移った。

３　各年度の整理作業の経過

平成 22・23・26 年度

各年度において発掘調査終了後、それぞれの年度末までは整理作業を実施している。遺物の洗浄、注記、記録類の整理などの基礎整理を進めた。平成 23 年度調査まで注記は、旧名称を基本としていたため、遺跡名を「シズ」とした後、地区名の数字に、（　）で各地区ごとの調査次数を記している。

平成 27 年度

年度当初より整理作業を行う。1 地区のものを中心に、遺構図面のトレースと、出土遺物の分類、接合と復元作業を進める。委託業務としては、株式会社加速器分析研究所に委託して１地区出土の炭化物の年代測定や種実の同定を行う。また、金属製品の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。

平成 29 年度

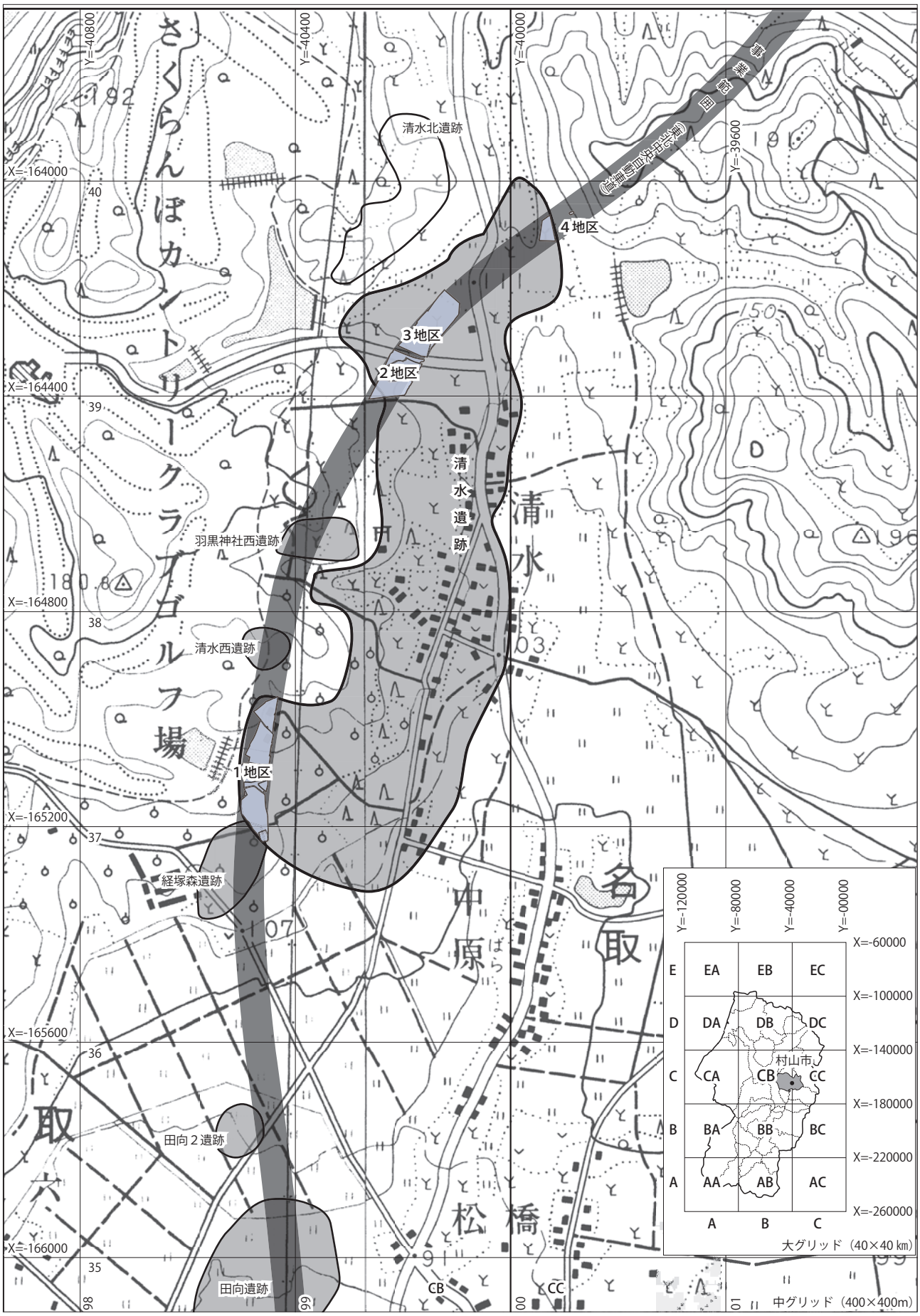
年度当初より１地区と３地区のものを中心に作業を進める。１地区は、実測、トレース、レイアウト、写真撮影等を進め、作業を修了する。３地区は、接合、復元を行う。委託業務としては、株式会社加速器分析研究所に委託して２・３地区出土の炭化物の年代測定や種実の同定を行う。また、同地区の金属製品の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。

平成 30 年度

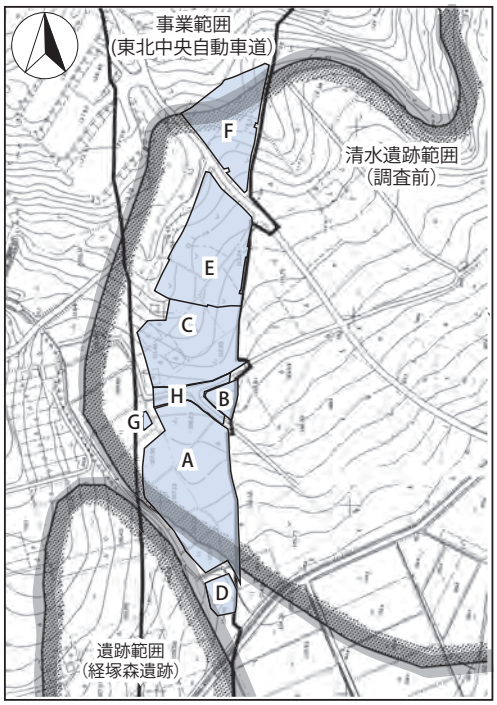
年度当初から３・4 地区を中心に整理作業を進めた。遺物の実測とトレース、拓本、古代の遺物の写真撮影を行った。、その後、３地区の編集作業と併行して、２地区の遺物の接合・復元を行う。委託業務は、創和システム株式会社に３・4 地区出土石器の実測図化業務とパリノ・サーヴェイ株式会社に２・３地区の炭化材の樹種同定や年代測定、土壌の分析、火山灰分析などの理化学的分析を行った。

平成 31 年度

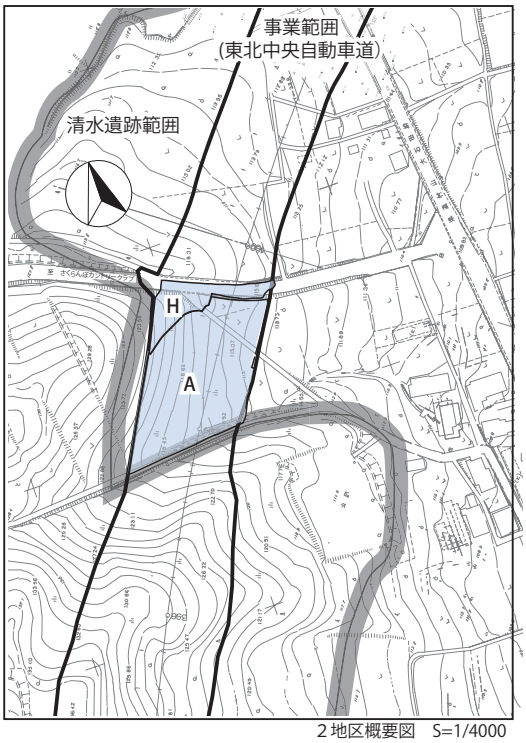
年度当初から２地区の整理作業を中心に行った。遺構図の編集と遺物の実測、トレース、拓本、写真撮影を進め、3・4 地区の縄文時代の遺物の写真撮影も行った。その後、２～４地区の個別に作成した遺構図や遺物図の編集作業、観察表の作成、原稿執筆を進めた。そして、１～４地区の原稿の校正を行い、報告書を印刷・刊行した。委託業務は、金属製品２点の保存処理を山梨文化財研究所に委託した。



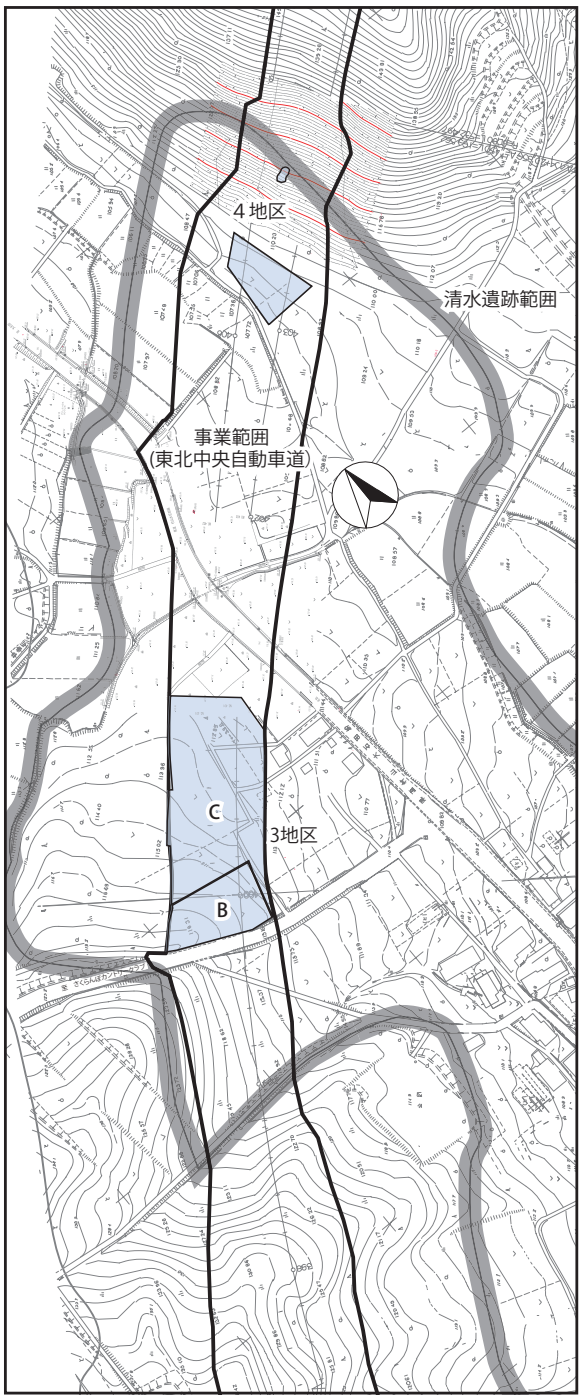
第１図　清水遺跡調査区概要図１



1 地区概要図　S=1/4000



2 地区概要図　S=1/4000



3・4 地区概要図　S=1/4000

第 2 図　清水遺跡調査区概要図 2

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

清水遺跡は、村山市大字清水名取字清水南・清水北に位置する遺跡である。山形盆地北部の最上川右岸に広がる河島山丘陵の裾部に展開する。遺跡範囲の西側は、丘陵裾の標高 120 m程度の等高線に沿い、東側は現在の清水集落を含む範囲で標高 100 数mと、東に下る。丘陵が入り組むため、遺跡範囲は「３」字形を呈する。遺跡範囲は南北に長く、直線で 1.3km を測る。１地区は「３」の下側、２、３地区は上の調査区である。

遺跡の所在する山形盆地は、東を奥羽山脈、西は朝日連峰に囲まれ、盆地のほぼ中央部を最上川が北流する、南北 40km、東西 20km の船底型を呈する盆地である。山形盆地は扇状地の発達が良く、図面中には盆地内最大の乱川扇状地や楯岡扇状地、最上川西岸には寒河江川扇状地などが見られる。最上川はこれらの扇状地間を北流し、氾濫原を形成する。第３図中に見られる地形的な特徴について、南側から順に概説しておく。

図面上南東に広がる乱川扇状地は、乱川をはじめとした河川の開析を受け、段丘化の進んだ広大な開析扇状地であり、扇頂部と端部で 150m の高度差をもつ。段丘低位面に現在の東根市市街地が展開している。乱川扇状地から最上川を挟んで対岸には、寒河江扇状地が展開している。勾配の緩やかな扇状地で、縁辺が判然としない。現在の河北町の中心市街地が広がっている。

図面中央部には最上川を挟んで扇状地の前縁部になる河間低地と後背湿地からなる低地が広がる。中でも北部の名取低地は、内水氾濫の常襲地であり、地名としても「浮沼」が残る。盆地東縁部の断層崖下には楯岡扇状地が形成され、現在の村山市の中心地市街地となっている。最上川流域は氾濫原が広がっている。最上川の両岸に続く自然堤防と旧流路、後背湿地からなり、この３者は互いに入り組み、複雑な分布を示している。現在の圃場整備で不明瞭になっている部分も多く、発掘調査により明らかになる旧地形も多いだろう。盆地西縁部には北山丘陵や千座川、樽石川が開析する段丘が広がっている。

これらの北側には清水遺跡の立地する河島山丘陵が最上川右岸に広がる。この丘陵は、標高 194m の河島山から北東部に広がる丘陵で、波浪状の小起伏の形態を有する。丘陵北部の赤土化した地表部は、リス、ヴュルム間氷期以前の地形面と考えられる。ただし、清水遺跡の立地する低段丘面は、寒冷な気候化に形成された緩斜面であろうと考えられている（米地・豊島 1981）。その西側を流れる最上川は、流路を河島山丘陵により遮られ大きく蛇行する。大淀峡谷と呼ばれるこの地を含めた一帯は、河床に岩盤が露出する岩礁地帯であり、船運上の難所として知られている。左岸には白鳥段丘や富並段丘が展開している。

図面の北端部には最上川右岸に袖崎低地が見られる。尾花沢盆地と山形盆地を結ぶ低地であるが、大きな河川はない。かつては最上川がここを流下したしたこともあったとみられる。この低地の東縁は甑岳断層崖でこの崖下に小扇状地が並ぶ地形になっている。最上川は北流を続け、図外で丹生川に合流する。丹生川の南岸に尾花沢段丘が展開し、現在の尾花沢市と大石田町の市街地が所在している。

調査区の大部分を占める土壌は、表層腐食質黒ボク土壌に属する。黒ボク土は主として段丘・台地に分布し、水はけのよさから畑地として利用されている。調査区内では主に斜面裾部に厚く堆積している。付近一帯は農地としての利用率が高く、低地を水田、丘陵や段丘を畑地や果樹として利用することが多い。黒ボク下のローム質土の上位には、地図外北西部に位置する約１万年前の肘折火山の爆発に伴うテフラが含まれている。

遺跡の所在する村山市は、山形県のほぼ中央に位置する。面積約 197 ㎢を測り、その 45％が山林、26％が農地で占められる自然豊かな土地である。中心市街地である楯岡は、明治から大正にかけて北村山郡の中心地として郡役所が置かれるなど、地域一帯の中心地であった。1955 年、この楯岡町を中心に近隣の町村と合併、編入により現在の行政区となっている。

2　歴史的環境

清水遺跡の展開する山形盆地北部は、旧石器時代から近世まで数多くの遺跡が存在していることが知られている。ただし、本書と同じ東北中央自動車道（以下、中央道）を起因とする近隣地区の発掘調査の報告書がすでに多く刊行されており、通時代的な周辺遺跡の状況については、それらを参照していただきたい。ここでは本遺跡の中心をなす古代（奈良・平安時代）を中心に、これまでの発掘調査成果について概観する。古代において山形盆地一帯は、出羽国の最上郡にあたる。９世紀後半には清水遺跡も位置する盆地北部域が村山郡として最上郡から分郡されている。村山郡の管轄として、和名抄には６か郷が記されている。これらの郷が現在のどの場所に相当するかは、古くから研究がなされてきた。諸説はあるものの、遺跡の展開する河島山からその北部周辺は、村山郷、あるいは大倉郷に比定されている（柏倉 1982）。

第４図は、清水遺跡（１）を中心に周辺の遺跡の分布を５万分の１の地図上に落としたものであり、網掛けが古墳時代から奈良・平安時代のものを含む遺跡である。2010 年からはじまった中央道に伴う調査によって事業範囲内に多くの遺跡が発見されたため、遺跡の分布が南北直線的に並んでいる。図中、（１）から（18）までが中央道を契機とする調査によるものである。

古代前史として古墳時代の遺跡のあり方を見ておくと、墳丘としては中期前葉の１辺 30m ほどの方墳である大塚古墳（38）と、後期と目される河島山古墳（32）がある。日本海側の内陸部では、現在のところ、これらが最北端の墳丘である。集落遺跡では、東根市の扇田遺跡（33）が大塚古墳とほぼ同時代の集落として知られている。同市の八反遺跡（16）では扇田遺跡に後続する中期中葉の集落を検出している。

古代について、清水遺跡を中心に北側に目を向けると、古代遺跡の密度は薄く、第４図の範囲においては、集落と呼べる規模のものは調査されていない。中央道を契機に調査されたものでは、沼田２遺跡（３）は、遺物はわずかながら、古代の陥穴や溝跡を検出している。これらの覆土上層に十和田火山灰の堆積が確認されている。北原４遺跡（５）からは、８世紀末～９世紀初頭の須恵器が散見される。東熊野苗畑遺跡（７）からは、古代の竪穴建物や掘立柱建物が数棟検出されており、ここの河川跡からも十和田火山灰の堆積が確認されている。羽黒神社西遺跡（８）と清水西遺跡（９）は、清水遺跡の北西側の丘陵上位に立地する遺跡である。それぞれ縄文時代中期と旧石器時代を中心とする遺跡であり、遺構は検出していないものの、須恵器の坏や土師器の甕など９世紀中～後半の土器を得ている。

中央道以外では、落合遺跡（18）や宮の前遺跡（19）が、縄文時代の大遺跡として知られているが、わずかに須恵器片が混在することも報じられている。北原遺跡（20）では、古代のものか判然としないが、半地下式の炭窯を２基検出している。その他、羽根沢Ｃ遺跡（21）、本飯田赤石遺跡（22）、清水北遺跡（23）などでは、分布調査で遺物が散見されている。

このように現状での清水遺跡より北側の古代の遺跡調査事例は、限定的な状況である。地図よりも更に北側に進み、現在の最上郡地域に入れば、古代の遺跡は、より限られてくる。山形県内で最も遺跡数の多くなる時代において、このように希薄な状況を示すのは、未確認遺跡の存在を差し引いても、古代の安定的な開発の北限が清水遺跡近辺にあったことを示唆しよう。むろん、北部地域にまったく遺跡が存在しなかった訳ではなく清水遺跡から直線距離で北側 14km ほどに、古代駅家の「野後駅」として推定される大石田町の駒籠楯跡（図外）があり、継続的な発掘調査が続けられている。このような遺跡の存在から、清水遺跡以北の古代の開発は、拠点単位で飛び石的なものであったことが想起される。

清水遺跡の南側に目を向けると、清水遺跡１地区の南西に隣接する経塚森遺跡（10）では、２棟の掘立柱建物跡と９世紀前半の土器を得ている。これらは清水遺跡の集落と同一のものとみてよいだろう。田向２遺跡（11）、田向遺跡（12）は、共に２次に渡る調査が行われた。田向２遺跡からは、竪穴建物跡１棟、掘立柱建物跡４棟と９世紀後半から 10 世紀後半の土器を得ている。松橋遺跡（13）は、２次に渡る調査で、５棟の掘立柱建物跡や 19 基の井戸、200 基を超える土坑などを検出し、９世紀後半から 10 世紀前半の土器を得ている。蝉田遺跡（14）は、掘立柱建物跡４棟と河川跡から大量の遺物が出土している。墨書土器は「定」と記されたものを中心に 148 点に及び、斎串などの木製品も多く出

土していることから、祭祀関連の遺跡と目される。また、底部に網代痕のある土師器坏などの存在は、出羽北部とのつながりを予想させる。年代の中心となるのは９世紀後半から 10 世紀前半のものである。

中央道以外の調査で清水遺跡の南側に展開するものは、西原Ｃ遺跡（24）では、1995 年の宅地開発に伴い調査され、多くの掘立柱建物跡を検出している。規格的に並ぶ建物配列を看取でき、主軸の違いから時期差があるものと思われる。鉄滓を含む遺構は、鍛冶関連遺構の可能性がある。全体的な出土遺物は、８世紀末～９世紀前葉の土器群が中心となる。この近隣に位置する西原Ｂ遺跡（25）、草伊賀Ｂ遺跡（26）、最上川を挟んで対岸の棚子遺跡（27）や川口Ａ遺跡（28）は、分布調査で古代の遺物の出土が確認されている。

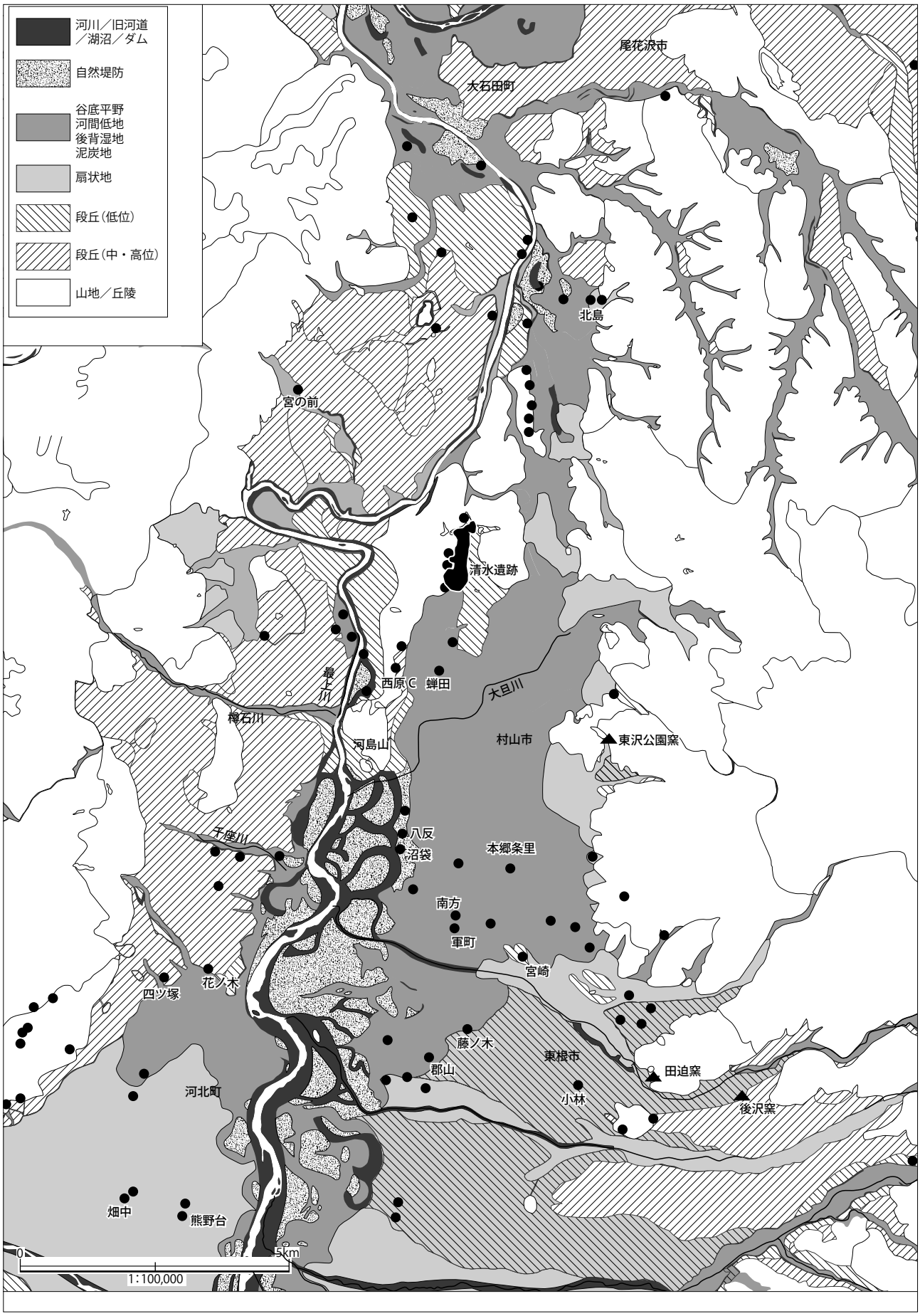
これらの一群とは少し離れた南東部の盆地縁辺部の楯岡扇状地、現在の村山市の中心市街地付近には、東沢公園の造成時に発見された東沢公園遺跡（30）があり、詳細は不明ながら古代の須恵器窯が検出されている。

更に南に進み、東根市との市境付近には、中央道の調査で、河島八反遺跡（15）が試掘のみであるものの調査され、須恵器片などが出土している。八反遺跡（16）では、県内では少ない７世紀代の集落が検出され、８世紀を中心に９世紀まで継続的に営まれる。全体では 39 棟の竪穴建物を検出し、７世紀末から８世紀初頭のものは、うち７棟である。そこからは北東北で特徴的な頸部に多段の沈線をもつ土師器甕が出土するなど、特徴的な様相を見せる。沼袋遺跡（17）では、８世紀中葉から９世紀にかけての集落が展開し、10 棟の竪穴建物と４棟の掘立柱建物跡が検出している。

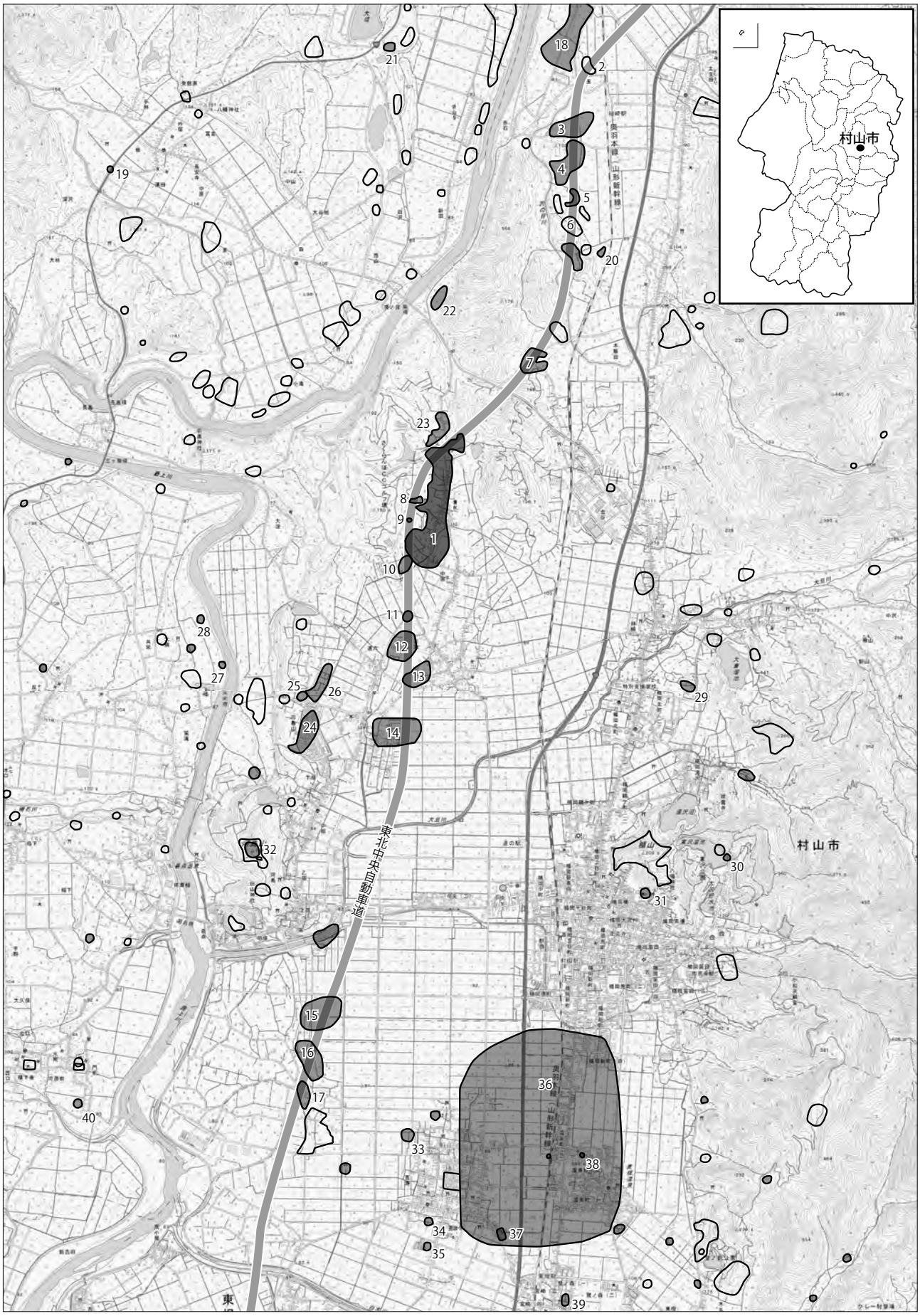
中央道以外では、1970 年代初頭の記録保存で多数の遺跡が調査されており、南方遺跡（34）では、1971 年の圃場整備中にほぼ完形の木棺が出土し、９世紀代の土師器坏と骨片が出土している。宮崎遺跡（39）は、1970 年の宅地造成工事中に発見され、２棟の竪穴建物跡と８世紀末～９世紀初頭の土器を得ている。軍町遺跡（35）は、1971 年に用水路工事に伴い発見された。２棟の竪穴建物跡と８世紀末～９世紀初頭の土器を得ている。本郷条里制跡（36）は、地籍図等から条里制水田と推測されている広大な遺跡である。1971 ～ 1972 年の圃場整備に伴い発掘調査され、水路補強の木材や、９世紀代の土器などが出土している。また、図外の南側、第３図の範囲に記される郡山遺跡は、「郡山」の地名のから、９世紀後半に最上郡から分郡された村山郡の郡衙候補地として注目され、1981、1983 年に調査がなされている。結果、大型柱穴跡などの存在は確認されているものの、郡衙たる確定的なものは得られていない。９世紀代後半～ 10 世紀前半が出土遺物の主体となる。

南部の最上川西岸を見ると、村山市の市の町遺跡（40）があり、1980 年の河川改修に伴い調査され、３棟の竪穴建物跡を検出し、８世紀後半～９世紀前半の土器が出土している。最上川西岸の南側地図外、第３図に記される、河北町域は、1980 年初頭からの圃場整備により市街地南部の調査が行われている。そのなかでも畑中（一の坪）遺跡は、８世紀後半からの９世紀代の土器を中心に出土し、「大山郷」の墨書土器が出土することから、付近一帯は最上郡大山郷に比定されるのではないかという説が出されている（柏倉前掲）。『日本三代実録』には出羽守が津波に襲われた国府を最上郡大山郷に移転したい旨を中央に訴えるが却下されるという記述があるため、大山郷の位置を巡っては、古くから問題とされてきた。今後の調査によって解明されることが期待される。熊野台遺跡は、古代の竪穴建物跡 28 棟と５棟の掘立柱建物跡から８～ 10 世紀代の土器を得ている。出土遺物では、「大刀自」の刻書土器、土師質で丸底長胴のいわゆる出羽甕などが注目される。ここで特筆すべきは、本報告の１地点で大量に出土しているものと同じ「縄」の墨書土器である。墨書土器にこの文字が記されるものは稀であり、隣県では秋田に１点、新潟に２点のみのため、本遺跡との繋がりをうかがわせる。

山形盆地北部の古代遺跡の展開は、県内の他地域と同様に８世紀後半以降、急激に増加し、10 世紀になると減少するという方向性を見せる。これまでみてきたように、清水遺跡を境に、南側には数多くの古代遺跡が展開しており、規格的な建物配列を検出する遺跡もいくつかみられる。一方、本遺跡の北側では散発的な状況を呈している。このように清水遺跡の立地は、古代社会の北方開発の前線にあたる地域といえよう。この地域での今後の発掘調査の進展は、古代の蝦夷政策や北方の開発政策についての解明に大きく寄与することであろう。



第３図　村山盆地北部の地形と遺跡の分布



第４図　清水遺跡周辺の遺跡分布図

表１　山形盆地北部における古代遺跡

番号	遺跡名	種別	文献
1	清水遺跡	集落	セ 224 集
2	八郷田遺跡	集落	セ 213 集
3	沼田２遺跡	集落	セ 221 集
4	沼田遺跡	集落	セ 221 集
5	北原４遺跡	集落	セ 207 集
6	北原２遺跡	集落	セ 207 集
7	東熊野苗畑遺跡	集落	セ 237 集
8	羽黒神社西遺跡	集落	セ 239 集
9	清水西遺跡	集落	セ 220 集
10	経塚森遺跡	集落	セ 219 集
11	田向２遺跡	集落	セ 218 集
12	田向遺跡	集落	セ 217 集
13	松橋遺跡	集落	セ 229 集
14	蝉田遺跡	集落	セ 226 集
15	河島八反遺跡	集落	県 217 集
16	八反遺跡	集落	セ 235 集
17	沼袋遺跡	集落	セ 216 集
18	落合遺跡	集落	セ 36 集
19	宮の前遺跡	集落	県 9、セ 19・65
20	北原遺跡	集落	県 35 集
21	羽根沢Ｃ遺跡	集落	県 199
22	本飯田赤石遺跡	集落	県 148
23	清水北遺跡	集落	県 201 集
24	西原Ｃ遺跡	集落	村山市４集
25	西原Ｂ遺跡	集落	県 20 集
26	草伊賀Ｂ遺跡	集落	県 20 集
27	棚子遺跡	集落	県 20 集
28	川口Ａ遺跡	集落	県 20 集
29	当岳遺跡	集落	県 148 集
30	東沢公園遺跡	窯跡	遺跡地図
31	楯岡小学校遺跡	集落	遺跡地図
32	河島山古墳	古墳	村山市史 1991
33	扇田遺跡	集落	東根市史
34	南方遺跡	集落	東根市史
35	軍町遺跡	集落	東根市史
36	本郷条里制跡	集落	東根市史
37	白金遺跡	集落	県 171
38	大塚古墳	古墳	東根市史
39	宮崎遺跡	集落	東根市史
40	市の町遺跡	集落	村山市１集

引用文献

米地文夫・永沢裕子　1979 「Ⅱ　地形分類」『土地分類基本調査　尾花沢』山形県企画調整部土地対策課編
山形県企画調整部土地対策課編　1979「地形分類図　尾花沢５万分の１」『土地分類基本調査　尾花沢』
米地文夫・豊島正幸　1981 「Ⅱ　地形分類」『土地分類基本調査　楯岡』 山形県企画調整部土地対策課編
山形県企画調整部土地対策課編　1981「地形分類図　楯岡５万分の１」『土地分類基本調査　楯岡』
柏倉亮吉　1982 「第七章　国郡制支配の進展と蝦夷の叛乱　５　和名抄による郷の分布」『山形県史』第一巻

第１編　１地区（第１・３・７次調査）

Ⅰ　発掘調査と整理作業の方法

１　調査の概要

清水遺跡１地区は、楕円形の遺跡範囲の南端部に位置し、平成22年に１次調査を、23年に３次、26年に７次調査を行っている。

調査区は北に向けて緩やかに上る緩斜面で、調査前の状況をみると低地部は水田、斜面部は畑、果樹畑、その間を走る砂利敷の農道などとして利用されていた。第１・３・７次調査の総面積は、11,570㎡に及び、斜面中位に竪穴建物や掘立柱建物が分布し、低地部では河川跡が検出している。竪穴建物（ST）13軒、掘立柱建物（SB）４棟、土坑（SK）425基、複数の溝状遺構（SD）は、１つの河川の流路変化によるものと思われる。

竪穴建物の覆土には、灰白色の火山灰が厚く堆積しているものもある。この火山灰は、分析の結果915年噴火の十和田火山灰との結果が得られている。しかし、この火山灰が認められる遺構から出土する遺物は、９世紀代のものであり、火山灰も遺構の床面から堆積しているのではなく、堆積覆土中位に認められるものである。そのため、集落として廃絶された後、残っていた窪地に火山灰が入り込んだと解釈できる。

２　発掘調査の方法

グリッドと調査区

調査区を設定するグリッドは、山形県域全体を囲むように、南西端を原点に、南北をＸ軸、東西をＹ軸として、40㎞四方の大グリッドを設定した。原点は国土地理院の定める平面直角座標系の第Ｘ系：Ｘ＝－26000000、Ｙ＝－12000000となり、Ｘ軸をＡ～Ｅ、Ｙ軸をＡ～Ｃと15区画に分割している。この大グリッドの中を更に400m単位のグリッドで10000分割したものを中グリッド、これを更に４ｍ単位で10000分割したものを小グリッドとする。中・小グリッドは、共に４桁の数字で表記し、南から北に00～99、西から東へ00～99で表記する（第５、６図）。

（例）Ｃ Ｂ ３ ７ ９ ９－２ ２ ０ ８
①②③④⑤⑥

①…大グリッド南北　（40km単位）
②…大グリッド東西　（40km単位）
③…中グリッド南北　（400m単位）
④…中グリッド東西　（400m単位）
⑤…小グリッド南北　（４ｍ単位）
⑥…小グリッド東西　（４ｍ単位）

本遺跡の調査区をグリッドで覆うと、400m単位の中グリッドで１地区は、「3698」、「3699」、「3798」、「3799」にまたがることになる。ただし、これを100×100に分割した４ｍ単位の小グリットで見ても、同じグリッド名となるところはないため、１地区のみを記述する場合は、大・中グリッドを省略し、小グリッド名のみを記す。

調査区へのグリッドの設置は、水準測量のなされた基準杭を測量業者に委託して数本打設し、それを基準としたグリッド格子点は、トータルステーションを用いて調査員が打設した。１地区の作図は、この格子点を基準とした遣り方測量で平面図を、基準杭に付された水準値から断面図を作っている。

１地区は調査次数または道路や水路などに隔てられた現地での状況に合わせてＡ～Ｈ区に分割している。これは１地区のみで独立してつけたものである。

遺構

重機での表土除去後、遺構を確認した順に通し番号をつけていった。第１次調査ではＡ～Ｃ区まで調査し、001～704番までの遺構を登録している。第３次調査ではＡ区の下層、Ｄ～Ｆ区を調査し、遺構番号は桁を変え、1001～1405まで登録している。第７次調査ではＨ・Ｇ区を調査し、遺構番号は第１次と第３次の間の欠番を

使い、705 ～ 794 までを登録している。これらの遺構番号は、調査の進展により撹乱と判断されたり、別遺構と同一のものと判断されたりするなど、欠番が多数出ているが、混乱を避けるため、そのまま遺構番号としている。この遺構番号は、１地区のみで独立してつけられているため、同じ番号の遺構が２～４地区で発生してしまう。混同を避けるため、本報告では遺構種別を示す２文字のアルファベットの前に、１地区の場合「１」を足して 1SD186 や 1ST365 などと表記する。

遺構の掘り下げは、半裁やベルト状に残すなど、埋没過程を確認しながら掘り進め、断面図の記録を採った後に完掘している。記録は測量図面と写真を主体としている。図面は B3 判の方眼紙に書き込み、写真はフィルムとデジタルで撮っている。第１・３次調査での写真は、６×７判の中判カメラを主体とし、デジタルは補助的なものであったが、第７次調査では、主体となるカメラとしてデジタル一眼レフカメラが導入され、補助、保存用に中判カメラが用いられた。

出土遺物は、グリッドごと、遺構ごとに取り上げ、出土位置情報を記録する必要のあるものには、登録番号（RP）を付し、トータルステーションで測った位置情報と対応するようにしている。図中では「○」が土師器坏類、「●」が須恵器坏類、「□」が土師器甕類、「■」が須恵器甕類、「▲」土製品、石製品、金属製品などを示している。

3　整理作業の方法

遺物の実測は、従来の方法による作図のほか、土製品や石製品、調整痕などの実測には、デジタルカメラによる画像合成を利用した SfM（Structure from Motion) の技術を用いてオルソ画像を作成し､実測下図としている。

1　分類基準について

清水遺跡の主体を占める古代の出土遺物は、坏、有台坏、蓋、瓶、壺、鉢、甕、そして土製品などである。各器種の分類基準については後述するが、破片資料や欠損資料のため最終的な器種の判断ができないものについては、坏と蓋をまとめて「坏類」、瓶や壺、甕などの大型品をまとめて「甕類」と呼称しておく。

これらにはそれぞれ土師器製のものと須恵器製のものがあるが、本遺跡で出土する須恵器は、器体全体は白～赤褐色を呈し、部分的に青灰色を残すといったものが少なくない。従ってロクロのみで調整される坏などの須恵器と土師器の区分は困難であり、それが欠損資料ともなればなおのことである。そこで比較的硬質で一部でも青灰色が認められるものは、すべて須恵器とし、これに対してやや軟質で青灰色の色調が認められない黄褐色～赤褐色のものは、土師器として分類している。

それぞれの器種名称と細分基準は以下の通り。

坏・有台坏

平底のものを「坏」､高台が付されるものを「有台坏」として大別する。また、坏形とは明確に区分できる極端に浅身なものを「皿」、体部に把手のつくものを「双耳」としても分けておく。さらに底部の切り離し方法、体部の調整方法、器形で細分する。

底部　A…ヘラキリによる底部切離しのもの
　　B…回転糸切りによる底部切り離しのもの
体部　１…ロクロのみによるもの
　　２…ミガキ調整し、黒色処理を施すもの
器形　a…器高／口径比が 0.39 以下の坏形のもの
　　b…器高／口径比が 0.40 以上の椀形のもの

回転糸切りのロクロ調整で浅身のものは、「B-1a」と表記する。欠損等により不明なものは、判別可能な箇所のみ記す。

蓋

坏蓋と壺蓋をまとめる。全体の数量が少ないため、細別はせずに坏蓋か壺蓋かのみ分けておく。

瓶

頸が長く、口縁の開きの大きいものをまとめる。タタキ目を残すものも見られるが、それのみで完結するものではなく、カキメやナデにより整形される。

長頸瓶…胴部と同等の長さの頸部をもつ小・中型のもの
横瓶…横長円筒形の胴部の長軸方向に頸をつけたもの

壺

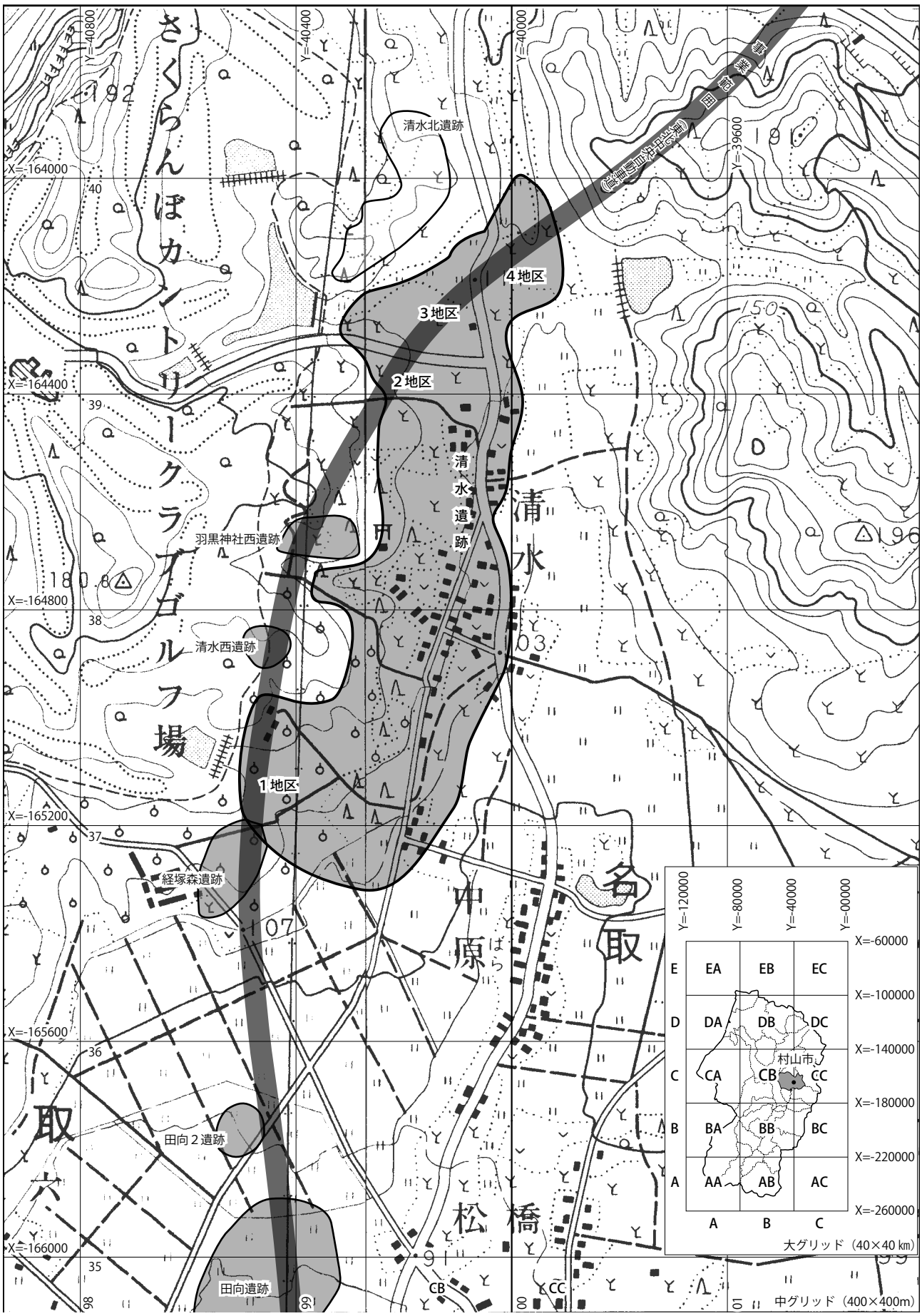
頸が短く、口縁の開きの小さいものをまとめる。口縁のみの資料では、甕との区別は困難である。総じて甕よりも小型でかつナデ、カキメ整形を主とする。瓶と同様にタタキ目を残すものも見られるが、それのみで整形されるものではなく、丸底のものはない。

広口壺…甕より小さい。タタキ目を残す物もあるが、内

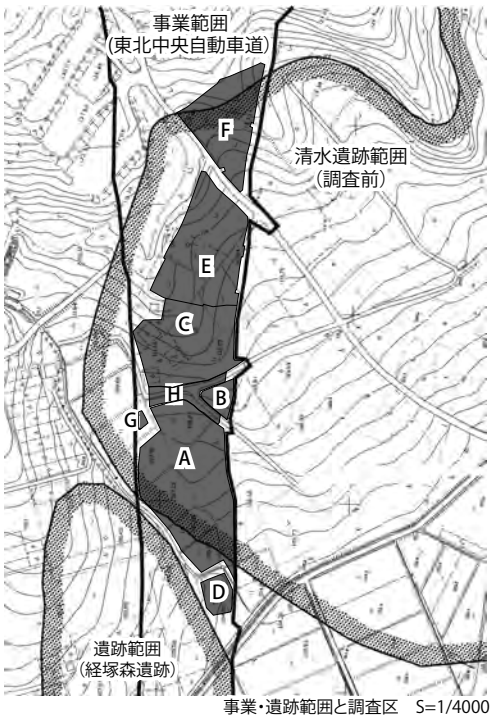
面にアテ具痕がなく、平底のもの。
短頸壺…短い頸がほぼ垂直に立ち上がるもの
鉢
　口径が最大幅かそれに近くなるものをまとめる。
括れ鉢…口縁部が短く「く」の字形にくびれるもの
鍋…すべて土師器で口径に対して器高の低いもの
椀形鉢…口径小型で深身のもの
仏鉢…金属器模倣の托鉢用仏具。破片のみ出土している。
甕類
　部分的な資料のため、瓶、壺、鉢、甕の区別の付かないものを総称するもの。
甕
　須恵器においては、タタキ成形を主体とし、丸底を基調とするもの。土師器は、長胴甕と小型品からなる。
　須恵器の口縁部の器形は、壺などと類似するが、それらより比較的大型で、叩き出しの丸底となる。調整は外面に平行タタキ、内面に円形や平行アテ具痕を残すものが中心となる。全体を復元できるものは少ないが、口径から推測するに、幾つかの大きさの規格を推定できる。また、土師器の長胴甕に類似した器形も確認できる。
　土師器は煮炊具としての長胴甕と貯蔵用の小型品があり、体部の調整はヘラケズリを主とするものと、ハケメのものがある。小型品は、坏と同程度の 150 mm以下の口径のものが大部分である。
特大…口径 500 mm前後を超えるもの
大型…口径 300 mmを超えるもの
中型…口径 200 mmを超えるもの
小型…口径 200 mm以下のもの
長胴甕…円筒形の器形をとるもの

2　測定値について

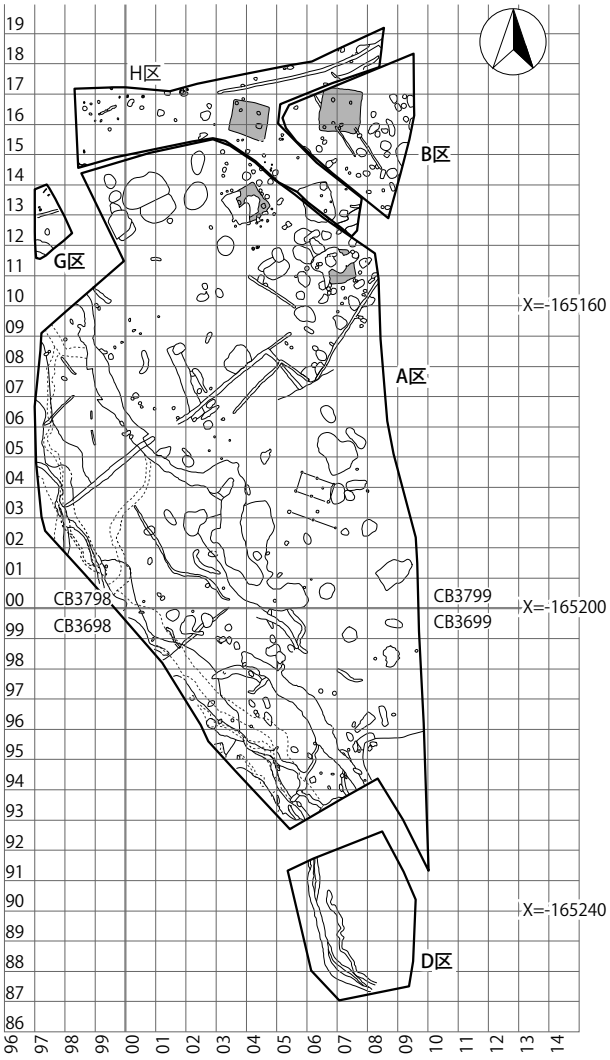
　観察表に記載する測定値について、口径は、口縁部の外径最大幅であり、底径は接地点の最大幅である。両者とも 2mm 単位で複数用意した同心円形のテンプレートを当ててそれぞれ径を復元している。歪みは極力排し、製作者が意図した径の復元に努めた。口径と底径の中心点が一致するところで器高を測っている。
　残存値については、口縁と底部の残存値を８分率で記入している。値は切り上げであり、例えば 1/8 のラインを少しでも越えたものは、2/8 として扱っている。復元図化しているものは、基本的に口径ないし底径が 2/8 以上残存するもので行なった。口径や底径の残存が満たないものでも頸部や胴部の残存が同等かそれ以上あるものについては、そこから中心点を出して復元している。計測値について残存率が 3/8 以下のものは、推定測定値とし、（　）で記し、4/8 以上残存するものは、そのまま記している。ただし、4/8 以上の残存率であっても、歪みなどで計測可能な部分が 3/8 以下になる場合は、（　）を付けている。1/8 以下の残存率のもので復元した数値や、歪みが激しく原形の復元が困難なものは、参考値として（　*）をつける。欠損資料の器高などの残存値は、＜　＞で記す。

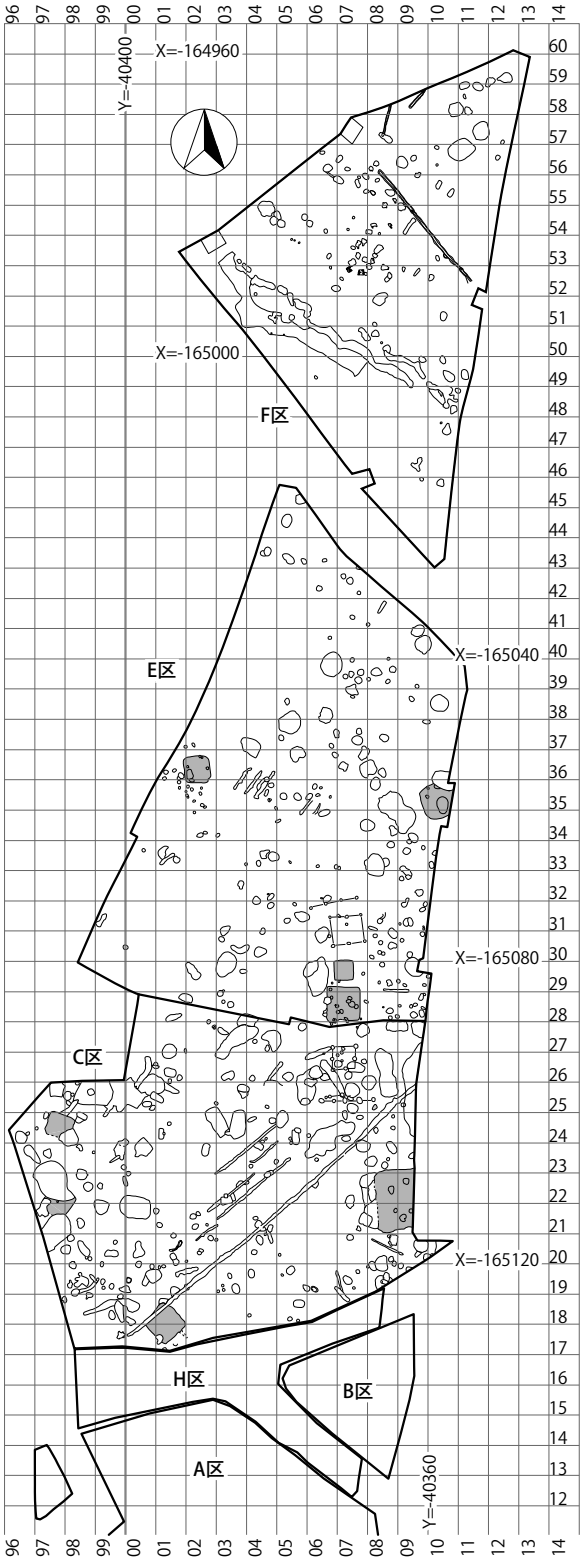


第５図　清水遺跡全体と大・中グリッド配置図



事業・遺跡範囲と調査区　S=1/4000



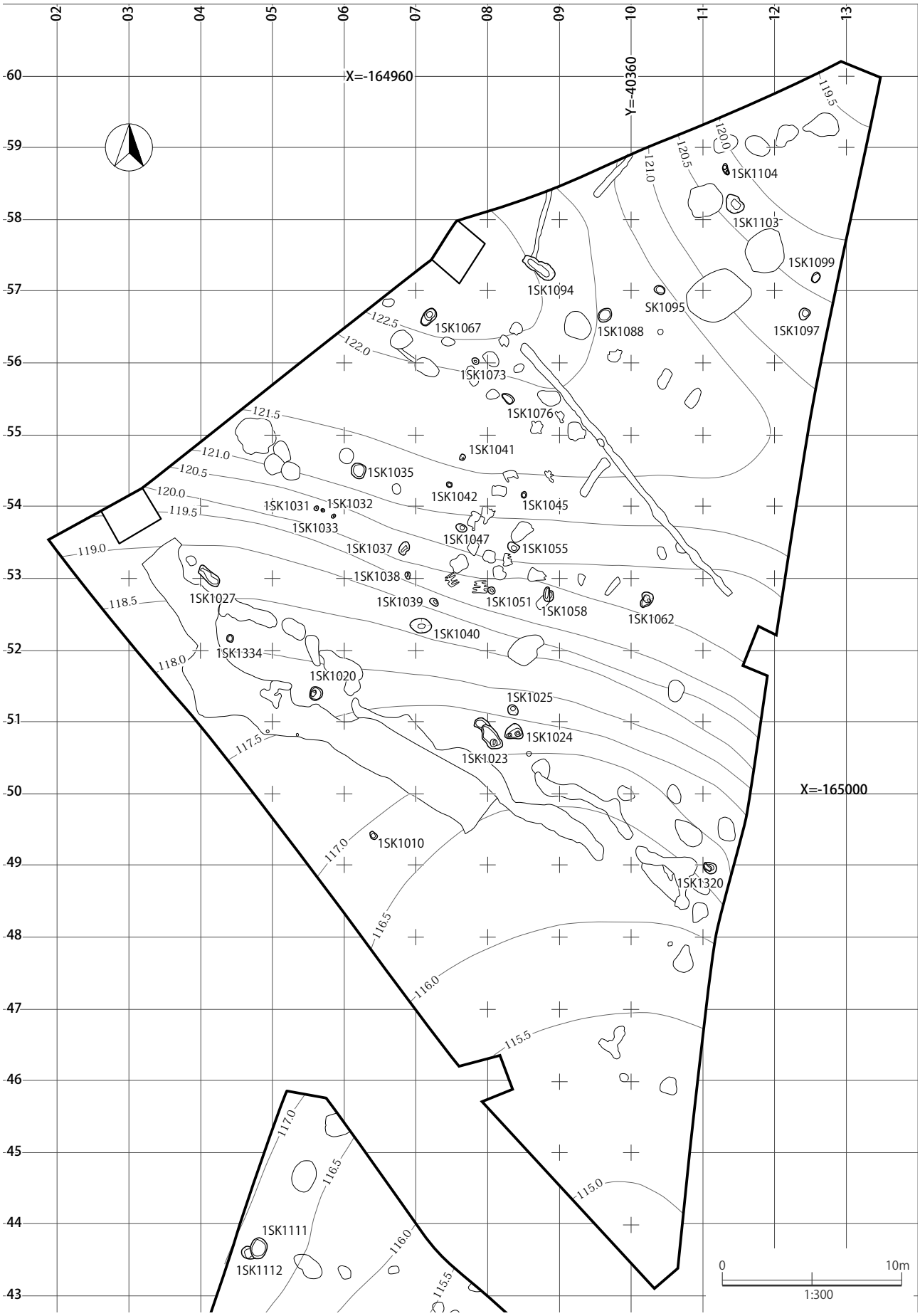


調査区	調査年度	現況
A区	第１・３次調査（2010・2011年度）	田圃
B区	第１次調査（2010年度）	畑地
C区	第１次調査（2010年度）	畑地
D区	第１・３次調査（2010・2011年度）	田圃
E区	第３次調査（2011年度）	畑地
F区	第３次調査（2011年度）	畑地
G区	第７次調査（2014年度）	田圃
H区	第７次調査（2014年度）	農道

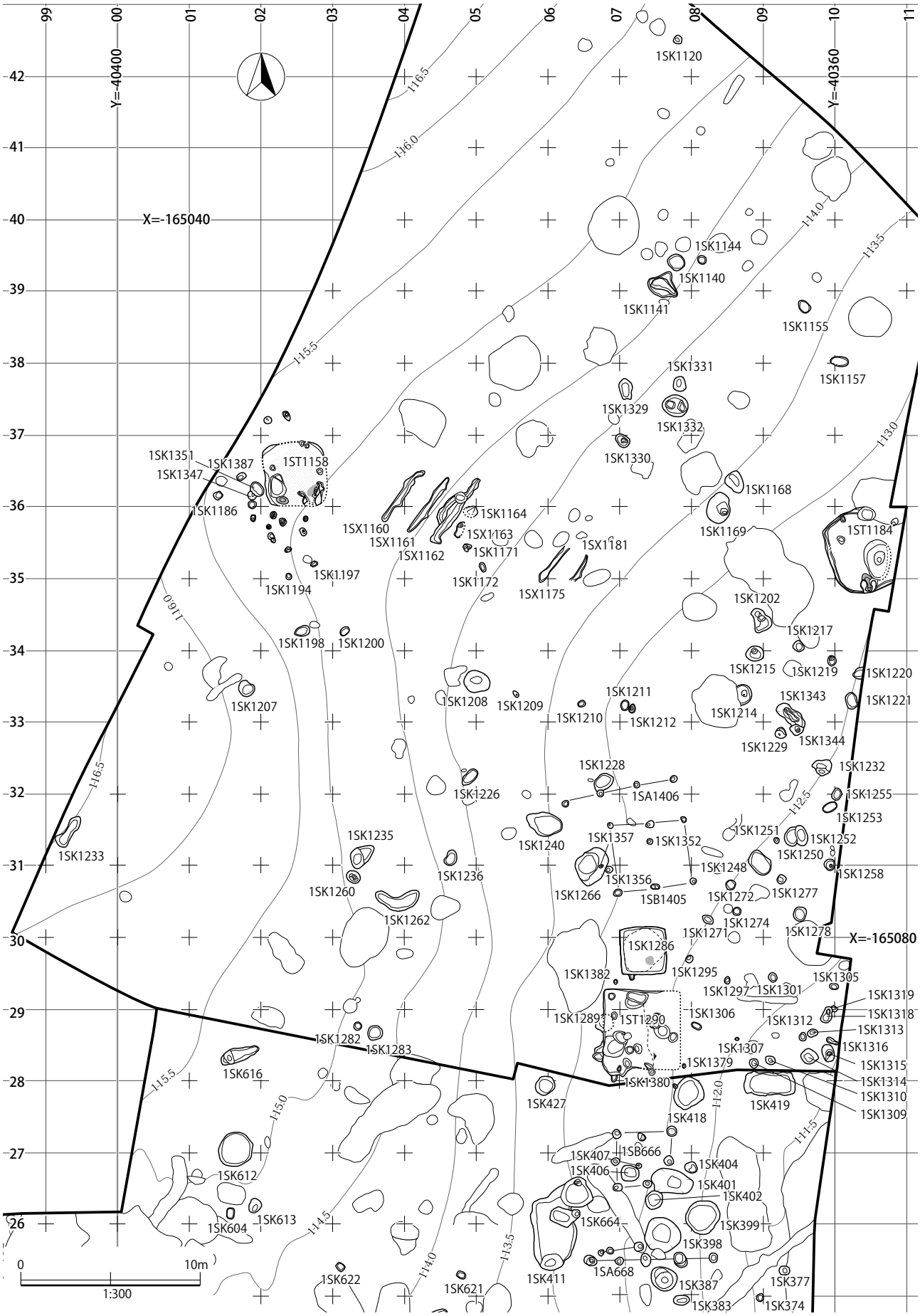
0　50m

1:1000

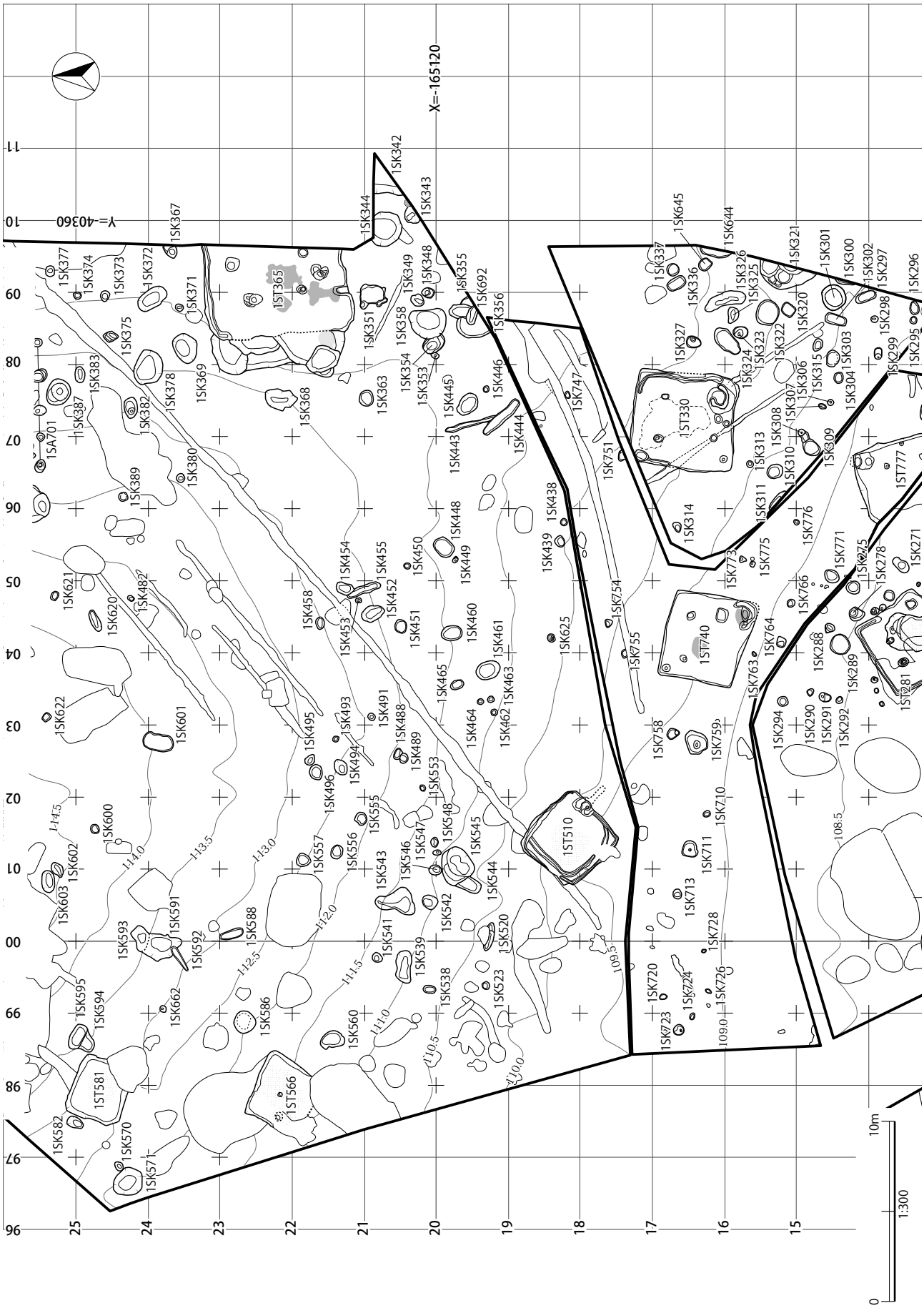
第６図　清水遺跡１地区の遺構配置図と小グリッド配置図



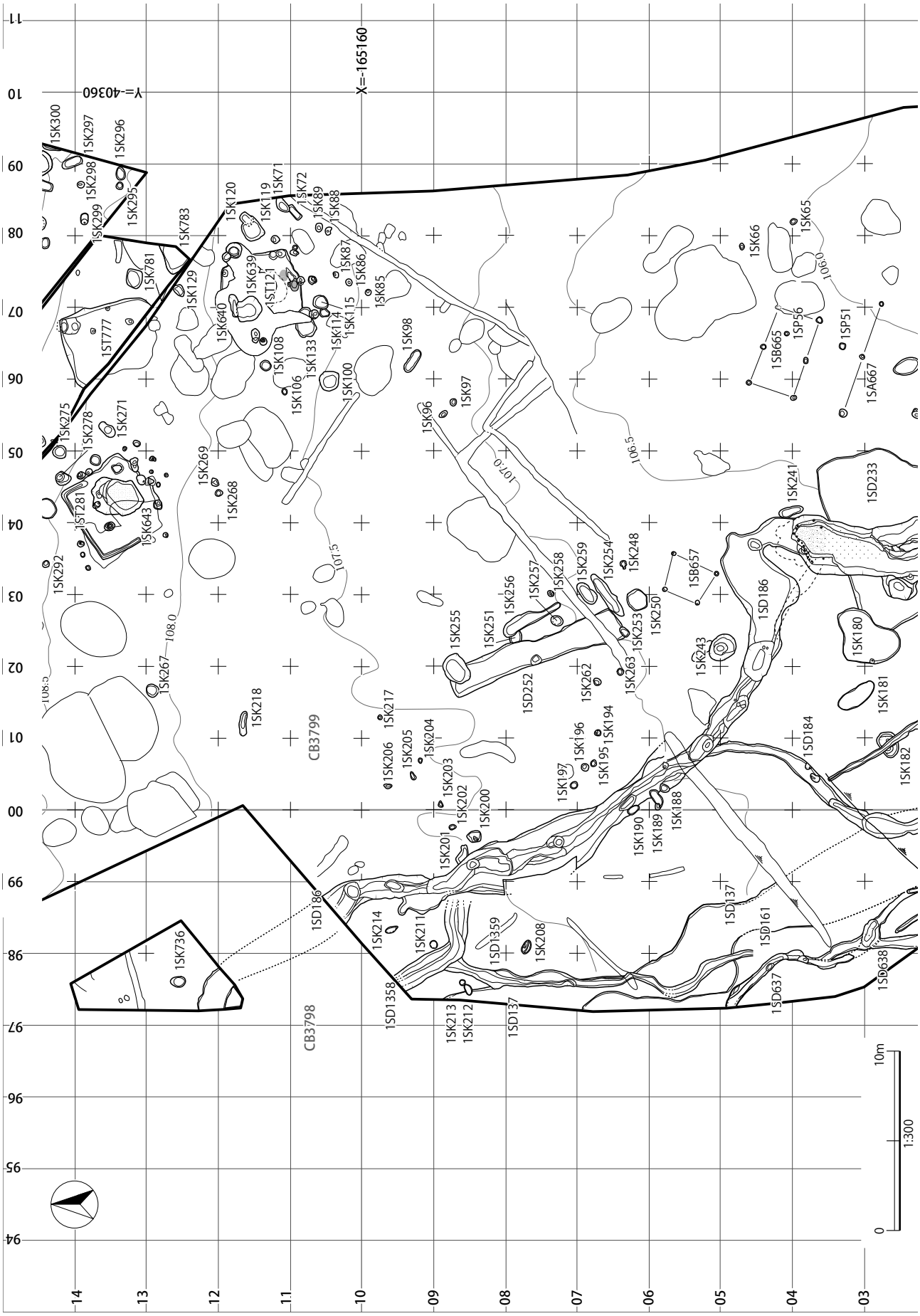
第７図　清水遺跡１地区の遺構配置分割図　1



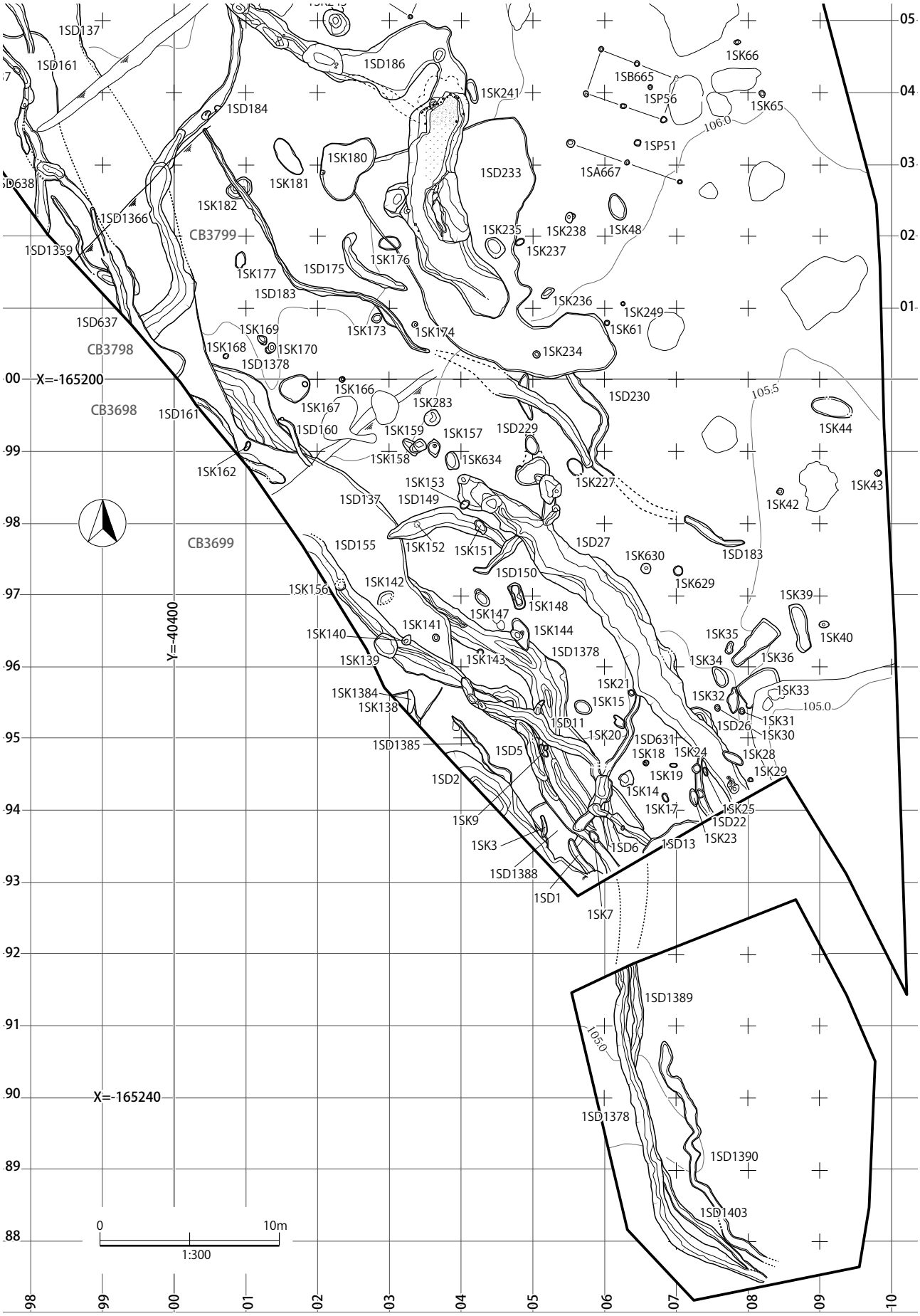
第８図　清水遺跡１地区の遺構配置分割図　2



第９図　清水遺跡１地区の遺構配置分割図　3



第 10 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　4



第 11 図　清水遺跡 1 地区の遺構配置分割図　5

表２　清水遺跡１地区の遺構一覧　１

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SD	1	9305	A	第 40 図
SD	2	9404.9305	A	第 40 図
SK	3	9305	A	第 40 図
SD	5	9504~9305	A	第 40 図
SD	6	9306.9305	A	第 40 図
SK	7	9305	A	第 40 図
SK	9	9405	A	第 40 図
SD	11	9504.9405	A	第 40 図
SD	13	9306.9307	A	第 40 図
SK	14	9406	A	第 40 図
SK	15	9505	A	第 40 図
SK	17	9406	A	第 40 図
SK	18	9406	A	第 40 図
SK	19	9406	A	第 40 図
SK	20	9506	A	第 40 図
SK	21	9506	A	第 40 図
SD	22	9407.9307	A	第 41 図
SK	23	9407	A	第 41 図
SK	24	9407	A	第 41 図
SK	25	9407	A	第 41 図
SD	26	9407.9507	A	第 41 図
SD	27	9407 ～ 9804	A	第 41 図
SK	28	9407	A	第 41 図
SK	29	9408	A	第 41 図
SK	30	9507	A	第 48 図
SK	31	9507	A	第 48 図
SK	32	9507	A	第 48 図
SK	33	9507.9508	A	第 48 図
SK	34	9507	A	第 48 図
SK	35	9607	A	第 48 図
SK	36	9607.9608	A	第 48 図
SK	39	9608	A	第 48 図
SK	40	9608.9609	A	第 48 図
SK	42	9808	A	第 11 図
SK	43	9809	A	第 11 図
SK	44	9908.9909	A	第 49 図
SK	48	0206	A	第 49 図
SP	51	0306	A	第 27 図
SP	56	0406	A	第 27 図
SK	61	0006	A	第 11 図
SK	65	0408.0308	A	第 11 図
SK	66	0407	A	第 11 図
SK	71	1108.1008	A	第 49 図
SK	72	1008	A	第 49 図
SK	85	0907	A	第 10 図
SK	86	1007	A	第 10 図
SK	87	1007	A	第 10 図
SK	88	1007.1008	A	第 10 図
SK	89	1008	A	第 10 図
SK	96	0805	A	第 10 図
SK	97	0805	A	第 10 図
SK	98	0906	A	第 49 図
SK	100	1005.1006	A	第 49 図
SK	106	1105	A	第 10 図
SK	108	1106	A	第 49 図
SK	114	1006	A	第 49 図
SK	115	1006.1007	A	第 49 図
SK	119	1107.1108	A	第 49 図
SK	120	1108	A	第 49 図
ST	121	1107	A	第 12 図
SK	129	1207	A	第 49 図
SK	133	1006	A	第 12 図

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SD	137	0897 ～ 9503	A	第 30 図 +37 図 +40 図
SK	138	9503	A	第 40 図
SK	139	9602.9603	A	第 40 図
SK	140	9603	A	第 40 図
SK	141	9603	A	第 40 図
SK	142	9703	A	第 40 図
SK	143	9604	A	第 40 図
SK	144	9604	A	第 40 図
SK	147	9604.9704	A	第 40 図
SK	148	9604.9704	A	第 40 図
SD	149	9703.9704	A	第 41 図
SD	150	9704	A	第 41 図
SK	151	9704.9804	A	第 41 図
SK	152	9703	A	第 41 図
SK	153	9804	A	第 41 図
SD	155	9603.9702	A	第 40 図
SK	156	9702	A	第 40 図
SK	157	9803.9903	A	第 49 図
SK	158	9903	A	第 49 図
SK	159	9903	A	第 49 図
SD	160	9801.9901	A	第 37 図
SD	161	0497 ～ 0000	A	第 30 図 +37 図
SK	162	9901	A	第 37 図
SK	166	0002	A	第 38 図
SK	167	9901	A	第 38 図
SK	168	0000	A	第 38 図
SK	169	0001	A	第 38 図
SK	170	0001	A	第 38 図
SK	173	0002	A	第 44 図
SK	174	0003	A	第 44 図
SD	175	0102	A	第 44 図
SK	176	0102.0103	A	第 32 図
SK	177	0100	A	第 38 図
SK	180	0202.0302	A	第 32 図
SK	181	0201.0301	A	第 32 図
SK	182	0200.0201	A	第 46 図
SD	183	0300 ～ 9707	A	第 44 図
SD	184	0400 ～ 0099	A	第 38 図
SD	186	1297 ～ 0104	A	第 30 図～ 36 図
SK	188	0500	A	第 30 図
SK	189	0500	A	第 30 図
SK	190	0600	A	第 30 図
SK	194	0601	A	第 30 図
SK	195	0600	A	第 30 図
SK	196	0600	A	第 30 図
SK	197	0700	A	第 30 図
SK	200	0899	A	第 30 図
SK	201	0899	A	第 30 図
SK	202	0899	A	第 30 図
SK	203	0800	A	第 10 図
SK	204	0900	A	第 10 図
SK	205	0900	A	第 10 図
SK	206	0900	A	第 10 図
SK	208	0798	A	第 30 図
SK	211	0998.0898	A	第 30 図
SK	212	0897	A	第 30 図
SK	213	0897	A	第 30 図
SK	214	0998	A	第 30 図
SK	217	0901	A	第 10 図
SK	218	1101	A	第 50 図
SK	227	9805	A	第 44 図
SD	229	9904	A	第 44 図

表３　清水遺跡１地区の遺構一覧　２

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SD	230	9806 ～ 0005	A	第 44 図
SD	233	0304 ～ 0005	A	第 32 図
SK	234	0005	A	第 32 図
SK	235	0104	A	第 32 図
SK	236	0105	A	第 32 図
SK	237	0104	A	第 32 図
SK	238	0205	A	第 11 図
SK	241	0304.0404	A	第 32 図
SK	243	0402.0502	A	第 50 図
SK	248	0603	A	第 48 図
SK	249	0106	A	第 11 図
SK	250	0602	A	第 48 図
SK	251	0702	A	第 48 図
SD	252	0602 ～ 0801	A	第 48 図
SK	253	0602	A	第 48 図
SK	254	0602.0603	A	第 48 図
SK	255	0801.0802	A	第 48 図
SK	256	0702.0802	A	第 48 図
SK	257	0702	A	第 48 図
SK	258	0702	A	第 48 図
SK	259	0602.0603	A	第 48 図
SK	262	0601	A	第 48 図
SK	263	0601	A	第 48 図
SK	267	1201	A	第 50 図
SK	268	1104.1204	A	第 10 図
SK	269	1204	A	第 10 図
SK	271	1305	A	第 50 図
SK	275	1404	A	第 50 図
SK	278	1404	A	第 50 図
ST	281	1303.1304	A	第 13 図
SK	283	9903	A	第 49 図
SK	288	1404	A	第 50 図
SK	289	1404	A	第 50 図
SK	290	1403	A	第 9 図
SK	291	1403	A	第 9 図
SK	292	1403	A	第 9 図
SK	294	1503	A	第 9 図
SK	295	1308	B	第 50 図
SK	296	1308	B	第 50 図
SK	297	1308.1408	B	第 50 図
SK	298	1308	B	第 50 図
SK	299	1308	B	第 50 図
SK	300	1409	B	第 50 図
SK	301	1408.1409	B	第 50 図
SK	302	1408	B	第 50 図
SK	303	1407.1408	B	第 50 図
SK	304	1407	B	第 50 図
SK	306	1407	B	第 50 図
SK	307	1407	B	第 9 図
SK	308	1406.1407	B	第 51 図
SK	309	1406	B	第 51 図
SK	310	1506	B	第 51 図
SK	311	1505.1506	B	第 51 図
SK	313	1506	B	第 9 図
SK	314	1605	B	第 9 図
SK	315	1408	B	第 51 図
SK	320	1508	B	第 51 図
SK	321	1409 ～ 1509	B	第 52 図
SK	322	1508	B	第 51 図
SK	323	1508	B	第 51 図
SK	324	1508.1608	B	第 51 図
SK	325	1508	B	第 51 図
SK	326	1508.1608	B	第 51 図
SK	327	1608	B	第 51 図
ST	330	1506 ～ 1707	B	第 14 図＋ 15 図
SK	336	1609	B	第 51 図
SK	337	1609	B	第 51 図
SK	342	2010	C	第 52 図
SK	343	2010	C	第 52 図
SK	344	2009.2010	C	第 52 図
SK	348	2008.2009	C	第 52 図
SK	349	2008	C	第 52 図
SK	351	2008 ～ 2109	C	第 52 図
SK	353	1908.2008	C	第 53 図
SK	354	1908.2008	C	第 53 図
SK	355	1908	C	第 53 図
SK	356	1908	C	第 53 図
SK	358	1908.2008	C	第 53 図
SK	363	2007.2107	C	第 53 図
ST	365	2108 ～ 2309	C	第 16 図＋ 17 図
SK	367	2309	C	第 9 図
SK	368	2107.2207	C	第 53 図
SK	369	2308	C	第 53 図
SK	371	2308	C	第 9 図
SK	372	2308.2408	C	第 53 図
SK	373	2408.2409	C	第 9 図
SK	374	2408.2409	C	第 49 図
SK	375	2408	C	第 9 図
SK	377	2509	C	第 9 図
SK	378	2307 ～ 2408	C	第 54 図
SK	380	2306	C	第 9 図
SK	382	2407	C	第 54 図
SK	383	2407	C	第 54 図
SK	387	2507	C	第 54 図
SK	389	2406	C	第 9 図
SK	398	2507.2607	C	第 55 図
SK	399	2508.2608	C	第 55 図
SK	401	2607	C	第 55 図
SK	402	2607	C	第 54 図
SK	404	2607.2608	C	第 54 図
SK	406	2607	C	第 54 図
SK	407	2607	C	第 28 図
SK	411	2505 ～ 2606	C	第 55 図
SK	418	2707.2708	C	第 55 図
SK	419	2708 ～ 2809	C	第 55 図
SK	427	2705	C	第 54 図
SK	438	1805	C	第 9 図
SK	439	1805	C	第 9 図
SK	443	1907	C	第 55 図
SK	444	1807.1907	C	第 55 図
SK	445	1907	C	第 54 図
SK	446	1907	C	第 9 図
SK	448	1905.2005	C	第 54 図
SK	449	1905	C	第 9 図
SK	450	2005	C	第 9 図
SK	451	2004	C	第 54 図
SK	452	2004	C	第 56 図
SK	453	2104	C	第 56 図
SK	454	2104	C	第 56 図
SK	455	2004.2104	C	第 56 図
SK	458	2104	C	第 56 図
SK	460	1904	C	第 56 図
SK	461	1903	C	第 56 図
SK	462	1903	C	第 9 図

表４　清水遺跡１地区の遺構一覧　３

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	463	1903	C	第９図
SK	464	1903	C	第９図
SK	465	1903	C	第 56 図
SK	482	2404	C	第９図
SK	488	2002	C	第 56 図
SK	489	2002	C	第 56 図
SK	491	2003	C	第９図
SK	493	2102	C	第９図
SK	494	2102	C	第 56 図
SK	495	2102	C	第 56 図
SK	496	2102	C	第 56 図
ST	510	1700 ～ 1802	C	第 18 図
SK	520	1999.1900	C	第 56 図
SK	523	1999	C	第９図
SK	538	2099	C	第９図
SK	539	2099	C	第 56 図
SK	541	2099	C	第９図
SK	542	2000.	C	第 56 図
SK	543	2000	C	第 56 図
SK	544	1900	C	第 57 図
SK	545	1900.1901	C	第 57 図
SK	546	2000	C	第 57 図
SK	547	2001	C	第９図
SK	548	2001	C	第９図
SK	553	2002	C	第９図
SK	555	2001.2101	C	第 57 図
SK	556	2101	C	第 57 図
SK	557	2101	C	第 57 図
SK	560	2198	C	第 57 図
ST	566	2197 ～ 2298	C	第 19 図
SK	570	2496	C	第 57 図
SK	571	2496	C	第 57 図
ST	581	2497.2498	C	第 19 図
SK	582	2497.2597	C	第 19 図
SK	586	2298	C	第 57 図
SK	588	2200	C	第 57 図
SK	591	2399.2499	C	第 58 図
SK	592	2399	C	第 58 図
SK	593	2499.2400	C	第 58 図
SK	594	2498	C	第 57 図
SK	595	2498.2598	C	第 57 図
SK	600	2401	C	第９図
SK	601	2302.2402	C	第 58 図
SK	602	2500.2501	C	第 58 図
SK	603	2500	C	第 58 図
SK	604	2601	C	第 58 図
SK	612	2601.2701	C	第 58 図
SK	613	2601	C	第 58 図
SK	616	2801	C	第 58 図
SK	620	2404	C	第 58 図
SK	621	2504	C	第９図
SK	622	2503	C	第９図
SK	625	1804	C	第９図
SK	629	9707	A	第 44 図
SK	630	9706	A	第 44 図
SD	631	9506.9406	A	第 40 図
SK	634	9803	A	第 49 図
SD	637	0199 ～ 0298	A	第 37 図
SD	638	0298	A	第 37 図
SK	639	1106.1107	A	第 59 図
SK	640	1106.1107	A	第 59 図
SK	643	1304	A	第 59 図
SK	644	1509.1609	B	第 59 図
SK	645	1609	B	第 59 図
SB	657	0502.0503	A	第 27 図
SK	662	2399	C	第９図
SK	664	2606	C	第 55 図
SB	665	0405 ～ 0407	A	第 27 図
SB	666	2606 ～ 2707	C	第 28 図
SA	667	0305 ～ 0207	A	第 27 図
SA	668	2506 ～ 2508	A	第 28 図
SK	692	1908	C	第 53 図
SK	710	1601	H	第９図
SK	711	1601	H	第 59 図
SK	713	1600	H	第９図
SK	720	1699	H	第 59 図
SK	723	1698	H	第 59 図
SK	724	1698	H	第９図
SK	726	1699	H	第９図
SK	728	1699	H	第９図
SK	736	1297	G	第 59 図
ST	740	1503 ～ 1604	H	第 20 図
SK	747	1807	H	第９図
SK	751	1706	H	第９図
SK	754	1704	H	第９図
SK	755	1703	H	第９図
SK	758	1602	H	第 59 図
SK	759	1602	H	第 59 図
SK	763	1503	H	第９図
SK	764	1504	H	第９図
SK	766	1504	H	第９図
SK	771	1405	H	第 59 図
SK	773	1505	H	第９図
SK	775	1505	H	第９図
SK	776	1505	H	第９図
ST	777	1306	H	第 21 図
SK	781	1307	H	第 59 図
SK	783	1207	H	第 59 図
SK	1010	4906	F	第７図
SK	1020	5105	F	第 60 図
SK	1023	5007.5008	F	第 60 図
SK	1024	5008	F	第 60 図
SK	1025	5108	F	第 60 図
SK	1027	5204.5304	F	第 60 図
SK	1031	5305	F	第７図
SK	1032	5305	F	第７図
SK	1033	5305	F	第７図
SK	1035	5406	F	第 60 図
SK	1037	5306	F	第 60 図
SK	1038	5306	F	第７図
SK	1039	5207	F	第７図
SK	1040	5207	F	第 60 図
SK	1041	5407	F	第 60 図
SK	1042	5407	F	第７図
SK	1045	5408	F	第７図
SK	1047	5307	F	第 60 図
SK	1051	5208	F	第７図
SK	1055	5308	F	第 60 図
SK	1058	5208	F	第 61 図
SK	1062	5210	F	第 61 図
SK	1067	5607	F	第 61 図
SK	1073	5607	F	第７図
SK	1076	5508	F	第 61 図
SK	1088	5609	F	第 61 図

表５　清水遺跡１地区の遺構一覧　４

分類	番号	グリッド	調査区	掲載図面
SK	1094	5708	F	第 61 図
SK	1095	5610.5710	F	第 61 図
SK	1097	5612	F	第 61 図
SK	1099	5712	F	第 61 図
SK	1103	5811	F	第 61 図
SK	1104	5811	F	第 61 図
SK	1111	4304	E	第 62 図
SK	1112	4304	E	第 62 図
SK	1120	4207	E	第 62 図
SK	1140	3907	E	第 62 図
SK	1141	3807.3907	E	第 62 図
SK	1144	3908	E	第 62 図
SK	1155	3809	E	第 62 図
SK	1157	3810	E	第 62 図
ST	1158	3602	E	第 22 図＋ 23 図
SX	1160	3503 ～ 3604	E	第 63 図
SX	1161	3504.3604	E	第 63 図
SX	1162	3504.3604	E	第 63 図
SX	1163	3504	E	第 63 図
SK	1164	3504	E	第 63 図
SK	1168	3608	E	第 62 図
SK	1169	3508.3608	E	第 62 図
SK	1171	3504	E	第 63 図
SK	1172	3505	E	第 63 図
SX	1175	3505.3506	E	第 63 図
SX	1181	3506	E	第 63 図
ST	1184	3510	E	第 23 図＋ 24 図
SK	1186	3601	E	第 63 図
SK	1194	3502	E	第 63 図
SK	1197	3502	E	第 63 図
SK	1198	3402	E	第 63 図
SK	1200	3403	E	第 64 図
SK	1202	3408.3409	E	第 64 図
SK	1207	3301	E	第 64 図
SK	1208	3304.3305	E	第 64 図
SK	1209	3305	E	第 64 図
SK	1210	3306	E	第 64 図
SK	1211	3307	E	第 64 図
SK	1212	3307	E	第 64 図
SK	1214	3308	E	第 64 図
SK	1215	3308.3408	E	第 64 図
SK	1217	3409	E	第 64 図
SK	1219	3309	E	第 64 図
SK	1220	3310	E	第 64 図
SK	1221	3310	E	第 64 図
SK	1226	3204	E	第 64 図
SK	1228	3206	E	第 64 図
SK	1229	3209	E	第 65 図
SK	1232	3209	E	第 65 図
SK	1233	3199	E	第 65 図
SK	1235	3103	E	第 65 図
SK	1236	3104	E	第 65 図
SK	1240	3105.3106	E	第 65 図
SK	1248	3008 ～ 3109	E	第 65 図
SK	1250	3109	E	第 8 図
SK	1251	3109	E	第 65 図
SK	1252	3109	E	第 65 図
SK	1253	3109	E	第 65 図
SK	1255	3110.3210	E	第 65 図
SK	1258	3009.3109	E	第 66 図
SK	1260	3003	E	第 66 図
SK	1262	3003.3004	E	第 66 図
SK	1266	3006.3106	E	第 66 図
SK	1271	3008	E	第 66 図
SK	1272	3008	E	第 66 図
SK	1274	3008	E	第 66 図
SK	1277	3009	E	第 66 図
SK	1278	3009	E	第 66 図
SK	1282	2803	E	第 66 図
SK	1283	2803	E	第 66 図
ST	1286	2907.3007	E	第 26 図
SK	1289	2806	E	第 25 図
ST	1290	2806 ～ 2907	E	第 25 図＋ 26 図
SK	1295	2907	E	第 66 図
SK	1297	2908	E	第 8 図
SK	1301	2909	E	第 66 図
SK	1305	2909.2910	E	第 66 図
SK	1306	2808	E	第 66 図
SK	1307	2808	E	第 8 図
SK	1309	2808	E	第 66 図
SK	1310	2809	E	第 66 図
SK	1312	2809	E	第 67 図
SK	1313	2809	E	第 67 図
SK	1314	2809	E	第 67 図
SK	1315	2809	E	第 67 図
SK	1316	2809.2810	E	第 67 図
SK	1318	2809	E	第 67 図
SK	1319	2910	E	第 67 図
SK	1320	4811	F	第 61 図
SK	1329	3707	E	第 67 図
SK	1330	3607	E	第 67 図
SK	1331	3707	E	第 67 図
SK	1332	3707	E	第 67 図
SK	1334	5204	F	第 7 図
SK	1343	3209.3309	E	第 67 図
SK	1344	3209	E	第 67 図
SK	1347	3601	E	第 22 図
SK	1351	3601	E	第 22 図
SK	1352	3107	E	第 29 図
SK	1356	3006.3106	E	第 66 図
SK	1357	3006.3106	E	第 66 図
SD	1358	0898 ～ 0997	A	第 30 図
SD	1359	0897 ～ 0298	A	第 30 図
SD	1366	0198 ～ 0299	A	第 38 図
SD	1378	0000 ～ 8708	A・D	第 38 図＋ 41 図＋ 45 図
SK	1379	2807	E	第 67 図
SK	1380	2707	E	第 67 図
SK	1382	2906	E	第 67 図
SD	1383	9602 ～ 9405	A	第 41 図
SK	1384	9503	A	第 41 図
SD	1385	9503 ～ 9404	A	第 41 図
SK	1387	3601	E	第 67 図
SD	1388	9305	A	第 41 図
SD	1389	9006.9106	D	第 45 図
SD	1390	9006 ～ 8708	D	第 45 図
SD	1403	8707 ～ 8806	D	第 45 図
SB	1405	3006 ～ 3107	E	第 29 図
SA	1406	3106 ～ 3207	E	第 29 図

遺構番号は、遺構の種別を問わず、登録順の通し番号である。
欠番は、調査の進展により撹乱と判断したものや、他の遺構と統合したもの、空番としたものである。

Ⅱ　遺構と遺物

1　竪穴建物跡と出土遺物

1 地区では 13 軒の竪穴建物を検出している。第 12 ～ 26 図は、それらの遺構図面であり、第 68 ～ 88 図は出土遺物の図面である。検索の便宜をふまえ、遺構と遺物をそれぞれまとめて掲載した。以下、図面掲載順に解説する。

1ST121 竪穴建物跡（第 12、68 図）

1ST121 は、1 次調査の A 区北東部 1107 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。1 地区内で検出した竪穴建物の中では、南へ下る丘陵裾部の最も低位に位置し、現地表面で標高 108m 前後、遺構確認面で標高 108 ～ 107.5m ほどの斜面に位置する。撹乱により南半部を失っており、重複する 1SK639・640 土坑に切られる。付近一帯の調査前の状況は、ゴミや廃材が埋められていたため、確認面が低くなっている。

N-175°-W に主軸を持つ。規模は南北で 4.7m、東西は残存部で 3.5m ほどであり、東西に伸びる可能性を考慮してもやや南北に長い長方形を呈することになるだろう。壁面の立ち上がりは逆台形状だが浅く、残存する東部で 8 cm ほどで、斜面下位の南部はほぼ床面での検出である。床面は明黄褐色の地山をほぼ水平にし、標高 107.75m 前後を測る。確認面からの深さは 8 cm 前後である。中央部には固く踏み締められた硬化面が確認できた。覆土は黒褐色のシルトを基調とする。

附属施設は EL1 カマドと、竪穴の内外に検出した EP1 ～ 10 柱穴である。EL1 カマドは壁面南側で検出し、遺存状態が悪く往時の形状を伝えるものではないが、砂と粘土で構築されたソデの残欠や被熱硬化した床面からその存在を確認できる。柱穴は竪穴内にほとんど検出されず、EP6・8 が竪穴縁辺にあるほかは、竪穴外のものである。EP3 はカマドのすぐ後ろに深めのピット状の掘り込みが検出してる。建て直し前のものか、別遺構のものだろう。

出土遺物は須恵器有台坏（1）と土師器甕（2 ～ 6）である。時期判断をなすのに十分な遺物の出土状況とは言えないが、内容的に周辺の遺構の年代と大きく離れるものではないと思われる。9 世紀中葉の年代が考えられる。

1ST281 竪穴建物跡（第 13、68 図）

1ST281 は、1 次調査の A 区北部 1304 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。現地表面で標高 108.5m 前後、遺構確認面で 108.5 ～ 108m ほどの南へ下る斜面に位置し、地区をまたいで 8 m ほど東に 1ST777 が立地する。1ST121 と同様の立地環境のため、撹乱により西半部を失っているものの、北側ではその下に床面が残存する。また、中心部は 915 年噴火の十和田火山灰が厚く堆積する 1SK643 土坑に切られている。

N-150°-W に主軸を持つ。規模は南北で 5m、東西は残存部で 4.7m ほどであり、ほぼ正方形を呈する。壁面は残存の良い北部で周溝から逆台形状に 22cm ほど立ち上がるものの、南西角は撹乱もあって立ち上がりが不明である。床面は明黄褐色の地山をほぼ水平にし、標高 108.25m 前後、確認面からの深さは 20cm 前後を測る。覆土は暗褐色のシルトを基調とする。

附属施設は EL1、2 カマドと、竪穴の内外に検出した EP1 ～ 18 柱穴があり、北半部のみ浅く周溝も確認できる。カマドは壁面南東角にあり、EL1 は建て直し前のカマドの残欠と解釈している。柱穴は EP8 と 9、EP14 と 15 が主柱穴と考えられる深さを持つが、竪穴の東西幅に比べて狭く、柱通りも悪い。周辺のピット群は、竪穴と軸を異にするものもあるが、ここに掲載しておく。

出土遺物は須恵器有台坏（7）、須恵器瓶類（8）、土師器甕（9 ～ 12）がある。こちらも時期判断をなすのに十分な出土量や状況ではないが、9 世紀中葉の年代が考えられる。

1ST330 竪穴建物跡（第 14・15、68 ～ 71 図）

1ST330 は、1 次調査の B 区北部 1606 ～ 1607 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。現地表で標高 110.5 ～ 109.5m ほどの南西に下る斜面に位置し、地区をまたいで 12m ほど西に 1ST740 が立地する。調査前は畑地であり、旧農道の側溝らしき溝状の撹乱が入るものの、それ以外の遺存状態は良好である。

N-170°-W に主軸を持つ。規模は南北で 5.6m、東西は 5.5 mで、ほぼ正方形を呈する。壁面は斜面上位の北側で周溝から逆台形状に立ち上がり、30cm 前後を測る、反対の南側では不明瞭な立ち上がりで 5cm 程度となる。斜面を水平にして床面を作り出そうとしているものの、北と南の床面で 20cm 程度の標高差がある。床面中心部で標高 110.05m 前後を測り、確認面からの深さは 25cm ほどである。中心部が硬化している。覆土は黒褐色のシルトを基調とする。

附属施設は EL1 カマドと、竪穴内に検出した EP1 ～ 6 柱穴があり、東壁から北壁角と西壁一部に周溝も確認できる。カマドは壁面南東角にあり、粘土と砂で構築される。床面は強く被熱しており、多くの遺物が出土している。柱穴の配列は、竪穴に対して東西に短く長方形になることや、カマドのすぐ近くにあることなども含めて 1ST281 と近い。

出土遺物は大量にあり、須恵器坏を 5 点（13 ～ 17）、須恵器有台坏を 2 点（18、19）、須恵器蓋（20）、須恵器長頸瓶（21）、須恵器横瓶（22）、須恵器甕を 4 点（23 ～ 26）、土師器甕を 4 点（27 ～ 30）掲載している。須恵器坏はいずれも回転糸切りのもので、河川跡から大量に出土しているものとおなじ「縄」の墨書をもつもの（13）も見られる。「貞」の墨書をもつ（15）と「真」の墨書の有台坏（19）は、同じ字を意図したものかもしれない。横瓶は（22）が出土遺物中で認識できる唯一のものである。外側のタタキ目は、ナデ消されて判然としない。カマドの東ソデより出土している。（23）は、平底だが内外ともに並行アテ具痕が明瞭に残っているため、長胴タイプの須恵器甕と判断した。（24）は、竪穴中央部床面から出土した中型のもので、器面赤紫色を呈する。底部を欠くものの、それ以外の残存率は比較的良いものである。（25）は、カマド中央から西ソデにかけて潰れるように出土した大型の須恵器甕である。接合片は 1ST365 の覆土からも出土している。大甕の制作痕跡を示す底部付近で器厚がいったん肥厚し、細くなって丸底の底部に至る様子が観察できる。また、内面のアテ具痕は、上位で円形アテ具で下位で並行アテ具に変わっている。（26）も大型の須恵器甕であるが、すべては接合せず 3 分割となる。竪穴中央部東側の床面でまとまって出土し、調整痕や器面の質感から同一と判断されるが、器形は図面のものと変わってくるかもしれない。1ST1184 の貼床下で出土した破片と接合している。土師器甕（27、29、30）は、カマド付近で出土したものである。

須恵器甕 25、26 が 1ST365、1ST1184 からも出土していることから、大きな時期差はなかったものの、これらよりも先行すると考えられる。9 世紀中葉を当てておく。

1ST365 竪穴建物跡（第 16・17、72 ～ 76 図）

1ST365 は、1 次調査の C 区南東部、2108 ～ 2209 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。東部 1/3 程度は調査区外へ延長するものと思われる。南へ下る斜面が弧を描き、東方向へと下り、現地表で標高 112m ほど、確認面で標高 111.5 ～ 111m ほどの斜面に位置する。地区をまたいで 23m ほど南に 1ST330 が立地する。遺構検出時には 2 軒の竪穴が重複するものとして捉えていたが、覆土の同質性や形状から同じ遺構の附属施設と考える。

主軸は N-175°-W で、竪穴の規模は南北で 8 m、東西は検出部竪穴で 5 m あり、EK1 ～ 5 とした部分を含むならば 7m を超える。さらに調査区外東へ伸びることを考慮すれば、この時期の竪穴建物としては、かなり大型のものであろう。壁面は斜面に並行する南北で、逆台形状に立ち上がり 25 ～ 30cm ほど、斜面上位の西側の壁は、55cm 前後を階段状に立ち上がる。床面は明黄褐色の地山をほぼ全面貼床し、水平に整える。明確な硬化面は観察できない。床面の標高は 110.9m 前後を測り、確認面からの深さは 32cm ほどである。覆土は黒ボク土を基調とする。

附属施設は床面の被熱痕跡が中央から南側に 3 か所ある。西壁に接続して不定形な階段状の掘り込みがみられ、EK1 ～ 5 とした。柱穴は EP1 ～ 5 まで検出している。EL1 とした被熱痕跡付近の壁面が地山を掘り残すように出っ張っており、カマドのようにも見える。しかし、反対側のソデが確認できないことや、壁際に被熱痕跡が寄らないことから明確なカマドとは判断できない。これらの被熱痕跡付近からは、鍛冶に伴うものか、椀形滓などの鉄滓が出土していることから、この建物はカマドを持たない鍛冶工房としての可能性も考えられる。EK1 ～ 5 とした西側の掘り込みは、覆土や床面のレベルに差が

ないため、竪穴に付随する張出施設として解釈したい。EK1 の覆土中位には、火山灰ブロックが、ややまとまって検出している。検出した柱穴は、近隣の他の竪穴建物と同様に柱通りが悪い印象を受ける。

出土遺物は、須恵器坏を 13 点（31 ～ 43）、須恵器有台坏を 5 点（44 ～ 48）、土師器坏を 9 点（49 ～ 57）、土師器有台坏を 4 点（58 ～ 61）、須恵器瓶（62）、須恵器鉢（63）、須恵器瓶類を 2 点（64、65）、土師器鉢を 2 点（66、67）、土師器甕を 12 点（68 ～ 79）、帯金具（80）、土玉を 2 点（85、86）、砥石（87）を掲載している。

本遺構は貼床が深く、床下から大量に遺物が出土している。第 16 図上、出土遺物ドットが床面ライン以下になっているものは、それを示すものである。特に南壁近くの床下からは、4 点の須恵器坏（32、39、41、42）がまとまって出土している。須恵器か土師器か、有台の有無を問わず、坏類の底部はすべて回転糸切りである。これらの中で墨書されるものが 9 点あり、判読できるものは、「千」が 3 点（32、33、49）、「縄」が 2 点（36、37）ある。坏類で土師器の出土量が他の竪穴建物出土のものと比べて多い。また、土師器有台坏の 60、61 は、内黒のもので、高台を貼付けではなく、棒状工具による削り出し作出しているものである。

土師器鍋 66 は、下半部に煤が濃く付着するロクロ整形のもので、67 は、刷毛整形のもので貼床下から出土している。土師器甕 79 は、タタキ整形のもので、1ST1158 で出土している 195 と同様のものになるかもしれない。須恵器甕の出土は少なく、破片のみであり掲載できるものはない。ただし、1ST330 で出土している 25 と接合する破片が出土している。

帯金具（80）は青銅製の巡方で、貼床下より出土した。山形県内の集落遺跡で出土する銙帯具は、石製のものが大部分を占めており、金属製の出土事例は少ない。日本海に面する県北の遊佐町の木原遺跡（埋文セ 1994）で漆塗りの丸鞆が柱穴覆土から、同町上高田遺跡（埋文セ 1998）で巡方が河川跡から出土した 2 例のみである。今回出土の巡方は、長軸 27mm で、平城京出土の銙帯規格によれば、この所有者の位階は従八位にあたる（村松 2002）。ただし、今回のように集落遺跡に単独で出土する事例は、官人の所在を示すというものではなく、それ単独で意味をもっていたことをうかがわせる。貼床下から出土するのも地鎮的な行為に用いられたことを示唆しよう。

これらの出土遺物からは、9 世紀中～後葉の年代が与えられる。1ST330 出土の大甕 25 の同一片があることから、これに後続するものと考えられる。

1ST510 竪穴建物跡（第 18、76 図）

1ST510 は、1 次調査の C 区南部 1701 ～ 1801 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。現地表で標高 110.5 ～ 110 m、確認面で 110 ～ 109.5m ほどの南へ下る斜面に位置し、地区をまたいで 13m ほど南東に 1ST740 が立地する。確認面まで大量のゴミが堆積していたものの、床面が深かったため失われずに検出できている。南端部は耕作に起因すると思われる C 区を東西に横断する溝状の撹乱に切られている。

N-132°-W に軸を持ち、竪穴の規模は 4.2m 四方の正方形を呈する。周溝は西壁側で 2 条確認されており、建て直しされたことがわかる。当初の壁面から東側へ 40cm ほど狭くしているため、南北 4.2m、東西 3.8m のやや南北に長い長方形になる。壁面は斜面上位の北、東側で 45cm ほどあり、急角度で立ち上がる。斜面下位の西壁では 5cm 程度しか残らずに立ち上がりは判然としない。床面は明黄褐色の地山斜面をほぼ水平に掘削し、標高 109.5m 前後を測る。確認面からの深さは、28cm ほどである。覆土は黒ボク土を基調とし、最上層には十和田火山灰の単純層が 10cm 前後検出している。

附属施設は EL1 カマドのみで、貼床を剥がしても内外に柱穴はみられなかった。周溝は竪穴構築当初の外側のものの方が深く、内側のものは浅く形状もぼやける印象を受ける。カマドは南壁の東寄りに位置し、粘土と砂で構築される。燃焼部床面から 15cm ほど上の壁外に 1.2m ほど伸びるプランを検出したものの、掘り込みはなく土色変化のシミのみで、被熱痕跡も検出しなかった。とはいえ、カマドの位置から考えれば、煙道の床面を薄皮一枚検出できたものと考えてよいだろう。燃焼部は良く焼けており、焼土層が 5cm 程度堆積している。カマドと同じ素材の支脚が燃焼部に残され、付近からは多数の遺物が出土している。

出土遺物は、須恵器坏を 3 点（88 ～ 90）、須恵器甕（91）、土師器甕を 5 点（92 ～ 96）掲載している。こ

れらの大部分はカマド内か、その付近からの出土である。須恵器坏は、ヘラ切りで扁平な形状のもの（88、89）と、糸切りのもの（90）がある。出土遺物は多くはないが、上層に火山灰が堆積し、出土遺物に古手のヘラ切りの坏が入ることも共通する 1ST740 や 1ST777 と同じ年代になるものと考え、９世紀中葉を与えておく。

1ST566 竪穴建物跡（第 19、77 図）

1ST566 は、１次調査のＣ区西部 2197 ～ 2298 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南へ下る斜面が弧を描き、西方向へと下り、現地表で標高 112m、確認面で 111 ～ 112m ほどの斜面に位置する。類似する形態の 1ST581 が北 10m ほどに立地する。

東西方向 N-60°-W に主軸を持ち、竪穴の規模は撹乱を受けない東西で 3.6m ほどあり、正方形を呈するものと思われる。壁面は斜面上位の北側でやや開き気味の逆台形状に 40cm ほど立ち上がるが、反対側では撹乱が多いこともあり、明確な立ち上がりは確認できない。床面は斜面を水平に削り出そうとする意図を感じさせるものの、斜面上位の北側と南側で 20cm ほどの差がある。床面中心部の標高は 111.12m 前後を測り、確認面からの深さは 40cm ほどある。覆土は黒ボク土を基調とし、十和田火山灰単純層 10 ～ 15cm 前後を中位に挟んでいる。

附属施設は撹乱の下から柱穴 EP1 が検出した他は、カマドを含め検出していない。他の竪穴建物に比べ小型であり、異なる性質を持つように思えるが、1ST581 も同様の形状していること、床面は水平に作られていることなどを考慮し、建物跡と判断する。中央部に人頭大の円礫が床面に据えられている。叩打痕など目立った使用の痕跡は見られない。

出土遺物は、97 ～ 99 の計３点を掲載している。内訳は、須恵器坏（97）が１点、須恵器長頸瓶（98）が１点、須恵器甕（99）が１点である。97 は、底部の円板のみだが、ヘラ切り底部の須恵器坏と判断した。98 は、長頸瓶の頸部で、環状凸帯をもつ。99 は大型の甕と思われる胴部片である。時期判断をなすのに十分な出土量ではないが、本遺構の年代は、98 などの存在から９世紀代のものであり、遺構の類似点から 1ST581 と同じ９世紀中葉の年代を与えておく。

1ST581 竪穴建物跡（第 19、77 図）

1ST581 は、１次調査のＣ区西部 2497 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南へ下る斜面が弧を描き、西方向へと下り、現地表で標高 114 ～ 113.5m、確認面で 113.5 ～ 113m ほどの斜面に位置する。類似する形態の 1ST566 が南 10m ほどに立地する。

東西方向 N-68°-W に主軸を持ち、撹乱で南東部を欠く。竪穴の規模は南北 3.1m、東西で 3.5m ほどであり、やや東西に長い長方形を呈する。壁面は斜面上位の北側で逆台形状に 40cm ほど立ち上がるが、反対側では 12cm ほどの立ち上がりである。床面は斜面を水平に削り出そうとする意図を感じさせるものの、斜面上位の北側と南側で 30cm ほどの差がある。床面中心部の標高は 112.47m 前後を測り、確認面からの深さは 28cm ほどある。覆土は黒ボク土を基調とし、10cm 前後の十和田火山灰単純層を中位に挟んでいる。

附属施設にカマドはなく、竪穴に隣接する 1SK582 とした小型の土坑が付属する柱穴の可能性がある程度のものである。小型でカマドを持たないことや覆土の堆積など、1ST566 とは類似する点が極めて多い。

出土遺物は、100 ～ 104 まで計５点を掲載している。内訳は、須恵器坏が２点、須恵器蓋が１点、土師器甕が２点である。須恵器坏は、いずれも残存率は高くはないがヘラ切りである。100 はやや深みで底径が小さくなり、101 よりも新しい印象を受ける。これに対して２点の土師器甕の底部はいずれも糸切りである。時期を判断するのに十分な出土量ではないが、９世紀代中葉が考えられる。

1ST740 竪穴建物跡 (第 20、78 ～ 81 図)

1ST740 は、７次調査のＨ区中央部、1604 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南に下る緩斜面中、現地表で標高 110m 前後、確認面で 109.5m ほどに位置する。周囲には、地区をまたいで東に 12m に 1ST330 が、南 11m には 1ST281 が位置する。

N-169°-W に主軸を持ち、竪穴の規模は、南北で 4.5m、東西で 4.9m やや東西に長い長方形を呈する。壁面は斜面上位の北側を見ると、比較的急斜度で 40cm ほど立ち上がるのに対し、反対の南側では 5cm と僅かに立ち上がりが確認できる程度である。床面は斜面を平坦に掘削しており、斜面上位と下位で 10cm 程度の差はあるものの、ほぼ平坦をなし、標高は 109.2 m前後を測る。確認面からの深さは 30cm ほどである。北側

は平坦に掘削した地山をそのまま床面として利用しているのに対し、南側は貼床で床面を形成している。覆土は黒褐色シルトを基調とし、上位に十和田火山灰の単純層が 10 数 cm 堆積している。また、火山灰は覆土全体にブロック状に含まれている。

附属施設は、燃焼施設としてカマドである EL1 が南東角にあり、竪穴中心部やや西よりに床面の被熱した EL2 が検出している。燃焼部にあたる部分には、掛口部周辺の構築材が崩落したものと思われる焼土が厚く堆積していた。粘土や砂で構築されているが、ソデ部には角礫が出土しており、カマドの芯材として利用されたと思われる。燃焼部からは、土師器甕片などが出土している。EP1 ～ 4 は、柱穴などと考えられるものであるが、本調査区の他の竪穴建物と同様に柱が揃わない。EP2 と 3 は主柱となるものであろうが、対になる南側のものがない。EP1 はカマド焚口に近く、やや大きい平面形などから別の機能を持つものかもしれない。

出土遺物は 105 ～ 141 まで計 37 点を掲載し、内訳は、須恵器坏が 9 点、須恵器有台坏が 4 点、土師器坏が 4 点、須恵器蓋が 5 点、須恵器瓶類が 1 点、須恵器壺が 2 点、須恵器甕が 2 点、土師器甕が 6 点、ミニチュア土製品が 3 点、鉄製品が 1 点である。

須恵器坏、有台坏はヘラ切りのものが 5 点（105 ～ 108、115）あり、他のものは糸切りである。ヘラ切りのものはいずれも底径が大きく器高は低いのに対し、糸切りのものは底径が小さく、器高は深めになる。前者も床面直上で出土しており、両者が共伴することは間違いないが、製作された年代にはズレがある。蓋の出土が 5 点と調査区内では多く、無鈕蓋（122）の頂部には「冨」の墨書がなされ、小型品（123）、壺蓋（126）も含まれる。

127 は、ロクロ整形で球胴形の胴部で、長頸瓶や短頸壺と思われる。131 は、口縁部を欠くものの胴径が大きいため、大型の須恵器甕と判断できる。内面は中央部に平行アテ具痕が、上部と下部に円形アテ具痕が残る。132 は、土師器長胴甕で残存率も良く、調整痕も明確に観察できる。138 ～ 140 のミニチュア土製品は、土玉状の粘土塊に指を入れて窪ませた簡易なもので、甕等を模したものと思われる。

これらの出土遺物から本遺構の年代は、9 世紀中葉のものと考える。

1ST777 竪穴建物跡 (第 21、82・83 図)

本遺構は 7 次調査 H 区の南東縁辺部、1306 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南に下る緩斜面中、現地表で標高 109m 前後、確認面で 109 ～ 108.5m ほどに位置する。地区をまたいで西に 8 m に 1ST281 が位置する。南西側半分は 1 次調査の A 区にあたり、調査時には撹乱としたシミ程度の土色変化が残るのみであった。本遺構とその撹乱の位置を合わせてみると、平面形として同一のもののようにも思われる。ただし、調査前の現況として、A 区は水田、H 区は農道であり、すでに標高差が数十 cm ほどあるため、A 区側は削平されて失われていたものと思われる。A 区側で撹乱としたシミは、遺構の掘方などが影響したものと解釈する。

N-165°-E に主軸をもち、規模は残存値で南北 5.3m、東西で 4.4m を測り、南北に長い平面形を呈するものと推測される。壁面はやや丸みを持つ逆台形で、斜面上位の東側で 30cm、北側で 17cm ほどで立ち上がるが、斜面下位の南側では 5 cm ほど僅かに立ち上がるのみである。床面は明黄褐色の地山の削り出しによって形成されており、平坦で水平に近く、標高は 108.5m 前後を測り、確認面からの深さは 18cm ほどを測る。覆土は黒褐色シルトを基調とし、最上層には十和田火山灰を多く含む層が数 cm 検出している。

附属施設は、土坑 1 基と柱穴 3 基が検出している。北東角に検出した土坑 EK1 は、長軸 130cm、短軸 90cm のやや不整形な隅丸長方形を呈し、床面からの深さは 20cm を測る。北壁の一部を 20cm 程掘り込んでオーバーハングする。覆土や周辺に焼土はなく、カマドではないものの、その機能については定かではない。周辺の竪穴建物のカマドの位置を見ると、南壁面に敷設される傾向にあることから、南西側の A 区削平部に存在した可能性がある。3 基の柱穴は、他の竪穴建物に比べれば明確で位置も良く、主柱穴が EP1 と EP3 で南北の対になり、削平された南西部に東西軸の対になる柱穴があったかも知れない。EP2 は壁柱穴と判断できよう。

出土遺物は 142 ～ 171 まで計 30 点を掲載し、内訳は須恵器坏が 5 点、須恵器有台坏が 3 点、須恵器蓋が 1 点、土師器坏が 4 点、土師器有台坏が 3 点、土師器有台皿が 1 点、土師器鉢が 1 点、土師器甕が 11 点、鉄製品が 1 点である。

須恵器坏 142 や土師器坏 151、土師器有台坏 155 や 157 はヘラ切りのものであり、 他の坏類は回転糸切りである。151 は「王」が、須恵器坏 143 には「縄」の墨書が底部にあり、1SD186 などで大量に出土している墨書の字種と同じものである。須恵器の比率が少なく、図化できるような瓶類や甕はない。158 は、土師器有台皿で厚手のものである。竪穴から出土しているのはこれのみで、他は 1SD186 で出土している。159 はコップ形の小型土師器鉢で、他では出土していない。

本遺構の時期は、これらの出土遺物と「縄」の墨書などの共通点から、1ST365 などと同じ、9 世紀中～後葉のものと考えられる。

1ST1158 竪穴建物跡 (第 22・23、84 ～ 86 図)

1ST1158 は、 E 区西側の中央部、3602 グリッドから検出した竪穴建物跡である。東に下る斜面中、現地表で標高 116 ～ 115.5m、確認面で 115.5 ～ 115m ほどに位置する。周辺に竪穴建物はなく、土坑など他の遺構も疎らな地区に 1 棟だけ離れて存在する。周辺は東西に走る谷状に窪む場所で、黒ボク土が厚く堆積している。この場所の古代の生活面は、この黒ボク土中にあるものと思われる。黒ボク土をすべて抜き、明黄褐色の地山まで下げてしまうと、浅い遺構であれば、完全に失われてしまう。そのため、黒色の土の中で遺構の土色変化を見極ねばならず、検出は困難な作業であった。本遺構は、覆土上面に灰褐色の十和田火山灰が堆積していたため、遺構として判断できたものである。

本遺構の覆土は、黒ボク土の地山に対して、若干色味が明るくなる程度の黒褐色のシルトを基調としたものが堆積する。そのため壁面の立ち上がりを検出することが非常に困難であり、断面から確認することができるベルトの周辺のみ可能であった。このような状況で判断できるものは、主軸は、N-176°-E 方向にあり、ほぼ真南を向く。規模は、南北 3.6m、東西 3.5m で、方形を呈する。壁面はやや丸みを帯びる逆台形状に立ち上がり、斜面上位の南西壁面で 35cm、下位の北東壁面で 13cm を測る。竪穴中心部、覆土最上位に直径 3 m の不整円形で厚さ 20cm 前後の十和田火山灰の単純層が見られる。ほぼ平坦をなす床面は、黒ボク層の下位にあり、標高 114.90m 前後、確認面からの深さは 25cm ほどを測る。遺構写真では南西側半分が明黄褐色の地山に達するまで掘削されているが、これは掘方まで達しているもので、掘り過ぎたものである。

附属施設は、カマドである EL1、被熱ピットの EL2、これに隣接する土坑の EK1、貼床を剥がしたところ、新たに土坑が 3 基検出した（EK2 ～ 4)。柱穴と見られるものが竪穴内に 4 基（EP1 ～ 4)、竪穴外に 12 基（EP5 ～ 16)、また、竪穴に隣接する 1SK1347 土坑も付属するものである可能性があるため、同一の図面に掲載している。

カマド EL1 は、南東角に検出された。燃焼部はよく焼けており、粘土と砂で構築されている。崩落したカマド構築材の上に完形の須恵器坏 181 と、その下に半分を欠く土師器長胴甕 195 が逆位で出土し、据え置かれたような状況を呈する。他にもカマドソデの周辺や内部に多くの遺物が出土しているが、破損したものをカマド構築材として混ぜたような出土状況である。EK3、4 土坑は、カマド西側のソデ下から検出したものである。カマド構築以前に機能したものと思われるが、ここからも多くの遺物が出土している。上位で出土したものは、カマドの構築材に含まれるものであろう。竪穴内の柱穴は、他の竪穴建物同様にはっきりしない。竪穴外に見られる柱穴は、EP5 ～ 9 と EP10 ～ 13 が列になるように検出しているが、竪穴の軸とは異なるため、別遺構の可能性もある。

出土遺物は、172 ～ 196 の計 25 点を掲載し、内訳は、須恵器坏が 11 点、須恵器有台坏が 1 点、土師器坏が 5 点、土師器有台坏が 1 点、須恵器瓶が 1 点、瓶類が 1 点、土師器甕が 4 点、刀子が 1 点である。坏類はすべて回転糸切りである。176 と 177 のように底部中央がやや出っ張るようになり丸底状になるものがカマド周辺から出土している。182 は 1SD186 で大量に出土している「縄」字の墨書をもつものだが、竪穴の縁辺上位で出土しているため、本遺構に帰属するとはいいきれない。

190 は、須恵器長頸瓶の頸部で、リング状凸帯をもつものである。191 は、底部と胴部で同一個体と判断できる平底の須恵器瓶類で、広口壺などと考えられる。192 は、ほぼ完形の小型土師器甕で、底部の網代痕も明瞭に残る。195 は、口縁部や底部を欠くが、内外にタタキ整形痕を明瞭に残す土師器甕であり、いわゆる「出羽型」の底部が丸底で砲弾形を呈するものと思われる。

本遺構の年代は、これらの出土遺物から９世紀後葉のものと判断できる。

1ST1184 竪穴建物跡 (第 23・24、86 図)

1ST1184 は、E 区中央の東側縁辺部 3510 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。南東方向に下る緩斜面の裾部に位置し、現地表の標高は 113m 前後、確認面での標高は、113 ～ 112.5m ほどを測る。北東縁辺は撹乱により失われ、東側は調査区外に延長する。周辺に竪穴建物は見られない。

主軸は、N-160°-E 方向にあり、南を向く。規模は南北方向で 5.25m、東西の残存部で 4.5m を測り、方形になるものと思われる。壁面は周溝から逆台形状に立ち上がり、残存する西側で 18cm、南側で 25cm を測る。床面は明黄褐色の地山をほぼ平坦に掘削しており、標高は 112.60m 前後を測る。確認面からの深さは 15cm ほどである。掘方は、竪穴中心部を溝状に大きく掘り込んでいるのが特徴的である。覆土は黒ボク土を基調とする。

附属施設は、カマド EL1 と柱穴が５基（EP1 ～ 5）に、貼床を剥がした段階でさらに３基（EP6 ～ 8）、周溝は全周で検出している。カマドは粘土と砂で構築され、火床面はよく焼けている。柱穴は他の竪穴建物と同じく不定形であり、深さも一定しない。

出土遺物は、197 ～ 205 まで、計９点を掲載している。内訳は、須恵器坏４点、須恵器壺１点、須恵器鉢１点、土師器甕２点、刀子１点である。確認できる坏類はすべて回転糸切りであり、軟質な質感は 197、198、200 に共通する。205 の刀子は、木質が錆と一緒に固まっており、鞘などと思われる。クランク状に曲がっているのは、折れたものが錆で固着したためである。また、本遺構の掘り方より 1ST330 で出土している 26 の破片が出土していることから、同遺構が先行すると考えられる。

本遺構の年代は、このような出土遺物と状況から９世紀中～後葉が当てられる。

1ST1290 竪穴建物跡 (第 25・26、87・88 図)

1ST1290 は、E 区の南端部 2807 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。東に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113 ～ 112.5m に位置する。検出段階で斜面下位の東側半分の覆土は削平されており、床面がわずかに残る程度である。東壁面の一部が 1SK1289 土坑と重複し、切られる。北側 4m ほどに隣接して 1ST1286 竪穴建物がある。

主軸は、N-180°方向にあり、真南を向く。規模は南北で 5.2m、東西は残存値で 3.4m を測る。ピットなどの検出状況からみて、平面形は方形をなすものと思われる。壁面は残存する北西側で急斜度の逆台形状を呈し、24cm ほど立ち上がる。床面は明黄褐色の地山を掘削して平坦にし、標高は 112.7m 前後、確認面からの深さは 26cm 前後を測る。検出できた西側は、全面的に硬くしまっている。また、床面の広範囲に渡って焼土の拡がりが確認され、炭化材も出土していることから、焼失建物の可能性がある。覆土は黒ボク土より僅かに薄い黒、黒褐色のシルトを基調とする。

附属施設は、カマド EL1 があり、土坑が EK1 ～ 7 まであり、柱穴が EP1 ～ 9 まで検出している。カマド EL1 は、南西角に検出された。カマド部分の壁面は、外側に張り出すように作られている。火床面からは 16cm ほど高く、更に 30cm ほど外側へ張り出す幅 25cm ほどの掘り込みは、煙道部の残りと思われる。カマドは粘土や砂で構築されたようだが、残存状態は悪く、ソデの一部が残存するのみである。燃焼部に 25cm ほどの角礫があり、支脚として利用されたもの思われる。カマド付近に見られる焼土は、竪穴床面の西壁に沿って 2.6m ほど続く。EK2 ～ 5 土坑や EP6 柱穴には、竪穴床面の焼土がその覆土に溜まっていたものである。また、中央部に直径 50cm ほどの円礫が床面に据えられていたが、叩打痕など明確な使用痕跡は確認できなかった。

出土遺物は、206 ～ 223 まで計 18 点を掲載している。内訳は、須恵器坏２点、須恵器有台坏２点、須恵器蓋１点、須恵器瓶１点、須恵器壺２点、土師器甕 10 点である。須恵器坏 206 は回転糸切りのもので、やや扁平な器形をとる。須恵器有台坏 209 は、瓶などの底部にも思える。厚手で、ヘラ切りのものである。EK1 土坑の覆土から出土している。須恵器蓋 208 は、破片資料ながら鈕部に「王」の墨書をもつ。213 は、口縁部を欠くが、212 と同様に、広口壺になるものと考えられる。土師器甕の口縁部片 214、218 は EK3 土坑の床面から、底部の 221、222 は EK4 土坑の床面からの出土である。216 は小型の土師器甕で完形品である。

本遺構の時期は、坏類の出土が少ないものの、９世紀中葉が考えられる。

1ST1286 竪穴建物跡 (第 26、88 図)

1ST1286 は、E 区の南端部 2907 グリッドを中心に検出した竪穴建物跡である。東に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113 ～ 112.5m に位置する。南 4 m に 1ST1290 竪穴建物が、北 4 m に 1SB1405 掘立柱建物がある。

主軸は、N-179°-E 方向にあり、ほぼ真南を向く。規模は南北で 2.6m、東西は 2.5m ほどを測り、方形を呈する。壁面は逆台形状に立ち上がり、斜面上位の西壁で 20cm、下位の東壁で 8cm を測る。南北では北壁で 15cm、南壁で 6cm である。床面は明黄褐色の地山を掘削してほぼ平坦をなし、標高は 112.65m 前後、確認面からの深さは 17cm 前後を測る。四隅以外の床面は硬化している。覆土は、上層に黄褐色層が堆積しているが、主体をなすのは黒ボク土である。

附属施設は、南側にある被熱痕跡 EL1 の他には、南西角にカマドの煙道のような掘り込みが 30cm ほど外側へ伸びるものを検出している。しかし、被熱痕跡や焼土などは付近から検出していないため、カマドとは判断しかねる。

出土遺物として掲載できるものは、土師器甕の底部 1 点のみで、時期の判断は困難だが、周辺の竪穴建物と大きな時間差のあるものではないだろう。

2　掘立柱建物跡と出土遺物

本遺跡 1 地区から検出した掘立柱建物跡は、4 棟検出している。いずれも小さな柱穴で柱通りも悪い。以下、遺構番号順に解説する。

1SB657 掘立柱建物跡 (第 27 図)

本遺構は、A 区の中央部、0503 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。南東側へ僅かに下る平坦地で、現地表で標高 107m、確認面で標高 106.5m ほどに位置する。大量に遺物が出土した 1SD186 溝状遺構が大きく東側へ蛇行する部分の北隣 2 m にあたる。

主軸は N-32°-W 方向にあり、桁行 1 間、梁行 1 間である。それぞれ対辺が平行しない不整形な柱間で、南北 2.7m、東西 2.1m、面積は 4.75 ㎡を測る。柱穴はいずれも直径 25cm 程度で、確認面からの深さは 10 数 cm ほどである。掲載できる遺物はなく、時期の特定はできないが、1SD186 に関連する可能性のあるもので、同じ年代と想定される。

1SB665 掘立柱建物跡 (第 27、88 図)

本遺構は、A 区の中央東側、0406 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。東側へ緩やかに下る緩斜面で、現地表で標高 106.5m、確認面で標高 106.2m ほどに位置する。1SD186 溝状遺構が大きく東側へ蛇行する部分の更に東 12m 先である。北東角に攪乱をうけるが、その下にみられる窪みは、柱穴の残りと思われる。

主軸は N-72°-W 方向にあり、東西桁行 2 間、南北梁行 1 間で、それぞれ 4.5m と 2.6m、面積は 11.7 ㎡を測る。柱穴はいずれも直径 35cm 前後のもので、深さは 10 数 cm ほどである。3 m 南側には軸を同じにする 1SA667 柱穴列があり、本遺構に伴うものと思われる。掲載できる遺物は、225 の須恵器坏の底部のみであり、時期の特定は困難である。

1SB666 掘立柱建物跡 (第 28 図)

本遺構は C 区の北端部東側、2607 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。東に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113 ～ 112.5m に位置する。周辺は多数の遺構が密集する地区で、南東を 1SK401 土坑と重複し、切られる。北 8 m には 1ST1290 が立地している。

主軸は N-1°-E 方向にあり、ほぼ南北軸と等しく、桁行 2 間、梁行 2 間で、南北 3.13m、東西 3.06m、面積は 9.58 ㎡を測る。柱通りが総じて悪く、EP2 や EP7 などは軸上に乗ってこない。

南へ 4 m に 1SA668 柱列があり、EP1 ～ 5 からなる N-89°-E 方向に軸を持つものと、EP6 ～ 8 からなる N-81°-E 方向に軸を持つものがあり、本遺構に関連するものと思われる。

1SB1405 掘立柱建物跡 (第 29、88 図)

本遺構は E 区の南東側、3107 グリッドを中心に検出した掘立柱建物跡である。東方向に向かって緩やかに下る緩斜面上、現地表で 113m 前後、確認面で 113 ～ 112.5m ほどに立地する。南 5 m に 1ST1286 があり、更に南には 1ST1290、1SB666 などが直線的に並ぶ。

主軸は N-81°-E、東西桁行 2 間、南北梁行 1 間で、それぞれ 4.2m と 3.9m ほど、面積は 16.38 ㎡を測る。柱穴は、直径 35 ～ 50cm の円形で、深さは 30 ～ 40cm 程度のもので構成される。北隣り 2 m の位置

に 1SA1406 柵列がある。主軸が N-77°-E 方向にあり、1SB1405 とやや軸を異にするものの、関連する施設と思われる。掲載できる遺物は、226 の土師器甕底部のみであり、時期の特定は困難であるが、1ST1286 や 1ST1290 などと並ぶことから、同時代のものと思われる。

3　河川跡と出土遺物

調査区の南西側に斜面傾斜に沿って南東方向に走る溝状遺構を複数検出している。これらは蛇行しながら所々で途切れたり、重複したりを繰り返して斜面下へと続いており、人為的に作り出したものではないと判断できる。斜面を流れるひとつの自然流路が、時期と共に流れを変えて複数の流路を作り出しているものと思われる。ただし、これらの流路の中には、部分的に岸辺を加工して水場として利用している様子が検出されている。そのため本文ではこれらをまとまりとして呼称するときは、河川跡とし、個別の流路を語るときは、溝状遺構として個別の遺構名を使用する。図面は A 区の北側から分割して掲載し、D 区と G 区は最後にまとめる。断面の記号は、全ての遺構に通しで付しているため、a ～ z の次は、aa ～ az、ba ～と続く。この河川跡の範囲に含まれる土坑などの遺構もここに掲載している。遺物は、量の多い 1SD186 を最初に掲載し、その後は遺構番号の若い順に載せている。以下、主要な遺構について解説する。

1SD186 溝状遺構（第 30 ～ 36、89 ～ 107 図）

本遺構は、G 区南西端部から A 区中央部、1297 ～ 0104 グリッドを中心に検出する溝状遺構である。南方向に僅かに傾斜する平坦地で、検出面の標高は、108.2 ～ 106m 前後を測る。全体的な主軸は、N-31°-W にあり、西側へ緩やかに弧を描きながら南下し、途中で大きく東側に蛇行する。南端部で浅くなって行き、最終的に立ち上がり不明瞭になる。G 区と A 区を合わせると、53m ほど検出している。

第 30 図にある北側では、幅 1.2 ～ 3 m、確認面からの深さ 58 ～ 84cm を測る。壁面は階段状に立ち上がる場所がほとんどである。底面は中央が高くなり 2 条に分かれる地区も見られることから、複数回の流路の変遷があったことうかがわせる。1SD1358 は 1SD186 の古い方の流路に合流すると思われる。

南側の第 32 図では、1 m ほどに狭まった流路幅が東側に大きく蛇行するに従い 3.8m ほどに拡がり、確認面から 20cm 程度と浅くなる。壁面は階段状だが緩やかで、立ち上がりは 10cm ほどある。その先は再び 1 m ほどにくびれ、南に向きを変える。間もなく階段状に深くなる場所があり、幅も 3 m へと拡がる。確認面からの深さは 55cm ほどを測る。この場所の一部は、人為的に掘り窪められたと考えられる。南に進むと途中地山が島状に残り底面が二股に分かれる場所がある。西側の流路のみがそのまま南下するも徐々に浅くなって行き、入れ子状に重複している 1SD233 に吸収されるように立ち上がる。

人為的に改変されていると考えられる、蛇行した浅い流路から一段深くなる部分、0303 グリッド付近は、大量の墨書土器が出土した地区である。ここの底面には拳大～人頭大の円礫が敷かれるように検出し、加えて北側の縁辺に沿って木柱列が検出している。この縁辺の北側は、第 34 図にあるよう底面下に不定形な掘り込みが確認されており、埋め戻して形を整えて利用されている。また、東側に大きく蛇行する部分の底面下からは、蛇行せずに南東方向へ直進する溝状遺構が検出している。こちらが本来あった流路であり、これを埋めて蛇行部分を作り出していると思われる。

覆土は黒褐色のシルトと砂が互層状に堆積しており、流路として水性堆積による埋没状況を示す。改変部には最上層に十和田火山灰が単純層ではないものの、ブロック状に混在している層が 6 cm 程度観察できる。

出土状況と出土遺物

出土遺物は 227 ～ 520 まで、計 294 点を掲載している。内訳は須恵器坏が 179 点と圧倒的に多く、須恵器有台坏が 15 点、土師器坏が 30 点、土師器有台坏が 18 点、土師器有台皿 3 点、須恵器蓋が 4 点で、これら坏類を合わせれば掲載総数の 85％にあたる 249 点となる。甕類では、須恵器瓶が 4 点、須恵器壺が 4 点、須恵器鉢が 2 点、器種判断のつかない須恵器甕類が 4 点、土師器鉢が 2 点、須恵器甕が 6 点、土師器甕が 20 点、土製品が 2 点である。坏類を中心にうち墨書されるものが大量にあり、総数で 120 点を数える。

出土状況は人為的な改変部に大量の坏類が出土しているほか、上流方向でも底面が窪む場所に溜まるよう

に出土している。第 34 図は 1/60 で改変部南側の出土状況をドットに落としたもの、第 35 図は改変部北側を 1/30 で示したものである。坏類が大量に出土しているが、溝底に集中するわけではなく、覆土上位から下位まで広く分布していることがわかる。第 36 図の上は、第 30 図の中央部、断面ｃ－ｃ’ライン上の出土状況を 1/30 で示したもので、第 36 図の下は、第 32 図左上のｉ－ｉ’ライン上のものを同じく示したものである。このように斜面上位方向からも共通する器形や墨書内容が得られている。

坏類のうち、確認できるものの底部は全て回転糸切りである。全体的に底径が小さく、直線的に開き、端部が外反するものが多い。須恵器は総じて軟質で、土師器との区別に悩むものが少なくない。

墨書については最終章でまとめるが、判読できる墨書のうち、最も多いものが「縄」で 44 点、続いて「王」の 32 点。それ以外では「冨」や「身」、「千」などが複数点見られる。2 字以上確認できるものでは、「矢田」、「真人」、「長罡」、「秦善」ヵなどがある。

灯明皿としての利用が考えられる、縁辺に煤の付着するものが、314、362、401、403、404 の 5 点出土している。また、転用硯と考えられる、内面に墨痕の残るものや研磨の痕跡を確認できるものが、253、272、274、333、364、374、387 の 7 点出土しており、これらはすべて須恵器坏である。

468 と 469 は、底部に菊花状の押圧痕をもつ内黒の土師器有台坏である。両者とも押圧が浅く、拓本に明確な痕跡が出ない。両者とも改変部から出土している。

485 は、須恵器鉢の口縁部片である。径復元するには困難な残存率だが、素口縁で内湾することから、仏鉢形を呈するものと判断した。口縁直下に焼成前の穿孔が１か所確認できる。486 も焼成前の穿孔があることから、同一か類似するものの別個体と判断している。改変部北側の底面近くから出土している。

本遺構からの出土品は、溝状遺構という性格上、上位と下位で時期差が生じるものだが、出土遺物を見る限り、竪穴建物の出土遺物よりもそれは短いように思える。坏の器形からは、９世紀の中葉と考えられる。

1SD27 溝状遺構（第 41、107 図）

A 区南部の 9804 ～ 9407 グリッドに検出し、調査区外へと続く溝状遺構である。検出長は 24m を測り、幅は 1.2 ～ 2.5m、確認面からの深さは 14 ～ 58cm ほどである。重複関係は、1SD22・26・631 よりも新しく、1SD150・229 よりも古い。幅の規模や主軸が 1SD186 と類似するが、その延長とするには位置がずれ過ぎているし、遺物の集中的な出土もみられない。出土遺物は、すべて須恵器で、坏 4 点、有台坏 2 点、蓋 1 点、甕 1 点を図化している。坏類はすべて回転糸切りで、529 には判読不明な墨書が残される。

1SD137・1SD161 溝状遺構 (第 30・37・40、108 図)

両者とも A 区西端際に検出し、北部の 0897 グリッドから南部の 9503 グリッドまで続く、調査区内に東側の立ち上がりを検出し、西側は区外へ延長している溝状遺構である。1SD137 の中に 1SD161 が入れ子状に検出している状況であり、1SD161 の方が新しい。全体形は不明であるが、検出長は、外側の 1SD137 で 58m、1SD161 で 30m ほどを測る。多くの溝状遺構と重複しており、1SD184・1359・1366・1378 などよりは新しく、1SD155・637・638 よりは古い。検出面からの深さは、全ての場所で浅く、1SD161 で 10cm、1SD137 で 20cm にそれぞれ満たない程度である。

出土遺物は、土師器有台坏（536）や須恵器坏（540）、須恵器甕片（537、541）などが出土している。９世紀代のものと考えられるが、時期を特定するには困難である。また、1SD161 より出土した木片の炭素年代は３～４世紀という年代を示しており、出土遺物の年代とはかけ離れた数値となっている。

1SK180 土坑（第 32、108 図）

0202 グリッドを中心に検出し、1SD233 の北西角の部分に楕円形に広がる土坑である。平面規模は 3.6 × 1.6m で確認面からの深さは 7 cm 程度である。1SD186 から流れ込んだと考えられる須恵器がいくつか見られ、時期的にも大差ないものと思われる。

1SK182 土坑・1SD183 溝状遺構（第 44・46、108・109 図）

A 区中央部で検出し、1SK182 を 1SD183 が切って、0300 ～ 0003 グリッドまで南東方向に下り、途中途切れながら 9707 グリッドまで続く。1SK182 の覆土中位には、十和田火山灰がブロック状に堆積しており、1SD183 は、この層よりも上に重複していることから、915 年の降灰後の流路と考えられる。

1SK182 は、1.5 × 1.1m の楕円形で、壁面は階段状に立ち上がり、確認面からの深さは 60cm を測る。最上層に 20cm 程度黒色のシルト層が堆積し、その下に同じ土質で火山灰をブロック状に含む層が、８cm ほどの厚さで堆積している。底面までは更に 30cm ほどあり、そこから底面回転糸切りの坏類が出土している。

1SD183 は、途切れている場所もつなげると、検出長 37m で、幅は 15 ～ 70cm ほど、確認面からの深さは 10 ～ 20cm を測る。1SK182 だけでなく、1SD229・230 をも切る。遺構そのものは 10 世紀初頭以降と判断できるものであるが、出土遺物は少ない。図化できるものは須恵器坏類の小片２点のみであり、時期判断は困難だが、流れ込みと思われる。

1SD184 溝状遺構（第 38 図）

A 区中央部 0400 ～ 0100 グリッドに渡って検出した溝状遺構で、1SD186 から分岐するように西側調査区外へ延長する。西側に向かってクランク状に流れ、検出長 19m を測る。西に向かって幅を広げ 60cm ～ 1.5m ほど、床面は階段状に深くなり、確認面からの深さ 10 ～ 60cm ほどを測る。分岐点の 1SD186 や、調査区西壁で重複する 1SD1378 よりは新しく、1SD137・161 よりは古い。図化できる出土遺物はない。

1SD1358・1359 溝状遺構（第 30 図）

第３次調査で A 区西端部の確認面を掘り下げて検出した溝状遺構で、0997 ～ 0299 グリッドに渡って検出している。　1SD1358 は、A 区北西端部から南東方向に流れ、途中で屈曲し、1SD186 へと合流する。1SD186 の古い流路を形成していたものと考えられる。検出長は７m で、幅 1.3m、確認面からの深さも 1.3m ほどで、立ち上がりは階段状になり、覆土は砂層と粘土質シルト層が交互に堆積している。

1SD1359 は、1SD1358 の屈曲部から分岐して南へと下る旧流路と考えられる。検出長 30.6m を測り、幅は 30 ～ 80cm ほどである。確認面からの深さは、1SD1358 との分岐点で 30cm ほどを測るが、南に下るにつれ徐々に浅くなり、検出できなくなる。

1SD1358 の方が 1359 よりも後に埋没したものだが、両者とも１次調査で検出の 1SD186・137・161・637 などの溝状遺構よりも古いものである。図化できる遺物は得ていない。

1SD1378 溝状遺構（第 38・41・45 図）

第３次調査で A 区西端部の確認面を掘り下げて検出した溝状遺構で、D 区南端まで続く。グリッド 0000 ～ 8708 に渡って検出し、A ～ D 区間をつなげた検出長は 66.1 m を測る。幅は A 区で 1.3 ～ 3 m ほどあるが、D 区は大きく撹乱をうけるため上層が削られており、検出幅が 70cm ～ 1 m 程度と狭くなる。確認面からの深さは 30 ～ 60cm ほどである。壁面や床面の形状は複雑で、階段状になったり、中央が島状に高くなったりするなど、場所により異なる。複数回の流路の変遷によるものと考えられよう。１次調査の 1SD161・137・11・５などの下層から検出しているほか、同じ３次調査検出の 1SD1383・1403 よりも古い。一方、1SD1388・1389 よりは新しく、この両流路は調査区内で最も古いものとなろう。出土遺物は得ていない。

4　土坑ほかと出土遺物

土坑は 425 基を検出した。図面の掲載順は基本的に番号順にしてあるため、地区が前後するものもある。遺物は遺構の番号順に掲載している。全体的に出土量が少なく、時期を特定しきれないものが多い。各遺構の掲載位置については第１章の全測図並びに表２～５で確認できる。それぞれの大きさに合わせ、1/40、1/60、1/100 で載せている。

1SK30 ～ 36、39、40 土坑（第 48 図）

A 区南東部端部の削平部に隣接した 9507 ～ 9609 グリッドを中心に広がる土坑群である。長方形や楕円形の平面形をなし、全体的に浅い。遺物は須恵器や土師器の小片が含まれる。積極的に時期を判断できるものではないが、他の遺構と同じ９世紀代のものと考えられる。

1SK248、250 ～ 259、262、263 土坑（第 48 図）

A 区中央部の 0602 ～ 0802 グリッドを中心に広がる土坑群である。検出長が 10m を測る 1SD252 溝を中心に複数の土坑が見られる。1SD186 などと軸は共通するが８m 以上離れるため、河川群とは別に扱う。遺物はほとんど出土していない。須恵器片が確認できる程度のものである。

1SK243 土坑（第 50、109 図）

A 区 0402 グリッドを中心に検出した土坑で、長軸 163cm、短軸 130cm、深さ 66cm を測る。1SD186 溝

が蛇行を開始する場所に隣接する。遺物は須恵器坏の口縁片のみのため、1SD186 溝状遺構とは時期が異なると考えられる。

1SK301 土坑 (第 50 図)

B 区南部の 1408 グリッドに検出した土坑で、径 130 ㎝程度の円形を呈し、深さは 20 ㎝ほどである。同様の形状の土坑がいくつか見られ、A 区の 1SK289、B 区の 1SK322 なども同様のものと思われるが、出土遺物がほとんどなく、覆土や床面に特徴がないため機能を特定することは困難である。

1SK321 土坑 (第 52、110 図)

B 区の 1509 グリッドを中心に検出した土坑で、東半分は調査区外へ伸びる。平面は楕円形を呈するものと思われ、検出した分で長軸 3.2m、短軸 1.3m、覆土の深さは 90cm を測る大型の土坑である。覆土は黒褐色のシルトで、中位に 8cm 程度の十和田火山灰層含む。大きさから竪穴建物とも考えられるが、立ち上がりが緩やかなすり鉢状を呈し、底面は不定形で安定しないことから土坑と判断した。遺物はほとんど出土していないが、糸切りの土師器坏の底部が出土している。十和田火山灰が比較的低位に検出していることから、他の遺構などと比べて新しい時期のものかもしれない。

1SK344 土坑（第 52、110 図）

C 区南東端部の張り出し部の 2009 グリッドを中心検出した土坑で、径 190 ㎝程の円形を呈する。深さは 54 ㎝で、他にもいくつか見られる円形の土坑と比べ大型である。遺物は須恵器や土師器の小片のみ。

1SK351 土坑 (第 52、110 図)

C 区南東部の 2109 グリッドを中心に検出した土坑で、四隅が張り出すような不整長方形を呈する。長軸 130 ㎝、短軸 100 ㎝ほどの規模で、深さは 24 ㎝を測る。EP1、EP2 とした西側には覆土や床面レベルから付属する柱穴のような存在を看取できる。東側の四隅の平面形も歪むことから、同様のピットの存在をうかがわせる。覆土は黒褐色のシルト層を中心に、底面の一部に焼土を大量に含む層が堆積し、焼けている。北側に隣接する 1ST365 建物は、鉄滓の出土等、工房的な性格を持つ遺構であり、本遺構もそれに関連する遺構と考えられる。遺物は須恵器坏や甕類、土師器では内黒の有台坏や甕などが出土している。時期的に他の遺構と同じものと考えられ、９世中～後葉と判断する。

1SK353、354、358 土坑（第 53、111 図）

C 区南東部の 2008 グリッドに位置し、大きさの異なる３基の土坑が切り合って並んでいる。中央の 1SK354 土坑が最も新しく、隣接する 1SK353 土坑と 358 土坑を切っている。長軸 130 ㎝、短軸 100 ㎝ほどの楕円形を呈する。これに切られる 1SK358 土坑は、長軸 200 ㎝、短軸 150 ㎝ほどの不整楕円形で、覆土に炭化粒や焼土を多く含んでいる。ただし、1SK351 土坑の様に床面が焼けている様子はみられないため、1SK351 などから流入した焼土が覆土混じり込んだものと判断する。時期は 1SK351 と同じと想定できる。

1SK378 土坑 (第 54、112 図)

C 区東部 2308 グリッドを中心に検出した土坑で、東西に伸びる撹乱で北東側を失う。平面は楕円形、立ち上がりは逆台形状を呈する。長軸は 186 ㎝、短軸 166cm、深さ 47 ㎝を測る。遺物は須恵器坏（620) が出土している。

1SK398 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2507 グリッドに検出した土坑で、平面円形を呈し、長軸 200 ㎝、短軸 190 ㎝を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 45 ㎝を測る。出土遺物は 623 ～ 625 まで、須恵器坏、蓋、土師器の甕が出土している。

1SK399 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2608 グリッドに検出した土坑で、1SK398 に隣接する。平面円形を呈し、長軸短軸ともに 190 ㎝を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 45 ㎝を測る。出土遺物は 626 ～ 629 まで、須恵器坏、土師器甕等が出土している。形状や出土遺物ともに 1SK398 と類似する。

1SK401 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2607 グリッドに検出した土坑で、1SB666 と重複する。東西に長い楕円形を呈し、長軸 235 ㎝、短軸 142 ㎝を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 45 ㎝を測る。出土遺物は、須恵器坏（630)、土師器甕（631）が出土している。

1SK411、664 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2506 グリッドを中心に検出した土坑である。1SK411 は南北に長い長方形を呈し、両端に掘り込

みを持つ。長軸は 4.1m、短軸は 2.4m、断面は丸みを持って立ち上がり、深さは 30 ㎝、北部のピット状の掘り込みでは 65 ㎝を測る。1SK644 は東西に長い楕円形で、東端にピット状の掘り込みを持ち、1SK411 を切っている。長軸は 1.7m、短軸は 1.3m、断面は緩く立ち上がり、深さは 50 ㎝を測る出土遺物は、632 ～ 634 で、須恵器坏や土師器坏、甕などが出土している。

1SK418 土坑 (第 55、112 図)

C 区北東部 2708 グリッドに検出した土坑で、平面円形を呈し、長軸 185 ㎝、短軸 170 ㎝を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 32 ㎝を測る。出土遺物は 635、636 で、いずれも土師器甕の破片である。

1SK454、455 土坑 (第 56 図)

C 区南部中央 2004 ～ 2104 グリッドに検出した土坑である。1SK454 は平面楕円形を呈し、長軸 100 ㎝、短軸 70 ㎝を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 19 ㎝を測る。1SK455 を切る。1SK455 は南北に長い溝状を呈し、長軸 196cm、短軸 48cm、深さ 12cm を測る。

1SK488、489 土坑 (第 56 図)

C 区南部中央 2002 グリッドに検出した土坑である。1SK488 は平面円形を呈し、長軸 64 ㎝、短軸 42 ㎝を測る。断面は急傾斜で立ち上がり、深さ 26 ㎝を測る。1SK489 は平面円形を呈し、長軸 56cm、短軸 46cm、深さ 12cm を測る。1SK488 を切る。

1SK544、545 土坑 (第 57 図)

C 区南西部 1900 ～ 1901 グリッドに検出した土坑である。1SK544 は南北に長い楕円形を呈し、検出長 137 ㎝、短軸 80 ㎝を測る。断面は丸みを持って立ち上がり、深さ 27 ㎝を測る。1SK545 は平面円形を呈し、長軸 194cm、短軸 188cm、深さ 52cm を測る。1SK544 を切る。

1SK591、592、593 土坑 (第 58 図)

C 区西部 2399 ～ 2400 グリッドに検出した土坑である。1SK591 は南北に長い不整楕円形を呈し、検出長 222 ㎝、短軸 154 ㎝を測る。断面は丸みを持って立ち上がり、深さ 80 ㎝を測る。1SK592 は楕円形を呈し、長軸 160cm、短軸 38cm、深さ 18cm を測る。1SK591 を切る。1SK593 は不整円形を呈し、長軸 146cm、短軸 102cm、深さ 62cm を測る。1SK591 を切る。

1SK639・640 土坑 (第 59、113 図)

A 区北東部 1106 グリッドを中心に検出した土坑で、1ST121 の撹乱で削平された部分の下から検出している。1SK639 は平面円形を呈し、長軸 140cm、短軸 130cm を測る。断面は北側の 1SK640 が階段状に接続し、立ち上がりは逆台形状で、深さ 45cm を測り 1SK640 に重複する部分はオーバーハングする。出土遺物はヘラ切りの須恵器坏（638）、須恵器甕片（639）などが出土している。1SK640 は東西に長い楕円形で、長軸 130cm、短軸 55cm、深さ 15cm を測る。竪穴建物と重複することや、形状などが 1SK643 土坑と類似する。

1SK643 土坑 (第 59、113 図)

A 区北東部 1304 グリッドの 1ST281 と入れ子状に検出した土坑である。平面は方形を呈し、長軸 720cm、短軸 255cm を測る。断面は北側が階段状に伸び、立ち上がりは逆台形で平らな底面をつくる。深さ 75cm を測る。覆土は黒ボク土を基調とし、中位に 8 cm 前後の十和田火山灰が堆積する。出土遺物は、640 ～ 642 で、土師器坏、須恵器甕、金床石と考えられる台石がある。

1SK736 土坑 (第 59 図)

G 区中央部 1297 グリッドに検出した土坑で南北に長い楕円形を呈し、長軸 85 ㎝、短軸 60 ㎝を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 22 ㎝を測る。

1SK759 土坑 (第 59 図)

H 区中央部 1602 グリッドに検出した土坑で不整円形を呈し、130cm 径を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 20 ㎝を測る。中央部がピット状に窪む。

1SK783 土坑 (第 59、113 図)

H 区南東端部 1207 グリッドに検出した土坑で、南東部は調査区外に延長する。平面は東西に長い楕円形を呈するものと思われ、長軸 148cm、短軸 130cm を測る。断面は逆台形状に立ち上がり、深さ 13 ㎝を測る。出土遺物は土師器甕（643）があり、底部と口縁部の未接合同一個体である。

1SK1094 土坑 (第 61 図)

F 区北西部の丘陵頂部 5708 グリッドに検出した土坑で東西に長い楕円形を呈し、長軸 200cm、短軸は 87cm を測る。断 面は東側に傾斜し、西側は緩やかに立ち上がる。深さは最深部で 38 ㎝を測る。

1SK1111、1112 土坑 (第 62 図)

E 区北西端部の東向きの緩斜面上、4304 グリッドから検出した土坑である。1SK1111 の平面は楕円形、長軸 114cm、短軸 96cm、で深さは 20 ㎝を測る。1SK1112 と重複し、これを切る。SK1112 は検出長 72cm、短軸 52cm、楕円形を呈しするもの考えられる。逆台形状の立ち上がりで深さ 18 ㎝である。

1SK1140 土坑 (第 62 図)

E 区の北部の東向きの緩斜面上、3907 グリッドに検出した土坑である。平面は円形で長軸 98cm、短軸 91cm、斜面に傾く平坦な床面から逆台形状に立ち上がり、深さは約 10cm を測る。

1SK1141 性格不明遺構 (第 62 図)

E 区の北部 3907 グリッドから検出した遺構である。平面は不整方形を呈し、長軸 180cm、短軸 150cm を測る。断面は遺構中央部が溝状に一段深くなり、深さは 75cm を測る。覆土には地山が多く含まれ、人為的な埋戻しが考えられる。

1SK1168、1169 土坑 (第 62 図)

E 区の中央 3508 ～ 3608 グリッドから検出した土坑である。東向きの緩斜面上に位置し、1SK1168 の南 50cm に隣接して 1SK1169 が位置する。1SK1168 の平面は楕円形で、長軸 117cm、短軸 91cm、断面は幅の狭い底部から不定形に立ち上がり、深さは 52cm を測る。覆土には地山を大量に含むことから、人為的な埋戻しと考えられる。1SK1169 の平面形も楕円形で、長軸 172 ㎝、短軸で 129 ㎝、断面は斜面上位に緩く傾斜し、下位の部分がピット状に深くなり、深さ 46 ㎝を測る。

1SX1160 ～ 1163 性格不明遺構 (第 63、113 図)

E 区中央部の黒ボク土が厚く堆積する 3503 ～ 3604 グリッドを中心に検出した連続する南北に長い溝状の遺構である。1SX1160 は、長軸 362cm、短軸は 38cm、深さ 11cm を測る。その東側斜面下方 1 m に 1SX1161 があり、長軸 376cm、短軸は 44cm、深さ 14cm を測る。さらにその東側斜面下方 50cm に 1SX1162 がある。中央部で 2 列になり、長軸 436cm、短軸は西側で 25cm、東側で 48cm、深さはそれぞれ 8cm、13cm を測る。その東側斜面下方 30cm に 1SX1163 がある。検出状況が不明瞭であり、検出長 94cm、短軸は 38cm、深さは 18cm を測る。北側に隣接する 1SK1164 土坑もこれの延長の可能性がある。

これらにはいずれも黒ボク土中に暗褐色のシルトと灰白色の火山灰を粒状に含む覆土が堆積している。微妙な土色変化のため、正確な遺構範囲の検出は困難なものの、特徴的な覆土が帯状に平行して並んでいることで検出される。同様の遺構がさらに斜面下方 5m 東に 1SX1175、1181 として検出しており、これらにも灰白色の火山灰が見られる。出土物は 647、648 でどちらも糸切りの須恵器坏である。

1SK1208 土坑 (第 64 図)

E 区の中央部 3304 ～ 3305 グリッド、黒ボク土が厚く堆積する東向きの緩斜面上から検出した土坑である。平面は東西に長い楕円形で、長軸 144cm、短軸 122cm を測る。底面は丸く、立ち上がりの傾斜も緩やかに立ち上がり、深さは 30cm となる。中央部付近の覆土最上層に、灰白色火山灰が 10cm 程の層厚を持って堆積している。

1SK1214 土坑 (第 64 図)

E 区の中央東部 3308 グリッドから検出した土坑である。黒ボク土が厚く堆積する東向きの緩斜面下位に位置し、東側を撹乱によって切り込まれる。規模は長軸 108cm、短軸は残存値で 80cm を測り、平面形は楕円形を呈するものと推測される。土坑中央部が円柱状に深くなり、深さは最深部で 54cm を測る。

1SK1215 土坑 (第 64 図)

E 区の 3308 グリッドから検出した土坑である。平面円形で径 90cm、断面は丸底の底部から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で 36cm を測る。中心部からやや北寄りの部分が一段深くなる。

1SK1232 土坑 (第 65 図)

E 区の東端部 3209 グリッドから検出した土坑である。黒ボク土が厚く堆積する東向きの緩斜面下位に位置する。規模は、長軸 110cm、短軸 84cm の不整形な楕円形を呈する。開口部から底面に向かって窄むが、北側が一段浅くなっている。深さは最深部で 60cm を測る。底部付近の覆土に、十和田火山と思われる灰白色火山灰粒を含んでいる。

1SK1248 土坑 (第 65、113 図)

E 区の南東側の緩斜面下位、3008 グリッドを中心に検出した土坑である。調査区東端付近、東向きの斜面に

位置する。西側には 1SB1405 が位置する。平面は楕円形を呈し、長軸 144cm、短軸 02cm で、深さは 15cm である。出土遺物は須恵器坏（644）がある。

1SK1251・1252 土坑 (第 65 図)

Ｅ区の南東端部 3109 グリッド、東向きの緩斜面下位に検出した土坑である。両土坑は重複関係にあり、1SK1251 は 1SK1252 によって切り込まれる。1SK1251 は、規模は残存値で長軸 86cm、短軸 64cm の楕円形を呈するものと思われる。深さは 13cm を測り、底面は平坦をなす。1SK1252 は、同様に残存値で長軸 115cm、短軸 68cm の楕円形を呈するものと思われる。深さは 36cm を測り、底面は丸底型を呈する。覆土には地山塊を多量に含んでおり、人為的に埋め戻されたと考えられる。

1SK1266、1356、1357 土坑 (第 66、113 図)

Ｅ区の中央南部 3006 ～ 3106 グリッドに検出した土坑である。東向きの緩斜面上に位置し、東側には 1SB1405 掘立柱建物が隣接する。平面形は東西に長い楕円形を呈し、長軸 218cm、短軸 168cm を測る。斜面中に平坦な底面を作り出し、立ち上がりは斜面下方で緩やかになり、深さは 34cm を測る。床面の一部には弱い被熱痕跡が認められ、覆土中にも多量の炭化物粒の混入が認められた。1SK1356 は、1SK1266 の東側に隣接して検出した円形の土坑で、長軸で 43 ㎝、短軸で 38 ㎝、深さ 16 ㎝を測る。1SK1357 は、1SK1266 の底面立ち上がり斜面から検出した楕円形の土坑で、長軸で 24 ㎝、短軸 16 ㎝、深さ 18 ㎝を測り、1SP1266 より古い。

1SK1331 土坑 (第 67 図)

Ｅ区の中央部 3707 グリッドから検出した土坑である。規模は、長軸 80cm、短軸 70cm の楕円形を呈する。断面形は箱型をなし、深さは 44cm を測る。底面は平坦である。覆土は単層で地山塊を含んでおり、人為的に埋戻しが行われたものと考えられる。

1SK1332 土坑 (第 67 図)

Ｅ区の 3707 グリッドから検出した土坑である。東向きの緩斜面中位に位置し、北側には 1SK1331 土坑が近接する。規模は、長軸 145cm、短軸 120cm の楕円形を呈する。床面は極めて不定形で、東西両側が深くなり、最深部では 70cm を測る。覆土にはブロック状の地山が混入しており、人為的に埋め戻されたと考えられる。

1SK1343、1344 土坑 (第 67 図)

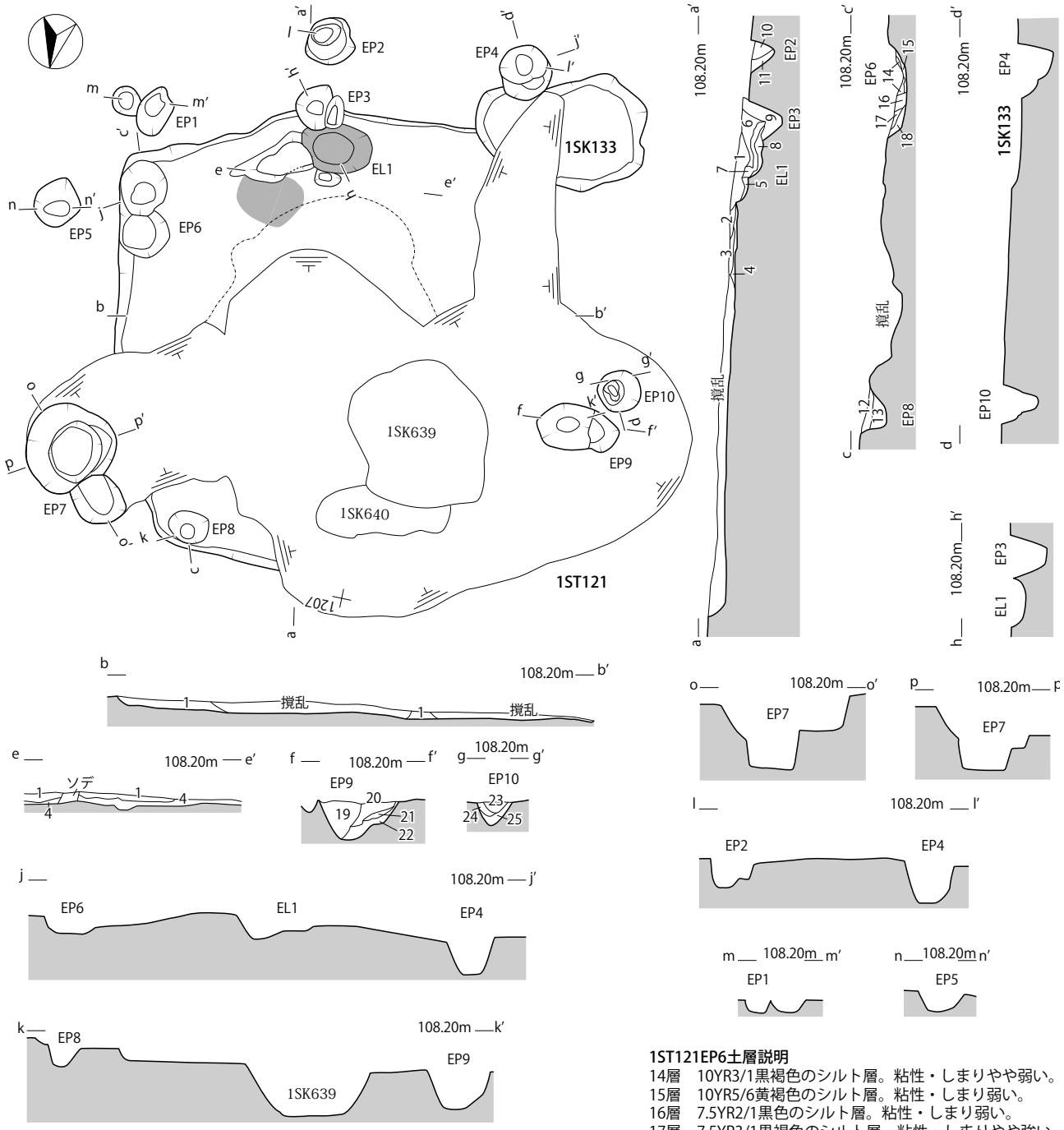
Ｅ区の東部 3209 ～ 3309 グリッド、東向きの緩斜面下位で黒ボク土が厚く堆積する調査区東壁際付近から検出した土坑である。1SK1343 の規模は、残存値で長軸 187cm、短軸 84cm を測り、平面形は溝形を呈する。開口部から底面に向かって狭くなり、断面系はＶ字状となる。南端を 1SK1344 によって切り込まれる。1SK1344 は長軸 79 ㎝、短軸 61 ㎝、中央部がピット状に深くなり最深部で 24 ㎝を測る。

5　遺構外出土遺物

第 114、115 図には遺構外の確認面精査中から出土した遺物や、遺構から出土したものの、明確に時期が異なるものをまとめる。

649 ～ 675 は縄文時代の遺物である。649~657 は縄文土器を、658 ～ 675 には石器まとめた。縄文土器はいずれも破片資料であり、摩耗するものも多いため、時期判断に窮するものの、前～晩期までのものが確認できる。650、654、656 は前期に属するものであろう。649、651、653、655 は中期のものと思われる。651 に関しては古墳時代の有段壺の口縁のようにもみえる。652、657 は晩期の粗製土器である。石器の石材は、666 を除き珪質頁岩を用いている。658 ～ 664 は石鏃で、658 は有茎のもの、659 ～ 661 は凹基のもの 662 ～ 664 は平基のものである。665 ～ 667 は石匙で 665、667 は不整形で未製品の可能性がある。666 は玉髄を素材としている。668 は石箆。669 ～ 673 は剥片の一辺に二次加工をほどこすもの。674、675 は剥片である。

676 はミニチュアで、677 は土玉である。これらの土製品は、本調査区の竪穴建物からも出土しており、いずれも平安時代の所産である。678、679 は砥石で、両者とも上半部を欠損している。全周に使用面があり、金属の線条痕をもつ。680 は刀子の茎部分で刃部を欠損する。時期の特定は困難だが、平安時代以降のものであろう。681 ～ 683 は古銭で元豊通宝、祥元通宝、寛永通宝である。



1ST121土層説明

１層　5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　焼土を含む。明黄褐色土を斑状に含む。
２層　5YR3/1黒褐色のシルト層。
３層　7.5YR5/8明褐色のシルト層。粘性・しまり強い。焼土を少量含む。
４層　10YR3/4暗褐色のシルト層。しまり強い。床層。

1ST121EL1（カマド）土層説明

５層　5YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。黄褐色土、焼土を含む。
６層　10YR2/3黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黄褐色土を含む。
７層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黄褐色土粒φ～5㎜を含む。
８層　7.5YR2/1黒色土。粘性・しまりやや強い。

1ST121EP3土層説明

９層　10YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜、
　　橙色スコリアφ～10㎜を多量に含む。

1ST121EP2土層説明

10層　7.5YR2/1黒色のシルト層。
11層　10YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。

1ST121EP8土層説明

12層　7.5YR2/1黒色のシルト層。黄褐色土粒φ～５mmを少量含む。
13層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～５mmを含む。

1ST121EP6土層説明

14層　10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
15層　10YR5/6黄褐色のシルト層。粘性・しまり弱い。
16層　7.5YR2/1黒色のシルト層。粘性・しまり弱い。
17層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
18層　7.5YR4/6褐色のシルト層。

1ST121EP9土層説明

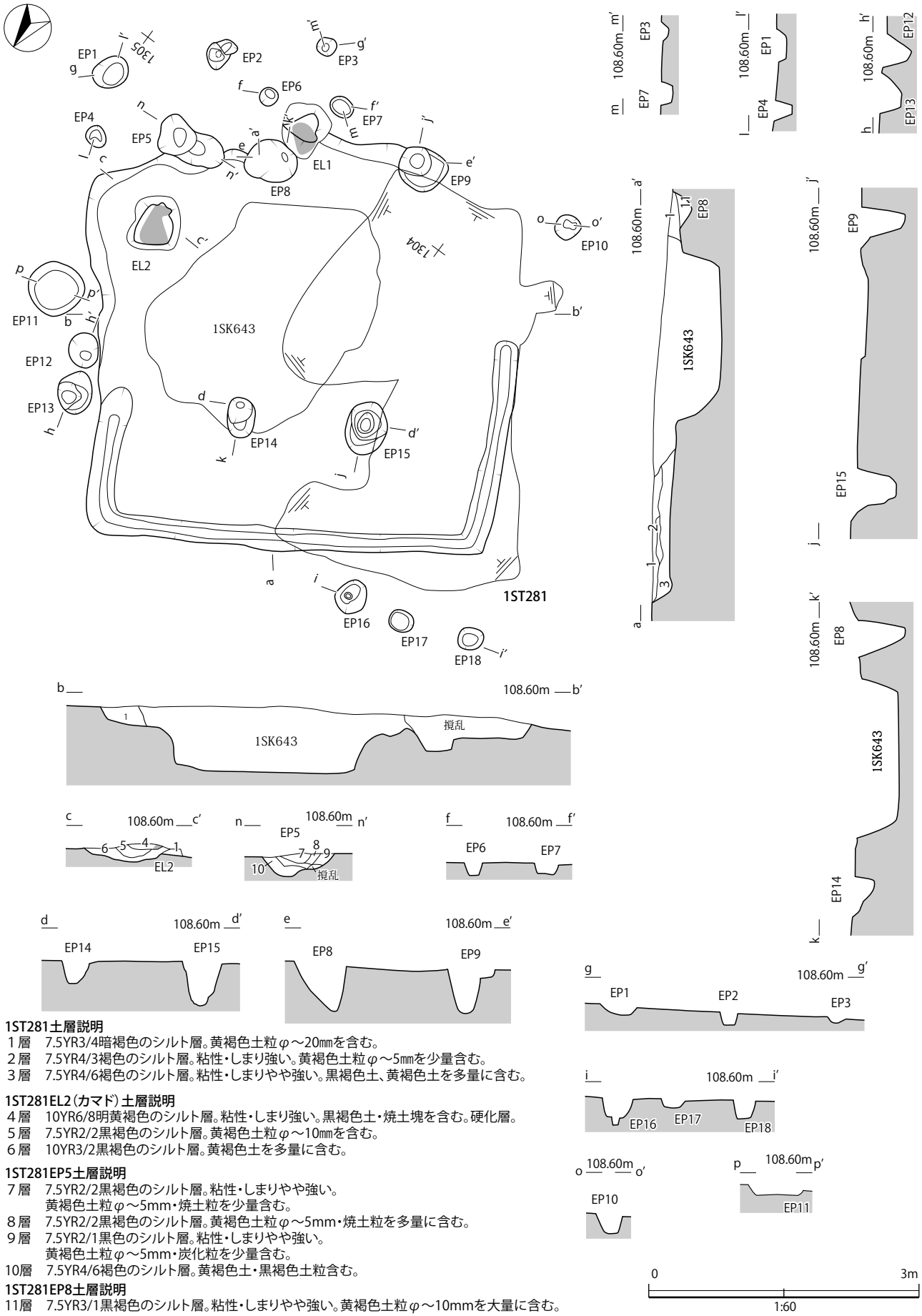
19層　7.5YR4/3褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10mm、
　　橙色スコリアφ20mmを斑状に含む。
20層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
21層　5YR3/1黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～10mmを大量に含む。
22層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒・橙色スコリアφ～10mmを大量に含む。

1ST121EP10土層説明

23層　5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～５mmを少量含む。
24層　7.5YR4/6褐色のシルト層。黒褐色土を含む。
25層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。

0　3m
1:60

第 12 図　竪穴建物跡１（1ST121）



1ST281土層説明

1層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～20㎜を含む。
2層　7.5YR4/3褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黄褐色土粒φ～5㎜を少量含む。
3層　7.5YR4/6褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黒褐色土、黄褐色土を多量に含む。

1ST281EL2（カマド）土層説明

4層　10YR6/8明黄褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黒褐色土・焼土塊を含む。硬化層。
5層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
6層　10YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を多量に含む。

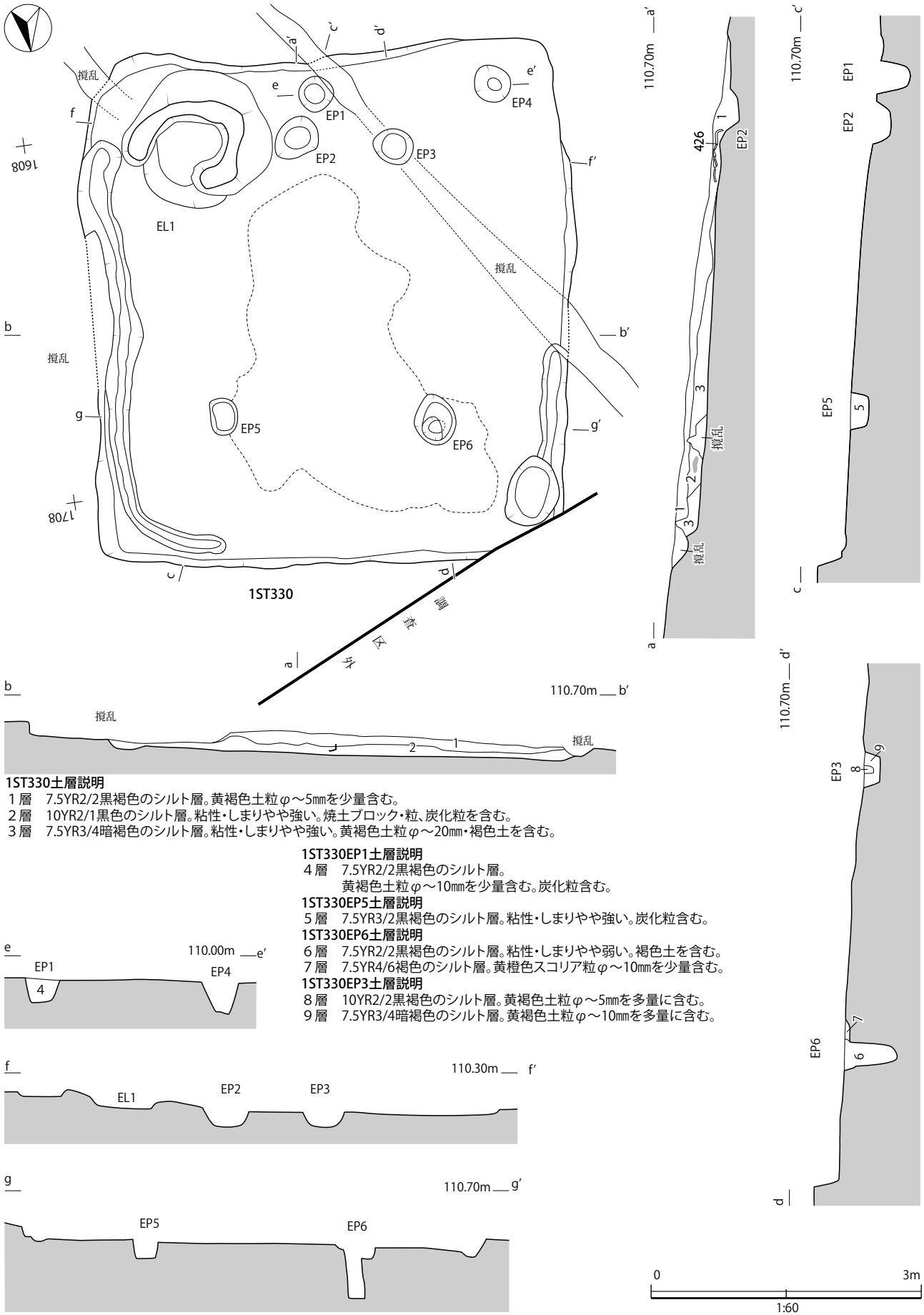
1ST281EP5土層説明

7層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～5mm・焼土粒を少量含む。
8層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5mm・焼土粒を多量に含む。
9層　7.5YR2/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～5mm・炭化粒を少量含む。
10層　7.5YR4/6褐色のシルト層。黄褐色土・黒褐色土粒含む。

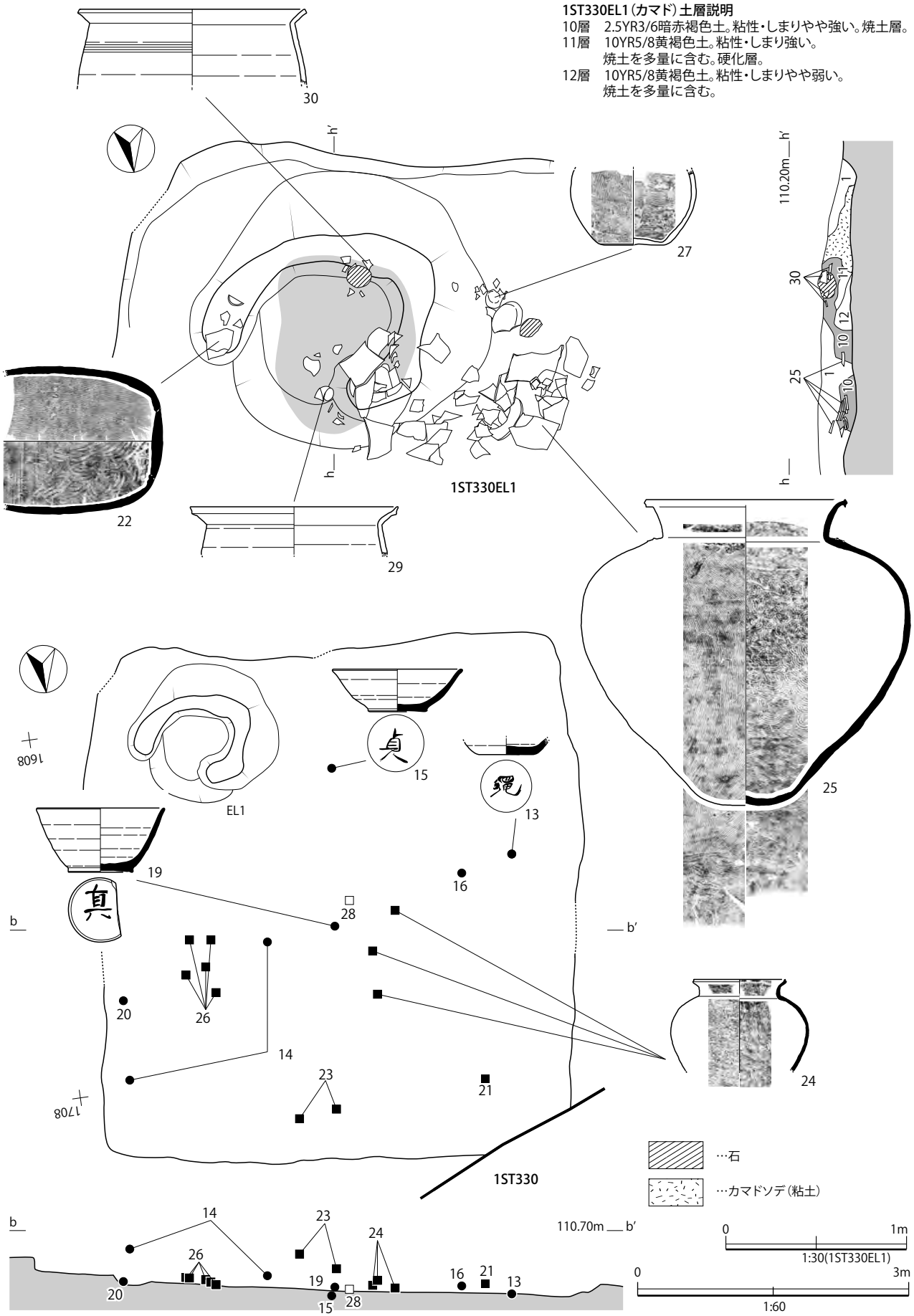
1ST281EP8土層説明

11層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黄褐色土粒φ～10mmを大量に含む。

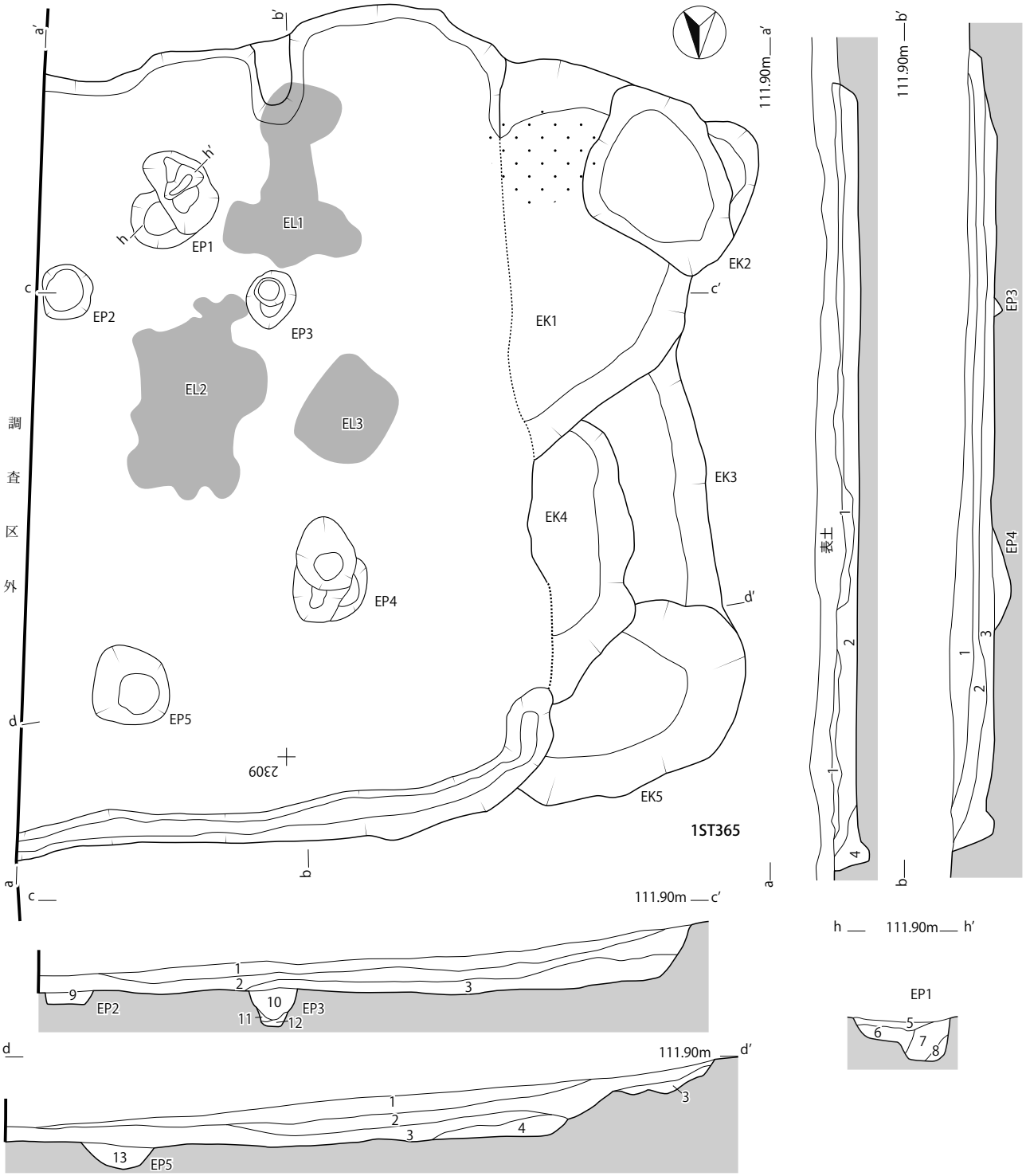
第 13 図　竪穴建物跡２（1ST281）



第 14 図　竪穴建物跡３（1ST330-1）



第 15 図　竪穴建物跡４（1ST330-2）



1ST365土層説明

1層　10YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。暗褐色土を含む。
2層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黒色土を含む。火山灰を含む。焼土粒を少量含む。
3層　10YR5/6黄褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
　　黒色土、焼土粒を少量含む。
4層　7.5YR4/3褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黒褐色土・黄褐色土を含む。

1ST365EP1土層説明

5層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
　　焼土粒を多量に含む
6層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。炭化粒、焼土粒を含む。
7層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
　　炭化粒、焼土粒を含む。柱根層
8層　7.5YR4/3褐色のシルト層。黒色土を含む。

1ST365EP2土層説明

9層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～10mm含む。焼土粒を含む。

1ST365EP3土層説明

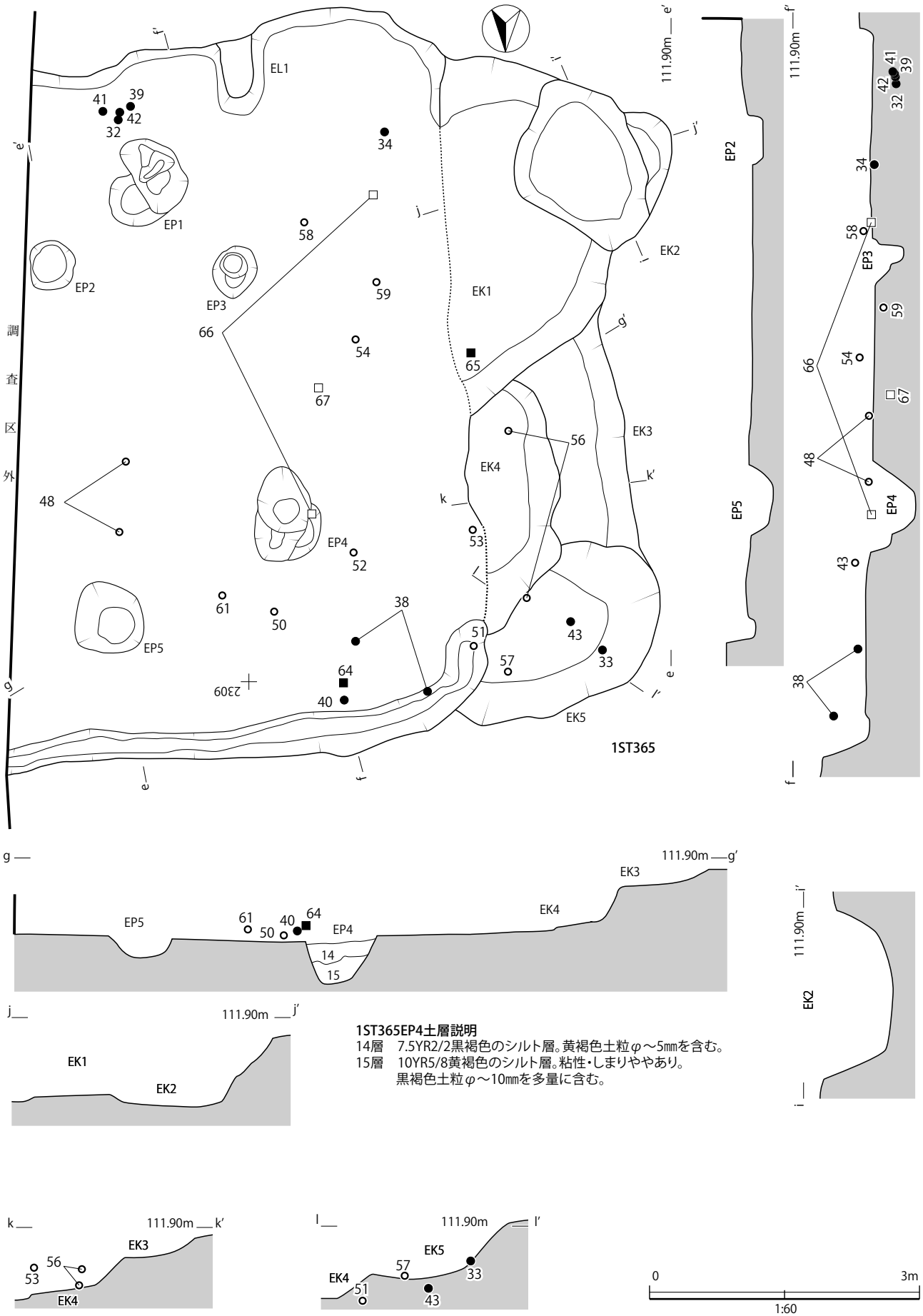
10層　10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を含む。
11層　10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を多量に含む。
12層　10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。

1ST365EP5土層説明

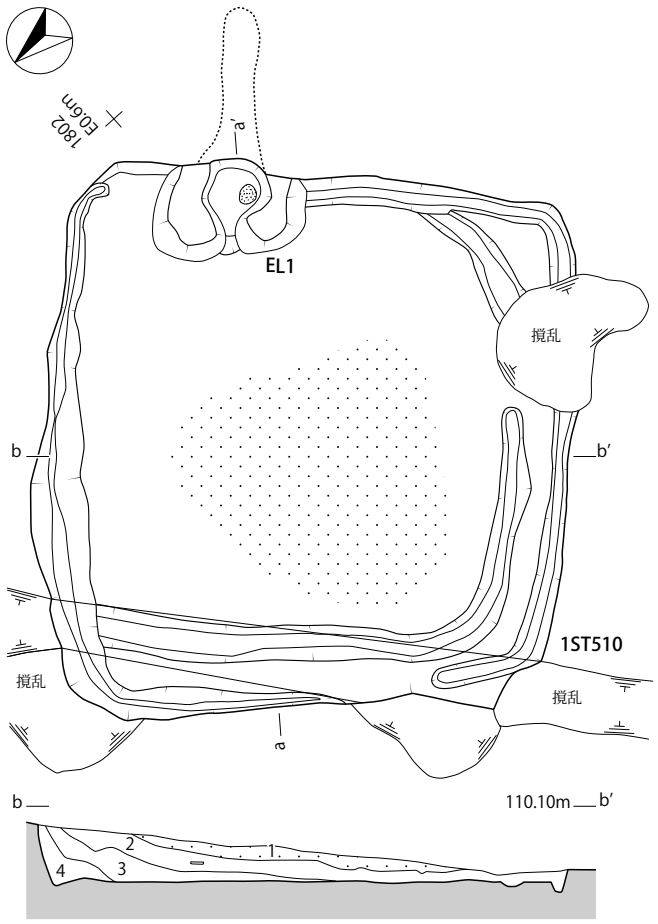
13層　10YR4/6褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黒色土、黄褐色土を斑状に含む。焼土ブロックを含む。

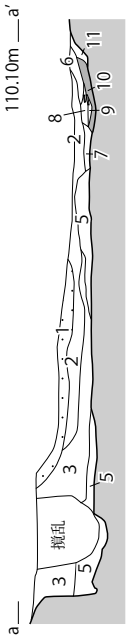
0　3m
1:60

第 16 図　竪穴建物跡 5（1ST365-1）



第 17 図　竪穴建物跡 6（1ST365-2）





1ST510土層説明

1層　10YR7/1灰白色の粘土質シルト層。
粘性・しまりやや強い。黒色土を多量含む。
火山灰をブロック状に多量含む火山灰層。

2層　10YR1.7/1黒色のシルト層（黒ボク土）。
粘性・しまりやや強い。

3層　10YR1.7/1黒色のシルト層（黒ボク土）。
黄褐色土粒φ～10㎜を少量含む。

4層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。
黄褐色土ブロックを含む。

5層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄褐色土粒φ～10㎜を含む。

1ST510EL1（カマド）土層説明

6層　7.5YR5/6明褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
焼土・黒色土を含む。

7層　10YR4/4褐色のシルト層。焼土粒・黒褐色土を含む。
黄褐色土粒φ～10㎜を含む。

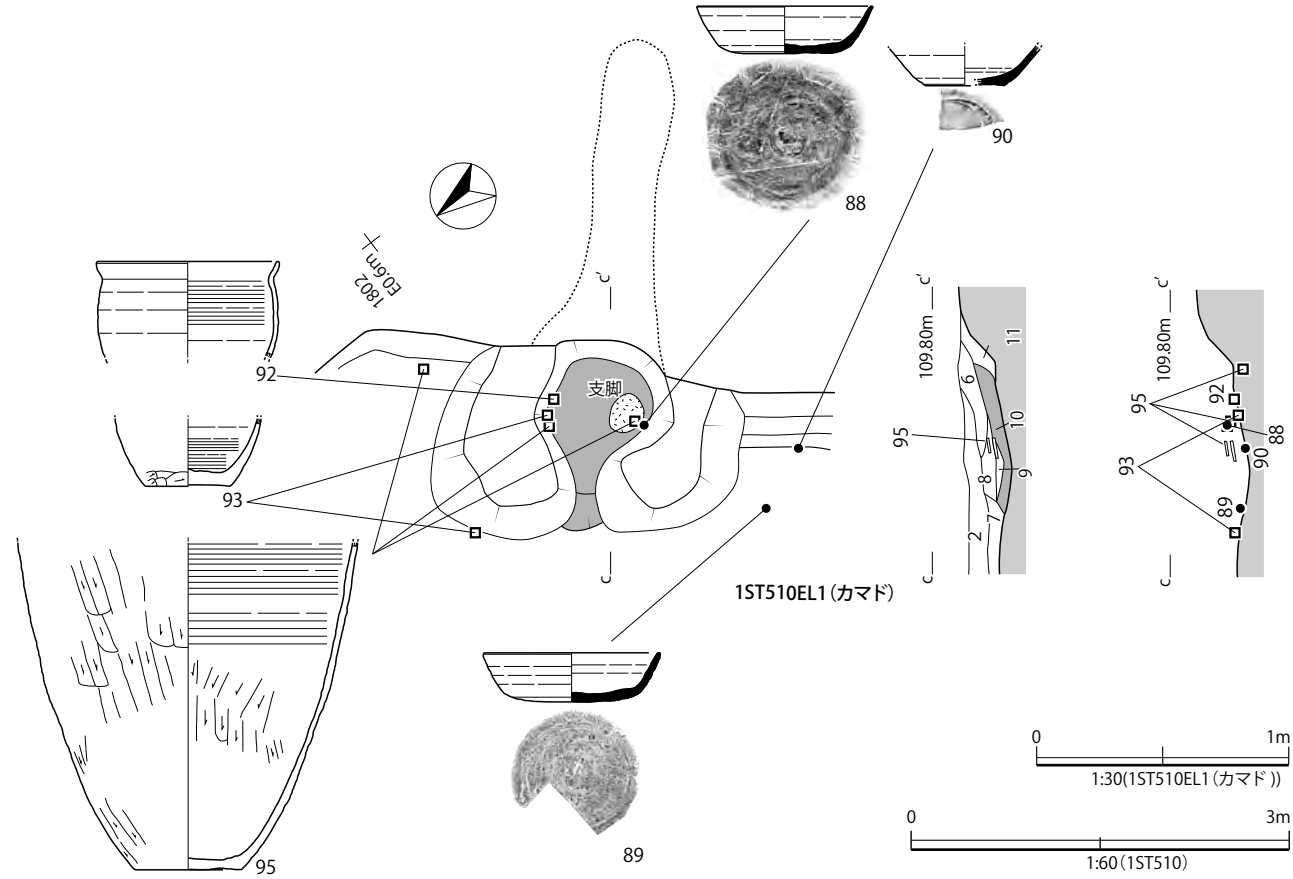
8層　2.5YR5/6明赤褐色のシルト層。
粘性・しまりやや強い。焼土を多量に含む。

9層　5YR2/2黒褐色のシルト層。焼土を多量に含む。

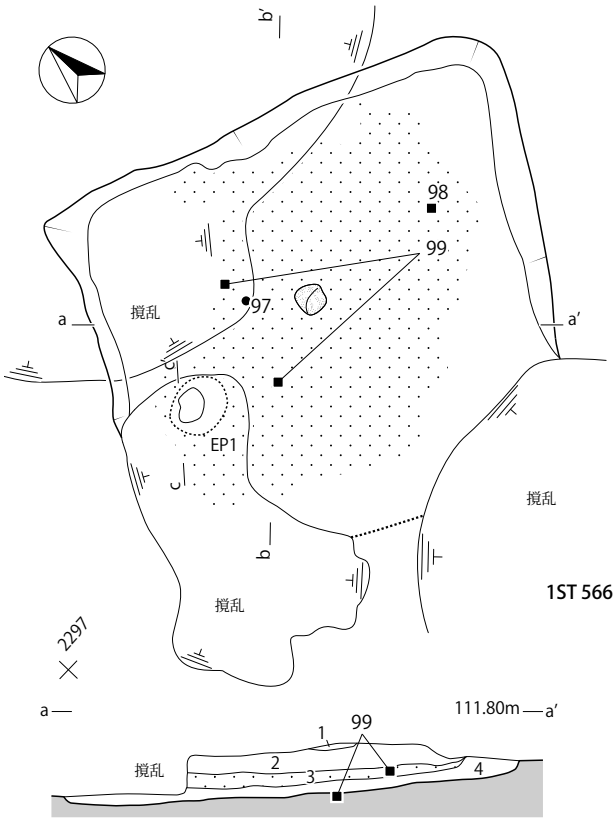
10層　2.5YR4/8赤褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
焼土層。

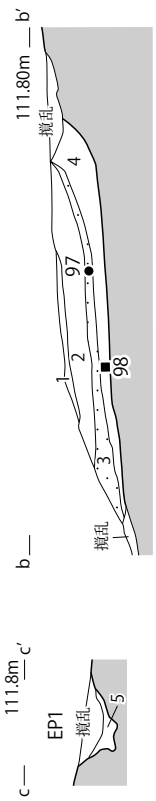
11層　7.5YR2/1黒色のシルト層。
黄褐色土粒φ～5㎜を含む。

ほぼ火山灰で構成される層



第18図　竪穴建物跡7（1ST510）





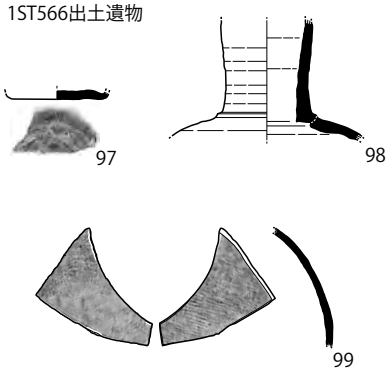
1ST566土層説明

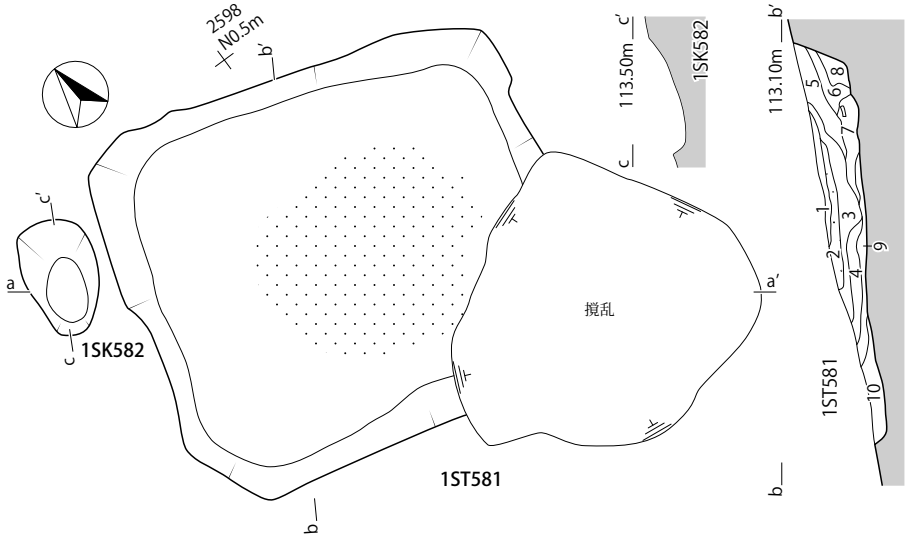
1層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒色土を含む。
2層　10YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。
3層　10YR7/1灰白色の粘土質シルト層。
　　粘性・しまりやや強い。火山灰層。
4層　10YR2/1黒色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～10㎜を多量に含む。

1 ST566EP1土層説明

5層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～10㎜を多量に含む。

1ST566出土遺物



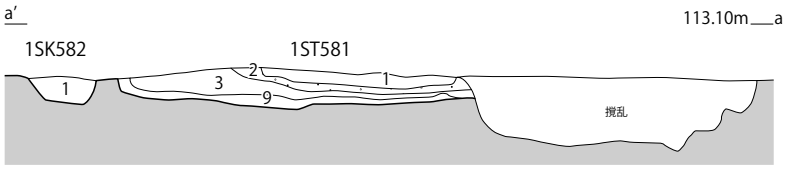


1ST581土層説明

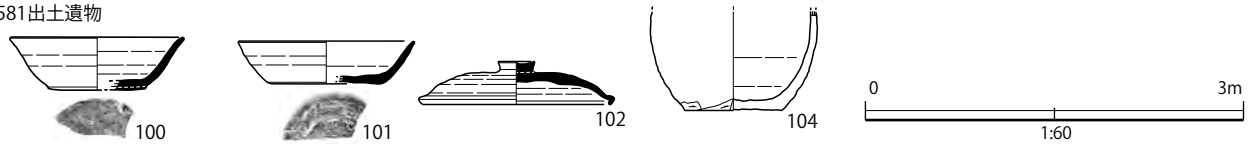
1層　10YR2/1黒色のシルト層。
2層　10YR7/1灰白色の粘土質シルト層。
　　粘性・やや強い。火山灰層。
3層　10YR1.7/1黒色のシルト層（黒ボク土）。
　　火山灰ブロックを含む。
4層　10YR1.7/1黒色のシルト層（黒ボク土）。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を含む。
5層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
6層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
　　粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～5㎜・炭化粒を含む。
7層　4層と同じ
8層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
　　粘性・しまりやや弱い。
　　黄褐色土粒φ～5㎜・炭化粒を含む。
9層　7.5YR4/6褐色のシルト層。
　　黒褐色土を含む。
10層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
　　黒褐色土・黄褐色土を含む。

1SK582土層説明

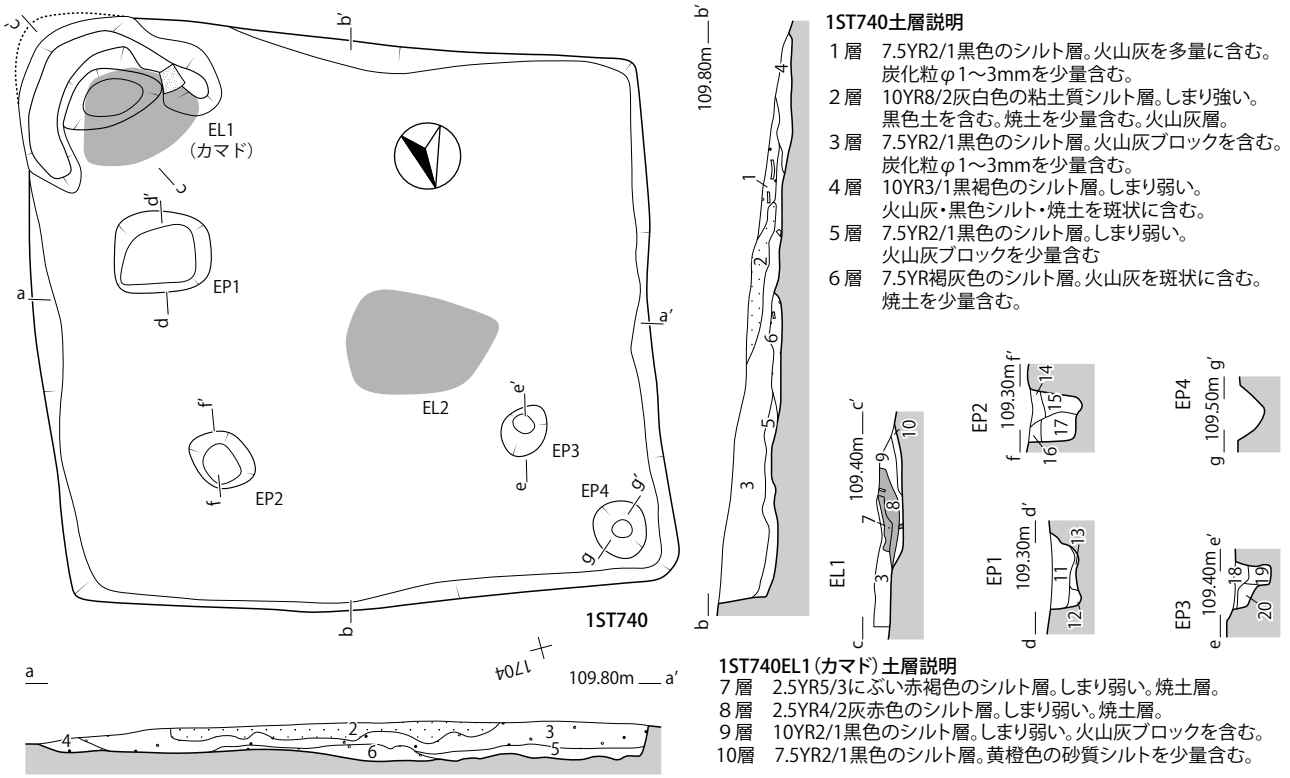
1層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土を少量含む。



1ST581出土遺物



第 19 図　竪穴建物跡 8（1ST566、1ST581）



1ST740土層説明

1 層　7.5YR2/1黒色のシルト層。火山灰を多量に含む。炭化粒φ1～3mmを少量含む。
2 層　10YR8/2灰白色の粘土質シルト層。しまり強い。黒色土を含む。焼土を少量含む。火山灰層。
3 層　7.5YR2/1黒色のシルト層。火山灰ブロックを含む。炭化粒φ1～3mmを少量含む。
4 層　10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり弱い。火山灰・黒色シルト・焼土を斑状に含む。
5 層　7.5YR2/1黒色のシルト層。しまり弱い。火山灰ブロックを少量含む
6 層　7.5YR褐灰色のシルト層。火山灰を斑状に含む。焼土を少量含む。

1ST740EL1（カマド）土層説明

7 層　2.5YR5/3にぶい赤褐色のシルト層。しまり弱い。焼土層。
8 層　2.5YR4/2灰赤色のシルト層。しまり弱い。焼土層。
9 層　10YR2/1黒色のシルト層。しまり弱い。火山灰ブロックを含む。
10層　7.5YR2/1黒色のシルト層。黄橙色の砂質シルトを少量含む。

1ST740EP1土層説明

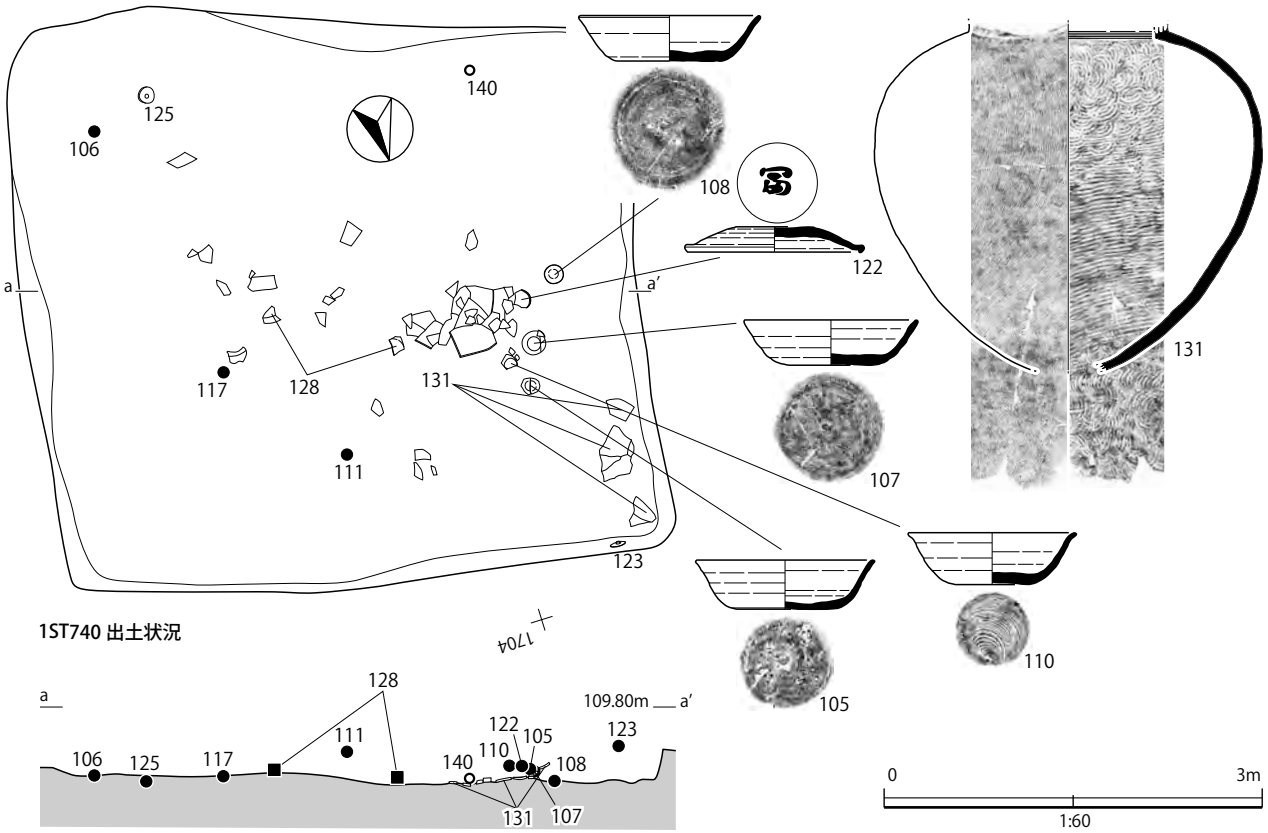
11層　10YR2/1黒色のシルト層。明黄褐色土を斑状に含む。焼土粒を微量に含む。
12層　10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり弱い。明黄褐色土をブロック状に含む。
13層　10YR6/6明黄褐色の砂質シルト層。黒色土を微量に含む

1ST740EP2土層説明

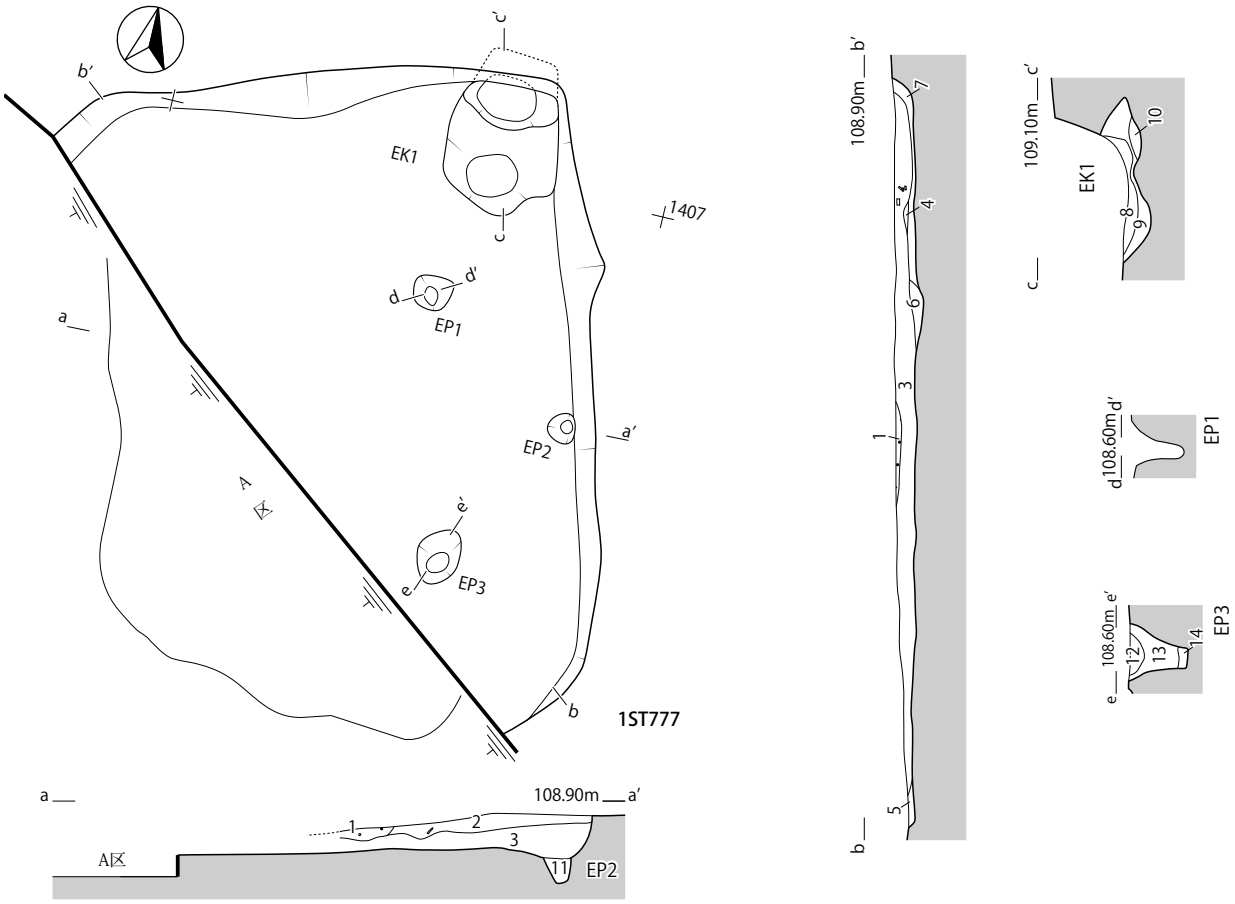
14層　10YR2/1黒色のシルト層。
15層　10YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。しまり弱い。柱痕層。
16層　10YR3/2黒褐のシルト層。灰黄褐色土を斑状に含む。
17層　10YR4/2灰黄褐色のシルト層。黒色土を少量含む。

1ST740EP3土層説明

18層　10YR2/1黒色のシルト層。
19層　10YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。明黄褐色土ブロックを少量含む。
20層　10YR3/2黒褐色のシルト層。明黄褐色土を斑状に含む。



第 20 図　竪穴建物跡 9（1ST740）



火山灰混在層

1ST777土層説明

1層　7.5YR8/1灰白色の粘土質シルト層。
　　黒色土を斑状に含む火山灰層。
2層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。φ～1mmの微細炭化物粒を含む。
　　灰白色火山灰をブロック状に少量含む。
3層　7.5YR2/1黒色のシルト層。黄橙色砂土をブロック状に少量含む
4層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。φ～5mmの炭化粒を含む。
5層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄橙色砂土を大量に含む。
6層　10YR5/4にぶい黄褐色のシルト層。黒色土を含む。
　　黄橙色砂土を少量含む。
7層　7.5YR2/1黒色のシルト層。黄橙色砂土を帯状に大量に含む。

1ST777EK1土層説明

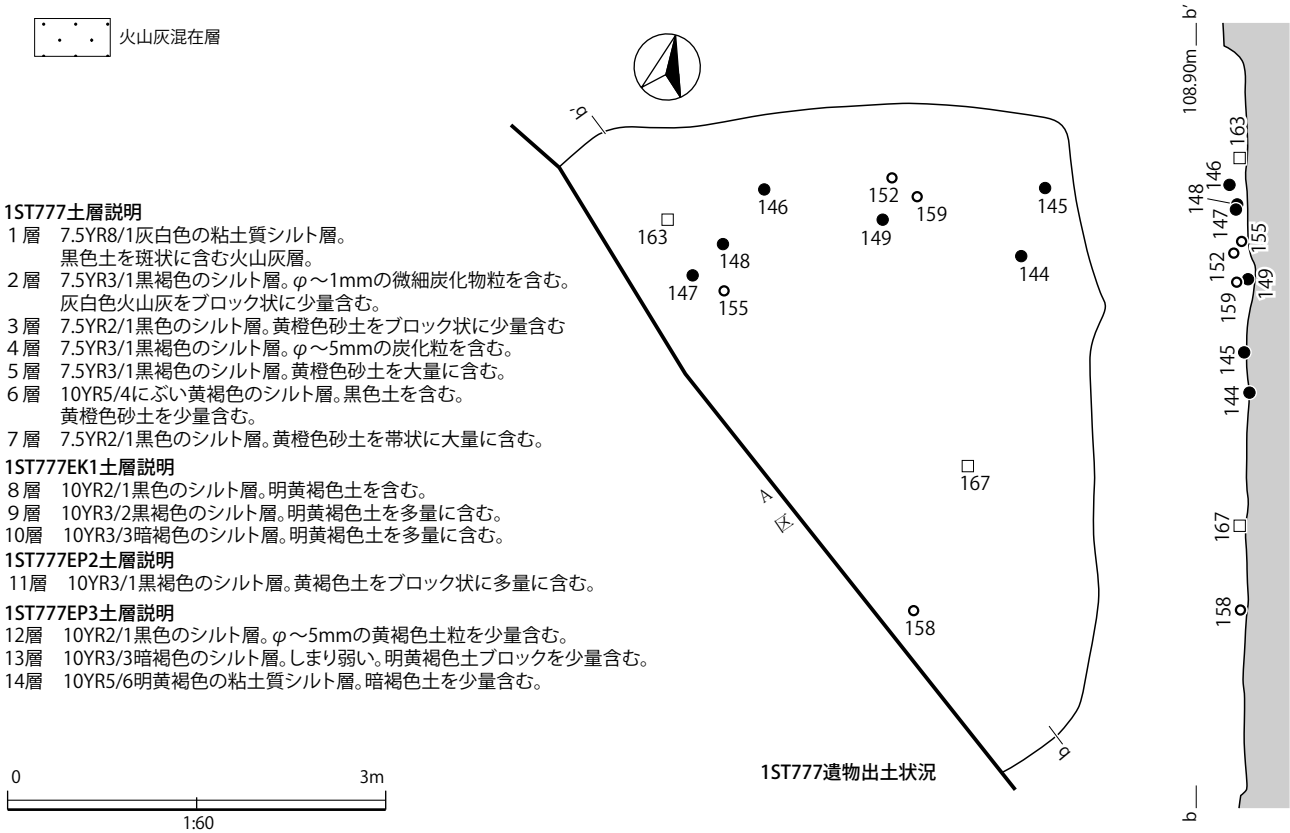
8層　10YR2/1黒色のシルト層。明黄褐色土を含む。
9層　10YR3/2黒褐色のシルト層。明黄褐色土を多量に含む。
10層　10YR3/3暗褐色のシルト層。明黄褐色土を多量に含む。

1ST777EP2土層説明

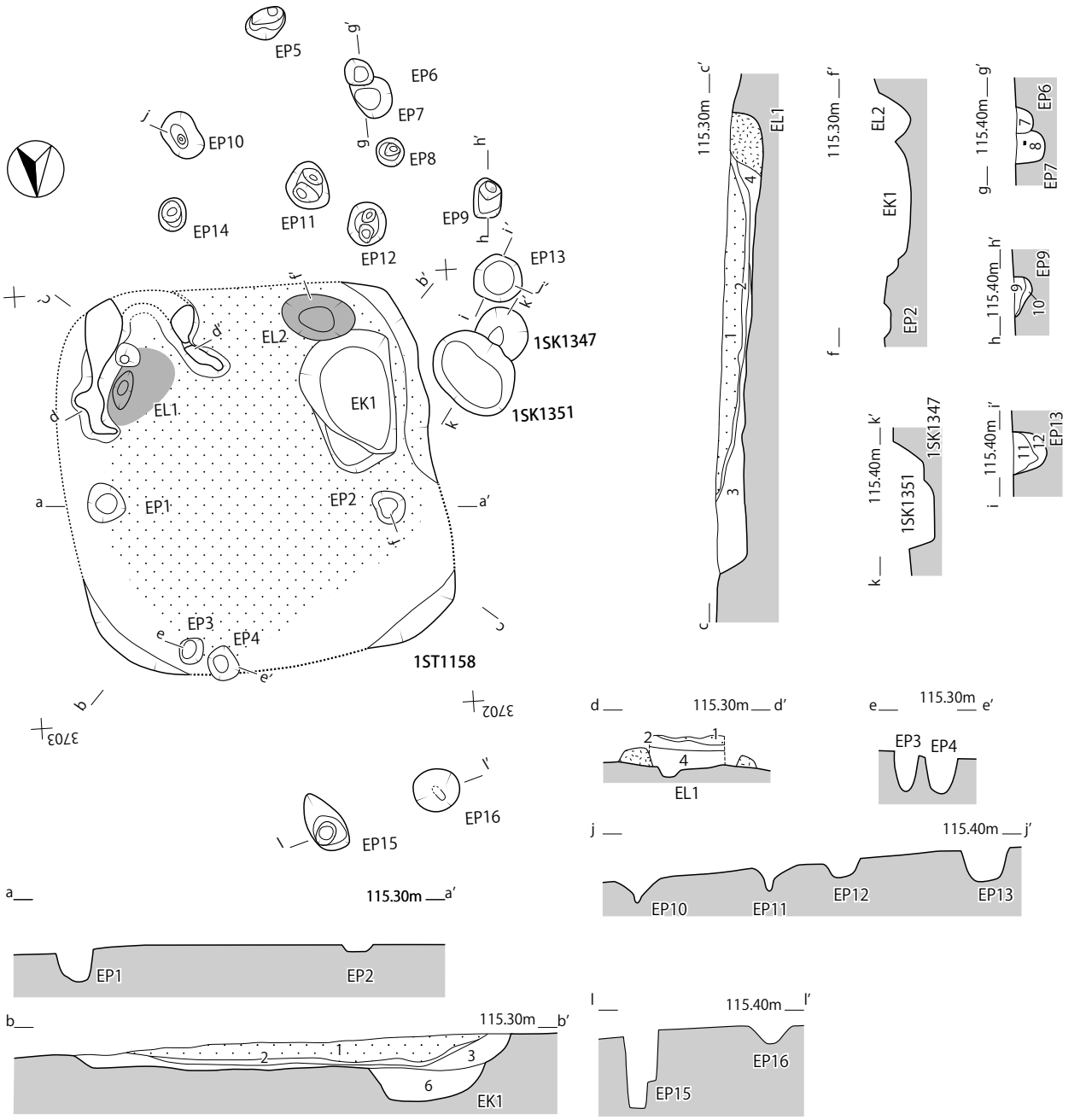
11層　10YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土をブロック状に多量に含む。

1ST777EP3土層説明

12層　10YR2/1黒色のシルト層。φ～5mmの黄褐色土粒を少量含む。
13層　10YR3/3暗褐色のシルト層。しまり弱い。明黄褐色土ブロックを少量含む。
14層　10YR5/6明黄褐色の粘土質シルト層。暗褐色土を少量含む。



第 21 図　竪穴建物跡 10（1ST777）



1ST1158 土層説明
１層　10YR7/1 灰白色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや弱い。火山灰単純層
２層　10YR3/1 黒褐色のシルト層。粘性やや強い。しまりやや弱い。１層境部分にブロック状の火山灰を多量に含む。
３層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性弱い。φ～ 20mm の黄橙色スコリアを少量含む。火山灰を少量含む。

1ST1158EL1（カマド）土層説明
４層　7.5YR3/4 暗褐色のシルト層。粘性やや弱い。炭化物粒を少量含む。

1ST1158EK1 土層説明
６層　10YR2/1 の黒色シルト層。粘性・しまりやや強い。
φ～ 10mm の褐色土粒を多量に含む。

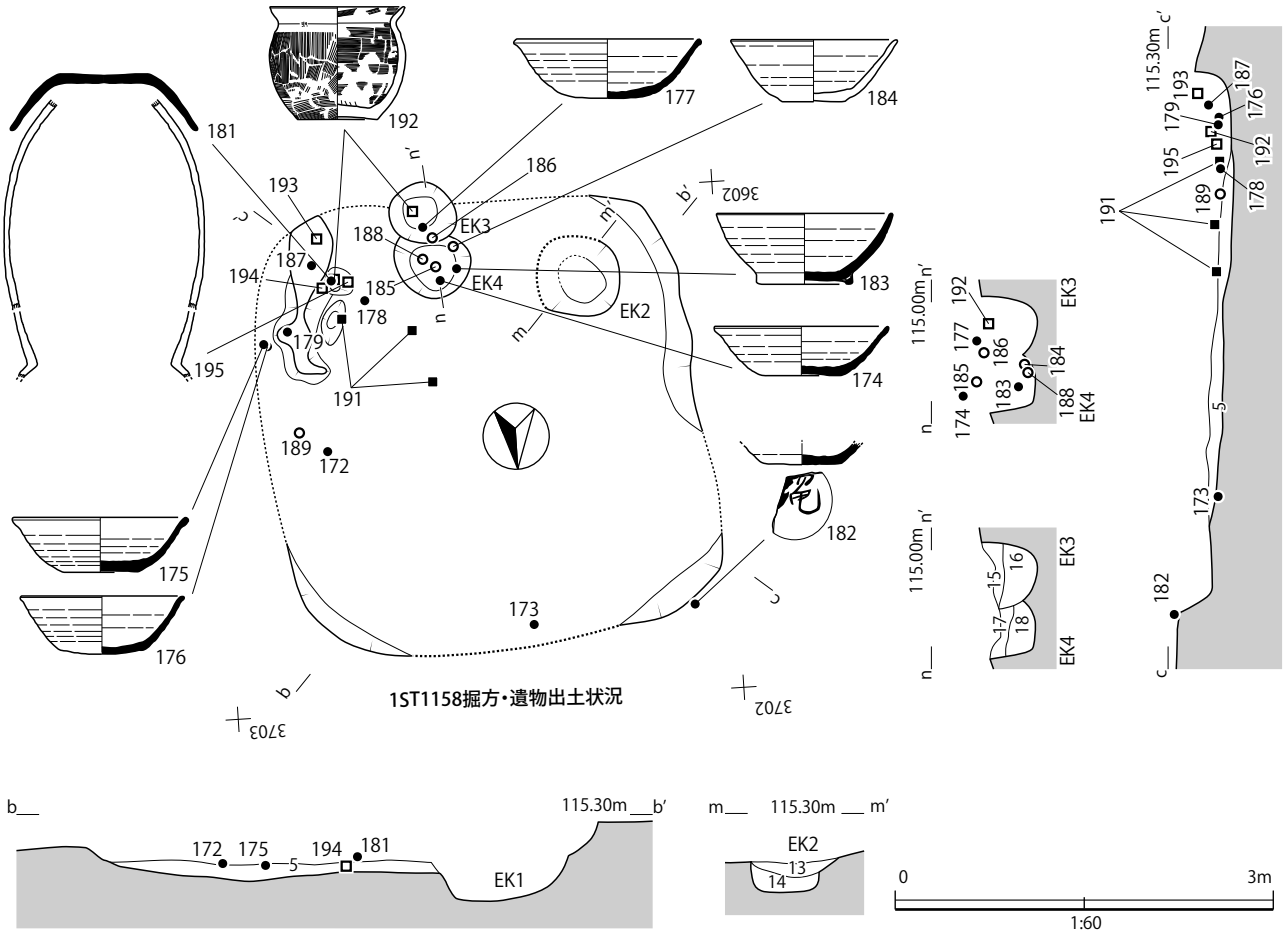
1ST1158EP6 土層説明
７層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性やや強い。黄褐色土ブロックを含む。

1ST1158EP7 土層説明
８層　10YR2/2 黒褐色のシルト層。黄褐色土粒を斑状に含む。

1ST1158EP9 土層説明
９層　10YR3/3 暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
φ～ 5 ㎜の黄橙色スコリアを少量含む。
10 層　7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや強い。

1ST1158EP13 土層説明
11 層　7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。炭化物を少量含む。
φ～ 10 ㎜の黄橙色スコリアを含む。
φ～ 10mm の明褐色土ブロックを多量に含む。
12 層　7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。
褐色土をブロック状に含む。

第 22 図　竪穴建物跡 11（1ST1158-1）



1ST1158 掘方土層説明
5 層　7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。褐色土をブロック状に含む。

1ST1158EK2 土層説明
13 層　7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。φ～ 50mm の炭化物・粒を少量含む。
φ～ 10mm の黄橙色スコリアを含む。φ～ 10mm の明褐色土ブロックを多量に含む。
14 層　7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。黄褐色土をブロック状に含む。

1ST1158EK3 土層説明
15 層　10YR2/3 黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。φ～ 10mm の炭化物を少量含む。
φ～ 10mm の黄橙色スコリアを少量含む。黄褐色土をブロック状に含む。
16 層　10YR3/3 暗褐色のシルト層。粘性強い。φ～ 5mm の黄橙色スコリアを少量含む。黄褐色土をブロック状に少量含む。

1ST1158EK4 土層説明
17 層　10YR2/2 黒褐色のシルト層。粘性やや強い。炭化粒φ～ 10 ㎜を少量含む。黄橙色土粒を少量含む。
18 層　7.5YR3/4 暗褐色のシルト層。粘性やや強い。褐色土をブロック状に含む。

1ST1184 土層説明
1 層　7.5YR1.7/1 黒色のシルト層 (黒ボク土)。φ～ 5mm の焼土粒を少量含む。φ～ 10mm の黄橙土粒を少量含む。
2 層　7.5YR3/3 暗褐色のシルト層。しまりやや強い。φ～ 5mm の焼土粒・炭化物粒を含む。φ～ 5mm の黄褐色土粒を多量に含む。

1ST1184EL1（カマド）土層説明
3 層　7.5YR2/2 黒褐色のシルト層。φ～ 5mm の焼土粒・炭化粒を含む。
4 層　7.5YR1.7/1 黒色のシルト層。しまりやや強い。
φ～ 5mm の焼土粒・炭化粒・黄褐色土粒を含む。
5 層　7.5YR1.7/1 黒色のシルト層。しまりやや弱い。
φ～ 5mm の焼土粒と黄褐色土粒を多量に含む。
6 層　7.5YR2/1 黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。

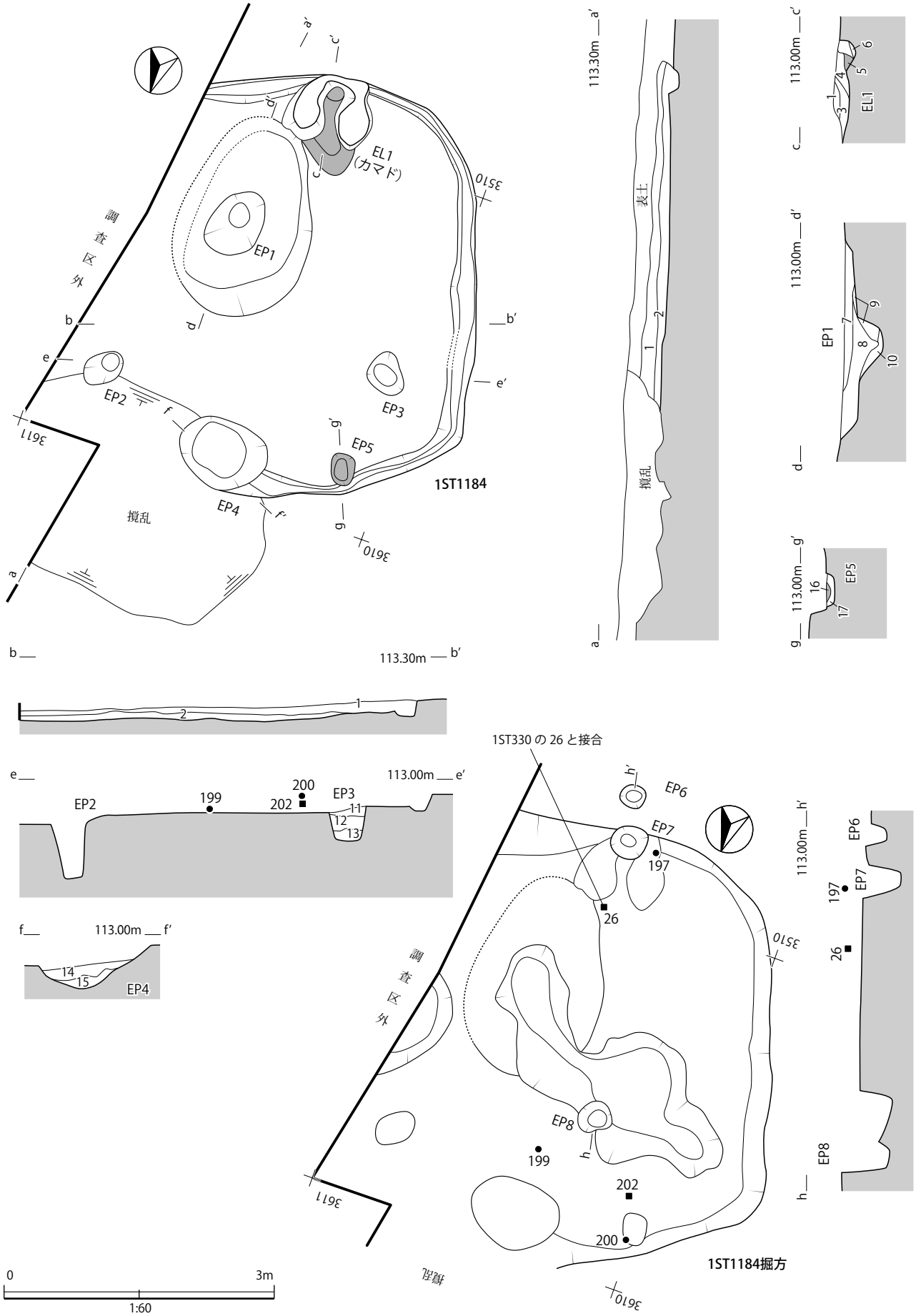
1ST1184EP1 土層説明
7 層　7.5YR2/2 黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
φ～ 10mm の黄褐色土粒を多量に含む。
8 層　7.5YR2/1 黒色のシルト層。暗褐色土を少量含む。
9 層　10YR6/8 明黄褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黒色土を斑状に含む。
10 層　10YR3/3 暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
φ～ 30mm の黄褐色土粒を少量含む。

1ST1184EP3 土層説明
11 層　7.5YR1.7/1 黒色のシルト層 (黒ボク土)。黄褐色土を少量含む。
12 層　7.5YR2/2 黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。
13 層　7.5YR3/3 暗褐色シルト。黄褐色土を含む。

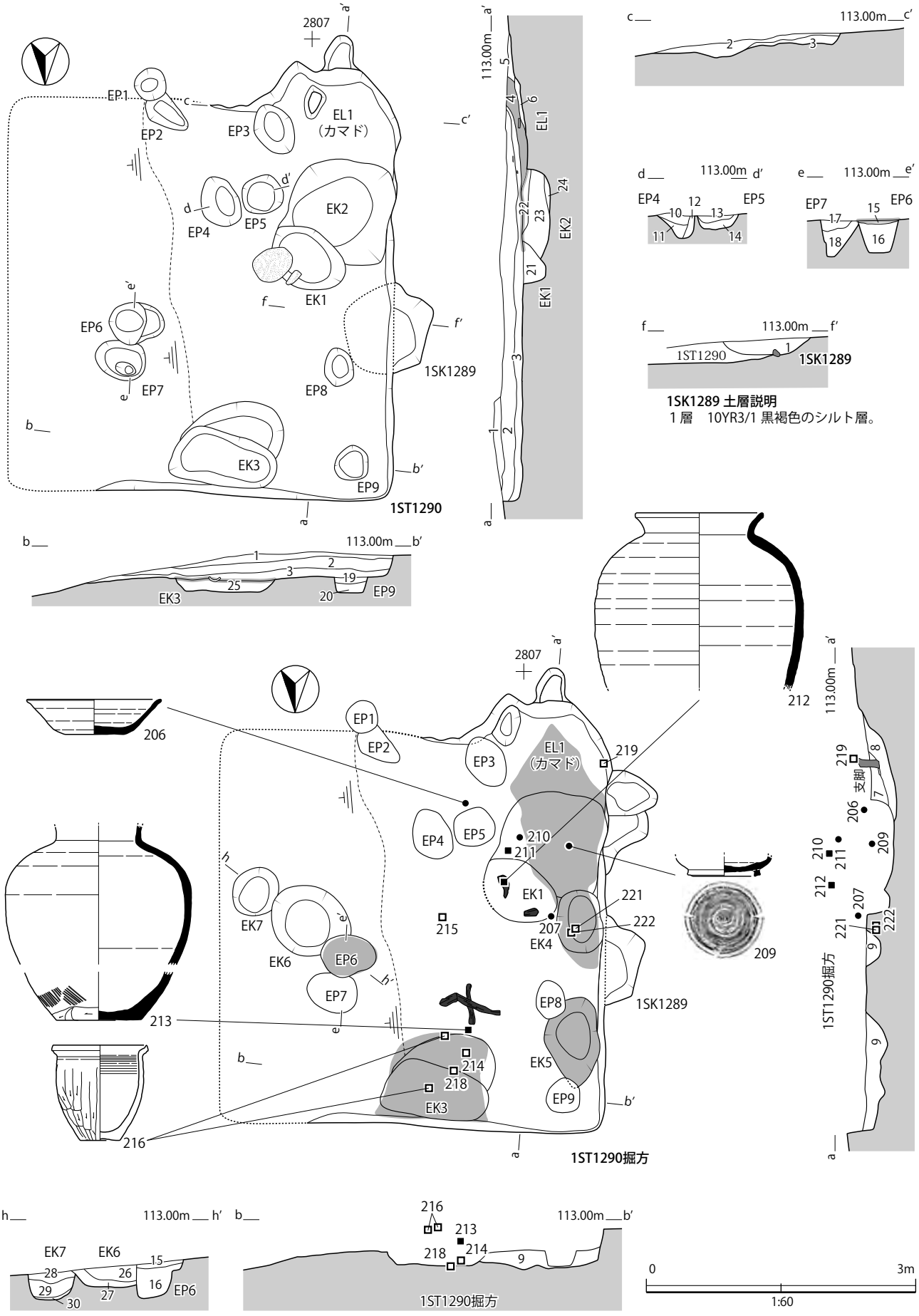
1ST1184EP4 土層説明
14 層　10YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。褐色土を含む。
15 層　10YR5/8 黄褐色のシルト層。黒色土を含む。
φ～ 10mm の暗褐色土粒を多量に含む。

1ST1184EP5 土層説明
16 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 10mm の焼土粒を多量に含む。
17 層　7.5YR3/3 暗褐色のシルト層。φ～ 5mm の焼土粒・炭化物粒を含む。

第 23 図　竪穴建物跡 12（1ST1158-2、1ST1184-1）



第 24 図　竪穴建物跡 13（1ST1184-2）



第 25 図　竪穴建物跡 14（1ST1290-1）

1ST1290 土層説明
1 層　10YR2/1 黒色のシルト層。しまりやや強い。φ～ 10mm の黄橙色スコリアを少量含む。
2 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 20mm の黄橙色スコリアを含む。φ～ 10mm の炭化粒を少量含む。
3 層　10YR2/1 黒色のシルト層。φ～ 20mm の黄橙色スコリアを少量含む。焼土粒を少量含む。

1ST1290EL1（カマド）土層説明
4 層　7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。焼土を多量に含む。φ～ 10mm の炭化粒を少量含む。
5 層　7.5YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 20mm の黄褐色土粒を含む。
6 層　10YR4/3 にぶい黄褐色のシルト層。しまりやや強い。

1ST1290 掘方　土層説明
7 層　10YR3/3 暗褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを斑状に含む。
8 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 10mm の黄褐色土粒を少量含む。
9 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。しまり強い。黄褐色土ブロックを斑状に含む。

1ST1290EP4 土層説明
10 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 20mm の黄橙色スコリアを少量含む。
φ～ 10mm の炭化粒を少量含む。橙色土を少量含む。
11 層　10YR2/1 黒色のシルト層。φ～ 20mm の黄褐色土粒を含む。
12 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。

1ST1290EP5 土層説明
13 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 10mm の炭化粒・橙色土を少量含む。
14 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 5mm の炭化粒を少量含む。
φ～ 30mm の黄褐色土を含む。

1ST1290EP6 土層説明
15 層　7.5YR4/3 褐色のシルト層。φ～ 10mm の炭化物粒・焼土粒を含む。
16 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 30mm の黄褐色土粒を多量に含む。
φ～ 10mm の炭化粒を少量含む。

1ST1290EP7 土層説明
17 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 20mm の黄褐色土粒を少量含む。
18 層　10YR2/1 黒色のシルト層。φ～ 20mm の黄褐色土粒を含む。

1ST1290EP9 土層説明
19 層　10YR2/1 黒色のシルト層。φ～ 5mm の炭化粒を少量含む。
20 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。
φ～ 20mm の白色土粒 (2.5YR8/2) を含む。

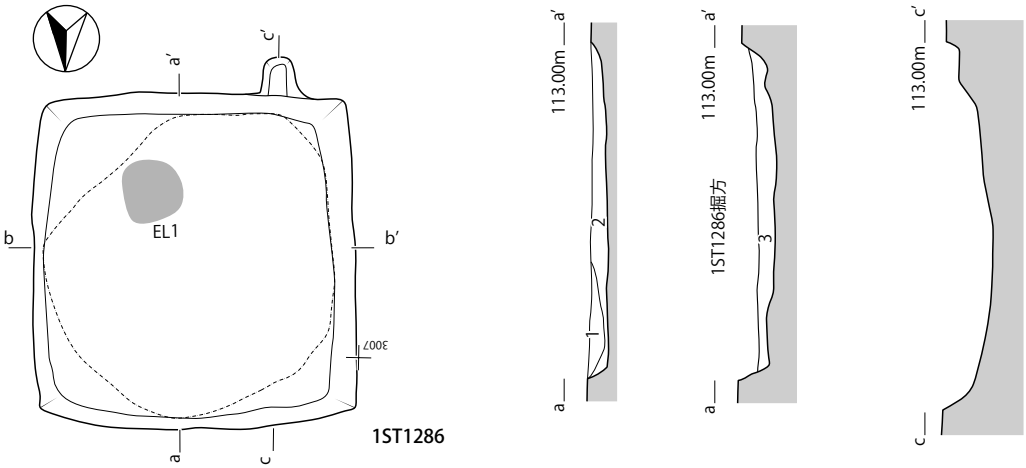
1ST1290EK1 土層説明
21 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。
φ～ 20mm の黄褐色土粒・炭化粒・焼土粒を少量含む。

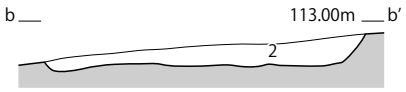
1ST1290EK2 土層説明
22 層　10YR2/2 黒褐色のシルト層。しまりやや強い。
φ～ 10mm の焼土粒を少量含む
23 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。
φ～ 20mm の黄褐色土粒・炭化粒・焼土粒を少量含む。
24 層　10YR4/3 にぶい黄褐色のシルト層。

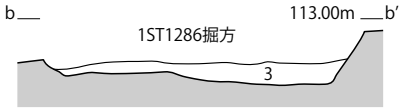
1ST1290EK3 土層説明
25 層　7.5YR3/3 暗褐色のシルト層。φ～ 20mm の焼土粒を含む。
φ～ 5mm の炭化粒を少量含む。

1ST1290EK6 土層説明
26 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。
φ～ 30mm の黄褐色土粒を多量に含む。
27 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 5mm の炭化粒を少量含む。

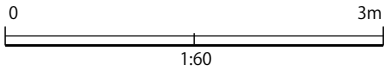
1ST1290EK7 土層説明
28 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。
φ～ 30mm の黄橙色スコリアを少量含む。
29 層　10YR3/2 黒褐色のシルト層。φ～ 20mm の黄褐色土粒を少量含む。
30 層　10YR4/4 褐色のシルト層。しまりやや強い。
φ～ 5mm の炭化物粒を少量含む。



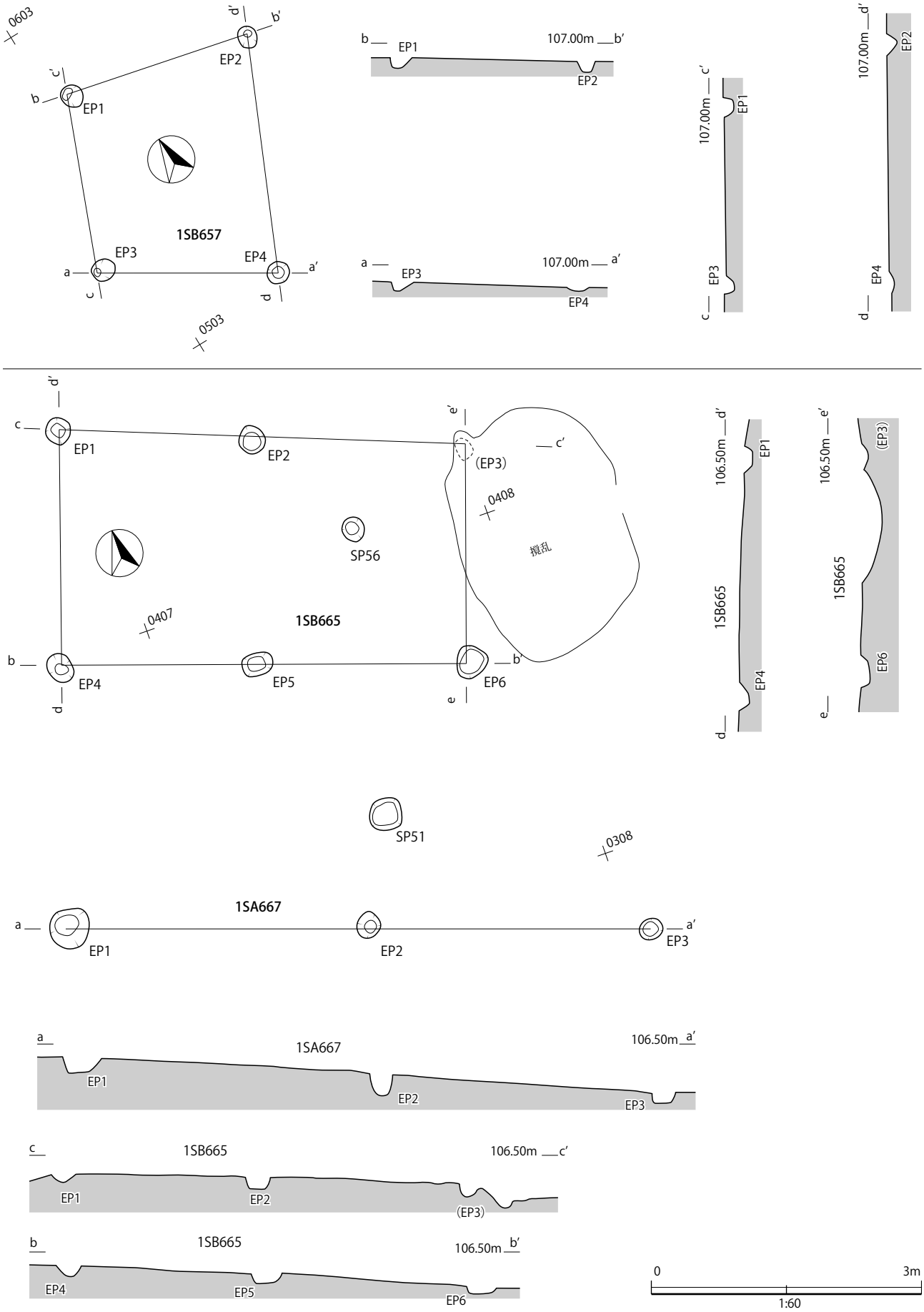




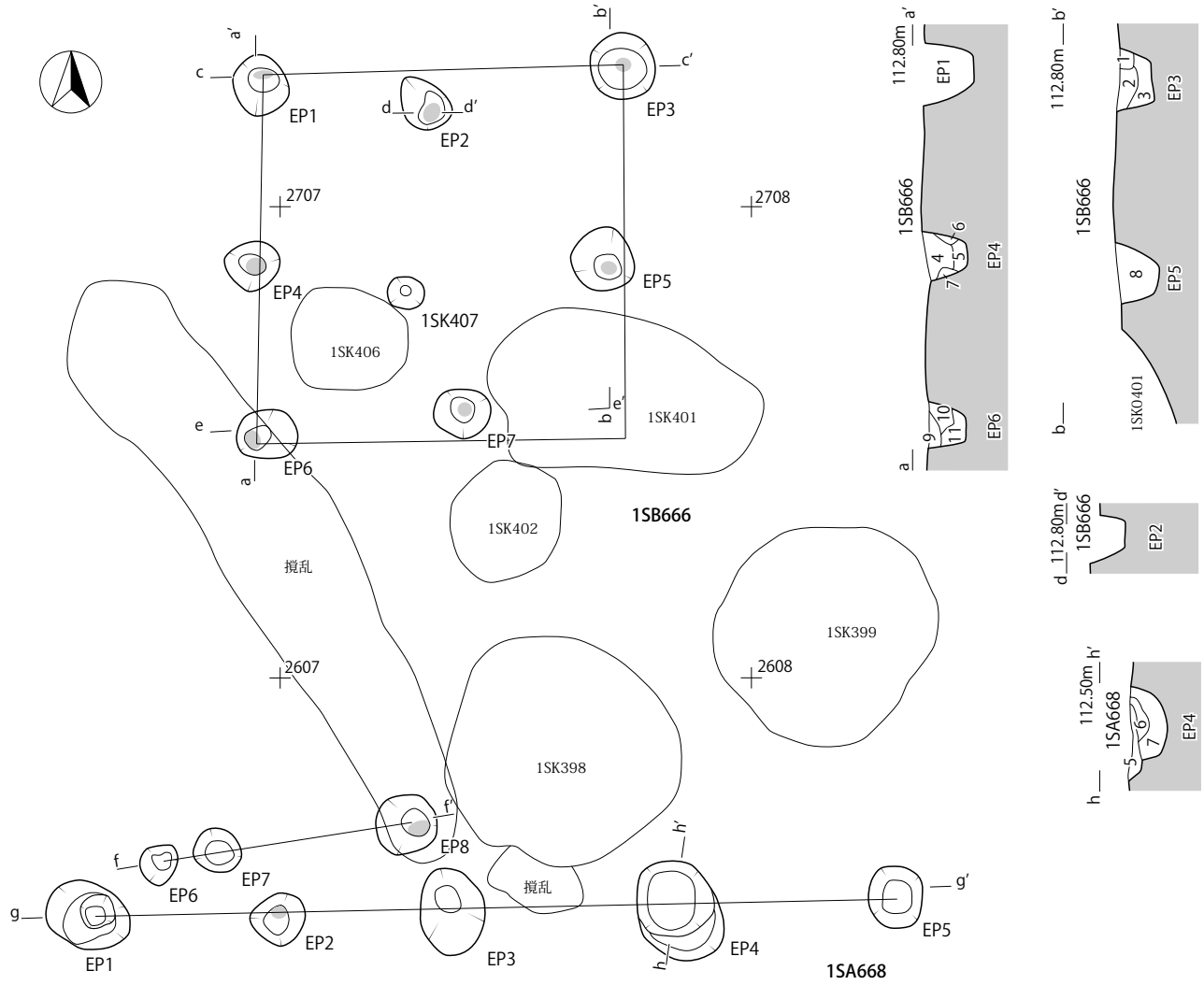
1ST1286 土層説明
1 層　10YR4/3 にぶい黄褐色のシルト層。φ～ 10mm の黄橙色スコリアを含む
2 層　10YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。
1ST1286 掘方土層説明
3 層　10YR1.7/1 黒色シルト層（黒ボク土）。黄褐色土を斑状に含む。

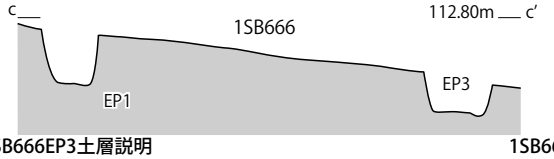


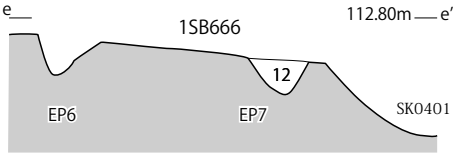
第 26 図　竪穴建物跡 15（1ST1290-2、1ST1286）



第 27 図　掘立柱建物跡 1 （1SB657、1SB665、1SA667）







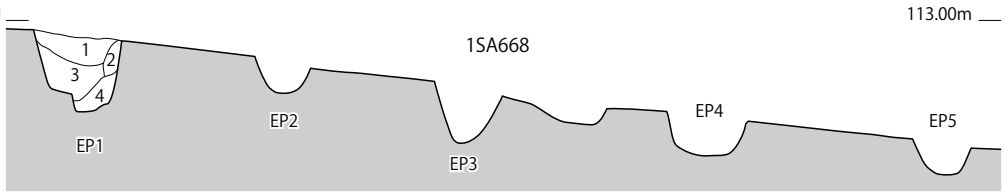
1SB666EP3土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
2層　7.5YR5/8明褐色土。
3層　7.5YR5/8明褐色土。黄褐色土・黒褐色土を多量含む。

1SB666EP4土層説明
4層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性弱い。しまりやや弱い。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
5層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまり弱い　。黄褐色土粒φ～10㎜を少量含む。
6層　10YR4/6褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黒褐色土を含む。
7層　7.5YR4/3褐色のシルト層。暗褐色土を含む。

1SB666EP5土層説明
8層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を多量含む。

1SB666EP6土層説明
9層　10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性弱い。
10層　10YR3/3暗褐色のシルト層。黒褐色土を斑状に含む。
11層　10YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを少量含む。

1SB666EP7土層説明
12層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。

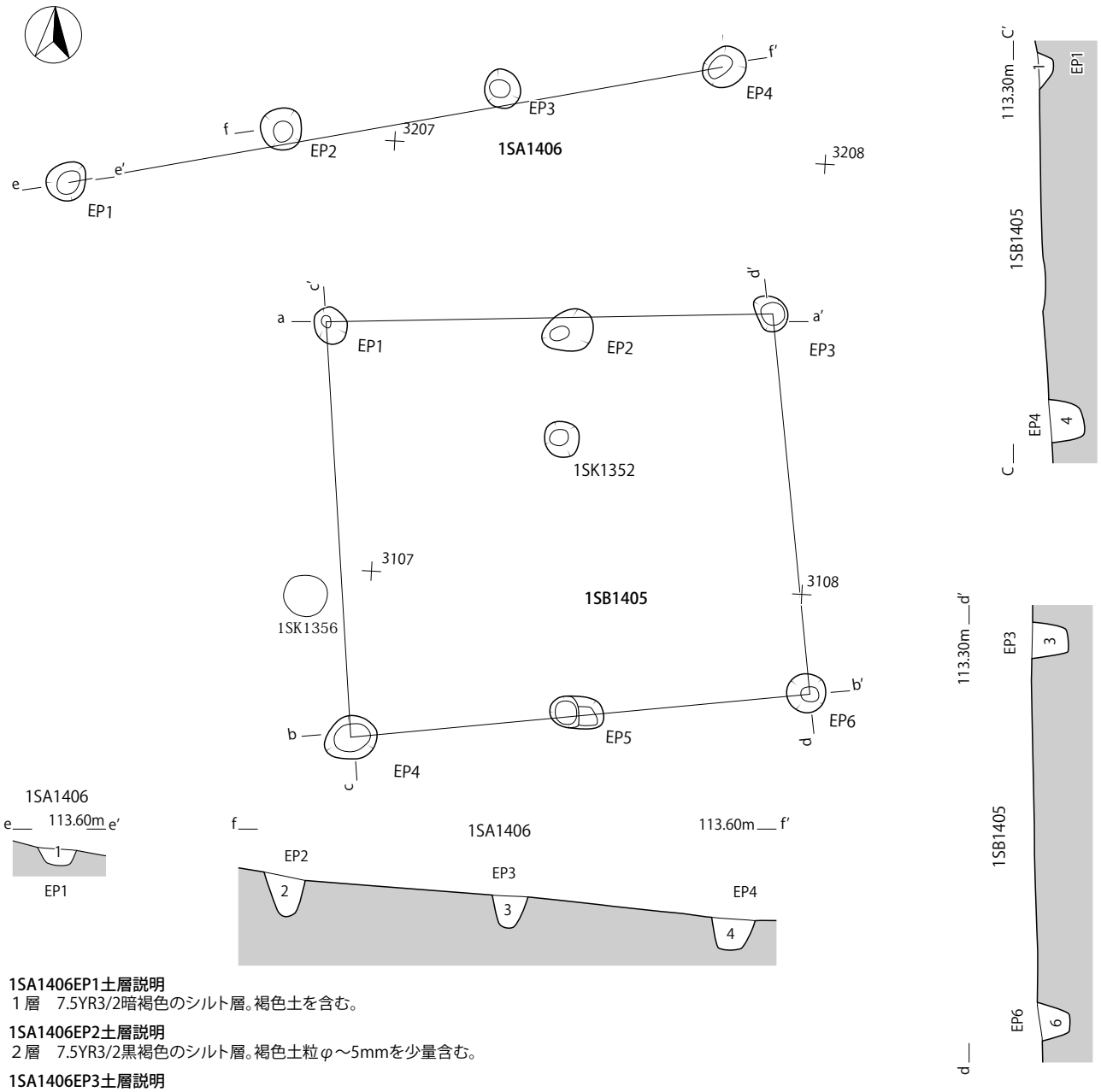


1SA668EP1土層説明
1層　5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土を少量含む。
2層　7.5YR4/6褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
3層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
4層　5YR3/1黒褐色のシルト層。

1SA668EP4土層説明
5層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。
6層　5YR3/1黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
7層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。

0　3m
1:60

第 28 図　掘立柱建物跡２（1SB666、1SA668）

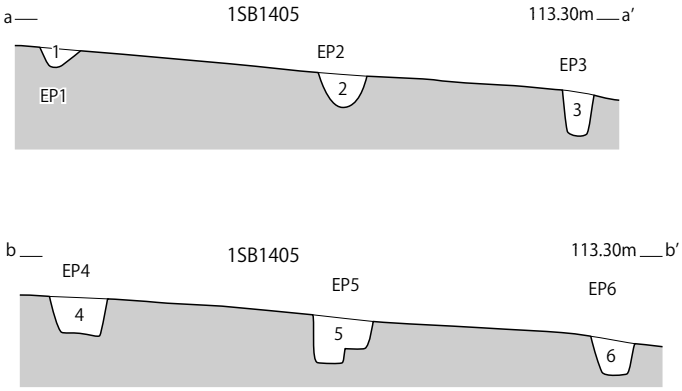


1SA1406EP1土層説明
１層　7.5YR3/2暗褐色のシルト層。褐色土を含む。

1SA1406EP2土層説明
２層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。褐色土粒φ～5mmを少量含む。

1SA1406EP3土層説明
３層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。褐色土粒φ～5mmを少量含む。

1SA1406EP4土層説明
４層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。褐色土粒φ～5mmを少量含む。



1SB1405EP1土層説明
１層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黒褐色土を少量含む。

1SB1405EP2土層説明
２層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　暗褐色土を多量に含む。

1SB1405EP3土層説明
３層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。暗褐色土粒φ～5mmを少量含む。

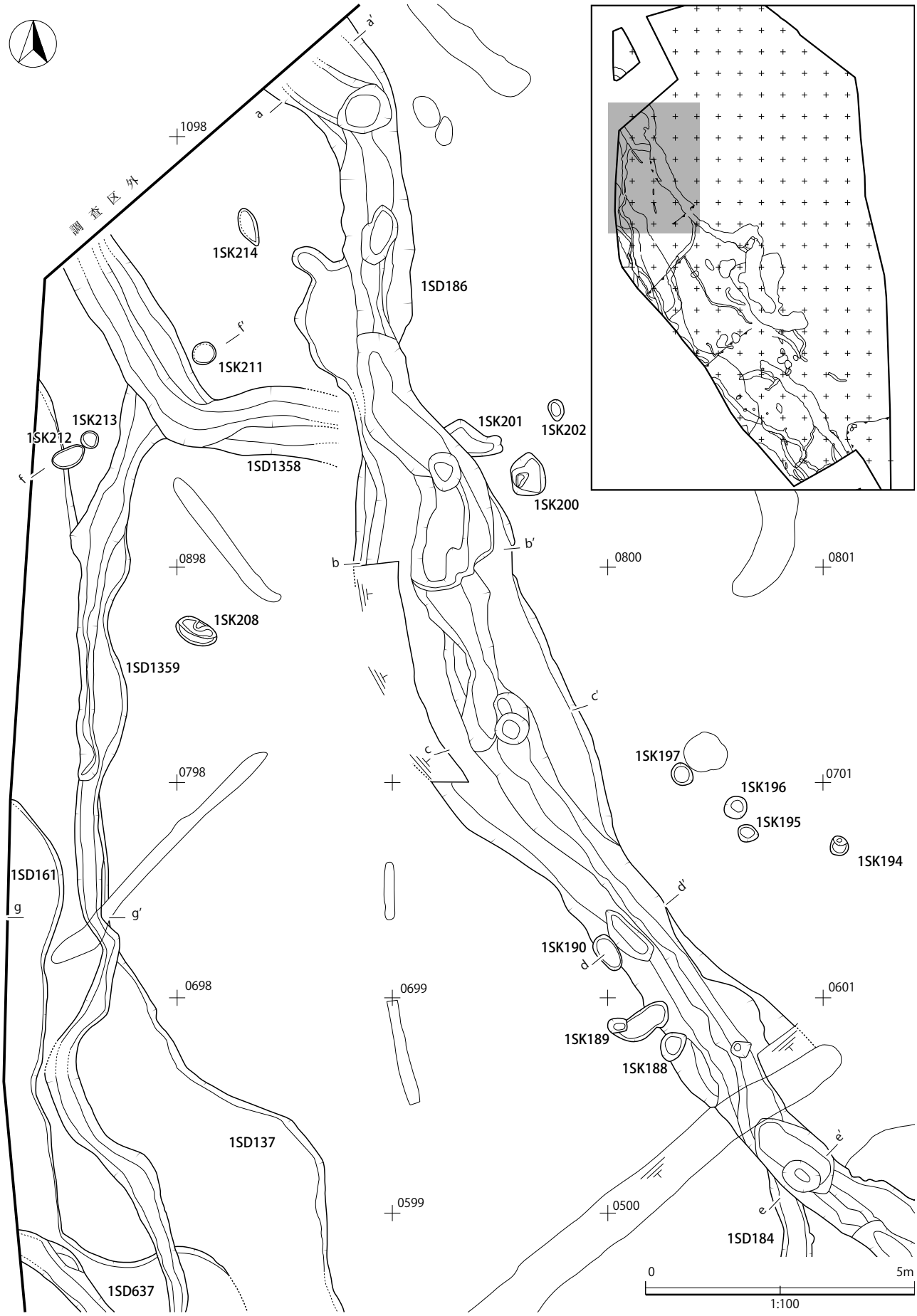
1SB1405EP4土層説明
４層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10mmを含む。

1SB1405EP5土層説明
５層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10mmを多量に含む。

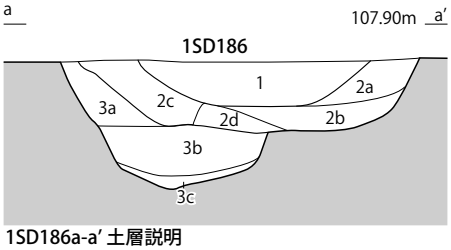
1SB1405EP6土層説明
６層　10YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10mmを少量含む。

0　3m
1:60

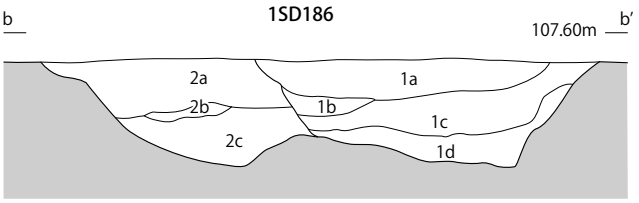
第 29 図　掘立柱建物跡３（1SB1405、1SA1406）



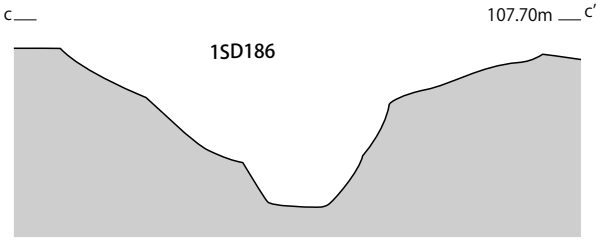
第 30 図　河川跡 1（北部平面図）

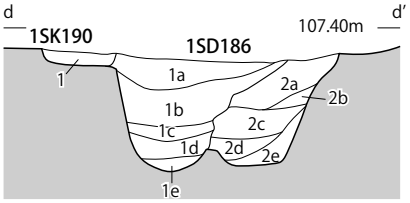


1SD186a-a′ 土層説明
1 層　10YR4/3にぶい黄褐色の細粒砂層。粘性弱い。
2a層　10YR2/1黒色の砂質シルト層。
2b層　10YR3/1黒褐色のシルト質砂層中に10YR4/2灰黄褐色の細粒砂が斑状に混入。粘性・弱い。
2c層　10YR3/1黒褐色のシルト質砂層。
2d層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性強い
3a層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性強い。
3b層　7.5YR3/2黒褐色の細粒砂層とシルト層の互層。
3c層　7.5YR3/2黒褐色の細粒砂層。粘性・しまり弱い



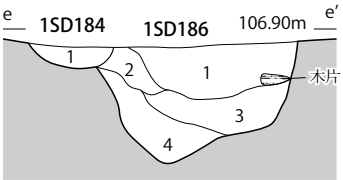
1SD186b-b′土層説明
1a層　10YR2/1黒色のシルト層に10YR3/3黒褐色の砂が混入。炭化物、焼土を含む。
1b層　10YR3/2黒褐色の砂層。粘性弱い。
1c層　10YR3/1黒褐色のシルト層に10YR3/3暗褐色の砂が混入。
1d層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層に10YR3/3暗褐色の砂が斑状に混入。粘性弱い。しまり強い。
2a層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。
2b層　10YR4/1褐灰色の砂層。粘性・弱い。
2c層　10YR3/1黒褐色のシルト層に7.5YR3/2黒褐色の粗粒砂が斑状に混入。粘性・しまり弱い。





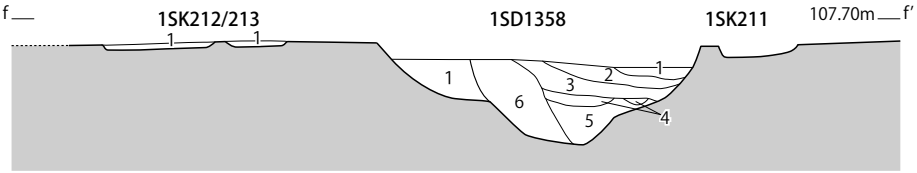
1SK190土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色の砂質シルト層。

1SD186d-d′土層説明
1a層　10YR2/1黒色の砂質シルト層。しまり強い。
1b層　10YR3/1黒褐色のシルト層に10YR4/3にぶい黄褐色の砂が混入。しまり弱い。炭化物、焼土を含む。
1c層　10YR3/1黒褐色のシルト層に7.5YR3/3暗褐色の細粒砂が混入。粘性・しまり弱い。
1d層　10YR2/1黒色のシルト層に10YR3/2黒褐色の砂が混入。しまり弱い。
1e層　10YR3/2黒褐色の細粒砂層。粘性弱い。
2a層　10YR4/3褐色の砂層。粘性弱い。しまり強い。
2b層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。
2c層　10YR3/3暗褐色の砂層。粘性弱い。しまり強い。
2d層　10YR3/1黒褐色のシルト層に10YR4/3にぶい黄褐色の砂が混入。
2e層　10YR4/3にぶい黄褐色の細粒砂層。粘性弱い。



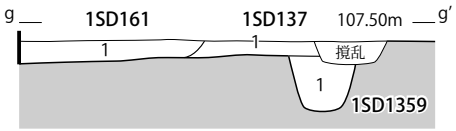
1SD184土層説明
1層　10YR3/3暗褐色の砂層。粘性弱い。

1SD186e-e′土層説明
1層　10YR3/2黒褐色のシルト質砂層。粘性弱い。
2層　10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり強い。
3層　10YR3/2黒褐色の細粒砂層。粘性なし。しまり弱い。
4層　10YR3/2黒褐色の細粒砂層に10YR3/1黒褐色のシルトブロックが大量に混入。



1SK212・213土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色の砂質シルト。しまり強い。

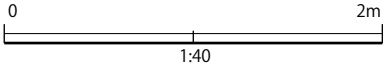
1SD1358土層説明
1 層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。
2 層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層に砂が混入。
3 層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。
4 層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層に砂が多量に混入。
5 層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層に粘土が混入。粘性やや弱い。しまりやや強い。
6 層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層に砂が大量に混入。粘性・しまりやや強い。



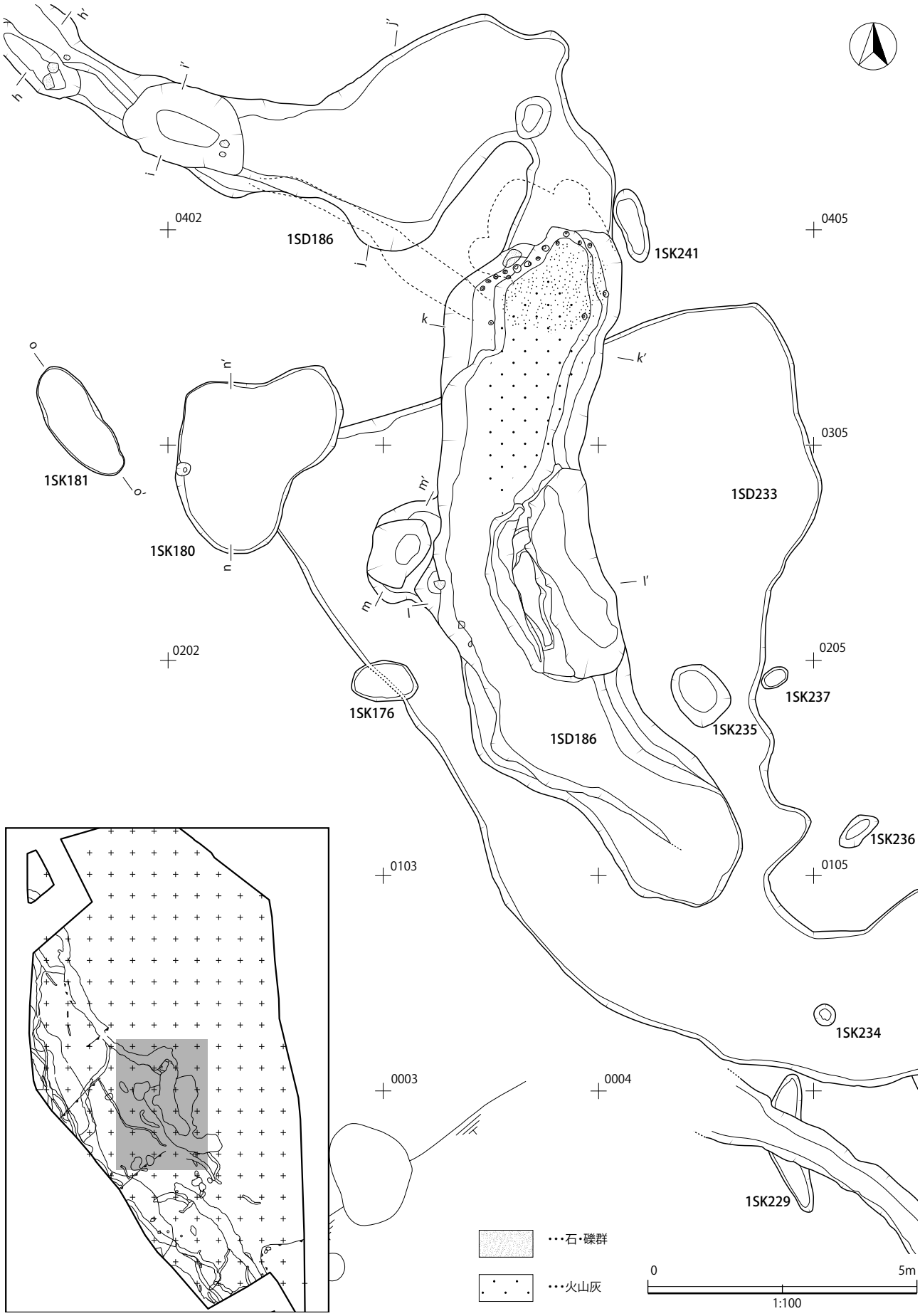
1SK161土層説明
1 層　10YR2/1黒色～10YR4/4褐色のシルト質砂層。粘性弱い。

1SD137土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。赤褐色粒の斑紋。部分的に灰白色の火山灰を含む

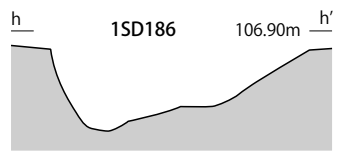
1SD1359土層説明
1 層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルトに砂が混入。粘性・しまりやや強い

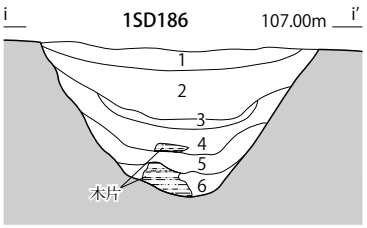


第 31 図　河川跡 2（北部断面図）

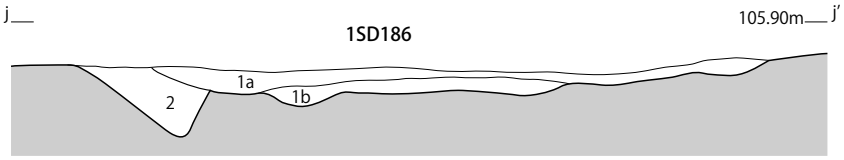


第 32 図　河川跡 3（中央東側平面図）

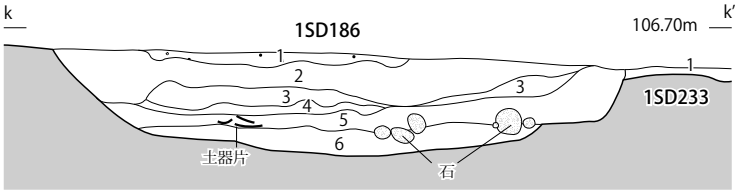


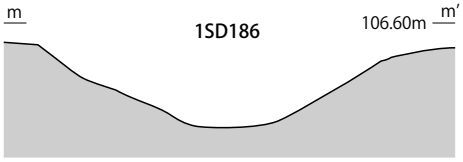


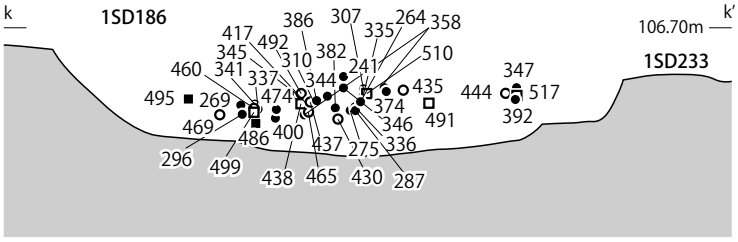
1SD186i-i′土層説明
1層　10YR2/2黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。
2層　10YR2/1黒色のシルト層。
3層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。しまり弱い。
4層　10YR2/1黒色のシルト層に10YR3/3暗褐色砂が層状に混入。しまり弱い。
5層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。しまり弱い。
6層　10YR3/3暗褐色の粗砂層（最下層砂層）



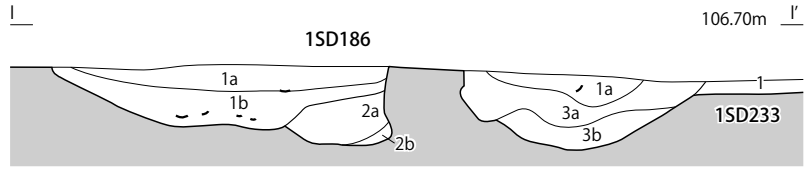
1SD186j-j′土層説明
1a層　10YR2/1黒色のシルトに10YR2/2黒褐色砂が斑状に混入。
1b層　10YR3/3暗褐色の砂層。粘性弱い。土器を含む。
2層　10YR4/4灰黄褐色のシルト質細砂と10YR2/1黒色のシルトが互層状に堆積。粘性弱い。下層溝覆土層。





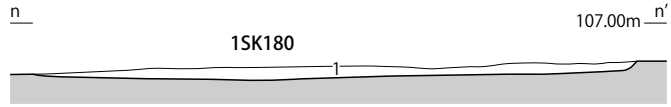


1SD186k-k′土層説明
１層　10YR2/1黒色のシルト層に灰白色火山灰がブロック状に混入。粘性弱い。
２層　10YR3/1黒褐色のシルトに層10YR4/2灰黄褐色砂が斑状に混入。
３層　10YR4/3にぶい黄褐色砂。炭化物を含む。
４層　10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり弱い。
５層　10YR3/1黒褐色のシルトに10YR2/2黒褐色砂が少量混入。粘性強い。炭化物、焼土を多量に含む。
６層　10YR4/3にぶい黄褐色の砂層。粘性弱い。

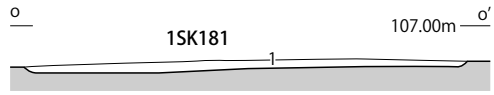


1SD233土層説明
１層　7.5YR3/3暗褐色のシルト質砂層。粘性弱い。しまり強い。小礫を多量に含む。

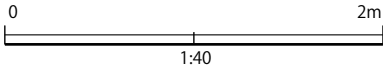
1SD186l-l′土層説明
1a層　10YR3/2黒褐色のシルト層。灰白色火山灰を少量含む
1b層　10YR3/3暗褐色のシルト質砂層。粘性弱い。土器片を多量に含む。
2a層　10YR2/1黒色のシルト層に10YR3/1黒褐色の砂が斑状に混入し、10YR5/4にぶい黄褐色のシルトがブロック状に混入。粘性・しまり強い。
2b層　10YR4/3にぶい黄褐色の砂層。粘性弱い。
3a層　10YR3/2黒褐色のシルト質砂層。粘性弱い。しまり強い。
3b層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性強い。



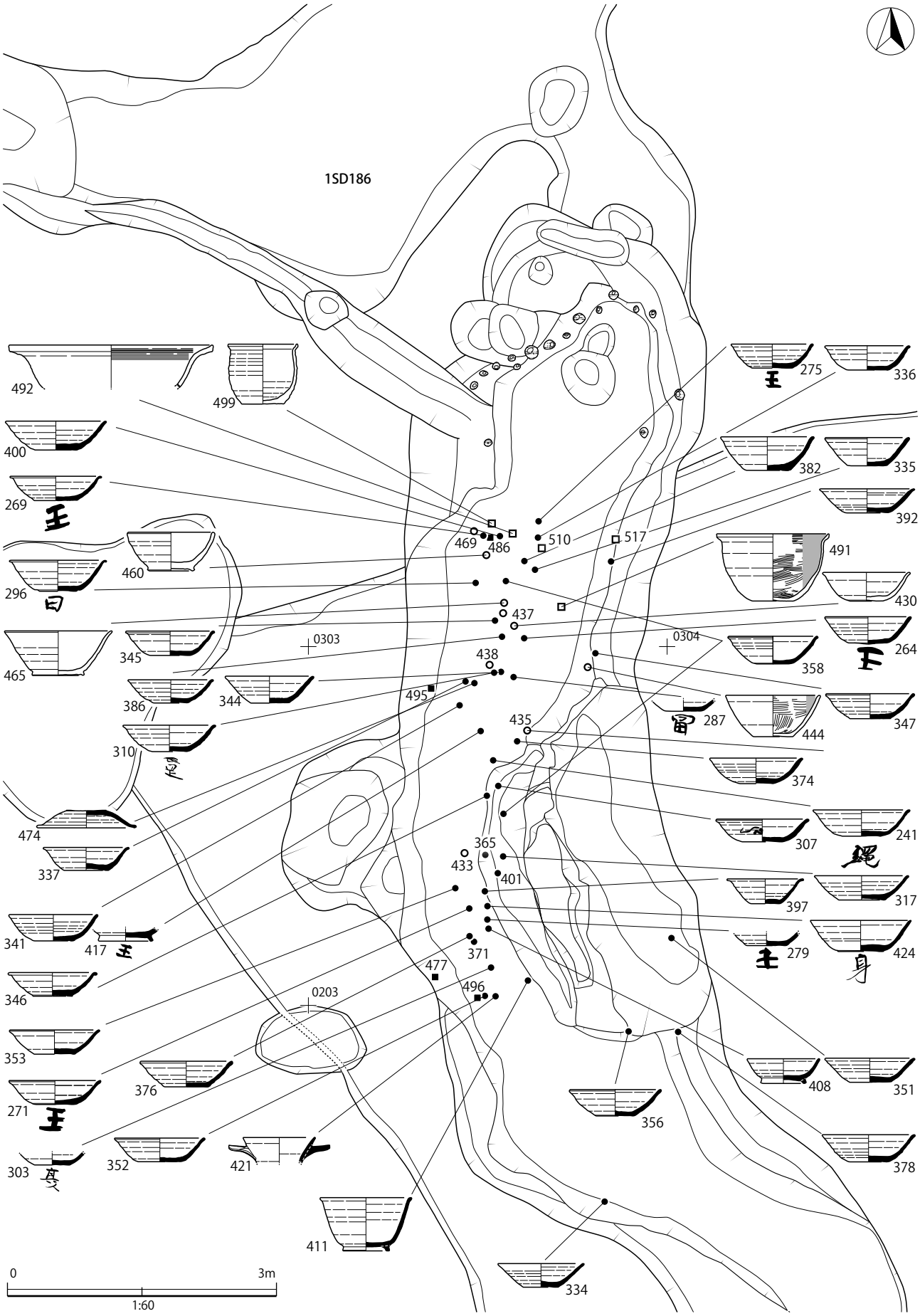
1SK180土層説明
１層　10YR3/3暗褐色のシルト層。



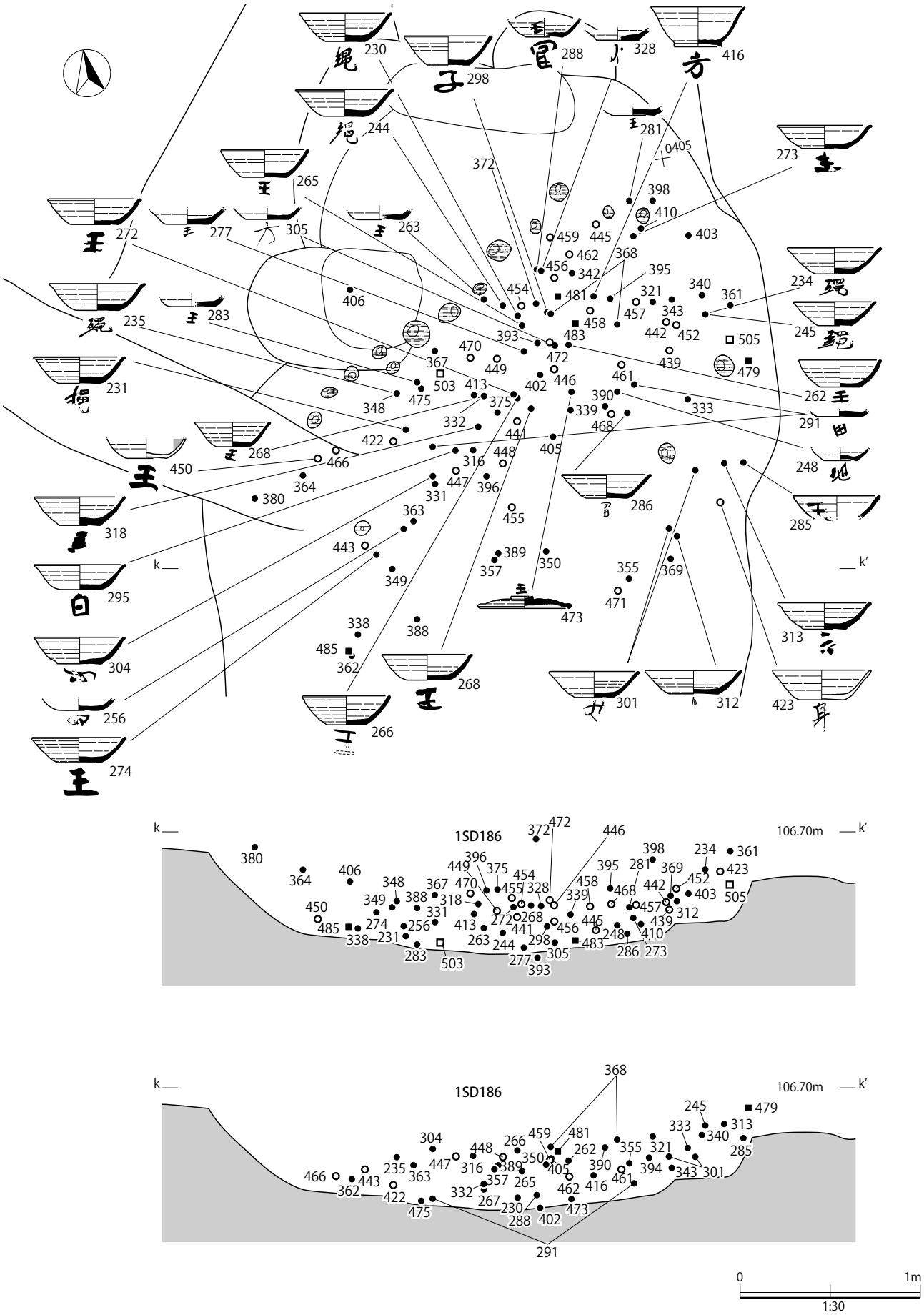
1SK181土層説明
10YR2/2黒褐色シルトに10YR4/4褐色シルトがブロック状に混入。



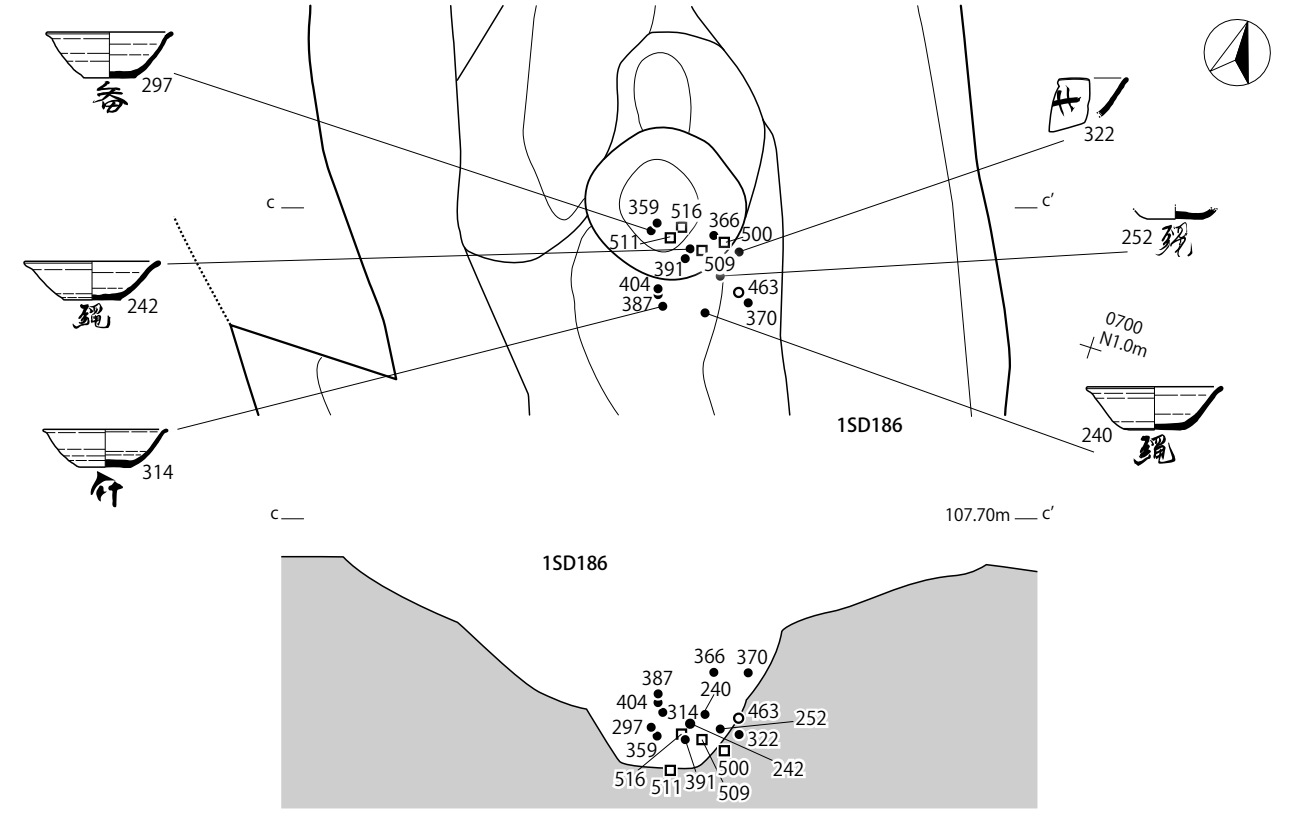
第 33 図　河川跡４（中央東側断面図）

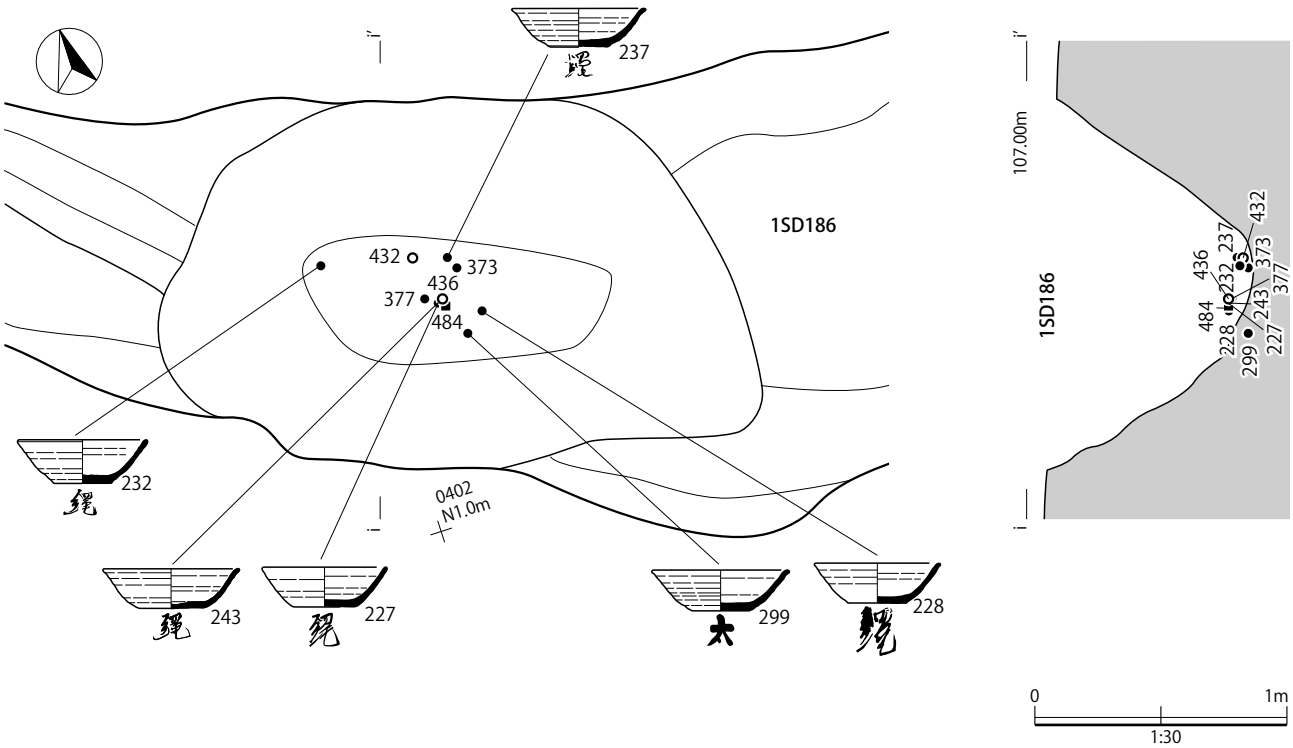


第 34 図　河川跡 5（1SD186 遺物出土状況図 1）

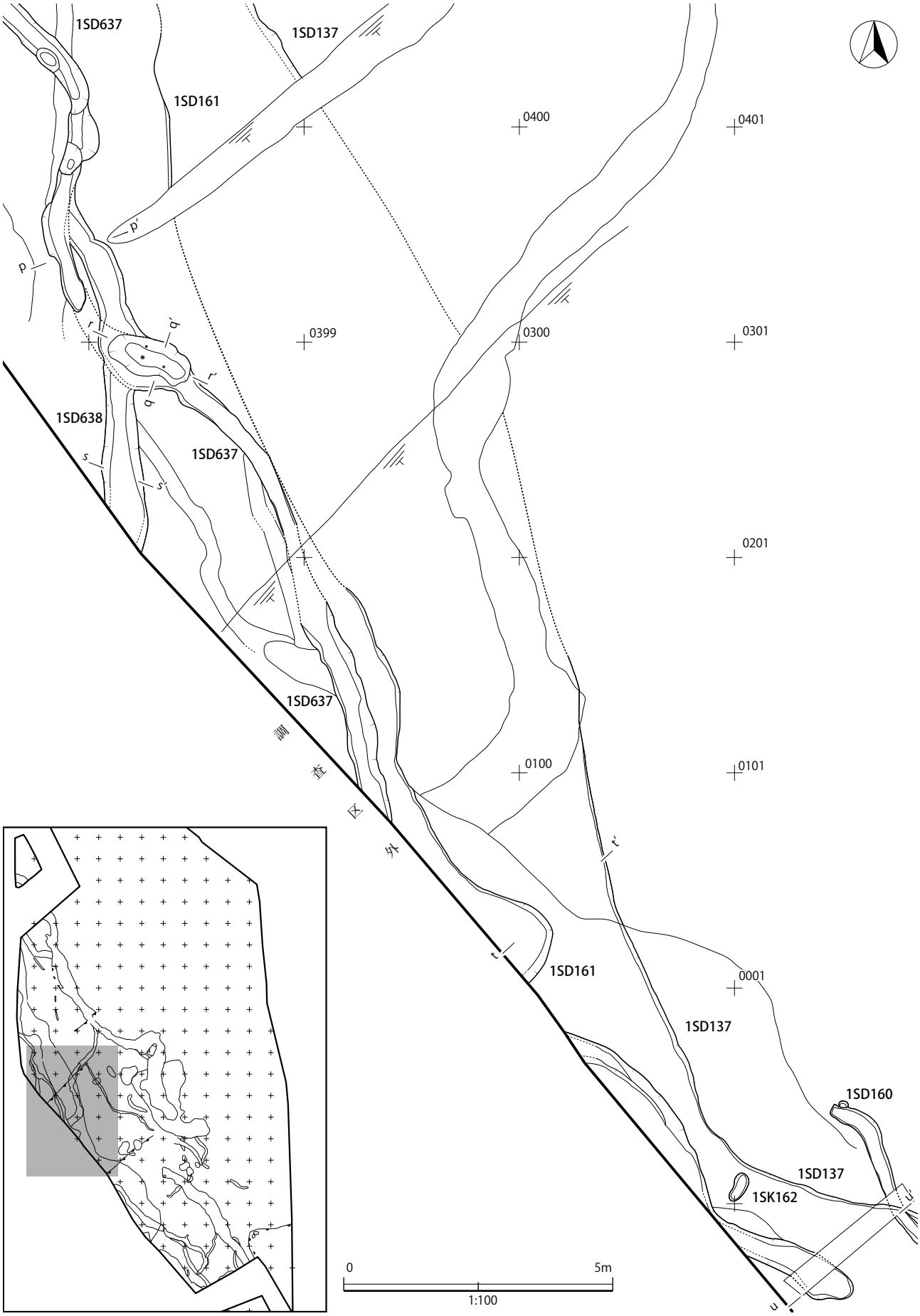


第 35 図　河川跡６（1SD186 遺物出土状況図２）

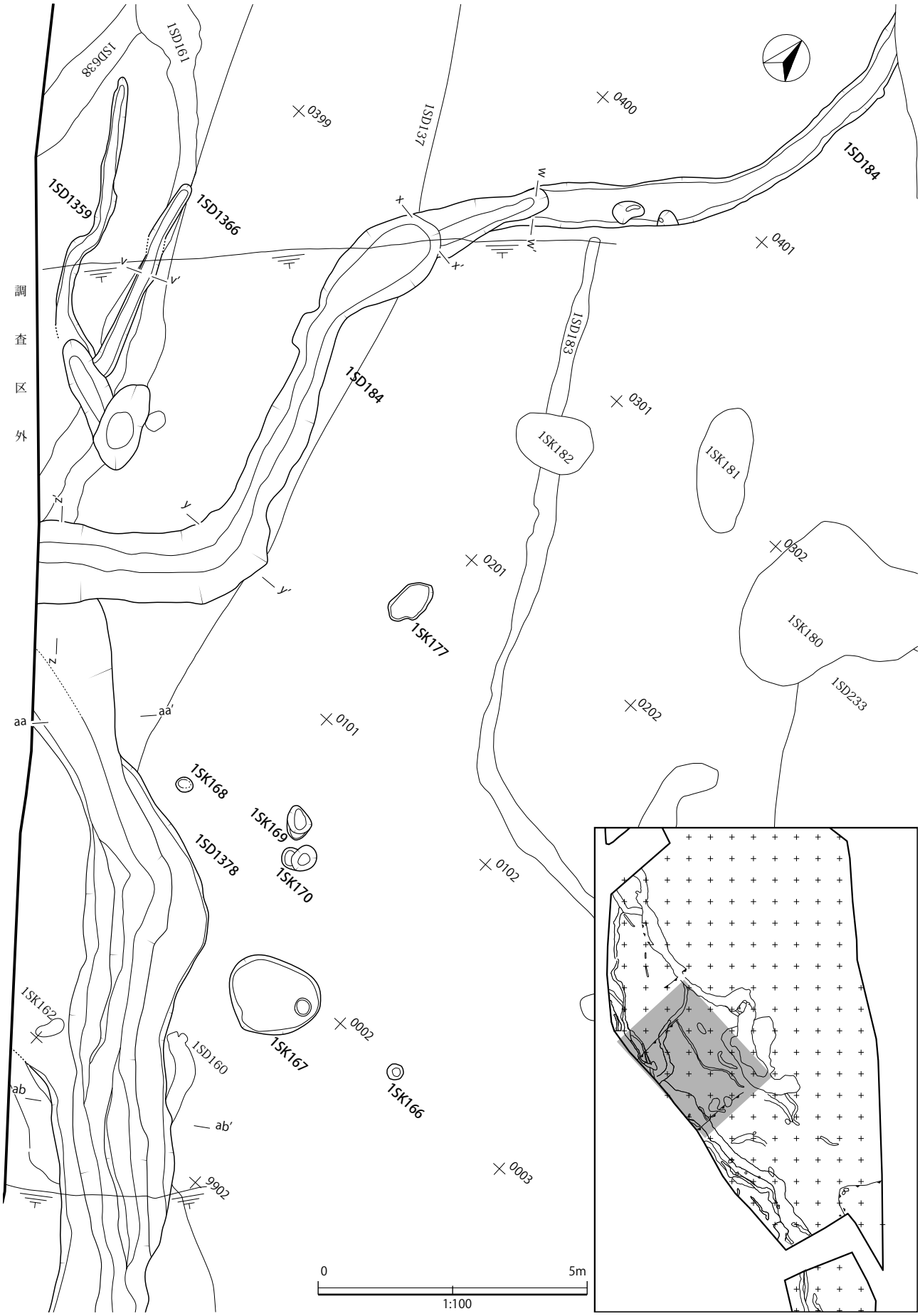




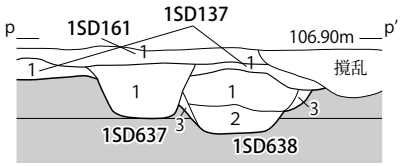
第 36 図　河川跡７（1SD186 遺物出土状況図３）

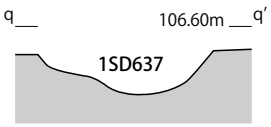


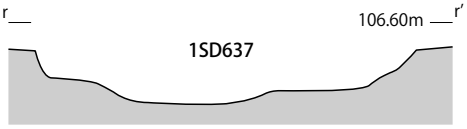
第 37 図　河川跡８（中央西側上層平面図）



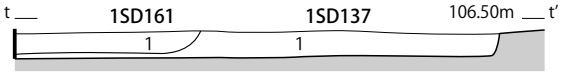
第 38 図　河川跡 9（中央西側下層平面図）

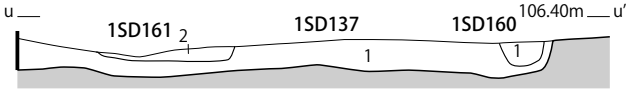






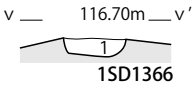
1SD637土層説明
１層　10YR3/2黒褐色のシルト質砂層に黒色シルトが斑状に混入。粘性弱い。
1SD638土層説明
１層　10YR4/3にぶい黄褐色の砂層。粘性弱い。しまり強い。
２層　10YR4/2灰黄褐色の細粒砂層。粘性弱い。
３層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。



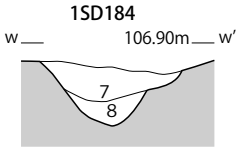


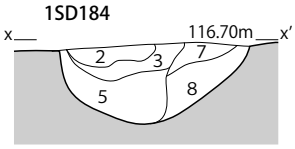
1SD161土層説明
１層　10YR4/2灰黄褐色の砂質シルト層。しまり強い。
２層　10YR4/4褐色土のシルト質砂層。粘性・しまり弱い。

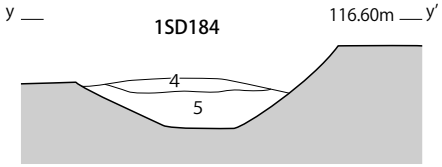
1SD137土層説明
１層　10YR3/1黒褐色の砂質シルト層。
1SD160土層説明
１層　10YR3/4暗褐色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。

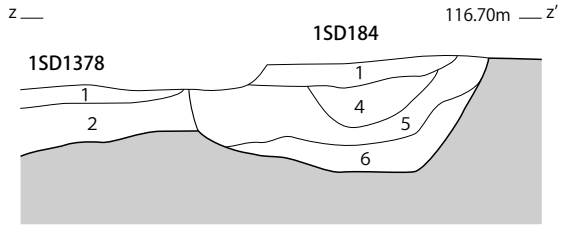


1SD1366土層説明
１層　7.5YR2/1黒色土の粘土質シルト層に砂を多量に含む。しまり強い。

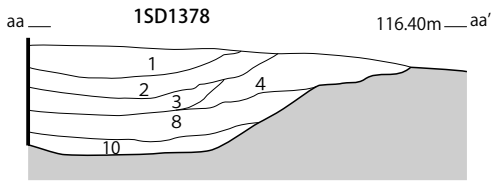


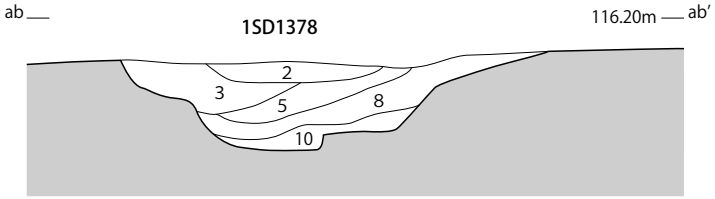




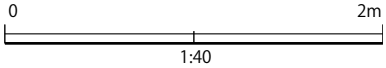


1SD184土層説明
１層　7.5YR3/3暗褐色の粘土質シルト層に砂を大量に含む。しまり強い。
２層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層に灰白色粘土塊が混在する。
粘性・しまり強い。
３層　7.5YR4/1褐灰色の粘土質シルト層に黒色粘土を多量に含む。
粘性・しまり強い。
４層　7.5YR3/3暗褐色の砂質シルトに小礫φ～20㎜を多量に含む。
粘性やや弱い。しまりやや強い。
５層　7.5YR3/3暗褐色の粘土質シルト。粘性・しまり強い。
６層　7.5YR2/1黒色の粘土層。粘性・しまり強い。
７層　7.5YR3/3暗褐色の砂質シルト層に小礫φ～20㎜を含む。
粘性やや弱い。しまり強い。
８層　7.5YR2/1黒褐色の粘土層と5YR2/2黒褐色の砂質シルト層の互層。
粘性・しまり強い。

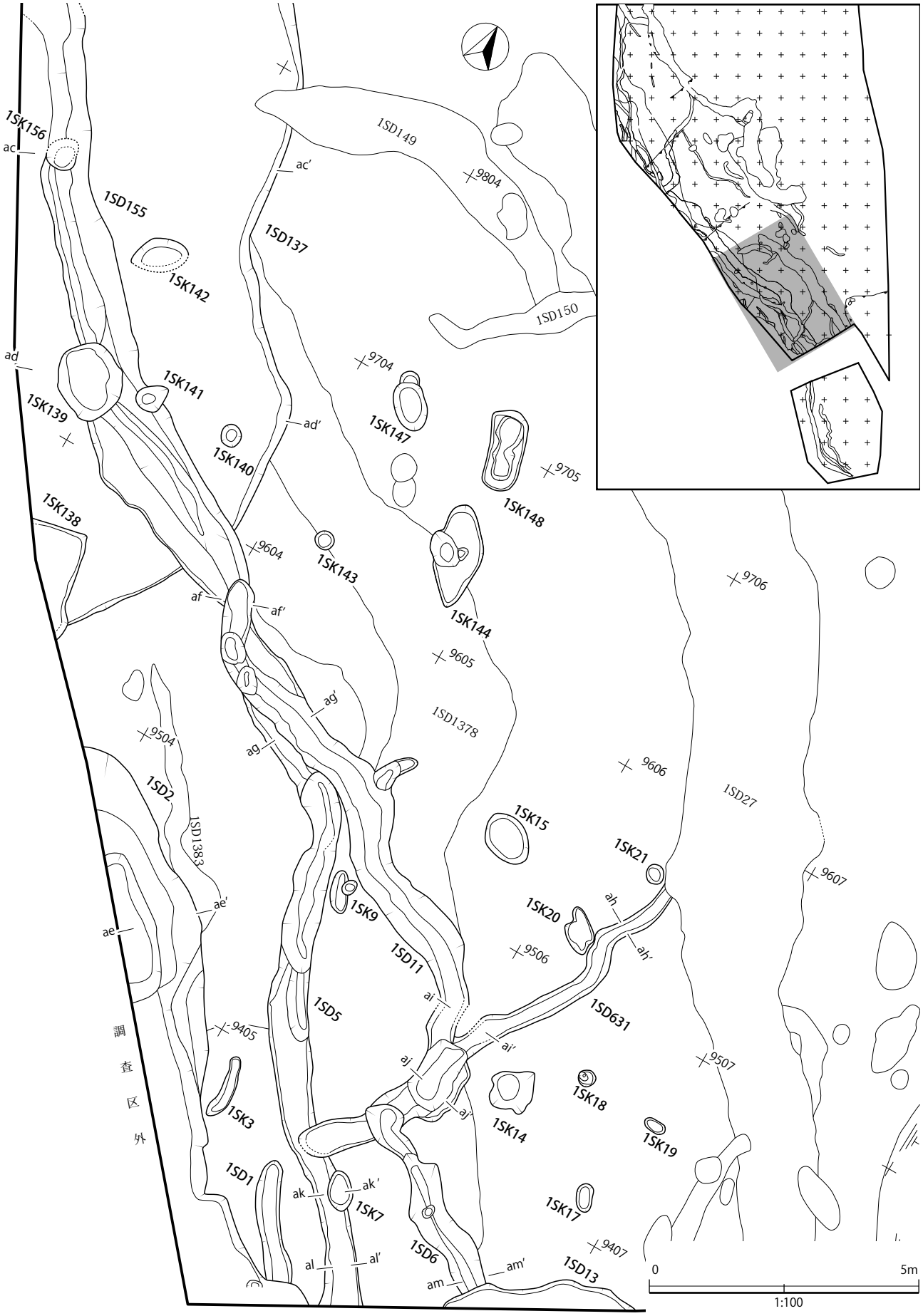




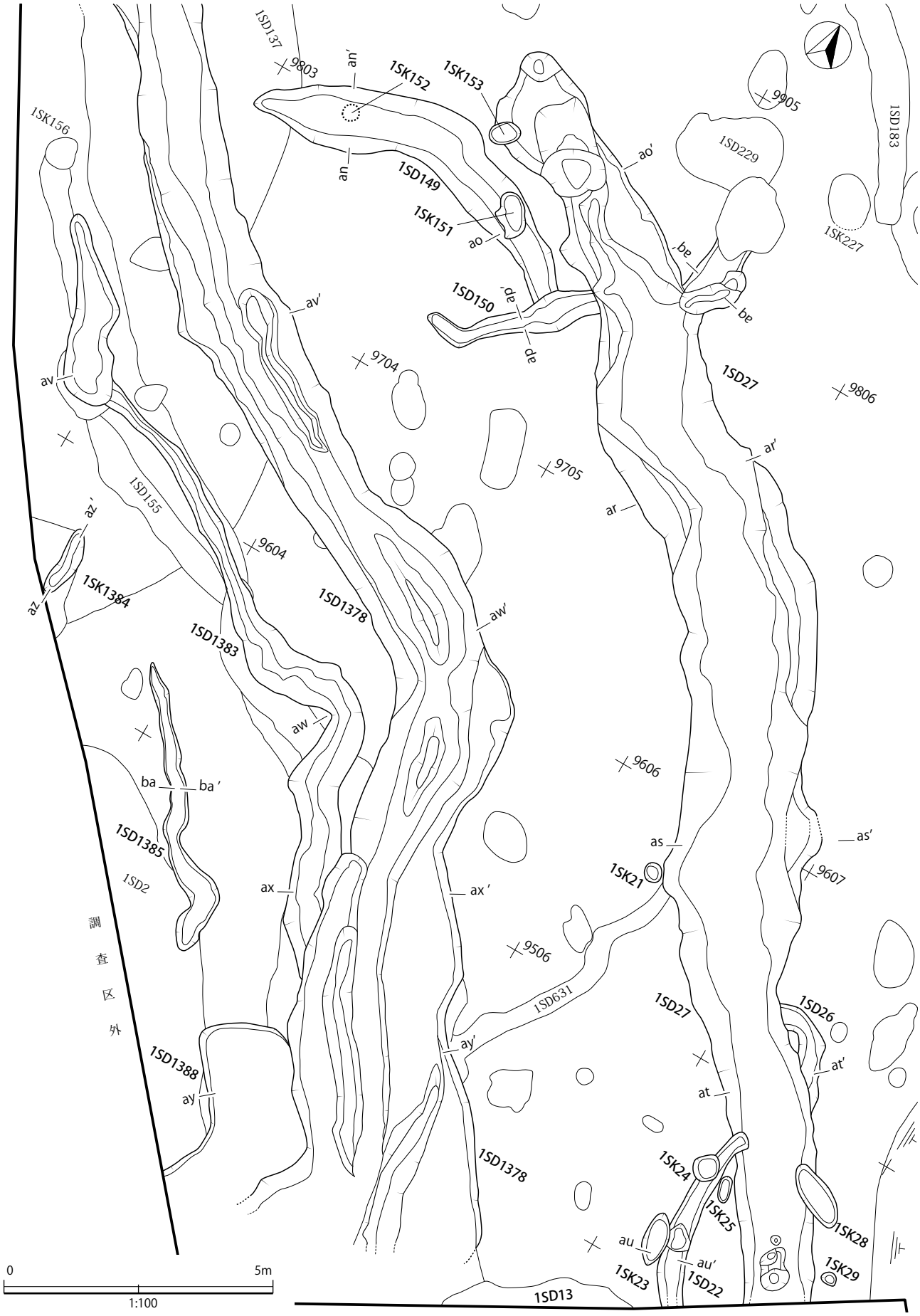
1SD1378土層説明
１層　10YR2/1黒色の粘土質シルト層に白色粘土を少量含む。粘性・しまり強い。
２層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。
３層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層に粗粒砂を多量に含む。粘性・しまりやや強い。
４層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。
５層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層に砂を含む。粘性やや強い。しまり強い。
６層　7.5YR3/4暗褐色の粘土質シルト層に砂を少量含む。粘性・しまりやや強い。
７層　7.5YR4/1褐灰色の粘土質シルト層に細粒砂を多量に含む。。粘性強い。
８層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性強い。しまりやや強い。
９層　7.5YR3/4褐灰色の粘土質シルト層に細粒砂を多量に含む。粘性強い。
10層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層に細粒砂を多量に含む。粘性・しまりやや強い。



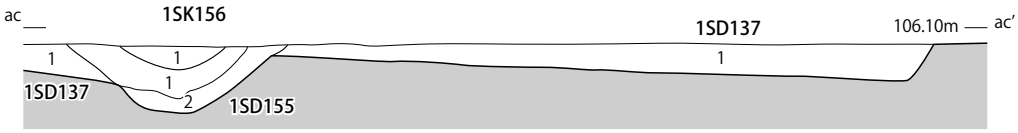
第 39 図　河川跡 10（中央西側上・下層断面図）



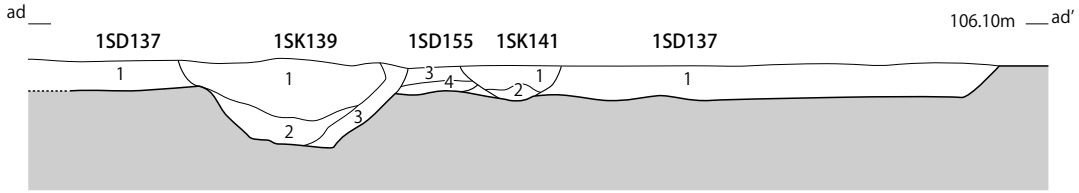
第 40 図　河川跡 11（南部平面図 1）



第 41 図　河川跡 12（南部平面図２）

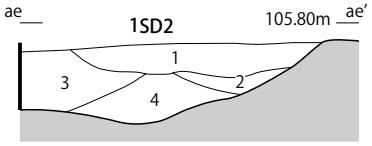


1SK156土層説明
１層　5YR2/2黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。



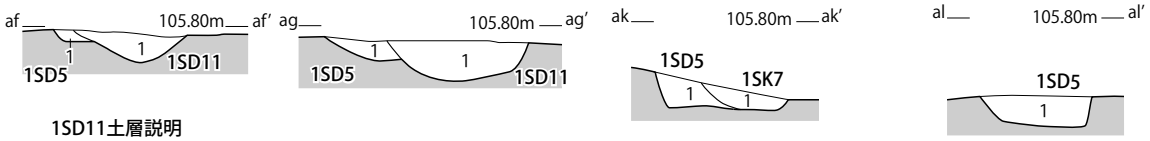
1SD155土層説明
１層　10YR2/2黒褐色の粗粒砂層。粘性弱い。しまり強い。赤褐色土粒含む。
２層　10YR3/4暗褐色の砂質シルト層。しまり強い。
３層　5YR2/1黒褐色のシルト質粘土層。粘性・しまり強い。黄橙色土ブロックを含む。
４層　7.5YR3/1黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。

1SK139土層説明
１層　7.5YR7/2明褐灰色の粘土層。粘性・しまり強い。赤褐色土粒を含む。
２層　5YR5/2灰褐色土の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。黄橙色・暗褐色土塊を含む。
３層　5YR2/1黒褐色土の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。黄橙色土塊を含む。



1SK141土層説明
１層　10YR3/2黒褐色の粘土質シルト層。粘性強い。しまり強い。
２層　10YR3/1黒褐色土の砂質シルト層。粘性やや弱い。しまり強い。

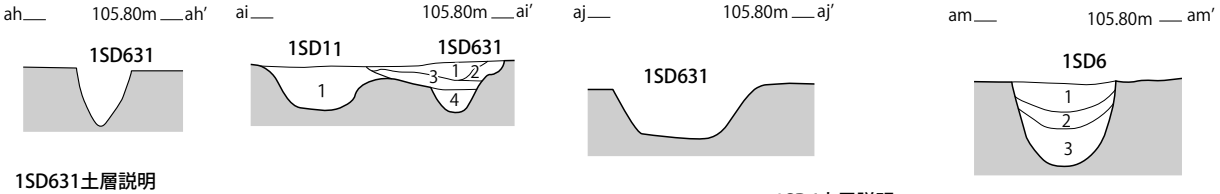
1SD2土層説明
１層　2.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性強。しまり強。赤褐色土粒を含む。
２層　10YR3/3暗褐色のシルト層。粘性強。しまり強。赤褐色土粒多量。
３層　7.5YR2/1黒色の砂質シルト層。粘性強。しまり強。
４層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性強。しまり強。黄橙色土粒を含む。



1SD11土層説明
１層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。

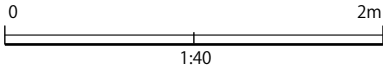
1SD5土層説明
１層　10YR4/6褐色の砂質シルト層。粘性やや弱い。しまり強い。

1SK7土層説明
１層　7.5YR3/4暗褐色の砂層。粘性やや弱い。

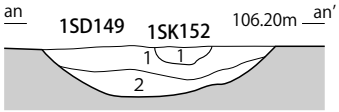


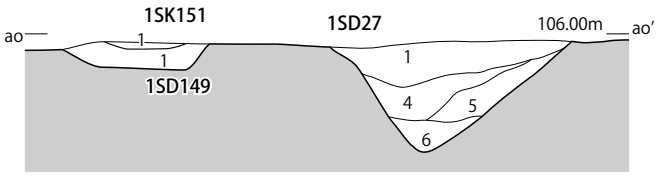
1SD631土層説明
１層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。
２層　10YR2/3黒褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。赤褐色土粒多量。
３層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。赤褐色土粒を含む。
４層　5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。黒色、黄褐色土塊を含む。

1SD6土層説明
１層　5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性強い。しまり強い。
２層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性強い。
３層　7.5YR3/4暗褐色の粘土質シルト層。粘性強い。



第 42 図　河川跡 13（南部断面図１）

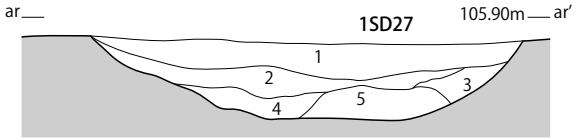


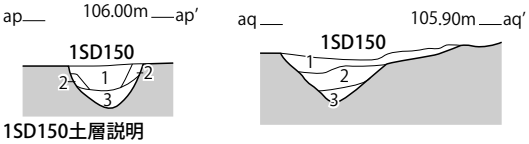


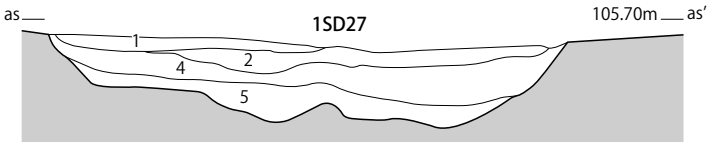
1SK151土層説明
1 層　10YR2/1砂質シルト。

1SD152土層説明
1 層　5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。

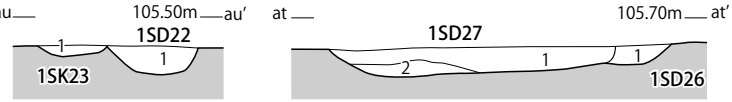
1SK149土層説明
1 層　7.5YR3/4暗褐色の砂層。粘性やや弱い。しまり強い。
2 層　10YR3/3暗褐色の粗粒砂層。粘性やや弱い。しまり強い。







1SD150土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色の砂質シルト層。しまり強い。
2 層　10YR3/3暗褐色のシルト層に黒～褐色シルトが斑状に混在。
3 層　10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり弱い。

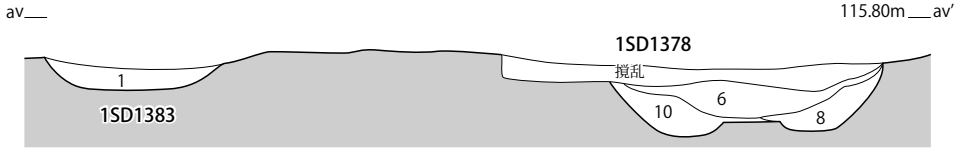


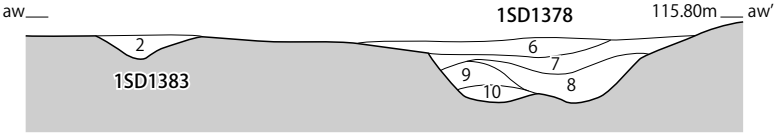
1SD22土層説明
1 層　5YR2/2黒褐色の砂層。粘性やや弱い。しまり強い。

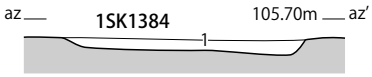
1SK23土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層。

1SD26土層説明
1 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまり強い。

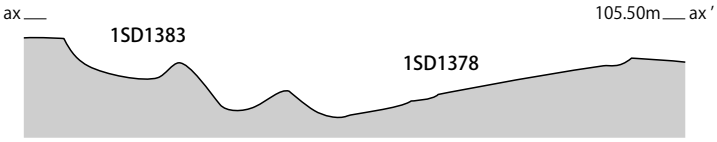
1SD27土層説明
1 層　5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黒色～橙色土粒φ～3㎜を含む。
2 層　7.5YR3/1黒褐色の砂質シルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。
3 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまり強い。
4 層　7.5YR3/3暗褐色の砂質シルト層。粘性やや弱い。しまり強い。橙色土粒φ～10㎜を少量含む。
5 層　10YR2/3黒褐色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。砂を少量含む。粘土ブロックを含む。

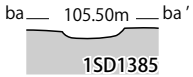


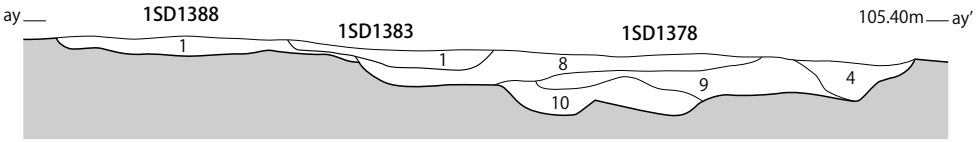




1SK1384土層説明
1 層　7.5YR2/1黒色土のシルト質粘土層。
粘性・しまり強い。褐色土を含む。



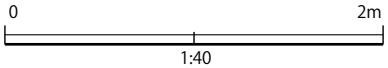




1SD1378土層説明
1 層　10YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。白色粘土を少量含む。
2 層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。
3 層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや強い。粗粒の砂を多量に含む。
4 層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。
5 層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性やや強い。しまり強い。砂を含む。
6 層　7.5YR3/4暗褐色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや強い。砂を少量含む。
7 層　7.5YR4/1褐灰色の粘土質シルト層。粘性強い。細粒砂を多量に含む。
8 層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性強い。しまりやや強い。
9 層　7.5YR3/4褐灰色の粘土質シルト層。粘性強い。細粒砂を多量に含む。
10層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。粘性やや強い。しまりやや強い。細粒砂を多量に含む。

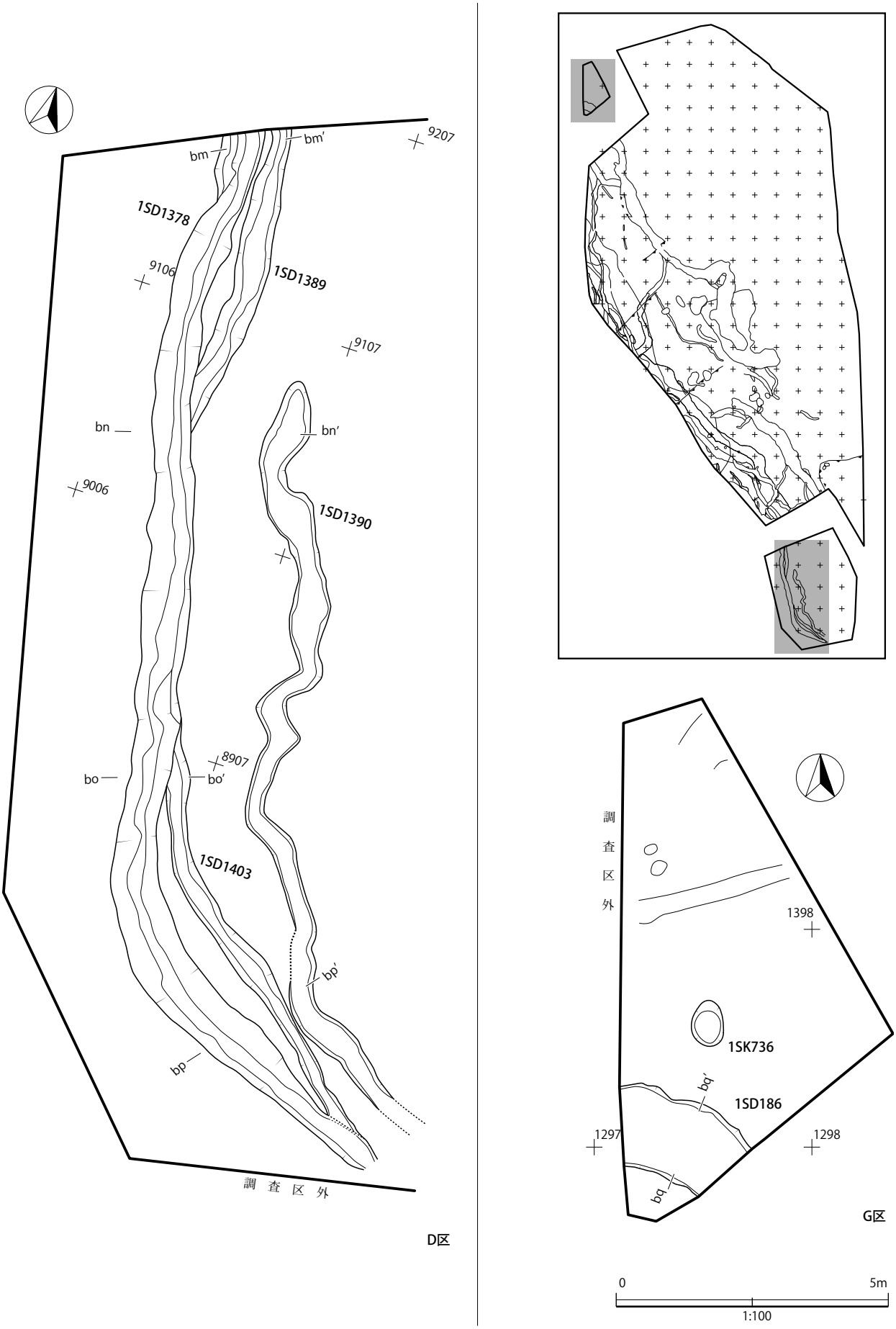
1SD1383土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色の粘土質シルト層と砂層の互層。
粘性・しまりやや強い。
2 層　7.5YR3/1黒褐色の砂質シルト層。
しまりやや強い。

1SD1388土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。

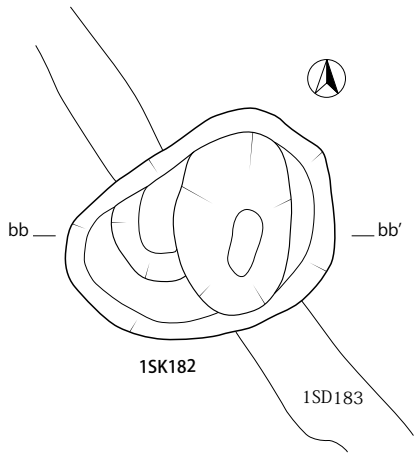


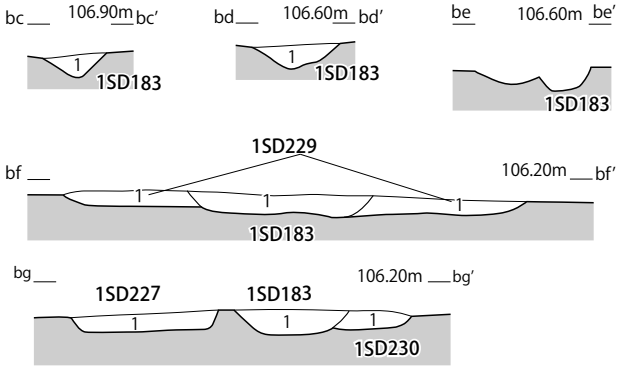
第 43 図　河川跡 14（南部断面図２）

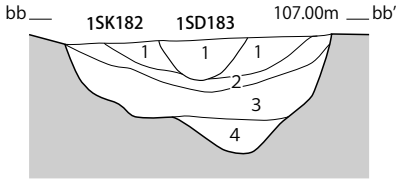
第 44 図　河川跡 15（中央部平面図）



第 45 図　河川跡 16（D・G 区平面図）





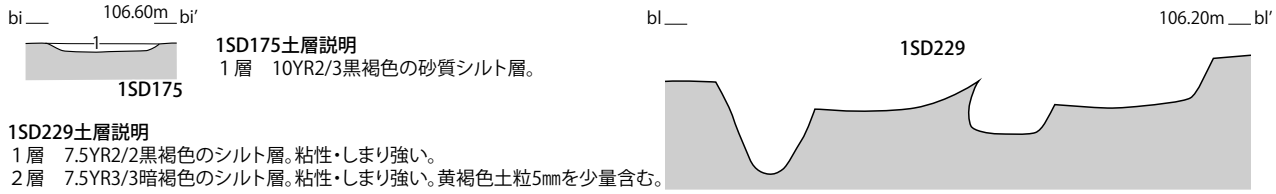


1SK182土層説明
１層　10YR2/1黒色のシルト層。黄褐色土を塊状に含む。しまり強い。
２層　10YR3/1黒褐色のシルト層。灰白色火山灰を塊状に含む。
３層　10YR3/2黒褐色砂質シルト。
４層　10YR3/1黒褐色の粘土質シルトに黄褐色の砂質シルトが少量混入。粘性強い。

1SD183土層説明
１層　10YR2/1黒色のシルト層。

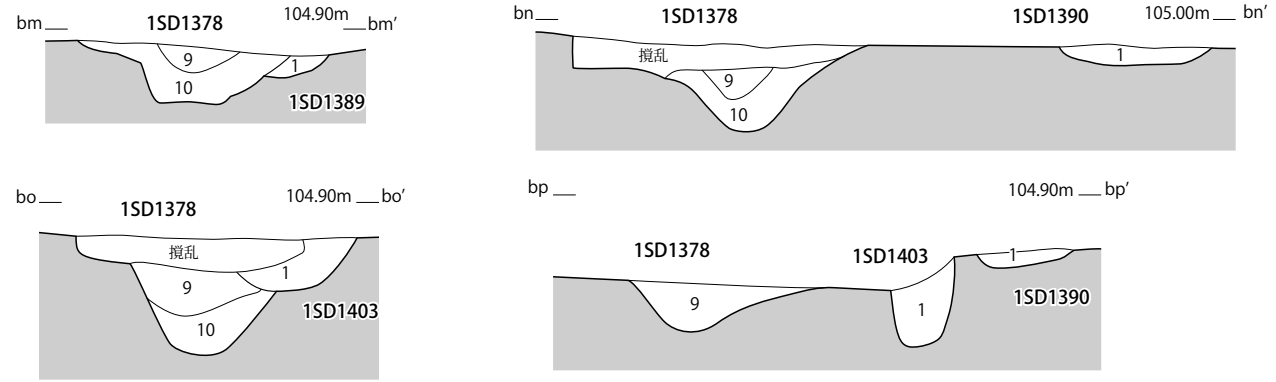
1SD230土層説明
１層　10YR3/3暗褐色土のシルト層。粘性やや弱い。しまり強い。

1SD227土層説明
１層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。



1SD175土層説明
１層　10YR2/3黒褐色の砂質シルト層。

1SD229土層説明
１層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。
２層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黄褐色土粒5㎜を少量含む。

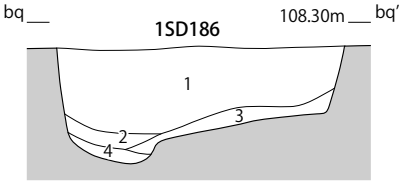


1SD1378土層説明
９層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや強い。細粒砂を多量に含む。
10層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまりやや強い。砂を含む。白色粘土を少量含む。

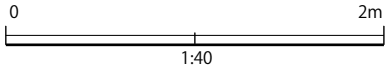
1SD1389土層説明
１層　7.5YR3/1黒褐色の粘土質シルト層。粘性やや強い。しまりやや弱い。砂・黄褐色粘土を含む。

1SD1390土層説明
１層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト層。粘性・しまり強い。

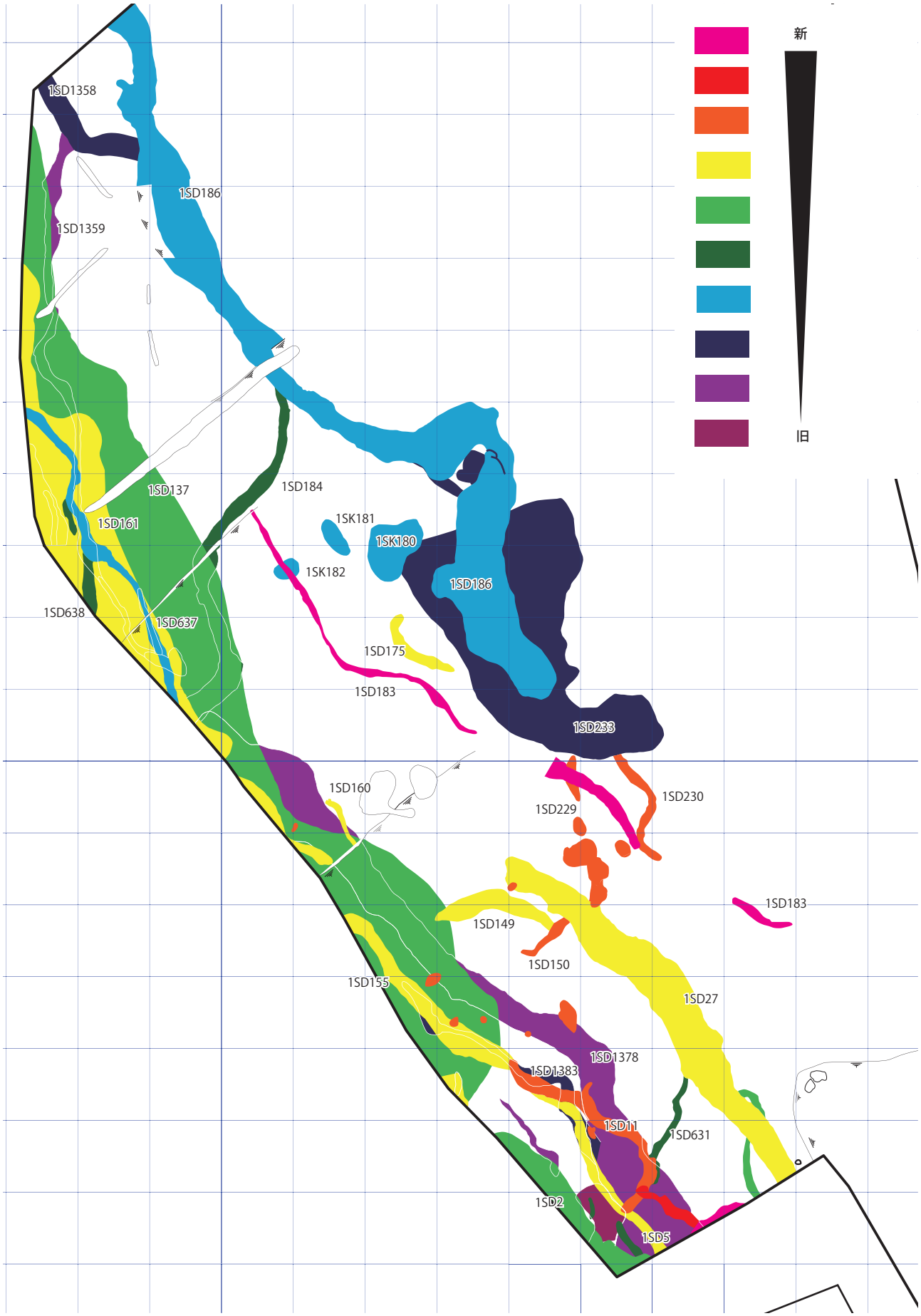
1SD1403土層説明
１層　7.5YR2/1黒色の粘土質シルト。粘性・しまり強い。砂を少量含む。



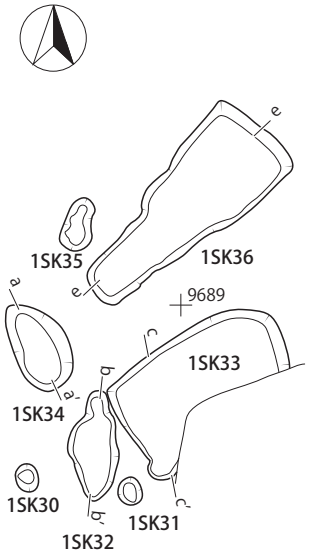
1SD186土層説明
１層　7.5YR2/3極暗褐色の砂質シルトに明褐色シルトを角柱状に含む。しまりやや弱い。
２層　10YR2/1黒色の細粒砂に褐灰色粗砂を粒状に含む。しまりやや弱い。
３層　2.5Y6/1黄灰色の粘土層。粘性・しまり強い。赤褐色の粘土粒を多量に含む。
４層　5Y6/1灰色の粘土層。粘性強い。上部に1黒色粗砂を帯状に含む。

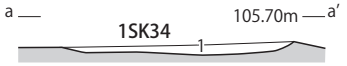


第46図　河川跡17（中央部、D・G区断面図）

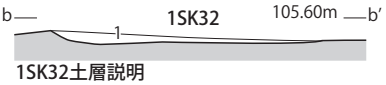


第 47 図　河川跡新旧関係図



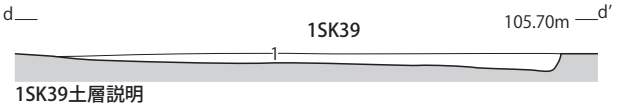


1SK34土層説明
1 層　10YR3/4暗褐色のシルト層に
10YR2/2黒褐色シルトが斑状に混入。



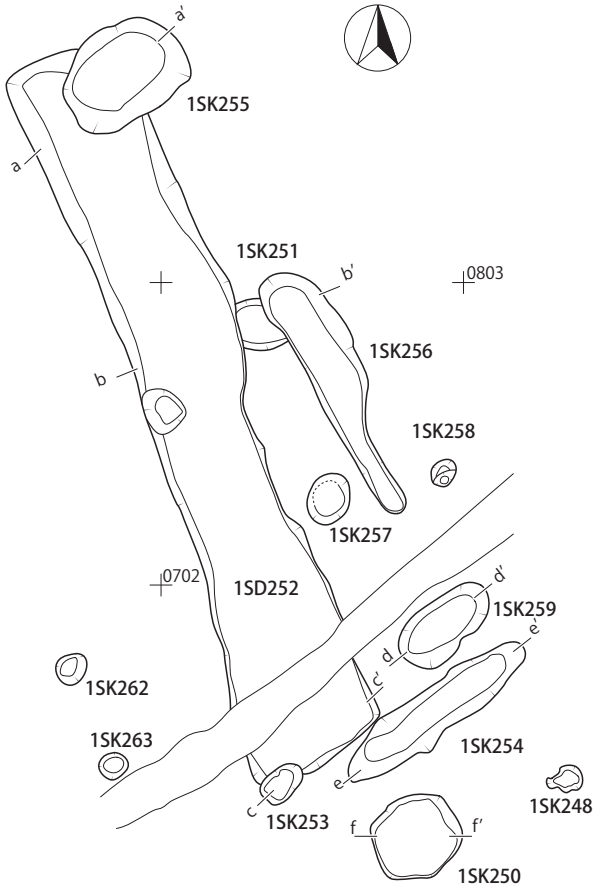
1SK32土層説明
1 層　10YR3/4暗褐色のシルト質粗砂層。
粘性弱い。しまり強い。

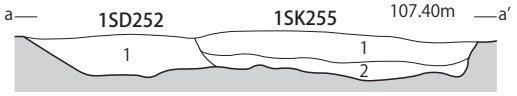
1SK33土層説明
1 層　10YR3/3暗褐色のシルト質砂層。粘性弱い。しまり強い。



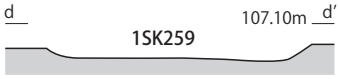
1SK39土層説明
1 層　10YR3/4暗褐色のシルト層に10YR2/2黒褐色シルトが斑状に混入。

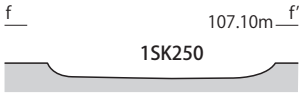
1SK36土層説明
1 層　10YR3/4暗褐色のシルト層に10YR2/2黒褐色シルトが斑状に混入。

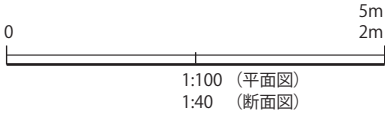




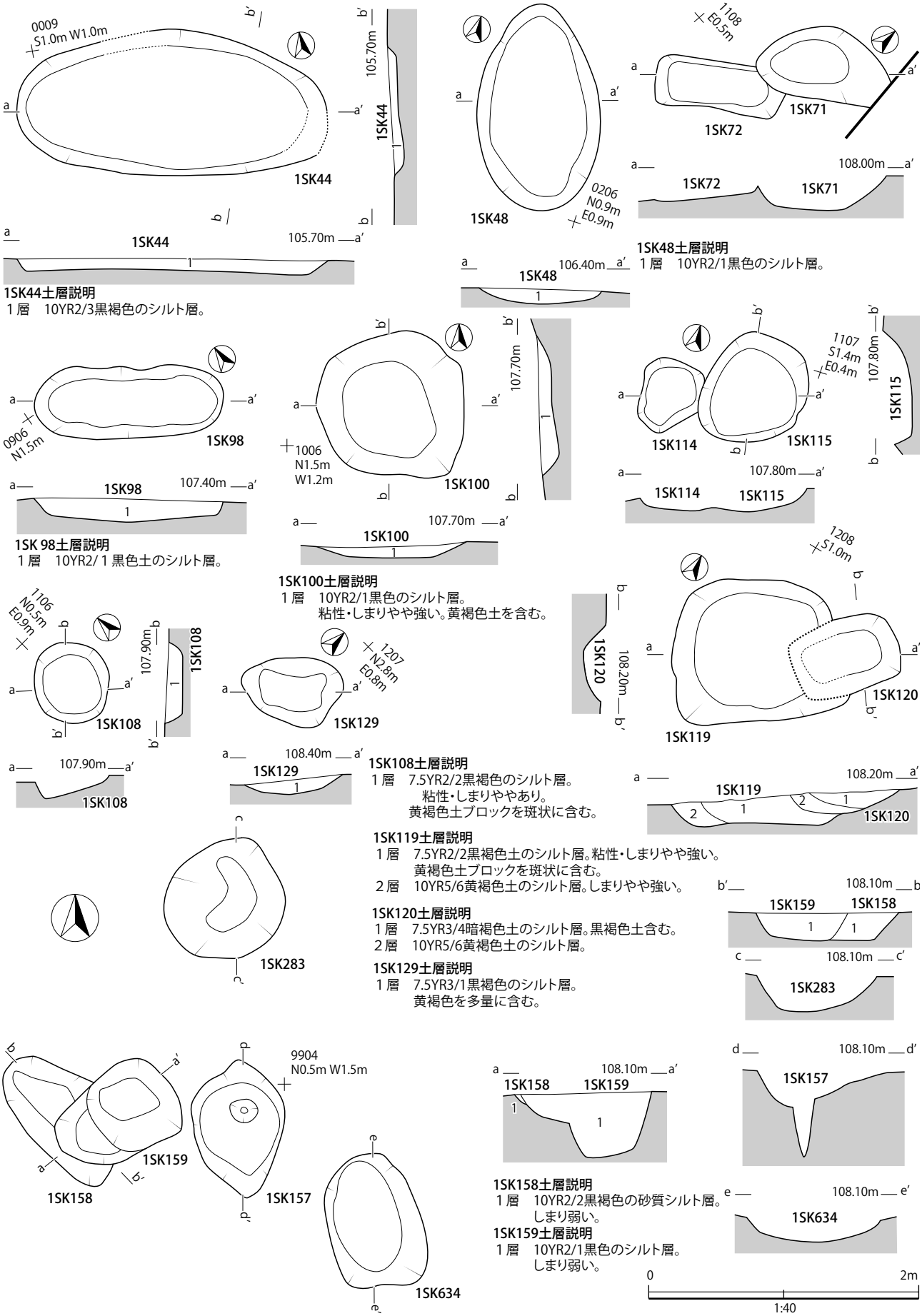
1SK255土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性弱い。
2 層　10YR3/1黒褐色のシルト層に10YR4/6褐色シルトがブロック状に混入。
1SD252土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層に10YR4/4褐色シルトが斑状に混入。



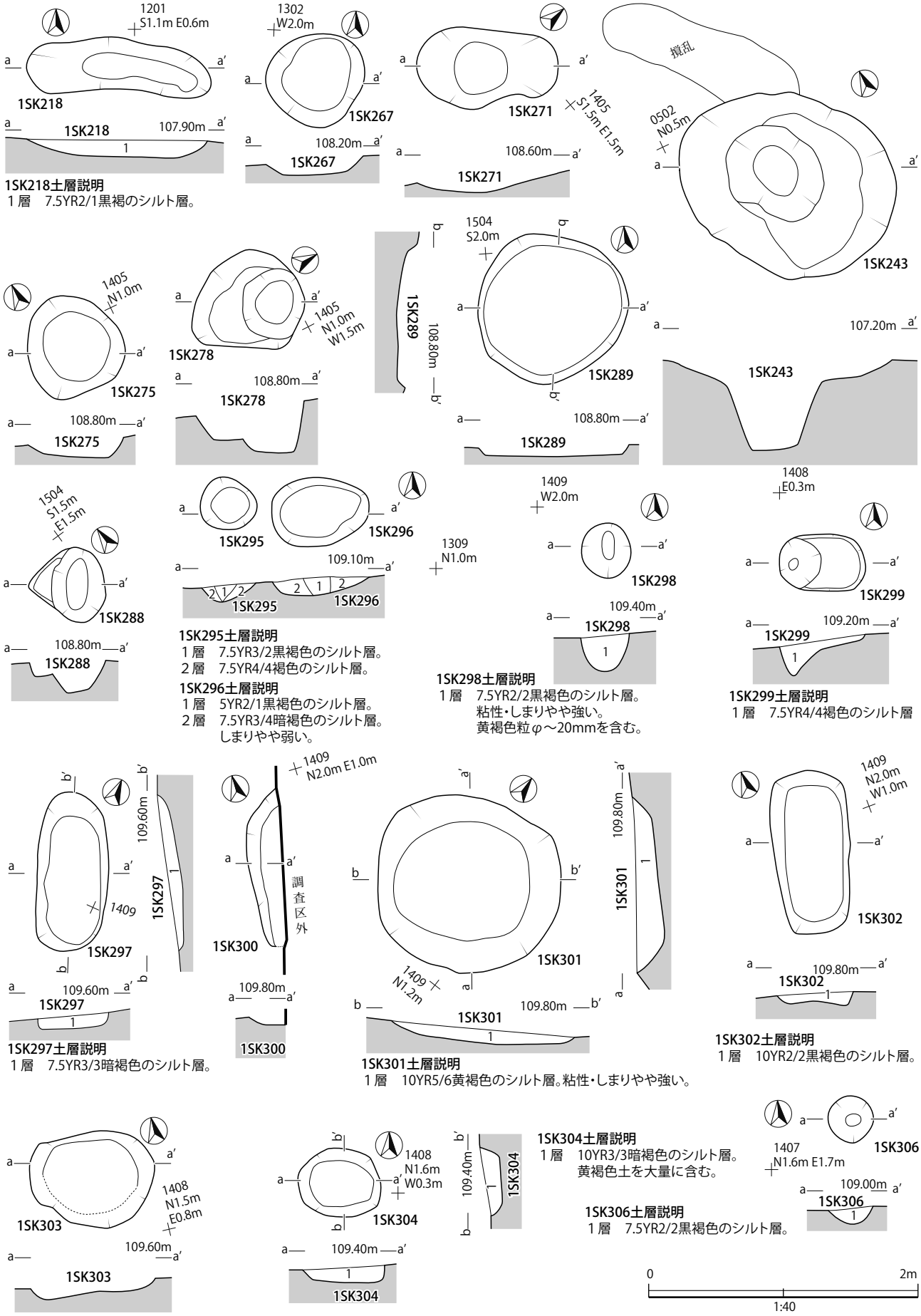




第 48 図　土坑ほか 1 （A 区 -1）



第 49 図　土坑ほか 2 （A 区 -2）



1SK218土層説明
1 層　7.5YR2/1黒褐のシルト層。

1SK295土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
2 層　7.5YR4/4褐色のシルト層。

1SK296土層説明
1 層　5YR2/1黒褐色のシルト層。
2 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。
しまりやや弱い。

1SK298土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性・しまりやや強い。
黄褐色粒φ～20mmを含む。

1SK299土層説明
1 層　7.5YR4/4褐色のシルト層

1SK297土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。

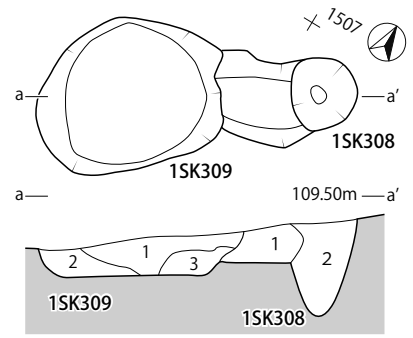
1SK301土層説明
1 層　10YR5/6黄褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。

1SK302土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。

1SK304土層説明
1 層　10YR3/3暗褐色のシルト層。
黄褐色土を大量に含む。

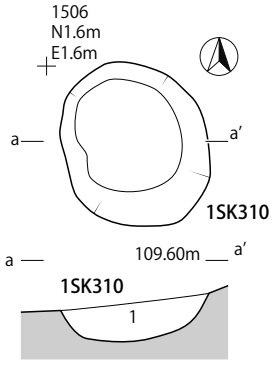
1SK306土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。

第 50 図　土坑ほか 3 （A 区 -3、B 区 -1）

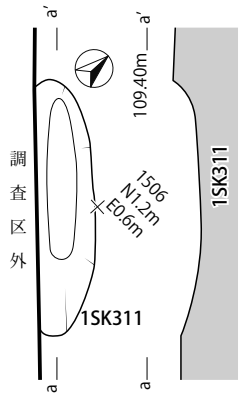


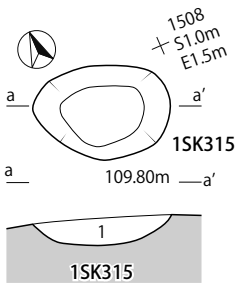
1SK309土層説明
1 層　7.5YR4/6褐色のシルト層。
2 層　7.5YR5/8明褐色のシルト層。
3 層　10YR6/8明黄褐色のシルト層。
粘性・しまりややあり。

1SK308土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。
黄褐色土粒φ～10㎜を少量含む。
2 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。
黄褐色土を少量含む。

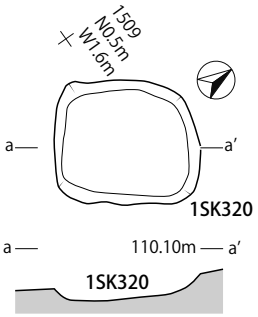


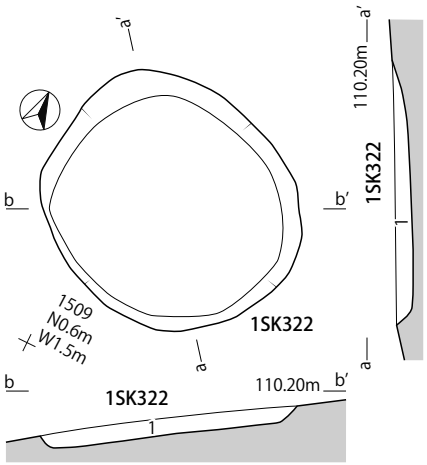
1SK310土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。



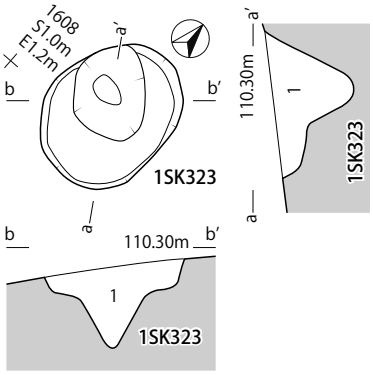


1SK315土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。

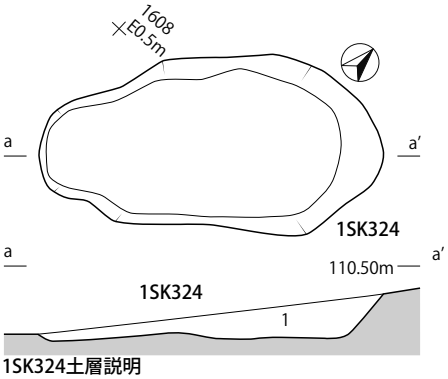




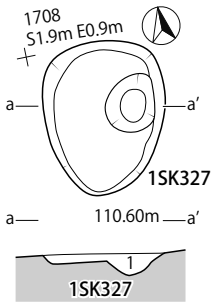
1SK322土層説明
1 層　5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
黄褐色土粒φ～10mmを大量に含む。



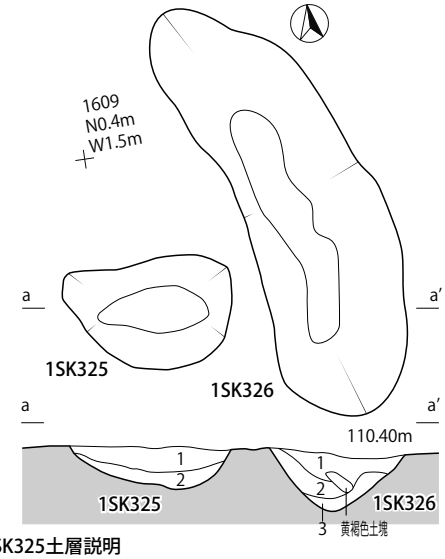
1SK323土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
黄褐色土粒φ～20mmを大量に含む。



1SK324土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黄褐色土を含む。

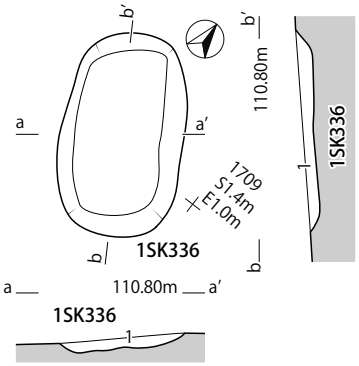


1SK327土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
粘性・しまりあり
黄褐色土粒φ～5mmを少量含む。

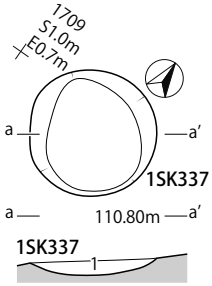


1SK325土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
黄褐色土を少量含む。
2 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
黄褐色土粒φ～10㎜を斑状に含む。

1SK326土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりあり。
黒褐色土・黄橙スコリア粒φ～5㎜を少量含む。
2 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
黄褐色土粒φ～10㎜を多量に含む。
3 層　10YR4/6褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
黄褐色土を斑状に含む。



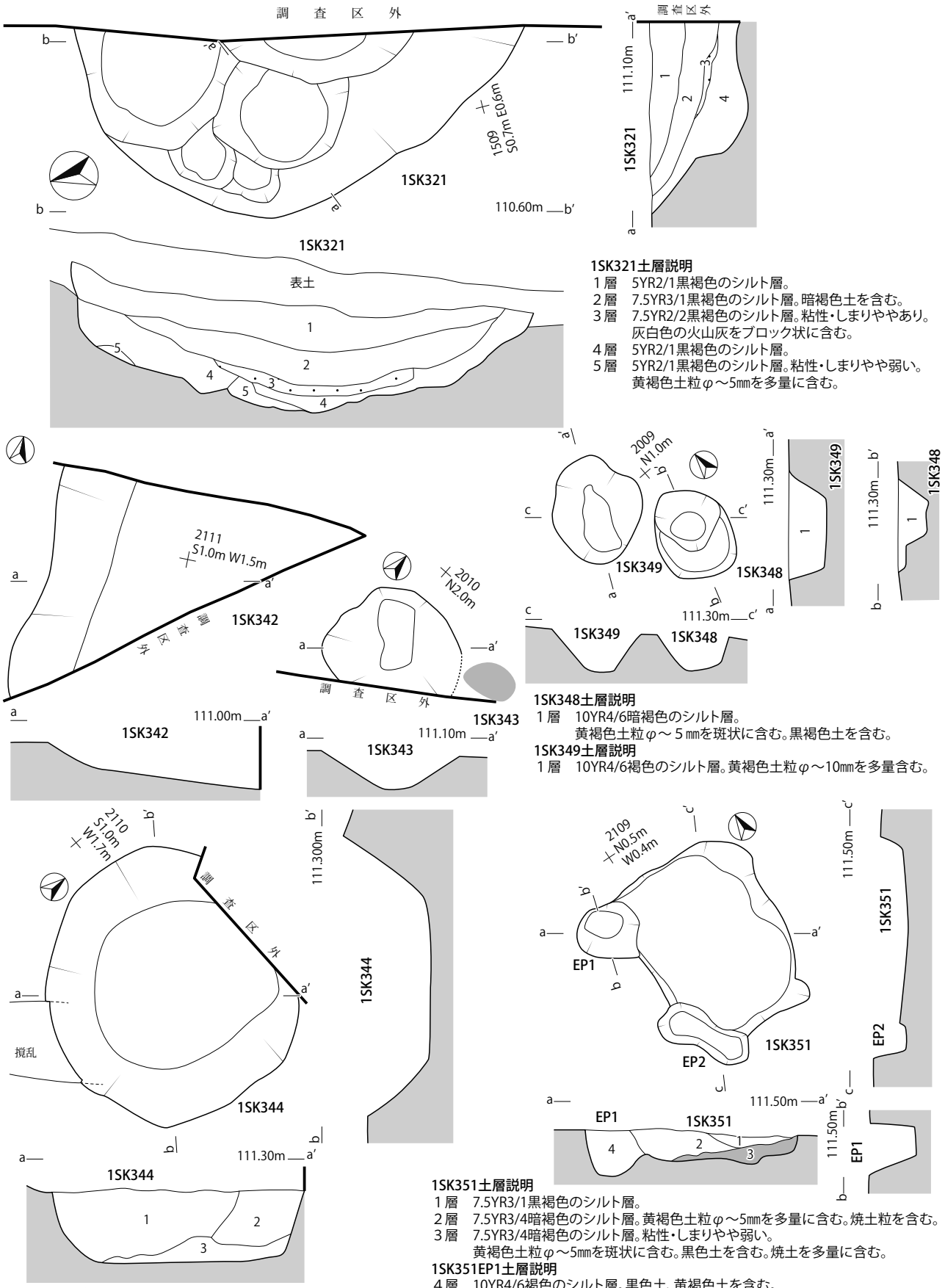
1SK336土層説明
1 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄褐色土粒φ～5mmを大量に含む。



1SK337土層説明
1 層　7.5YR4/6褐色のシルト層。しまりやや強い。
黒褐色土含む。
黄褐色土粒φ～5mmを大量に含む。

0　2m
1:40

第 51 図　土坑ほか 4（B 区 -2）



1SK321土層説明
1層　5YR2/1黒褐色のシルト層。
2層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。暗褐色土を含む。
3層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりややあり。
　　灰白色の火山灰をブロック状に含む。
4層　5YR2/1黒褐色のシルト層。
5層　5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を多量に含む。

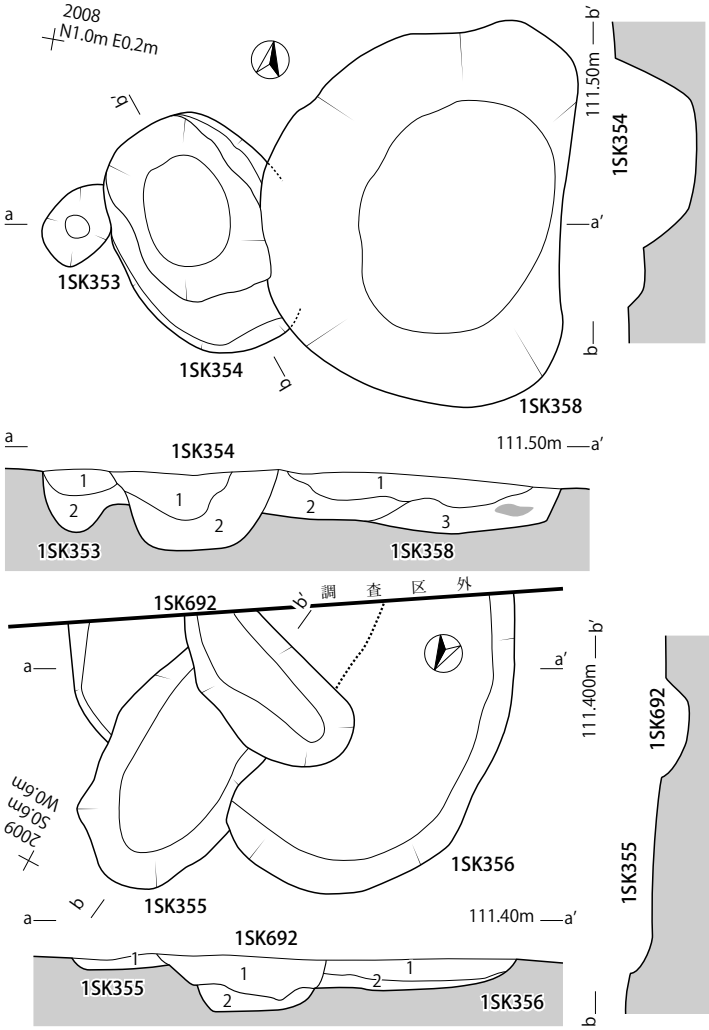
1SK348土層説明
1層　10YR4/6暗褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～５㎜を斑状に含む。黒褐色土を含む。
1SK349土層説明
1層　10YR4/6褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を多量含む。

1SK351土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。
2層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を多量に含む。焼土粒を含む。
3層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を斑状に含む。黒色土を含む。焼土を多量に含む。
1SK351EP1土層説明
4層　10YR4/6褐色のシルト層。黒色土、黄褐色土を含む。

1SK344土層説明
1層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを含む。
2層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を少量含む。
3層　5YR2/2黒色のシルト層。黄褐色土粒φ～20㎜を多量含む。

0　2m
1:40

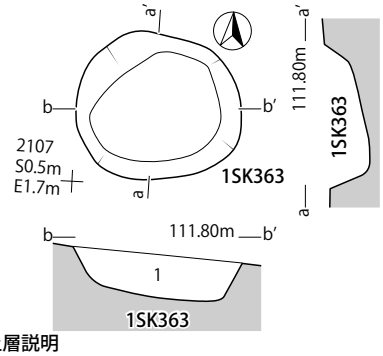
第 52 図　土坑ほか５（B 区 - ３、C 区 - １）



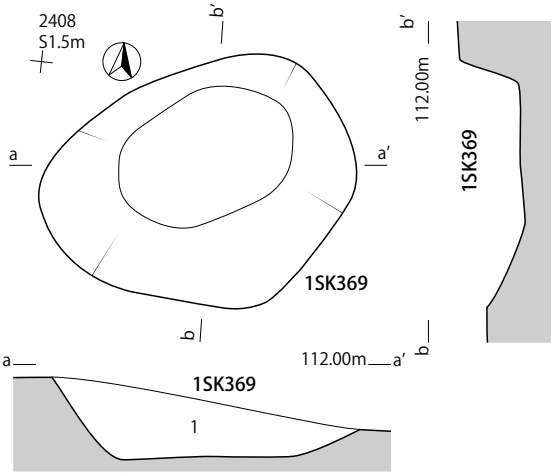
1SK353土層説明
1 層　10YR3/3暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を含む。
2 層　10YR4/6褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を斑状に含む。

1SK354土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を含む。
2 層　10YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
黄褐色土粒φ～5㎜を斑状に含む。

1SK358土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を少量含む。
炭化粒・焼土粒を含む。
2 層　10YR3/1黒褐色のシルト層。
黄褐色土粒φ～10㎜を斑状に含む。焼土粒を含む。
3 層　7.5YR4/4褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄褐色土粒φ～5㎜を含む。炭化粒を含む。焼土を多量に含む。



1SK363土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
黄橙スコリア塊含む。黄褐色土を斑状に含む。

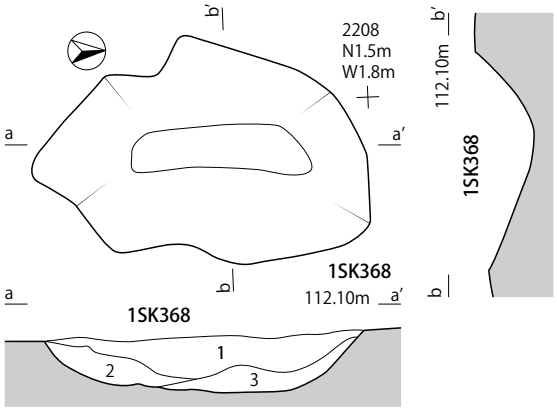


1SK369土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。

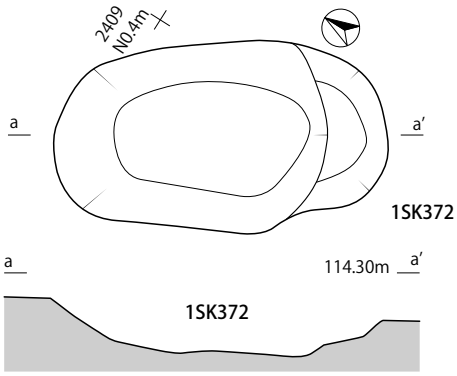
1SK355土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を少量含む。

1SK356土層説明
1 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～20㎜を含む。
焼土、炭化粒を少量含む。
2 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
黄褐色土粒φ～10㎜を斑状に含む。

1SK692土層説明
1 層　7.5YR2/2暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
黄褐色土粒φ～5㎜を斑状に含む。
2 層　7.5YR2/2暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。

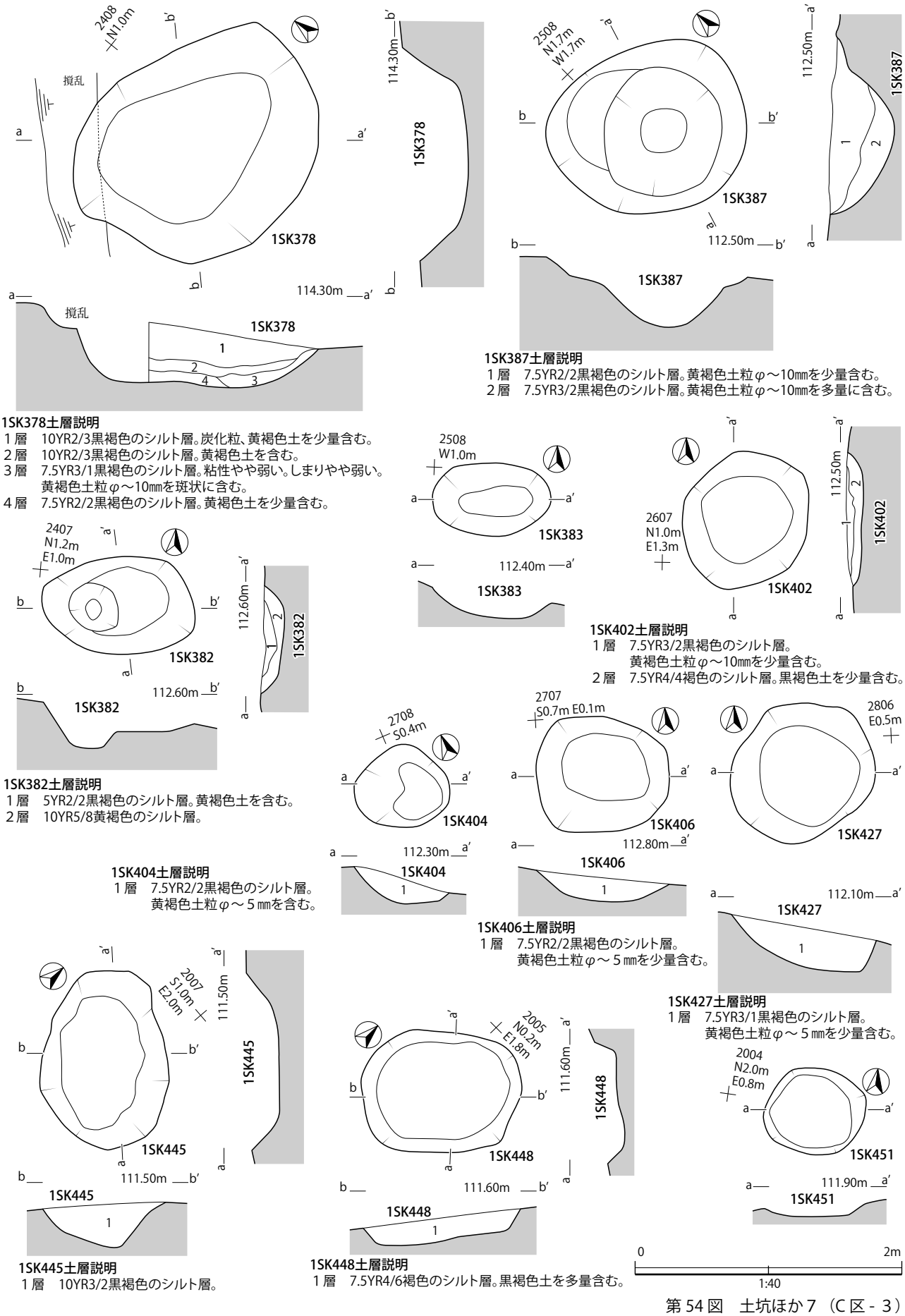


1 SK368土層説明
1 層　5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。黄褐色土を少量含む。
2 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を斑状に含む。
3 層　5YR2/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。



0　2m
1:40

第 53 図　土坑ほか 6（C 区 - 2）



1SK378土層説明
1層　10YR2/3黒褐色のシルト層。炭化粒、黄褐色土を少量含む。
2層　10YR2/3黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。
3層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
　　黄褐色土粒φ～10㎜を斑状に含む。
4層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を少量含む。

1SK387土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を少量含む。
2層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を多量に含む。

1SK402土層説明
1層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～10㎜を少量含む。
2層　7.5YR4/4褐色のシルト層。黒褐色土を少量含む。

1SK382土層説明
1層　5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。
2層　10YR5/8黄褐色のシルト層。

1SK404土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を含む。

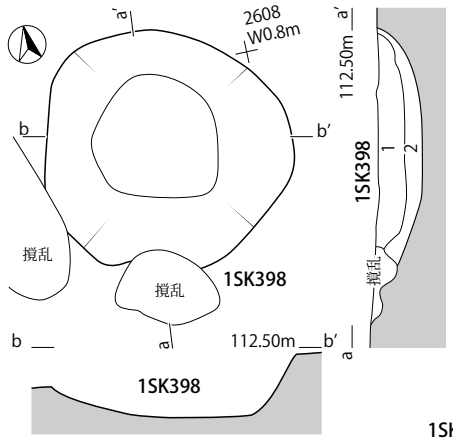
1SK406土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を少量含む。

1SK427土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土粒φ～5㎜を少量含む。

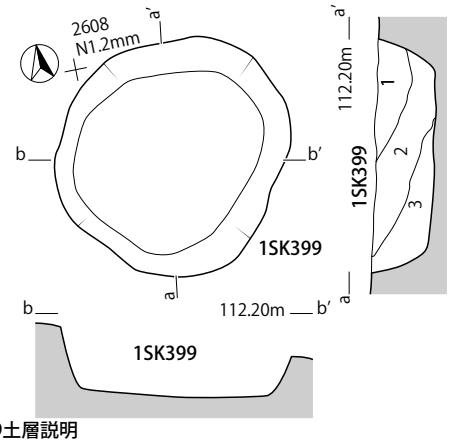
1SK445土層説明
1層　10YR3/2黒褐色のシルト層。

1SK448土層説明
1層　7.5YR4/6褐色のシルト層。黒褐色土を多量含む。

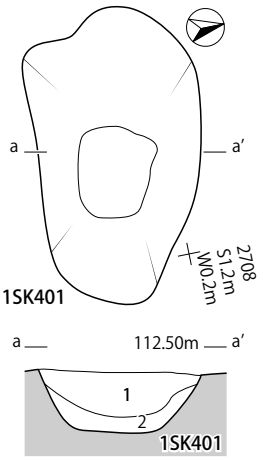
第54図　土坑ほか7（C区-3）



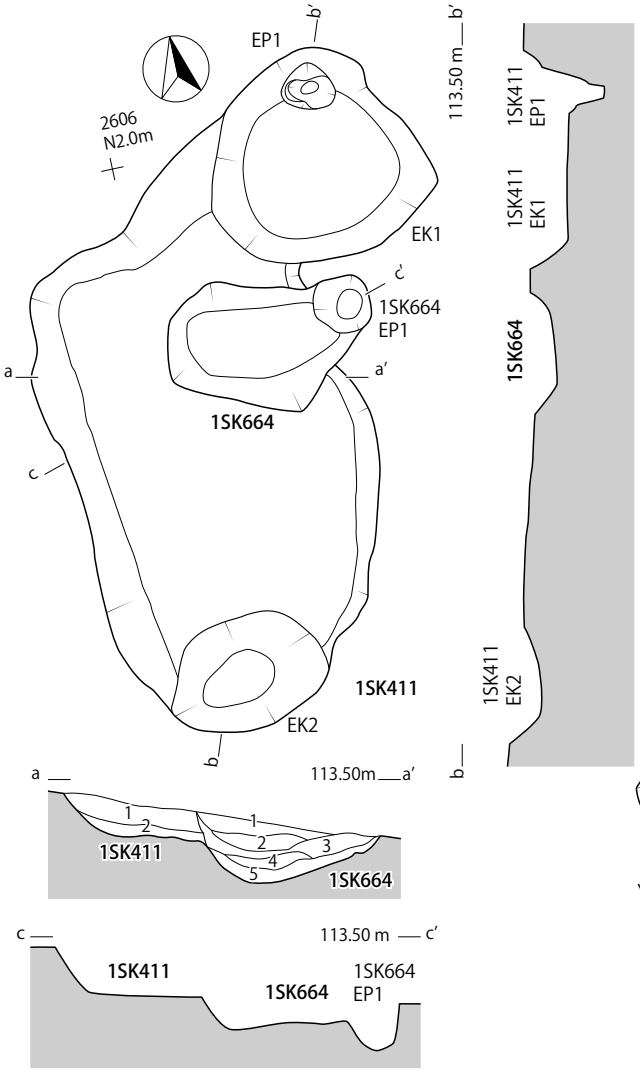
1SK398土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。
2層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性・しまりやや強い。



1SK399土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。
黄橙色スコリアφ～10㎜を少量含む。
2層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄褐色土を多量含む。黄橙色スコリアφ～10㎜を含む。
3層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄褐色土粒φ～20㎜を多量含む。
黄橙色スコリアφ～5㎜を含む。炭化粒を少量含む。

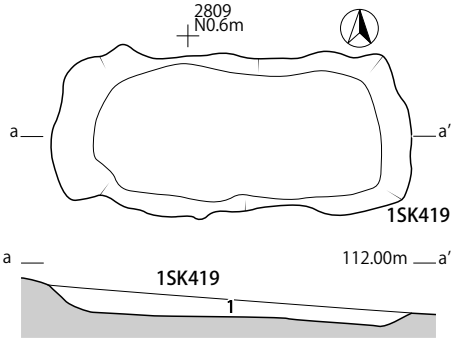


1SK401土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。
黄褐色土粒φ～10㎜を多量含む。
2層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。
粘性・しまりややあり。
黄褐色土粒φ～10㎜を含む。

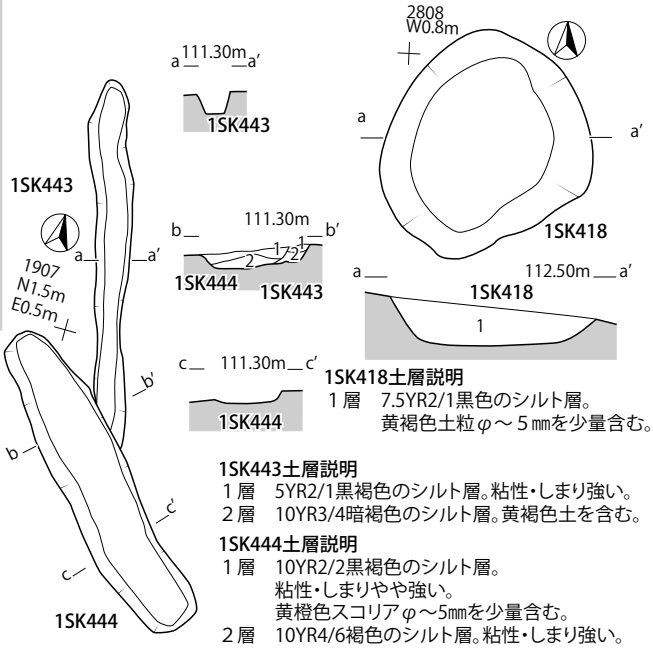


1SK411土層説明
1層　7.5YR2/4暗褐色のシルト層。
2層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
黄褐色土粒φ～5㎜を含む。

1SK664土層説明
1層　10YR2/1黒色のシルト層。
2層　10YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを多量に含む。
3層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
4層　10YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土ブロックを含む。
5層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を含む。



1SK419土層説明
1層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～５㎜を含む。



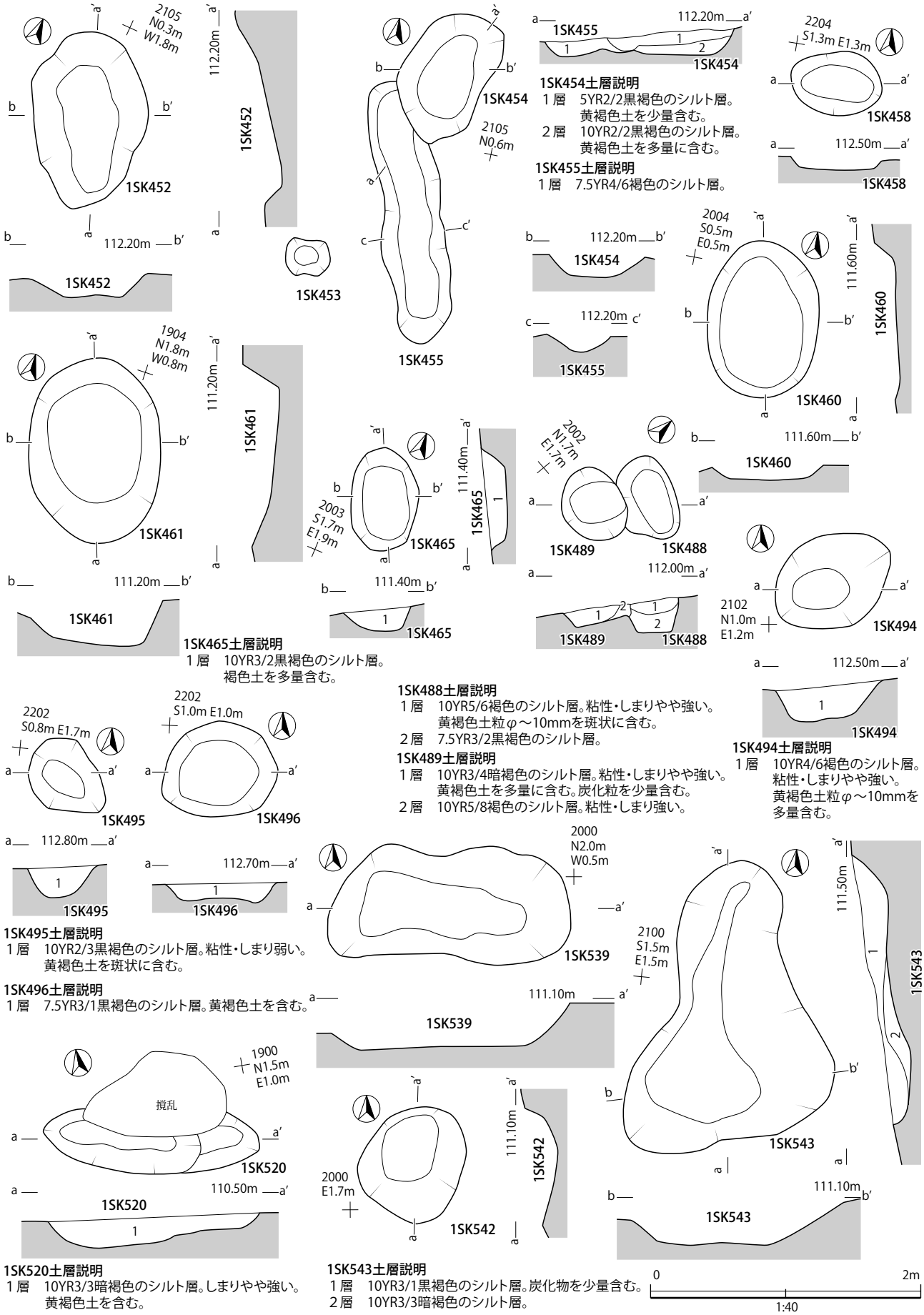
1SK418土層説明
1層　7.5YR2/1黒色のシルト層。
黄褐色土粒φ～５㎜を少量含む。

1SK443土層説明
1層　5YR2/1黒褐色のシルト層。粘性・しまり強い。
2層　10YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土を含む。

1SK444土層説明
1層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性・しまりやや強い。
黄橙色スコリアφ～5㎜を少量含む。
2層　10YR4/6褐色のシルト層。粘性・しまり強い。

0　3m
1:60

第 55 図　土坑ほか８（C 区 - 4）



1SK454土層説明
1 層　5YR2/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土を少量含む。
2 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
　　黄褐色土を多量に含む。

1SK455土層説明
1 層　7.5YR4/6褐色のシルト層。

1SK465土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
　　褐色土を多量含む。

1SK488土層説明
1 層　10YR5/6褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～10mmを斑状に含む。
2 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。

1SK489土層説明
1 層　10YR3/4暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土を多量に含む。炭化粒を少量含む。
2 層　10YR5/8褐色のシルト層。粘性・しまり強い。

1SK494土層説明
1 層　10YR4/6褐色のシルト層。
　　粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～10mmを
　　多量含む。

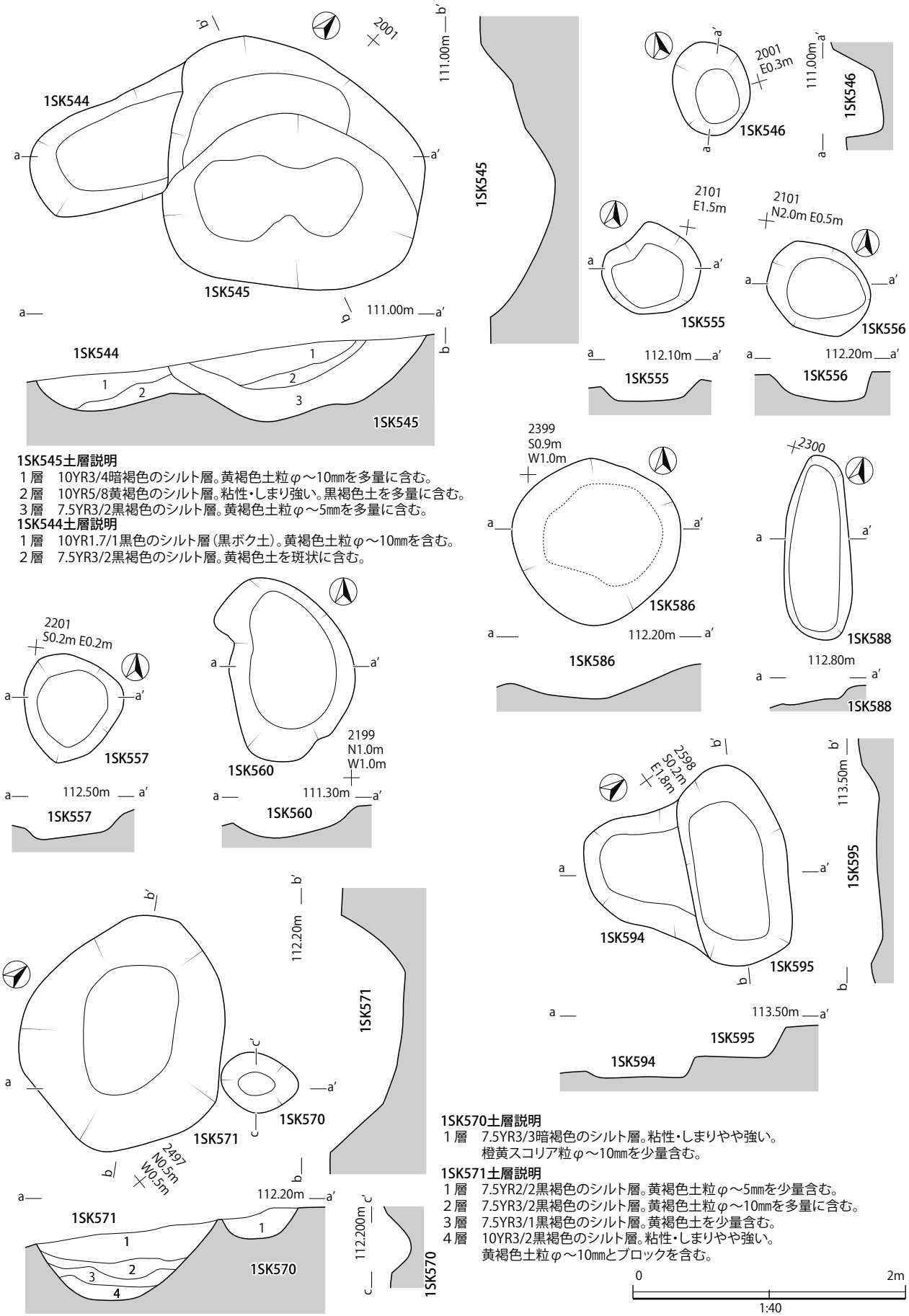
1SK495土層説明
1 層　10YR2/3黒褐色のシルト層。粘性・しまり弱い。
　　黄褐色土を斑状に含む。

1SK496土層説明
1 層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。

1SK520土層説明
1 層　10YR3/3暗褐色のシルト層。しまりやや強い。
　　黄褐色土を含む。

1SK543土層説明
1 層　10YR3/1黒褐色のシルト層。炭化物を少量含む。
2 層　10YR3/3暗褐色のシルト層。

第 56 図　土坑ほか 9（C 区 -5）



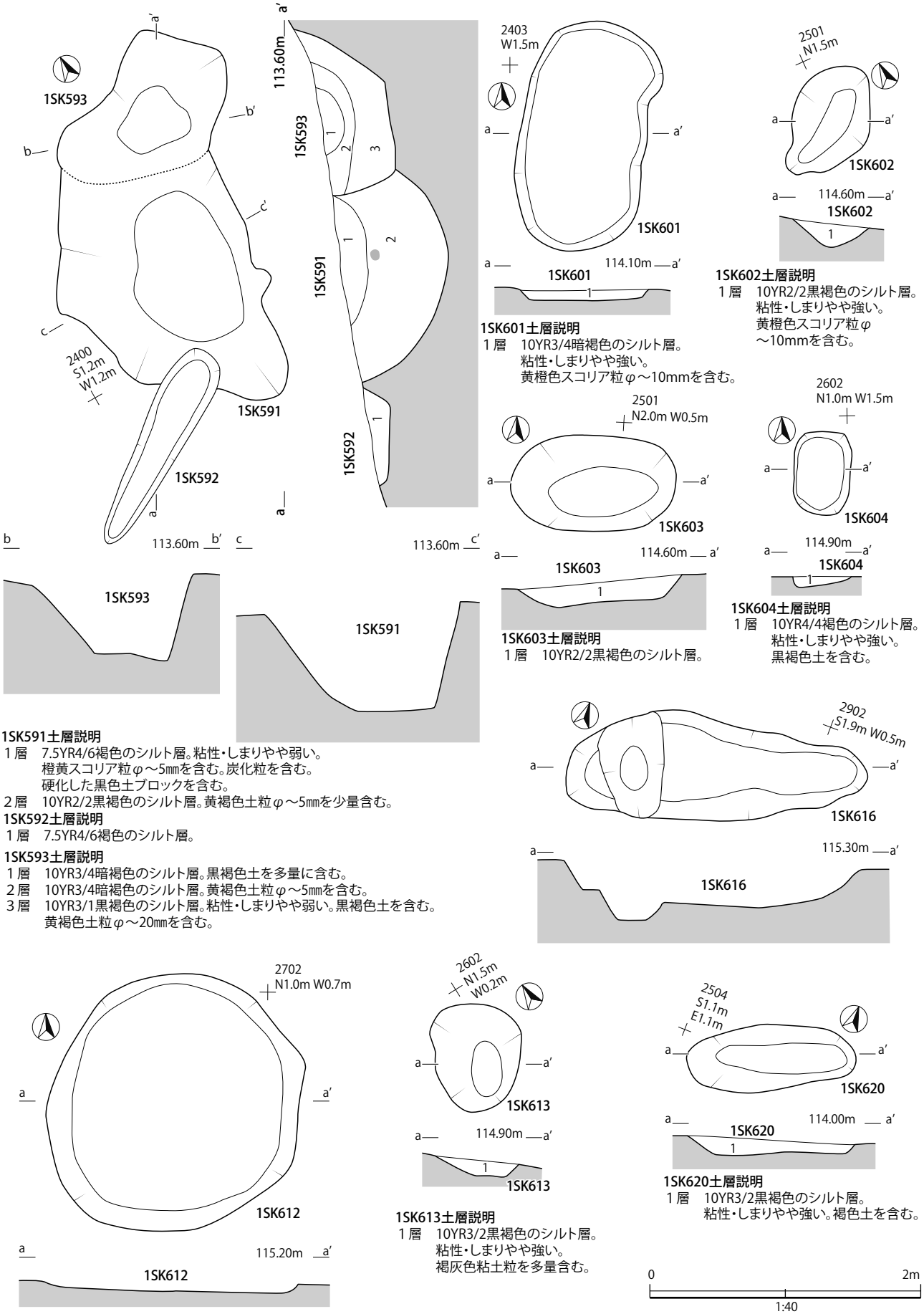
1SK545土層説明
1層　10YR3/4暗褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を多量に含む。
2層　10YR5/8黄褐色のシルト層。粘性・しまり強い。黒褐色土を多量に含む。
3層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を多量に含む。

1SK544土層説明
1層　10YR1.7/1黒色のシルト層（黒ボク土）。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
2層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を斑状に含む。

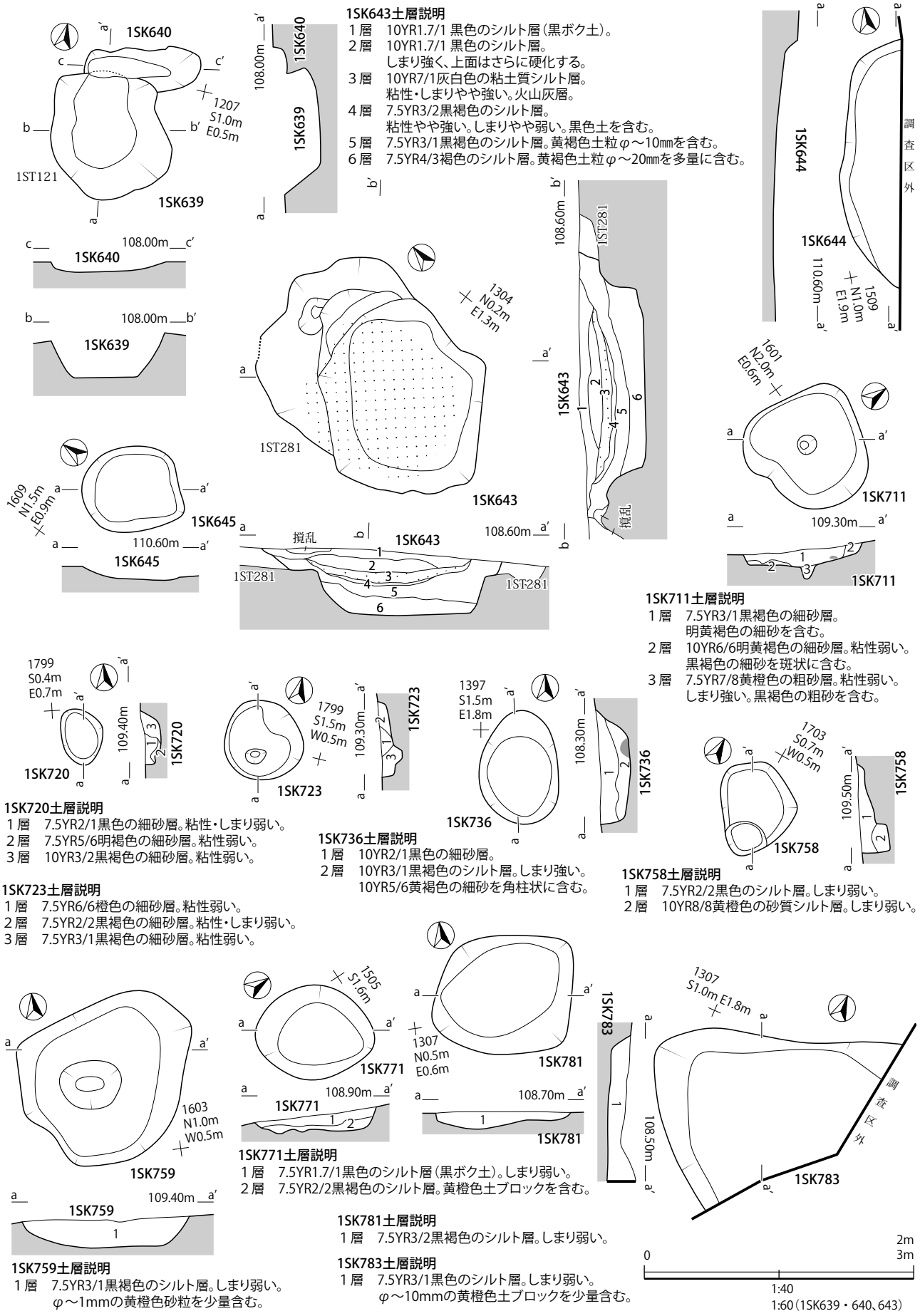
1SK570土層説明
1層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　橙黄スコリア粒φ～10㎜を少量含む。

1SK571土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～5㎜を少量含む。
2層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を多量に含む。
3層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土を少量含む。
4層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土粒φ～10㎜とブロックを含む。

第 57 図　土坑ほか 10（C 区 -6）



第 58 図　土坑ほか 11（C 区 -7）



1SK643土層説明
1層　10YR1.7/1 黒色のシルト層（黒ボク土）。
2層　10YR1.7/1 黒色のシルト層。
　　しまり強く、上面はさらに硬化する。
3層　10YR7/1灰白色の粘土質シルト層。
　　粘性・しまりやや強い。火山灰層。
4層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
　　粘性やや強い。しまりやや弱い。黒色土を含む。
5層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～10㎜を含む。
6層　7.5YR4/3褐色のシルト層。黄褐色土粒φ～20㎜を多量に含む。

1SK711土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色の細砂層。
　　明黄褐色の細砂を含む。
2層　10YR6/6明黄褐色の細砂層。粘性弱い。
　　黒褐色の細砂を斑状に含む。
3層　7.5YR7/8黄橙色の粗砂層。粘性弱い。
　　しまり強い。黒褐色の粗砂を含む。

1SK720土層説明
1層　7.5YR2/1黒色の細砂層。粘性・しまり弱い。
2層　7.5YR5/6明褐色の細砂層。粘性弱い。
3層　10YR3/2黒褐色の細砂層。粘性弱い。

1SK723土層説明
1層　7.5YR6/6橙色の細砂層。粘性弱い。
2層　7.5YR2/2黒褐色の細砂層。粘性・しまり弱い。
3層　7.5YR3/1黒褐色の細砂層。粘性弱い。

1SK736土層説明
1層　10YR2/1黒色の細砂層。
2層　10YR3/1黒褐色のシルト層。しまり強い。
　　10YR5/6黄褐色の細砂を角柱状に含む。

1SK758土層説明
1層　7.5YR2/2黒色のシルト層。しまり弱い。
2層　10YR8/8黄橙色の砂質シルト層。しまり弱い。

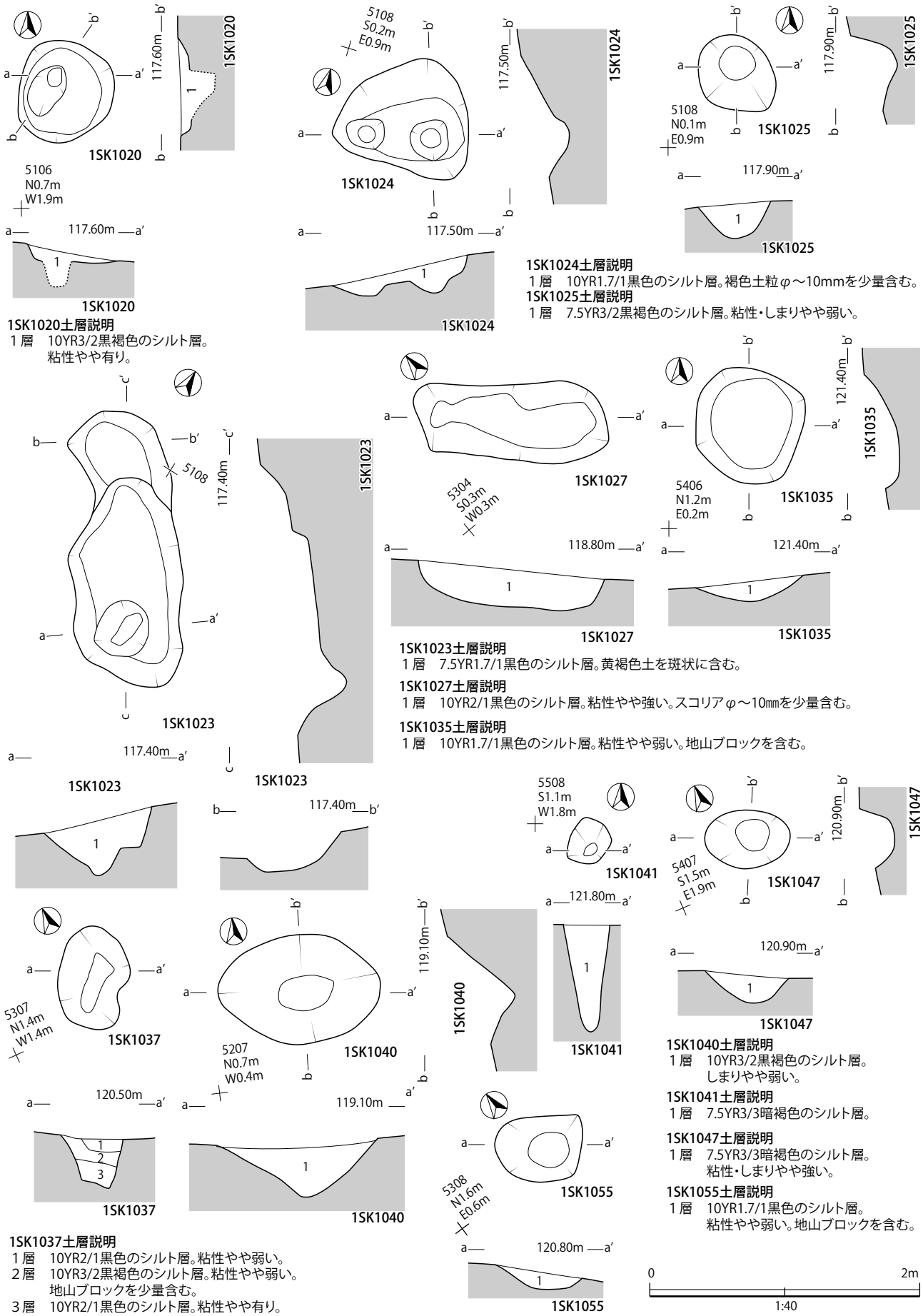
1SK771土層説明
1層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層（黒ボク土）。しまり弱い。
2層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄橙色土ブロックを含む。

1SK759土層説明
1層　7.5YR3/1黒褐色のシルト層。しまり弱い。
　　φ～1mmの黄橙色砂粒を少量含む。

1SK781土層説明
1層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。しまり弱い。

1SK783土層説明
1層　7.5YR3/1黒色のシルト層。しまり弱い。
　　φ～10mmの黄橙色土ブロックを少量含む。

第 59 図　土坑ほか 12（A 区 - 4、G 区、H 区）



1SK1020土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
　　粘性やや有り。

1SK1024土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。褐色土粒φ～10mmを少量含む。

1SK1025土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。

1SK1023土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。黄褐色土を斑状に含む。

1SK1027土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性やや強い。スコリアφ～10㎜を少量含む。

1SK1035土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。地山ブロックを含む。

1SK1037土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。
2 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。
　　地山ブロックを少量含む。
3 層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性やや有り。

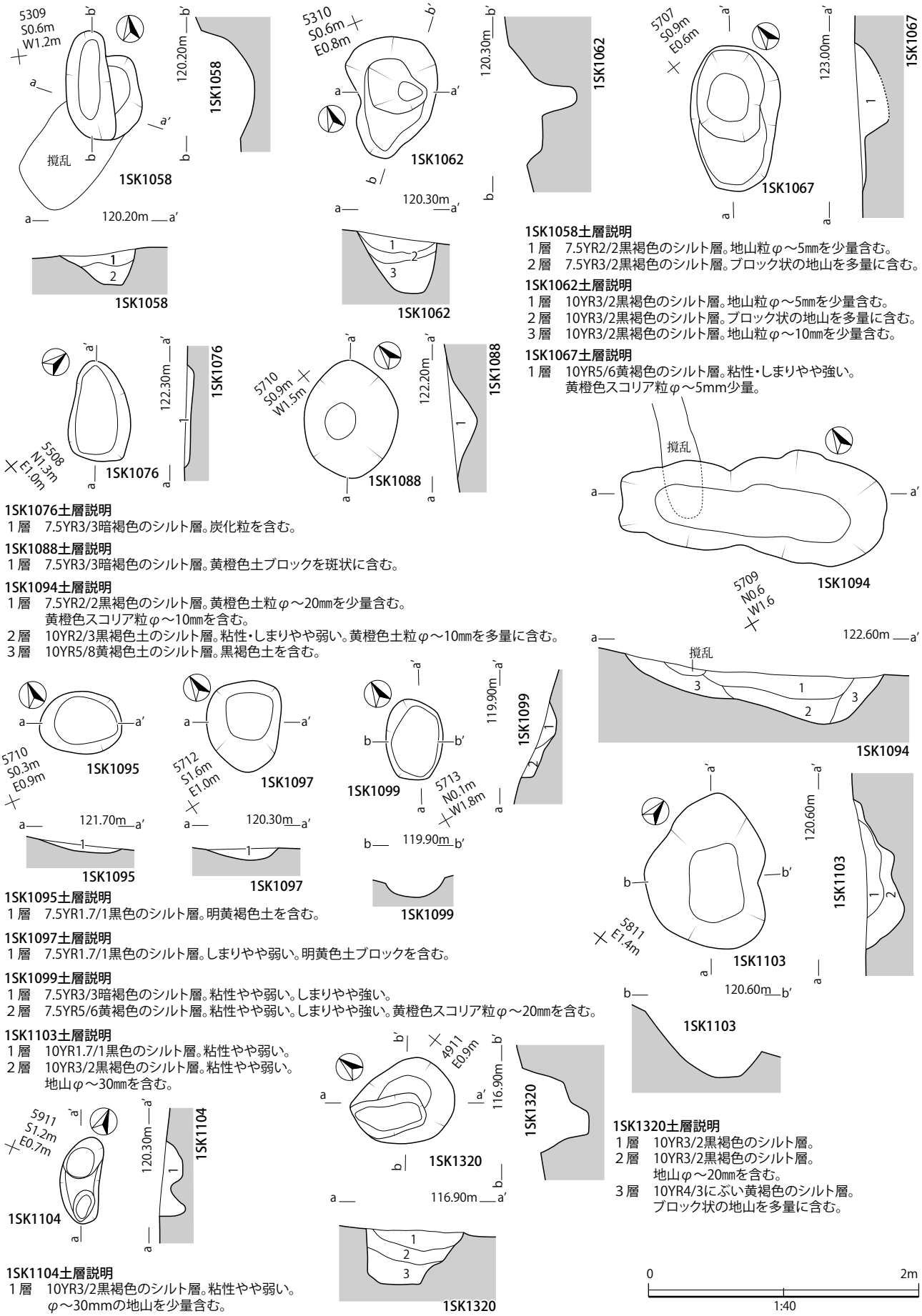
1SK1040土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
　　しまりやや弱い。

1SK1041土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。

1SK1047土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
　　粘性・しまりやや強い。

1SK1055土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。
　　粘性やや弱い。地山ブロックを含む。

第 60 図　土坑ほか 13（E 区 - 1）



1SK1058土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。地山粒φ～5㎜を少量含む。
2層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。ブロック状の地山を多量に含む。

1SK1062土層説明
1層　10YR3/2黒褐色のシルト層。地山粒φ～5㎜を少量含む。
2層　10YR3/2黒褐色のシルト層。ブロック状の地山を多量に含む。
3層　10YR3/2黒褐色のシルト層。地山粒φ～10㎜を少量含む。

1SK1067土層説明
1層　10YR5/6黄褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄橙色スコリア粒φ～5mm少量。

1SK1076土層説明
1層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。炭化粒を含む。

1SK1088土層説明
1層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黄橙色土ブロックを斑状に含む。

1SK1094土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。黄橙色土粒φ～20㎜を少量含む。
黄橙色スコリア粒φ～10㎜を含む。
2層　10YR2/3黒褐色土のシルト層。粘性・しまりやや弱い。黄橙色土粒φ～10㎜を多量に含む。
3層　10YR5/8黄褐色土のシルト層。黒褐色土を含む。

1SK1095土層説明
1層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。明黄褐色土を含む。

1SK1097土層説明
1層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。しまりやや弱い。明黄色土ブロックを含む。

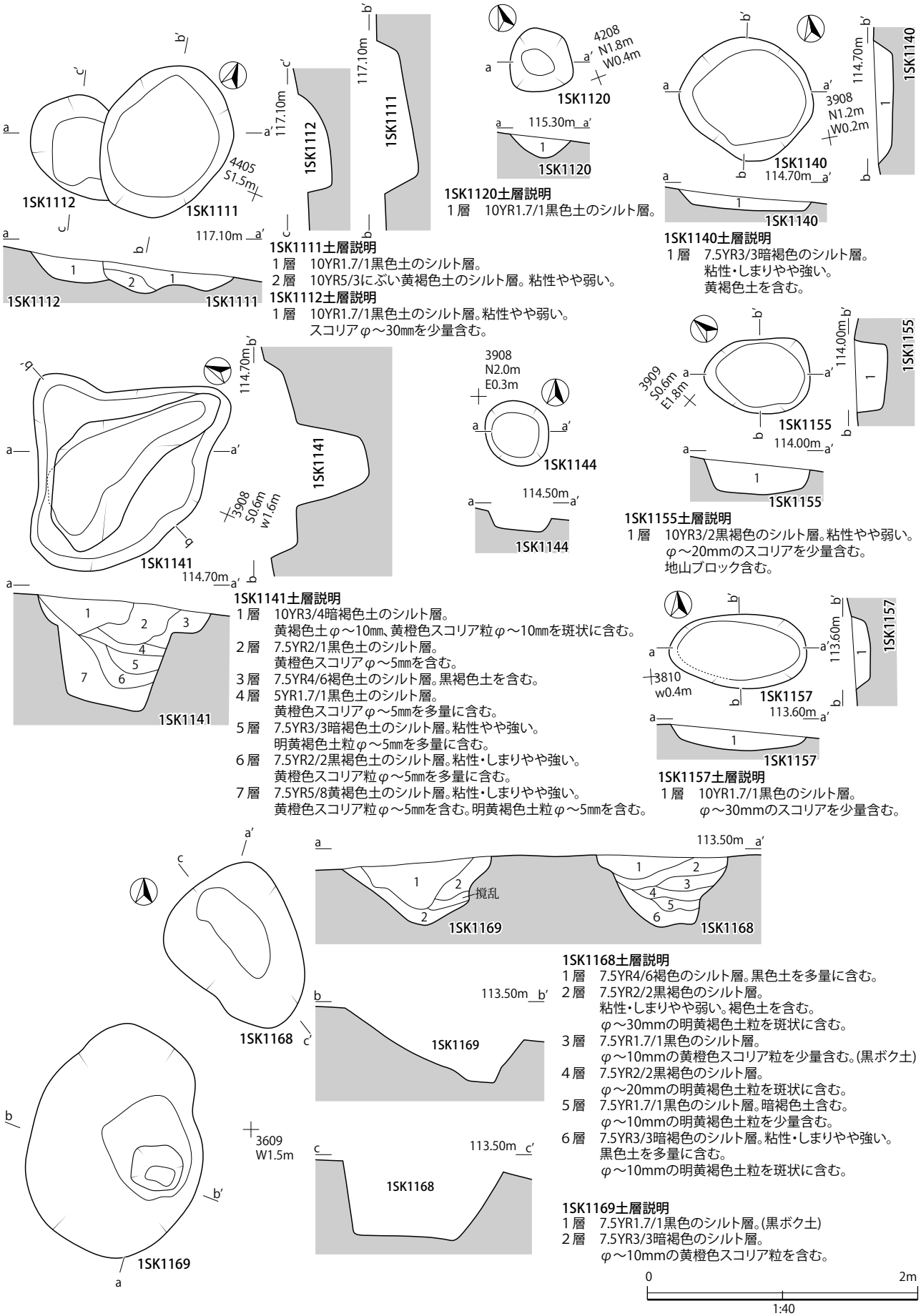
1SK1099土層説明
1層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。
2層　7.5YR5/6黄褐色のシルト層。粘性やや弱い。しまりやや強い。黄橙色スコリア粒φ～20㎜を含む。

1SK1103土層説明
1層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。
2層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。
地山φ～30㎜を含む。

1SK1104土層説明
1層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。
φ～30mmの地山を少量含む。

1SK1320土層説明
1層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
2層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
地山φ～20㎜を含む。
3層　10YR4/3にぶい黄褐色のシルト層。
ブロック状の地山を多量に含む。

第 61 図　土坑ほか 14（E 区 - 2）



1SK1111土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色土のシルト層。
2 層　10YR5/3にぶい黄褐色土のシルト層。粘性やや弱い。

1SK1112土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色土のシルト層。粘性やや弱い。
スコリア φ～30㎜を少量含む。

1SK1120土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色土のシルト層。

1SK1140土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
粘性・しまりやや強い。
黄褐色土を含む。

1SK1155土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。
φ～20mmのスコリアを少量含む。
地山ブロック含む。

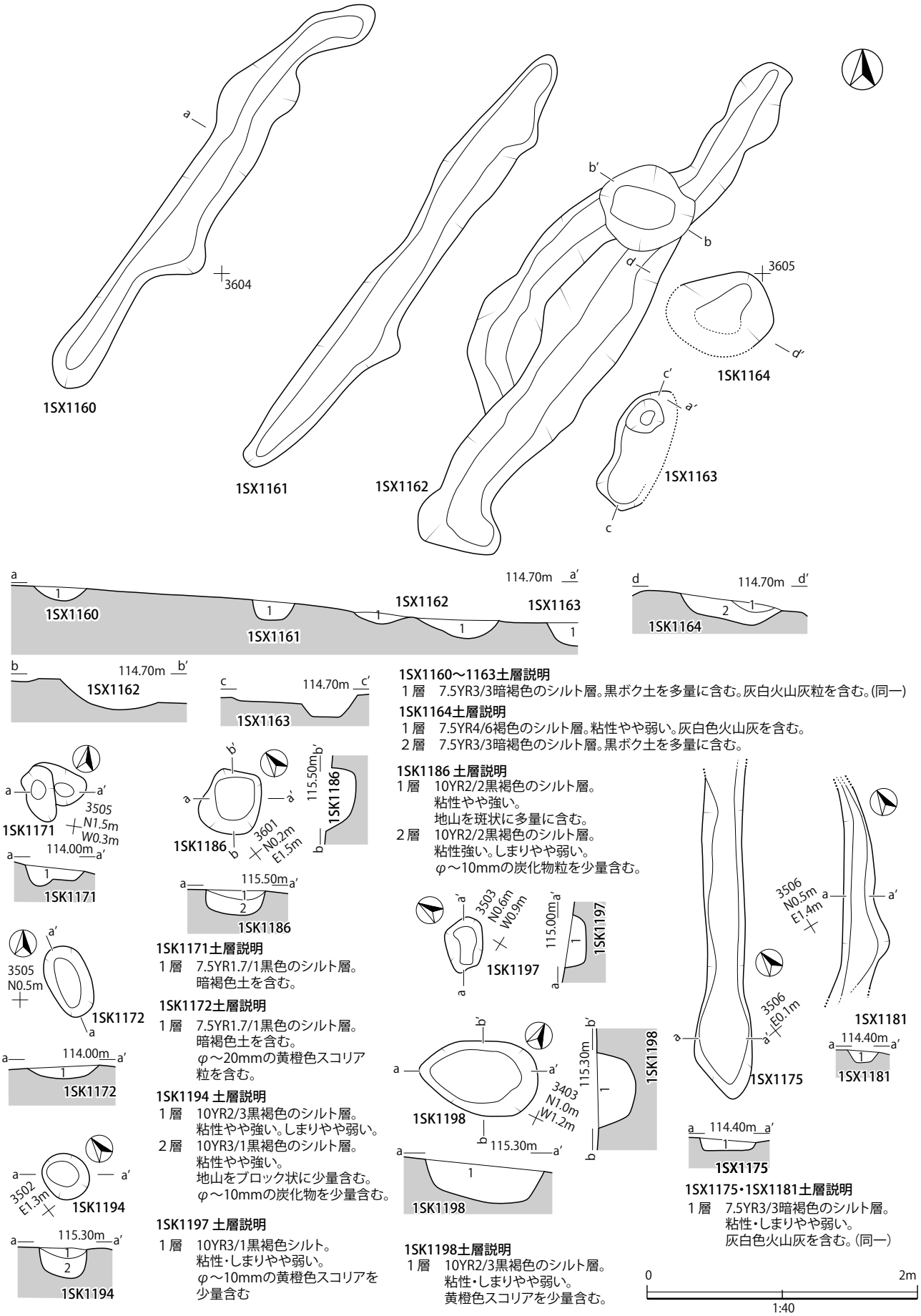
1SK1141土層説明
1 層　10YR3/4暗褐色土のシルト層。
黄褐色土φ～10㎜、黄橙色スコリア粒φ～10㎜を斑状に含む。
2 層　7.5YR2/1黒色土のシルト層。
黄橙色スコリアφ～5㎜を含む。
3 層　7.5YR4/6褐色土のシルト層。黒褐色土を含む。
4 層　5YR1.7/1黒色土のシルト層。
黄橙色スコリアφ～5㎜を多量に含む。
5 層　7.5YR3/3暗褐色土のシルト層。粘性やや強い。
明黄褐色土粒φ～5㎜を多量に含む。
6 層　7.5YR2/2黒褐色土のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄橙色スコリア粒φ～5㎜を多量に含む。
7 層　7.5YR5/8黄褐色土のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黄橙色スコリア粒φ～5㎜を含む。明黄褐色土粒φ～5㎜を含む。

1SK1157土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。
φ～30mmのスコリアを少量含む。

1SK1168土層説明
1 層　7.5YR4/6褐色のシルト層。黒色土を多量に含む。
2 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。褐色土を含む。
φ～30mmの明黄褐色土粒を斑状に含む。
3 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。
φ～10mmの黄橙色スコリア粒を少量含む。(黒ボク土)
4 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
φ～20mmの明黄褐色土粒を斑状に含む。
5 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。暗褐色土含む。
φ～10mmの明黄褐色土粒を少量含む。
6 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
黒色土を多量に含む。
φ～10mmの明黄褐色土粒を斑状に含む。

1SK1169土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。(黒ボク土)
2 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
φ～10mmの黄橙色スコリア粒を含む。

第 62 図　土坑ほか 15（E 区 - 3）



1SX1160～1163土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒ボク土を多量に含む。灰白火山灰粒を含む。(同一)

1SK1164土層説明
1 層　7.5YR4/6褐色のシルト層。粘性やや弱い。灰白色火山灰を含む。
2 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒ボク土を多量に含む。

1SK1171土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。
暗褐色土を含む。

1SK1172土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。
暗褐色土を含む。
φ～20mmの黄橙色スコリア粒を含む。

1SK1194 土層説明
1 層　10YR2/3黒褐色のシルト層。
粘性やや強い。しまりやや弱い。
2 層　10YR3/1黒褐色のシルト層。
粘性やや強い。
地山をブロック状に少量含む。
φ～10mmの炭化物を少量含む。

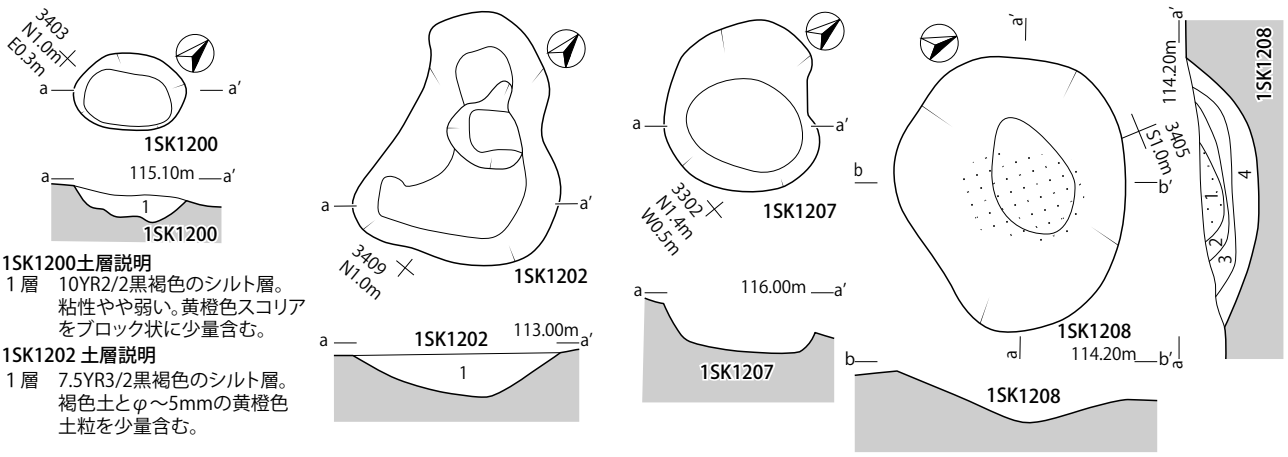
1SK1197 土層説明
1 層　10YR3/1黒褐色シルト。
粘性・しまりやや弱い。
φ～10mmの黄橙色スコリアを少量含む

1SK1186 土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性やや強い。
地山を斑状に多量に含む。
2 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性強い。しまりやや弱い。
φ～10mmの炭化物粒を少量含む。

1SK1198土層説明
1 層　10YR2/3黒褐色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。
黄橙色スコリアを少量含む。

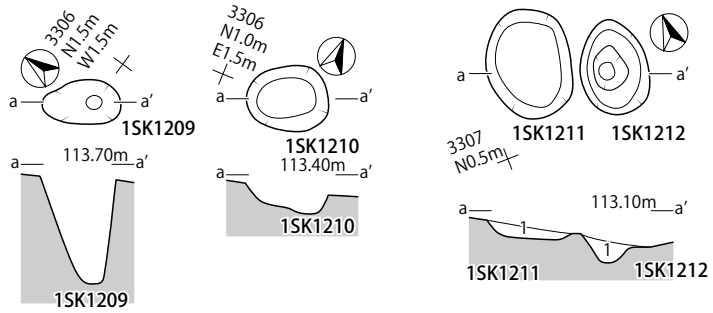
1SX1175・1SX1181土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。
灰白色火山灰を含む。(同一)

第 63 図　土坑ほか 16（E 区 - 4）



1SK1200土層説明
1 層　10YR2/2黒褐色のシルト層。
粘性やや弱い。黄橙色スコリアをブロック状に少量含む。

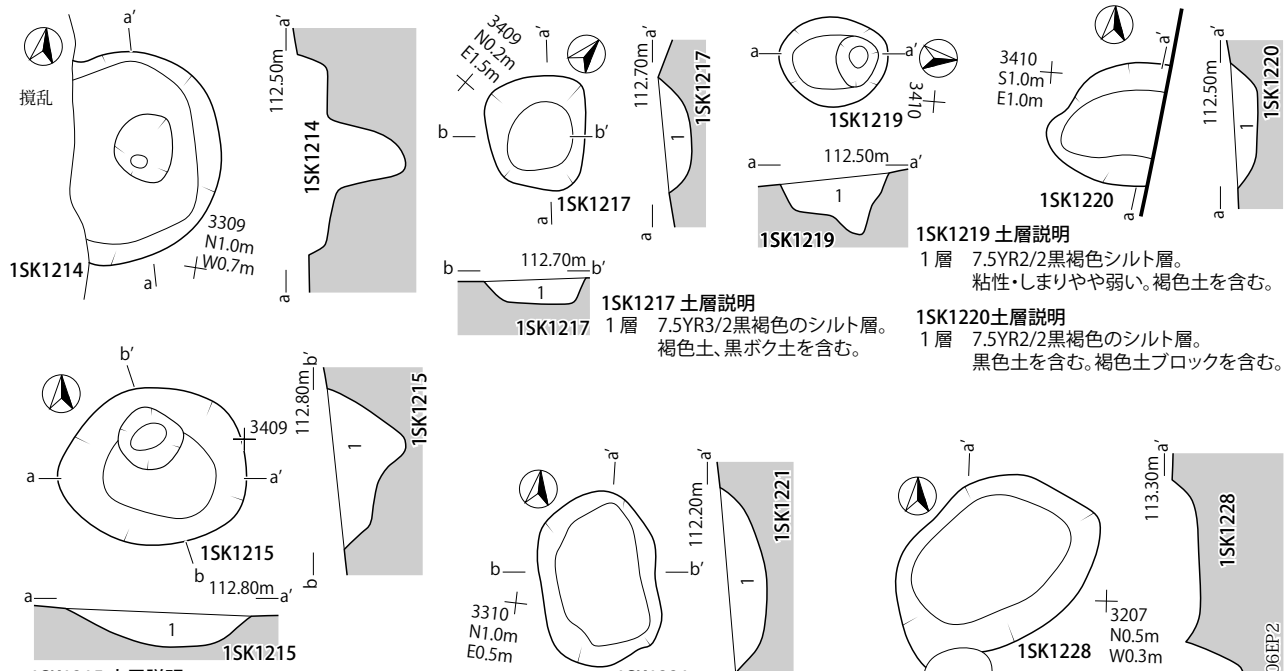
1SK1202 土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
褐色土とφ～5mmの黄橙色土粒を少量含む。



1SK1208 土層説明
1 層　7.5YR8/1灰白色火山灰。粘性やや弱い。しまりやや強い。
2 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。(黒ボク層)
3 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。炭化材を含む。
4 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
炭化材を多量に含む。焼土ブロック、明黄褐色土を含む。

1SK1212土層説明
1 層　7.5YR2/1黒色のシルト層。暗褐色土を含む。

1SK1211土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。黒褐色土を含む。



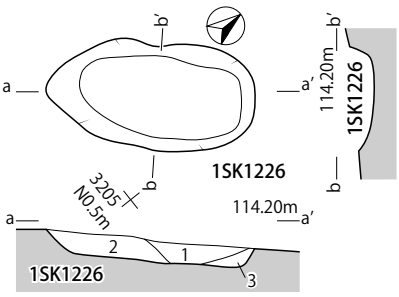
1SK1217 土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。
褐色土、黒ボク土を含む。

1SK1219 土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色シルト層。
粘性・しまりやや弱い。褐色土を含む。

1SK1220土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
黒色土を含む。褐色土ブロックを含む。

1SK1215 土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色シルト層。
褐色土を少量含む。

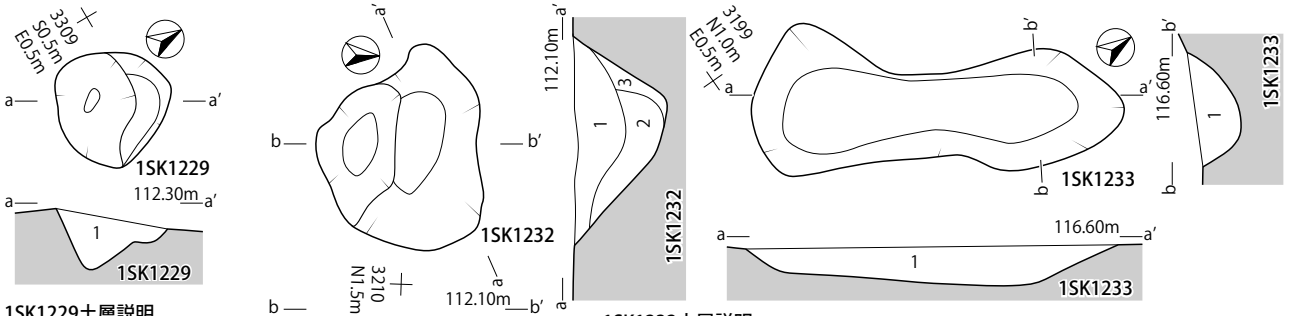
1SK1221 土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
黒色土を含む。褐色土ブロックを含む。



1SK1226 土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。しまりやや強い。
φ～5mmの黄橙色スコリア粒を含む。
2 層　10YR4/6褐色のシルト層。
3 層　10YR6/8明黄褐色のシルト層。黒褐色土を含む。

0　2m
1:40

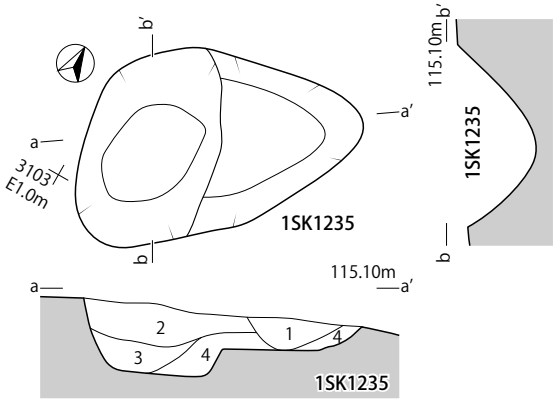
第 64 図　土坑ほか 17（E 区 - 5）



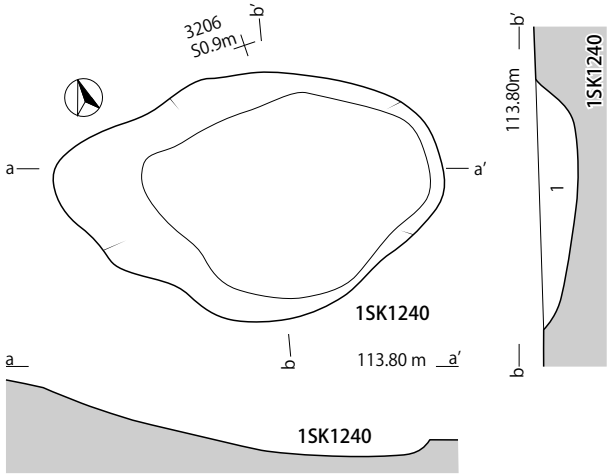
1SK1229土層説明
1層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。

1SK1232土層説明
1層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。(黒ボク層)
2層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。φ～5mmの灰白火山灰粒を多量に含む。(黒ボク層)
3層　7.5YR4/6褐色のシルト層。粘性やや強い。φ～5mmの黄橙色土粒を少量含む。

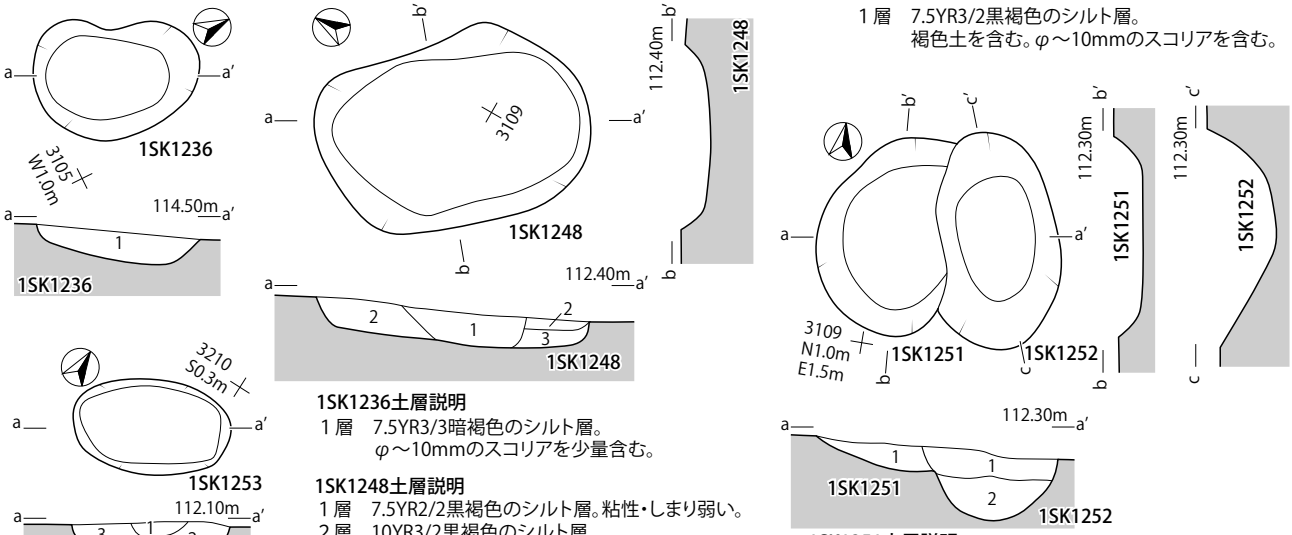
1SK1233土層説明
1層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。φ～10mmの黄褐色土粒を少量含む。



1SK1235土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。黒色土、褐色土を含む。
2層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。黒色土、褐色土を含む。
3層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。φ～5mmの黄橙色スコリア粒を少量含む。
4層　7.5YR4/6褐色のシルト層。暗褐色土、φ～5mmの黄橙色スコリア粒を含む。



1SK1240土層説明
1層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。褐色土を含む。φ～10mmのスコリアを含む。

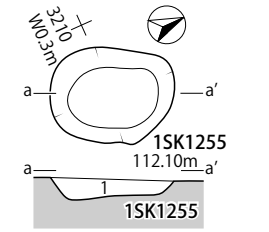


1SK1236土層説明
1層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。φ～10mmのスコリアを少量含む。

1SK1248土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまり弱い。
2層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
3層　7.5YR4/4褐色のシルト層。φ～10mmの黄橙色スコリア粒含む。黒褐色土を含む。

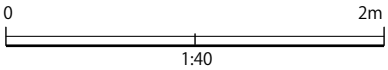
1SK1251土層説明
1層　5YR2/1黒褐色のシルト層。φ～10mmの黄褐色土粒を含む。

1SK1252土層説明
1層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。明黄褐色土塊を斑状に含む。
2層　10YR6/8明黄褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。黒褐色土を多量に含む。

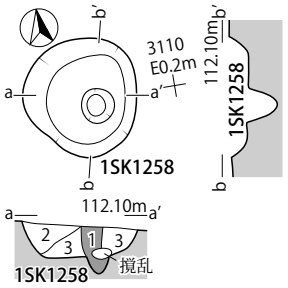


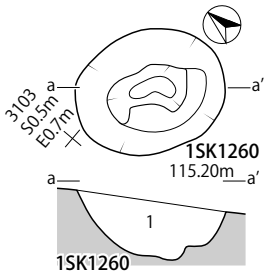
1SK1253土層説明
1層　1 2.5Y2/1黒色のシルト層。φ～5mmの黄褐色土粒を少量含む。
2層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒色土を含む。
3層　10YR3/4暗褐色のシルト層。φ～5mmの黄橙色土粒を含む。

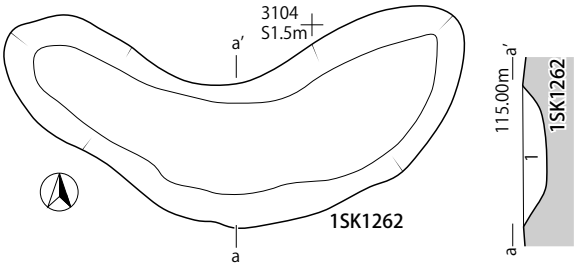
1SK1255土層説明
1層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。黄褐色土を含む。



第65図　土坑ほか18（E区-6）



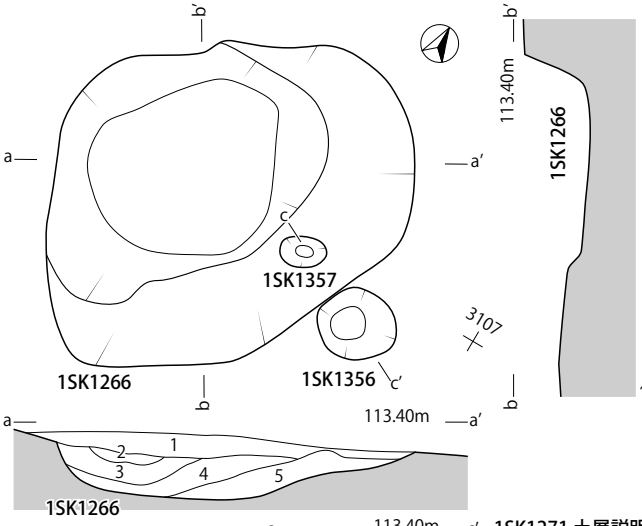




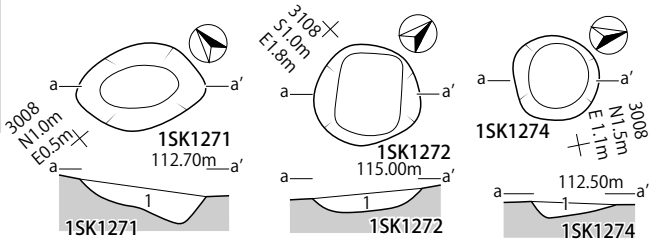
1SK1258土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまり弱い。褐色土含む。(柱痕跡)
2 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。φ～30mmの明黄褐色土粒を含む。
3 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。

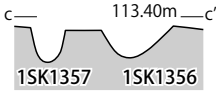
1SK1260土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒色土を含む。

1SK1262土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。褐色土を含む。



1SK1266土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
φ～5mmの明黄褐色土粒を多量に含む。
2 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
φ～10mmの明黄褐色土粒を斑状に含む。黒色土を含む。
3 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。
φ～10mmの明黄褐色土粒を少量含む。炭化物粒を多量に含む。
4 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
φ～10mmの明黄褐色土粒と黄橙色スコリア粒を斑状に含む。
5 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。焼土を含む。
炭化物粒を多量に含む。

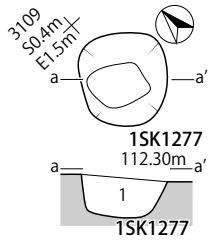


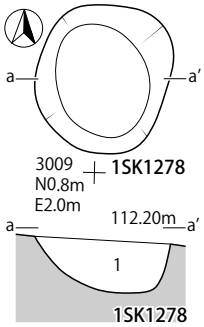


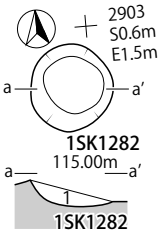
1SK1271 土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。暗褐色土を含む。

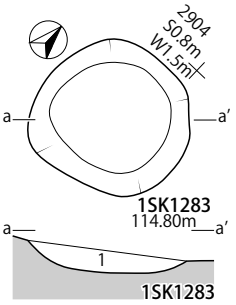
1SK1272土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。

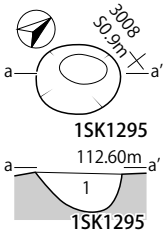
1SK1274 土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
粘性・しまりやや強い。
φ～5mmのスコリアを少量含む。











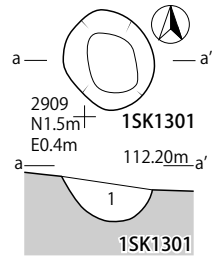
1SK1277土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。
暗褐色土を多量に含む。

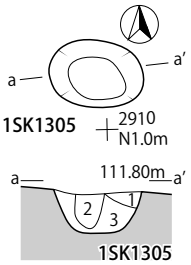
1SK1278土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。
粘性・しまりやや弱い。
暗褐色土を含む。

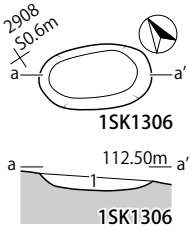
1SK1282土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。
褐色土を含む。φ～5mmの
スコリア粒を少量含む。

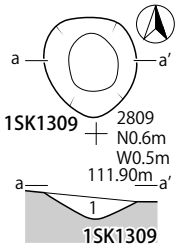
1SK1283土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
φ～10mmのスコリア粒を少量含む。

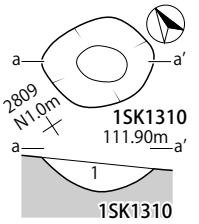
1SK1295土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。











1SK1301土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色シルト。
暗褐色土を含む。

1SK1305土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
2 層　7.5YR2/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
3 層　7.5YR5/8黄褐色のシルト層。黒褐色土を含む。

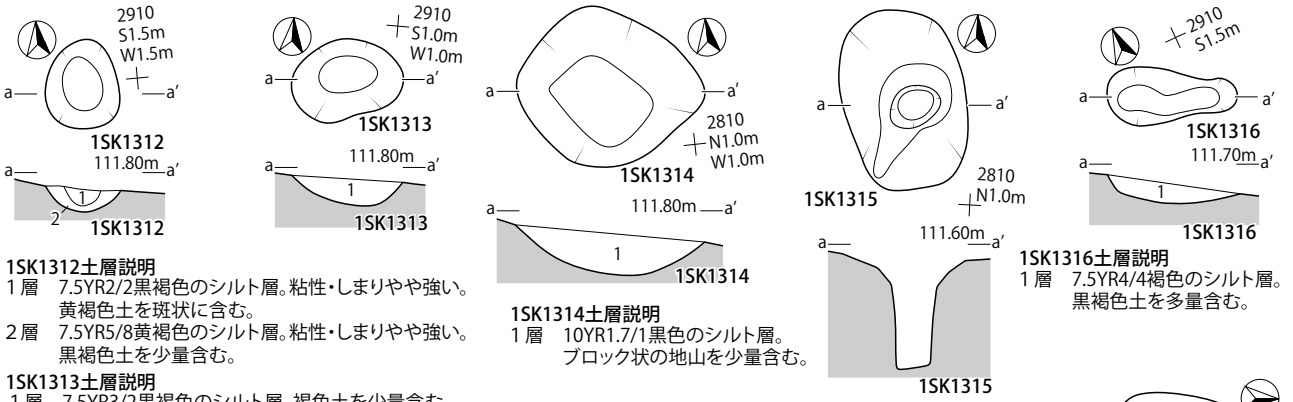
1SK1306土層説明
1 層　7.5YR4/4褐色のシルト層。
黒褐色土を含む。

1SK1309土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。
褐色土を含む。

1SK1310土層説明
1 層　7.5YR3/4暗褐色のシルト層。
黒褐色土を含む。

0　2m
1:40

第 66 図　土坑ほか 19（F 区 - 1）

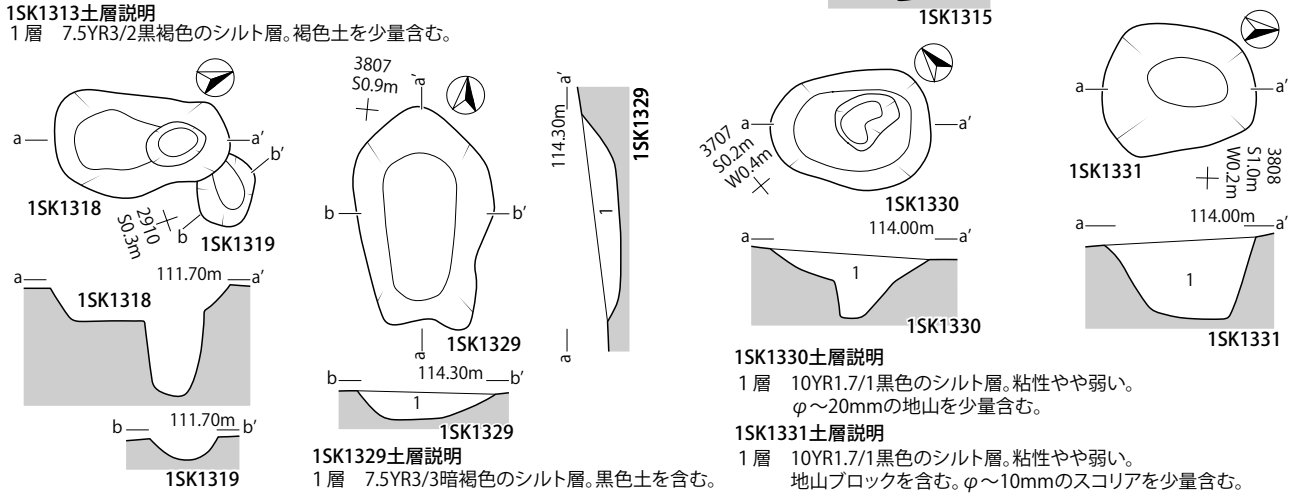


1SK1312土層説明
1 層　7.5YR2/2黒褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黄褐色土を斑状に含む。
2 層　7.5YR5/8黄褐色のシルト層。粘性・しまりやや強い。
　　黒褐色土を少量含む。

1SK1313土層説明
1 層　7.5YR3/2黒褐色のシルト層。褐色土を少量含む。

1SK1314土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。
　　ブロック状の地山を少量含む。

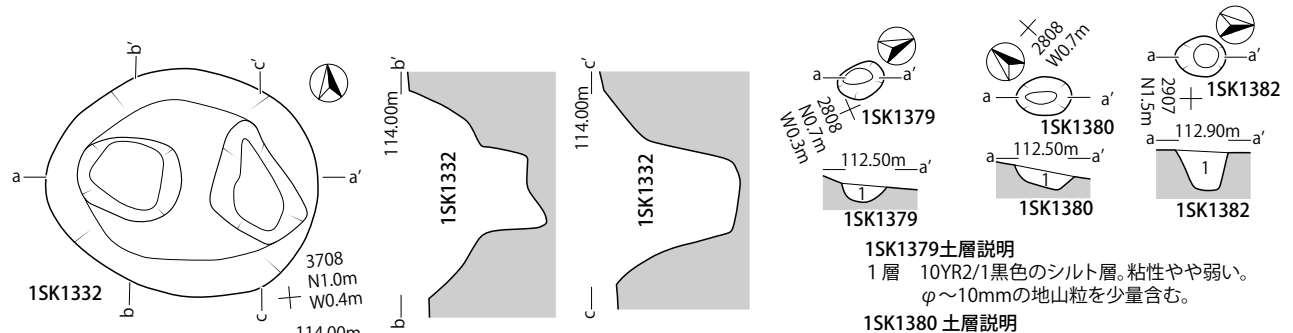
1SK1316土層説明
1 層　7.5YR4/4褐色のシルト層。
　　黒褐色土を多量含む。



1SK1329土層説明
1 層　7.5YR3/3暗褐色のシルト層。黒色土を含む。

1SK1330土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。
　　φ～20mmの地山を少量含む。

1SK1331土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。
　　地山ブロックを含む。φ～10mmのスコリアを少量含む。

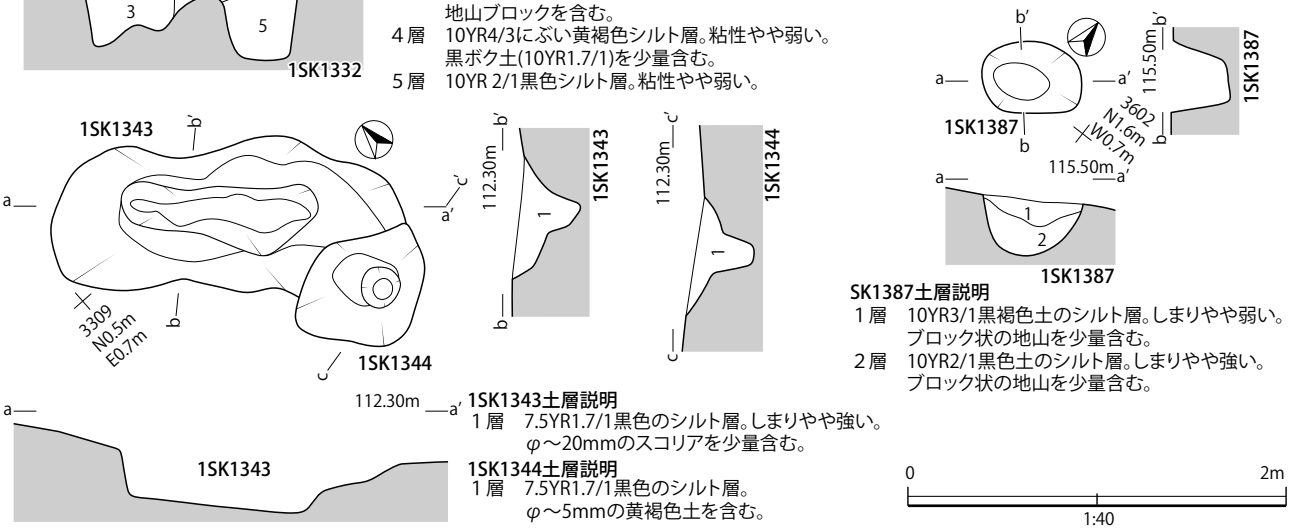


1SK1332 土層説明
1 層　10YR1.7/1黒色のシルト層。粘性・しまりやや弱い。
2 層　10YR3/2黒褐色シルト層。粘性やや弱い。
　　地山ブロックを含む。
3 層　10YR3/2黒褐色シルト層。粘性やや弱い。
　　地山ブロックを含む。
4 層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト層。粘性やや弱い。
　　黒ボク土(10YR1.7/1)を少量含む。
5 層　10YR 2/1黒色シルト層。粘性やや弱い。

1SK1379土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。
　　φ～10mmの地山粒を少量含む。

1SK1380 土層説明
1 層　10YR2/1黒色のシルト層。粘性やや弱い。

1SK1382土層説明
1 層　10YR3/2黒褐色のシルト層。粘性やや弱い。
　　φ～10mmの地山粒を少量含む。



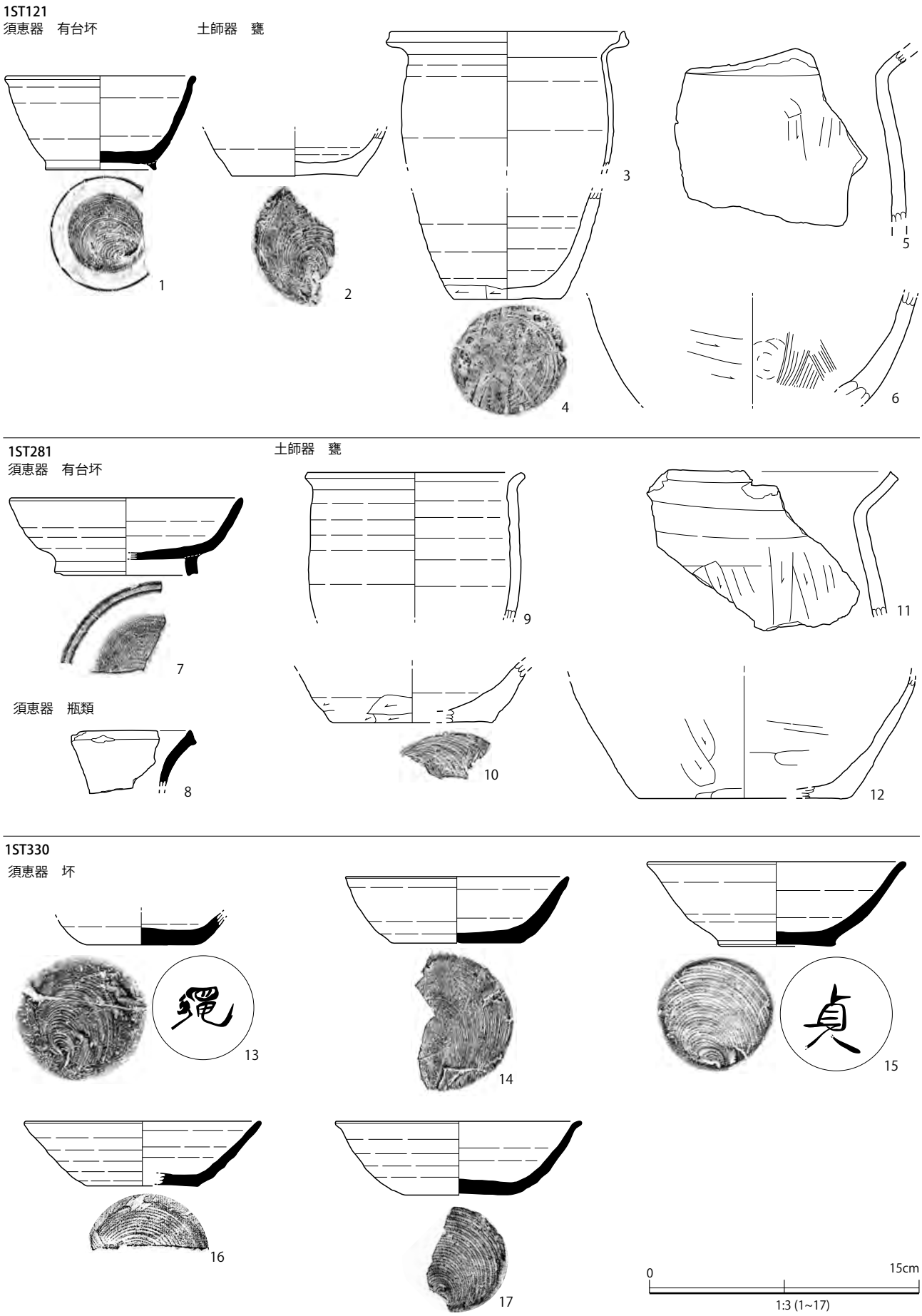
1SK1343土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。しまりやや強い。
　　φ～20mmのスコリアを少量含む。

1SK1344土層説明
1 層　7.5YR1.7/1黒色のシルト層。
　　φ～5mmの黄褐色土を含む。

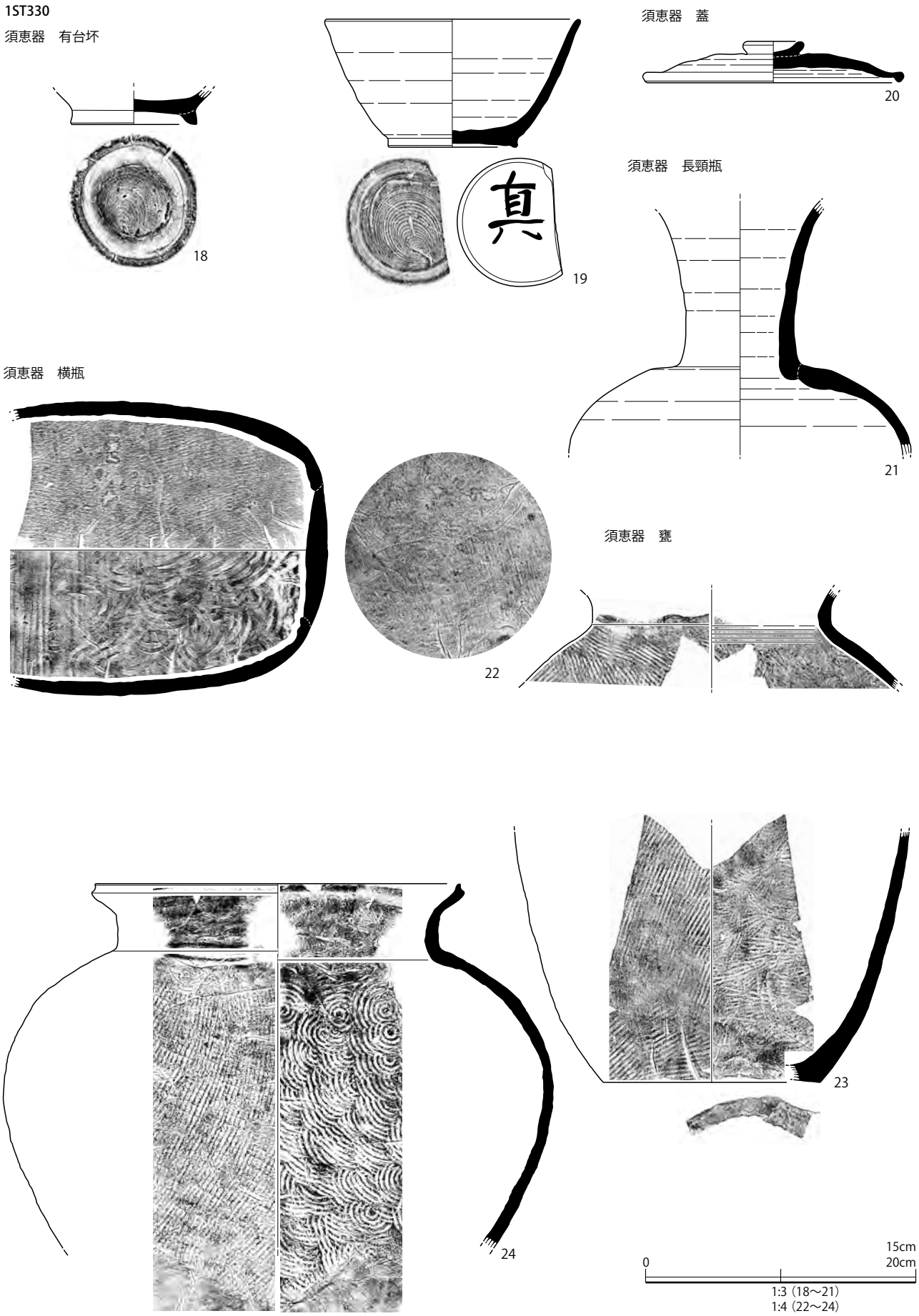
SK1387土層説明
1 層　10YR3/1黒褐色土のシルト層。しまりやや弱い。
　　ブロック状の地山を少量含む。
2 層　10YR2/1黒色土のシルト層。しまりやや強い。
　　ブロック状の地山を少量含む。

0　2m
1:40

第 67 図　土坑ほか 20（F 区 - 2）

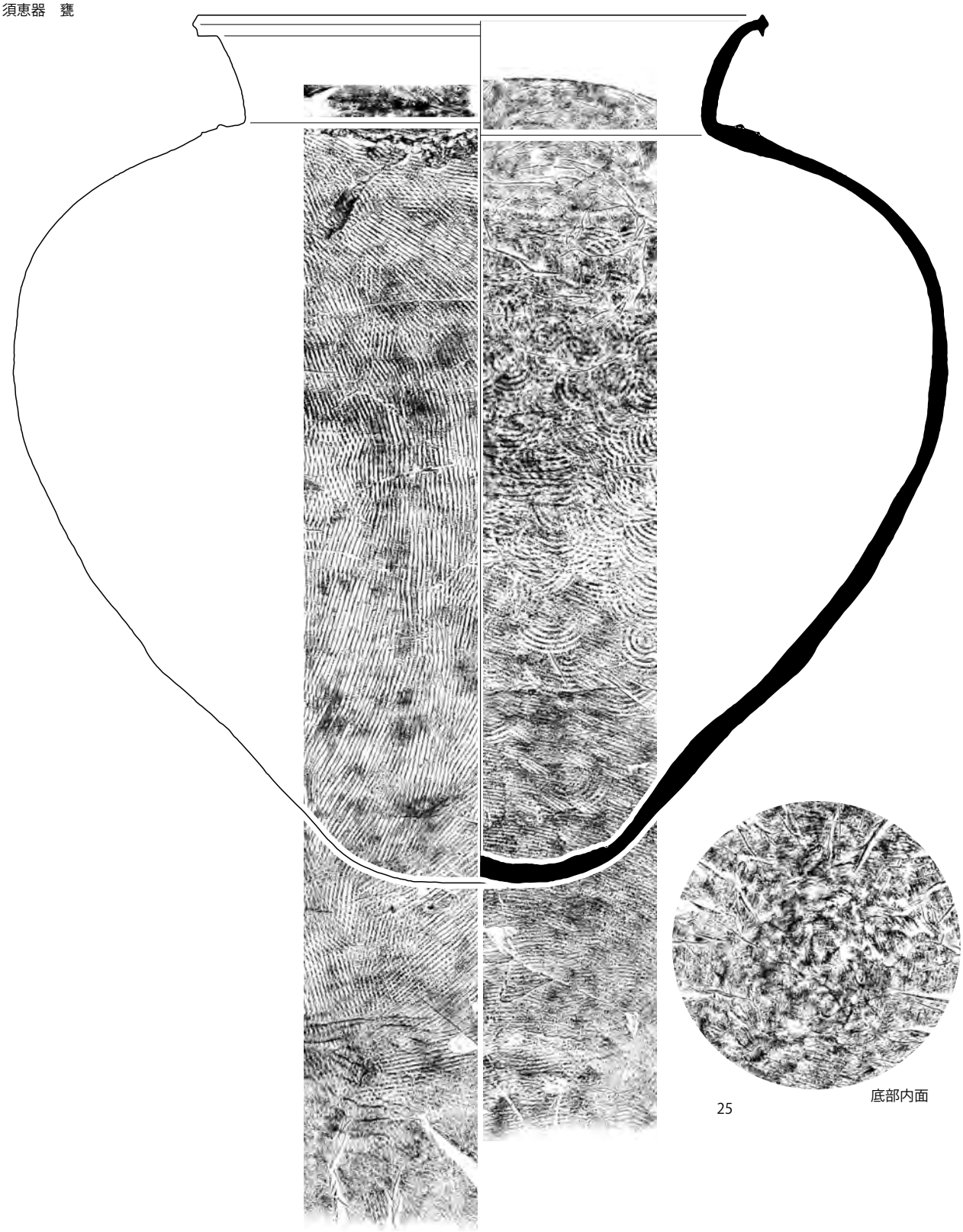


第 68 図　出土遺物 1 （1ST121・281・330-1）



第 69 図　出土遺物 2（1ST330-2）

1ST330
須恵器　甕



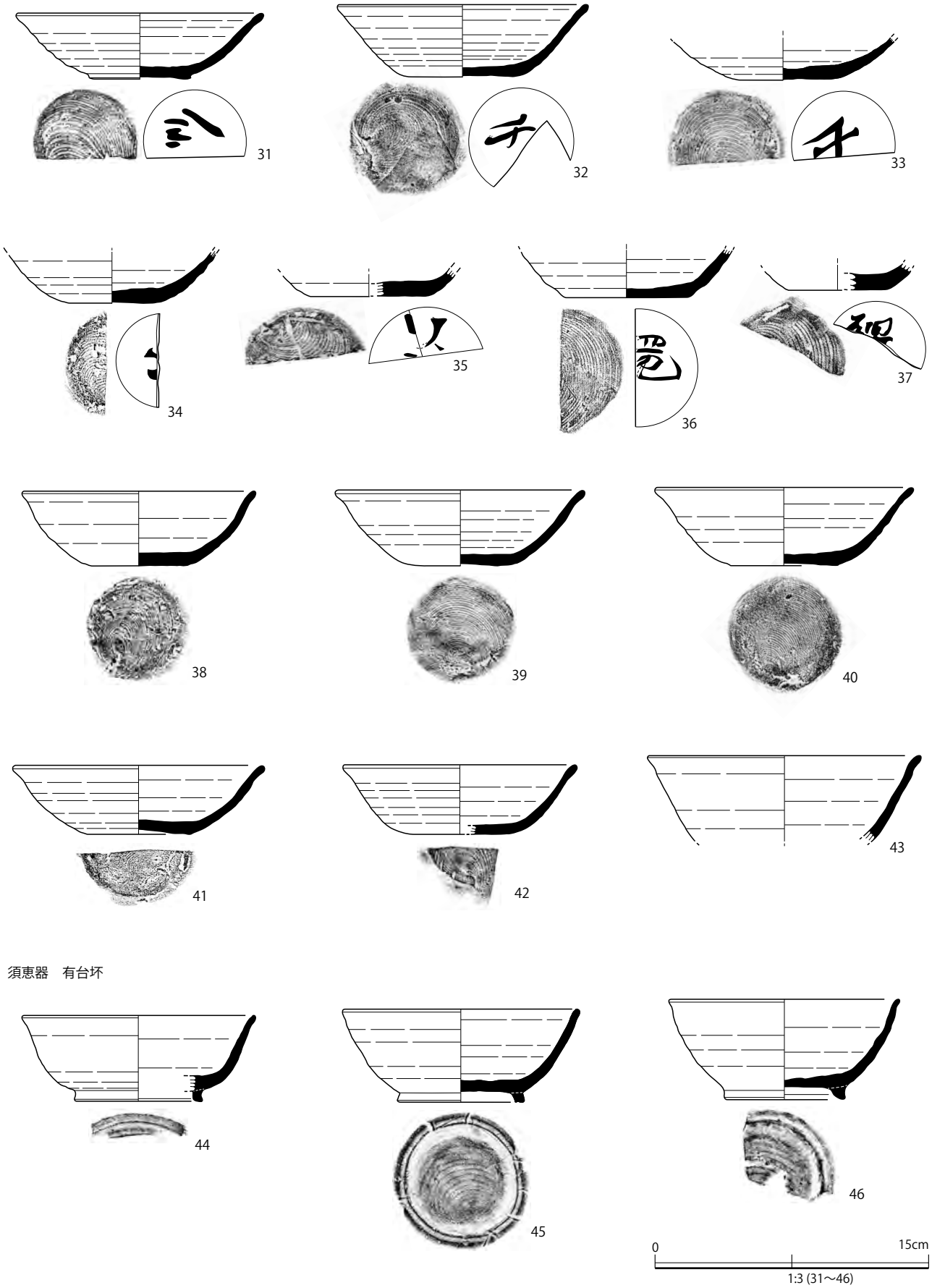
0　20cm
1:4 (25)

第 70 図　出土遺物 3（1ST330-3）

第 71 図　出土遺物４（1ST330-4）

1ST365

須恵器　坏

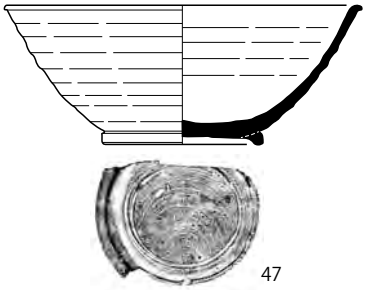


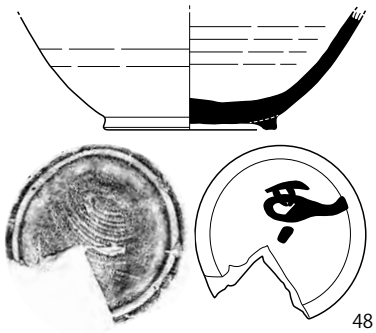
須恵器　有台坏

第 72 図　出土遺物 5（1ST365-1）

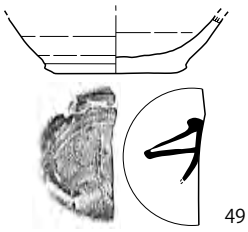
1ST365

須恵器　有台坏

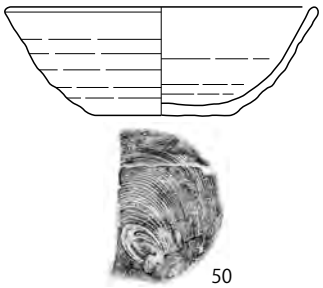


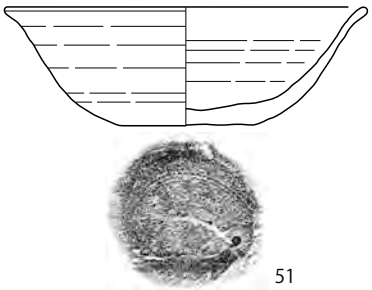


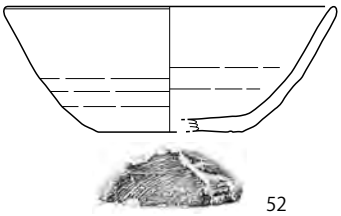
土師器　坏

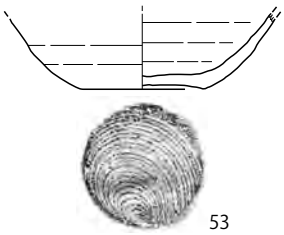


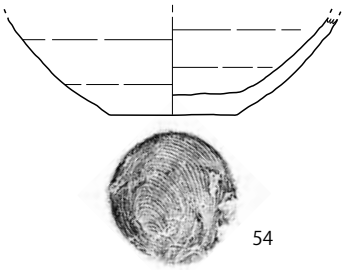
土師器　坏

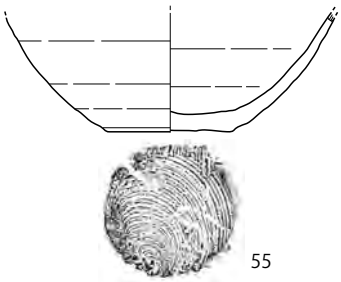


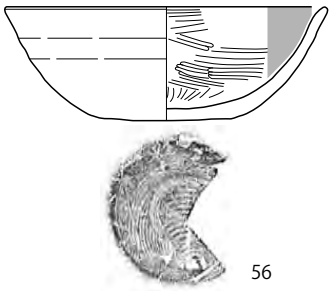




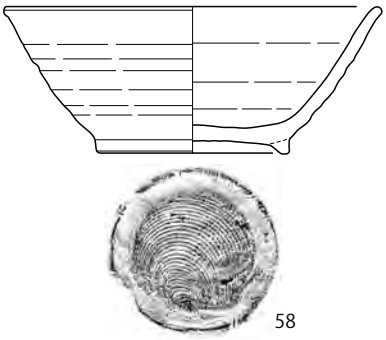


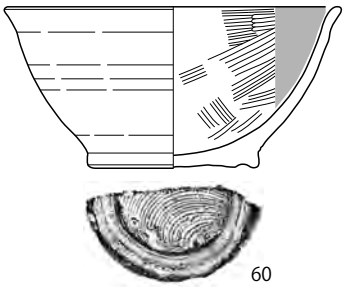


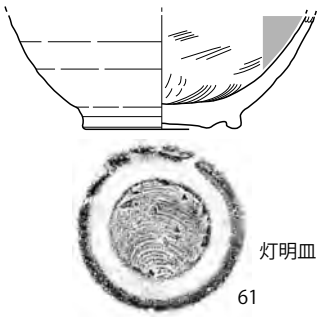


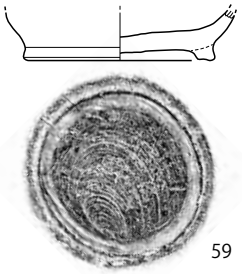


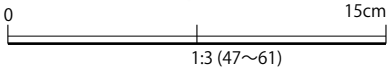
土師器　有台坏







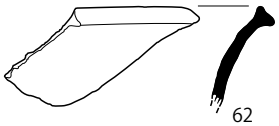




第 73 図　出土遺物 6 （1ST365-2）

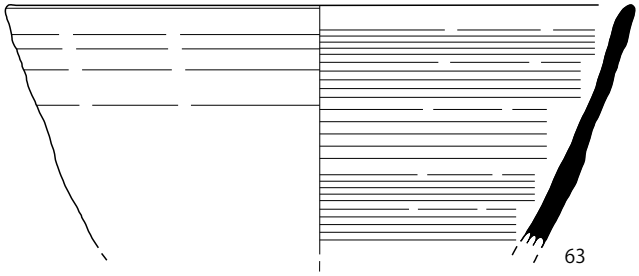
1ST365

須恵器　瓶



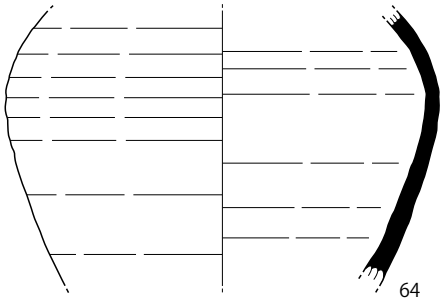
62

須恵器　鉢



63

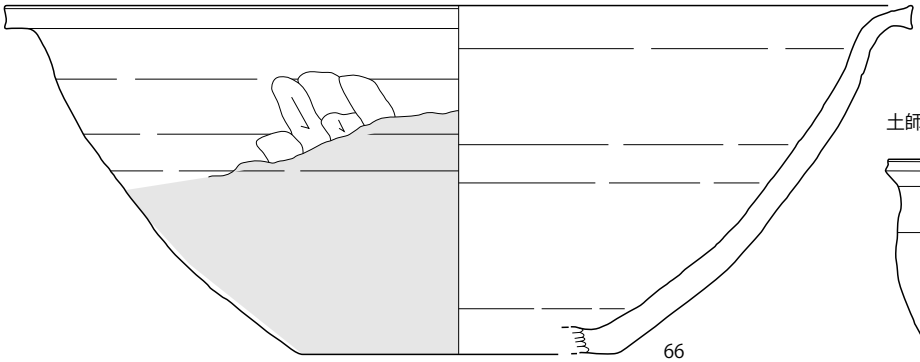
須恵器　瓶類



64

65

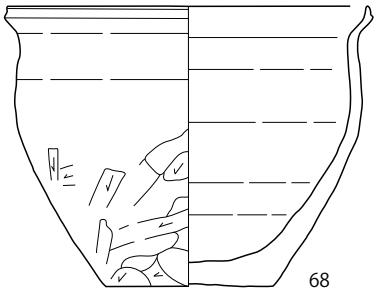
土師器　鉢



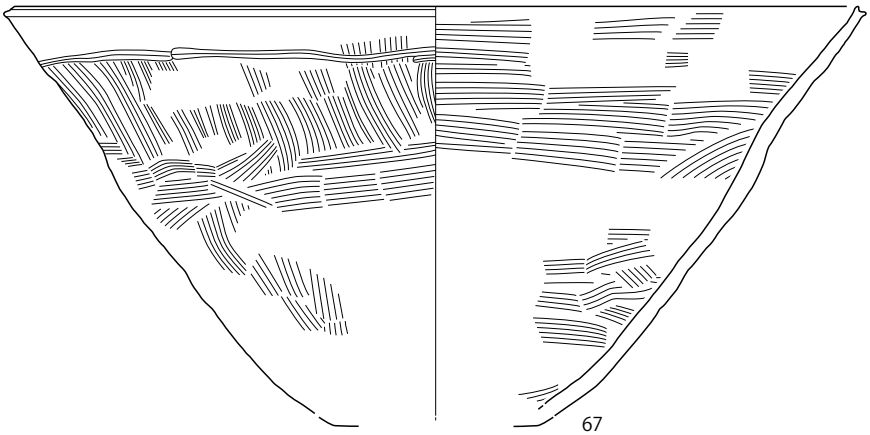
66

・・・煤付着

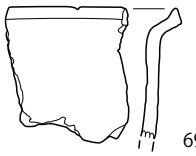
土師器　甕



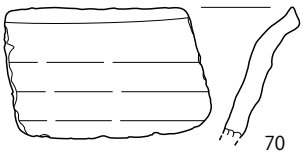
68



67



69



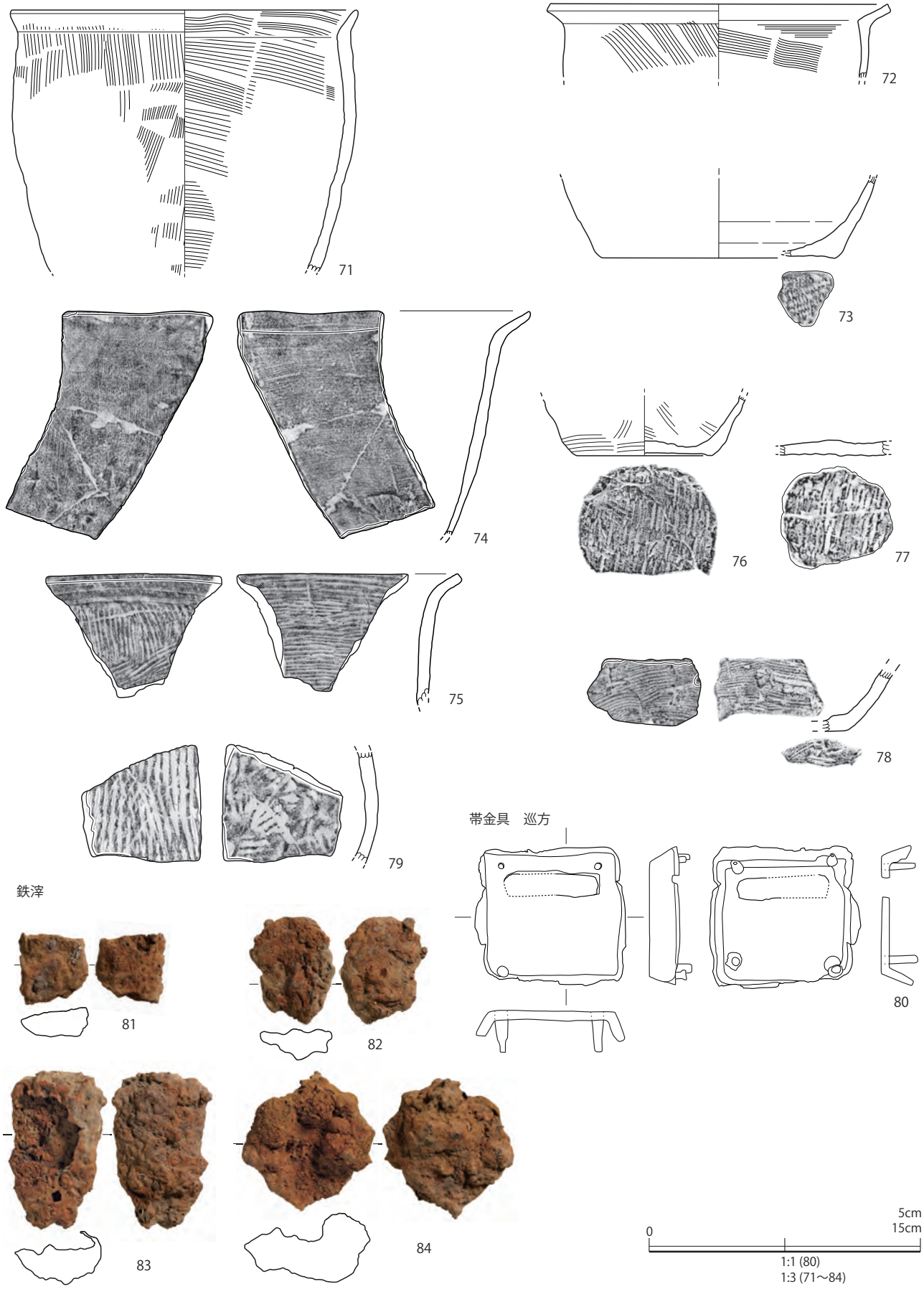
70

0　15cm

1:3 (62～70)

第 74 図　出土遺物 7（1ST365-3）

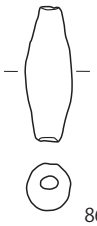
1ST365
土師器　甕



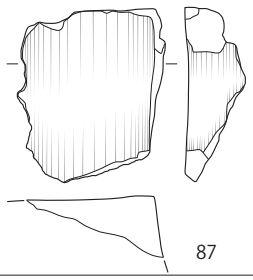
第 75 図　出土遺物８（1ST365-4）

1ST365
土製品　土玉

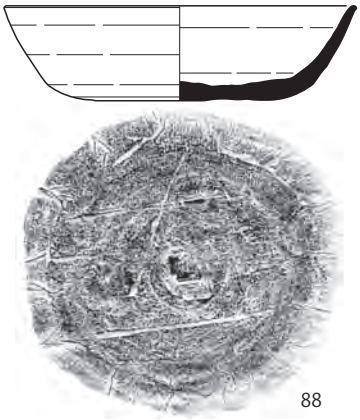
85

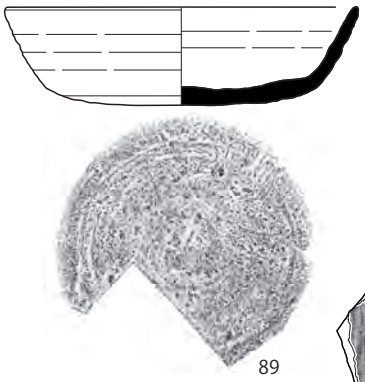

86

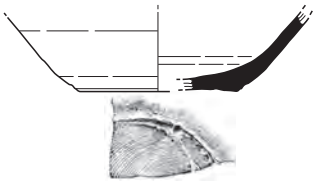
砥石


87

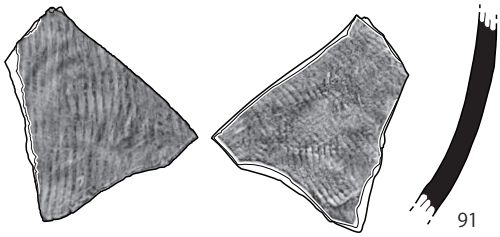
1ST510
須恵器　坏


88

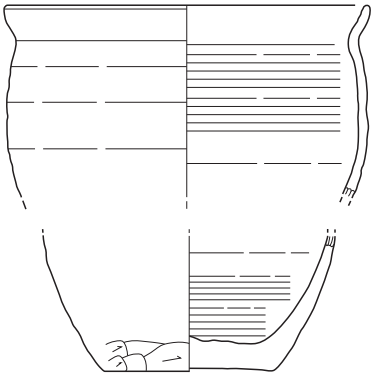

89

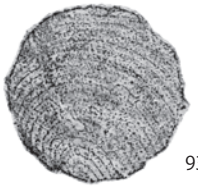

90

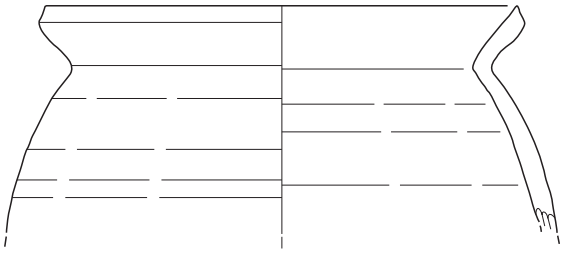
須恵器　甕

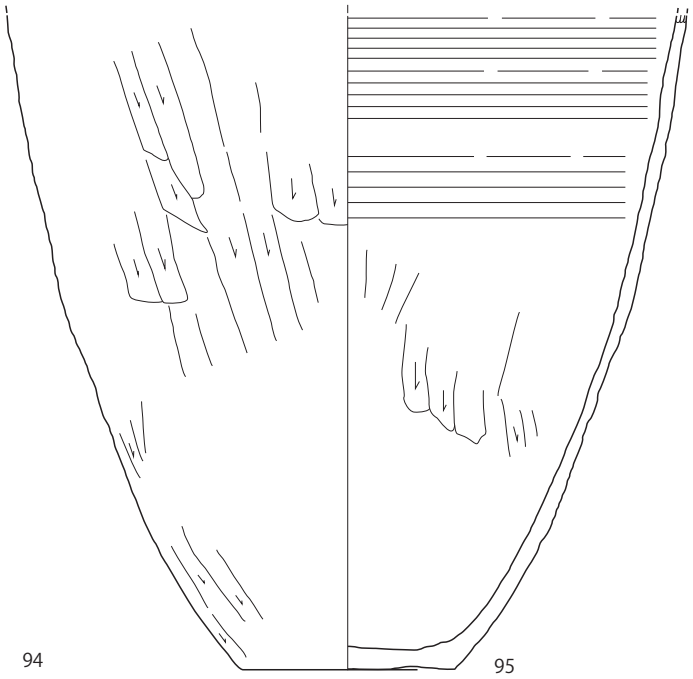

91

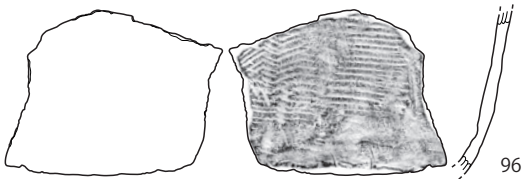
土師器　甕


92


93


94

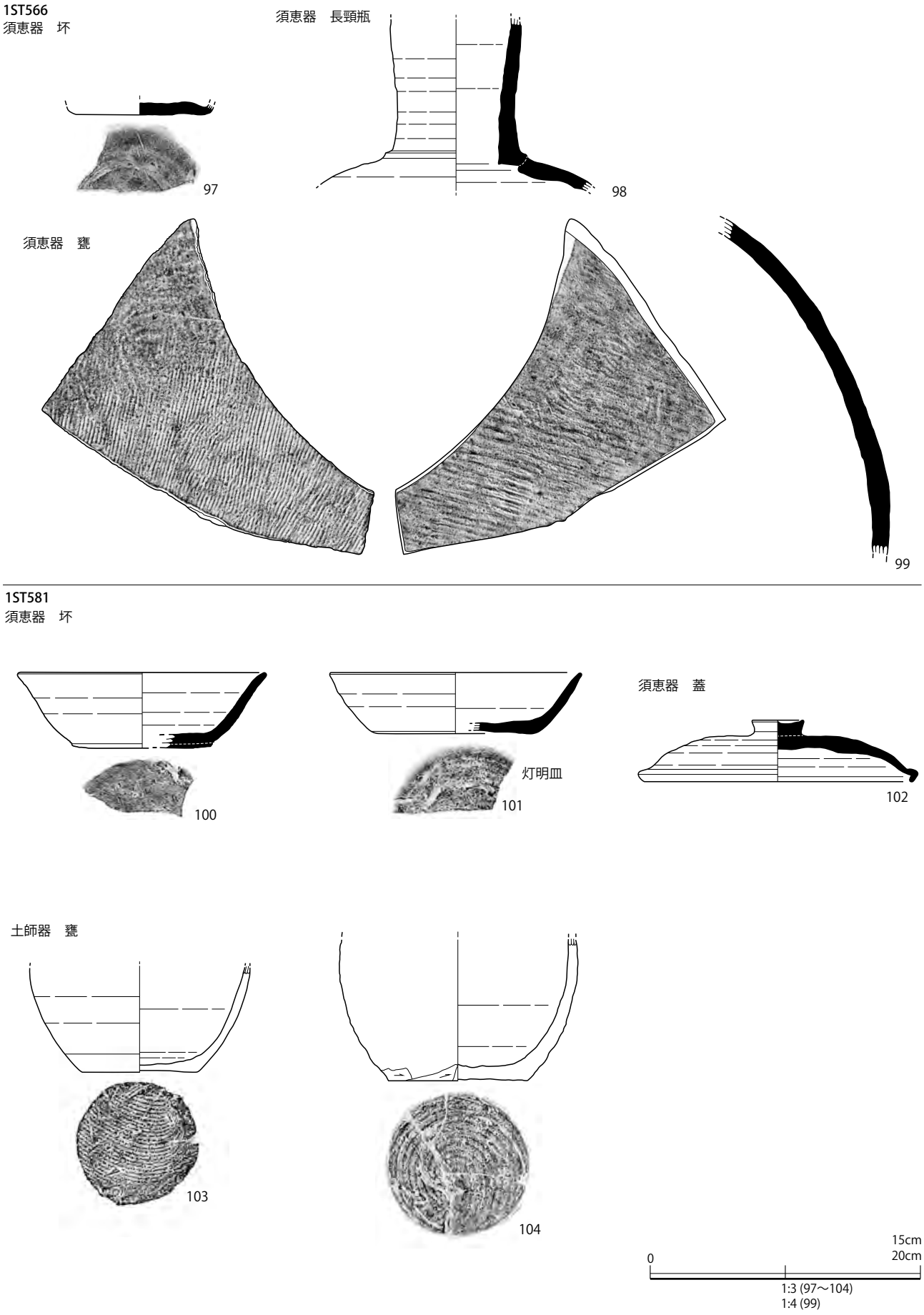

95


96

10cm
15cm
20cm
0

1:2 (85～87)
1:3 (88～96)
1:4 (91)

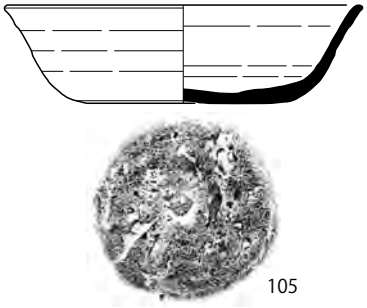
第 76 図　出土遺物 9（1ST365-5・510）

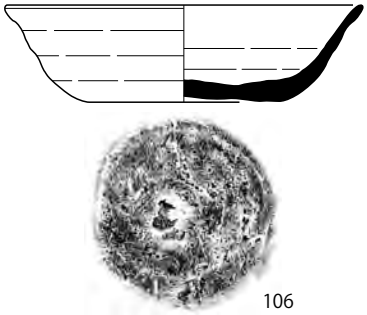


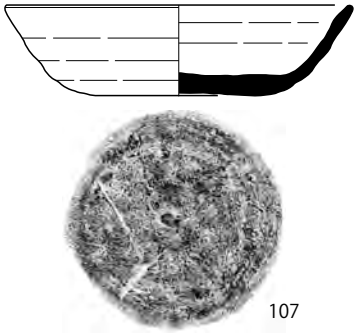
第 77 図　出土遺物 10（1ST566・581）

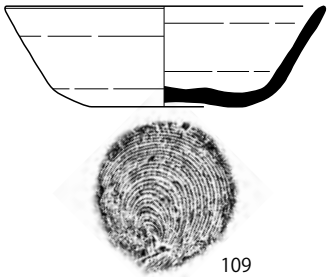
1ST740

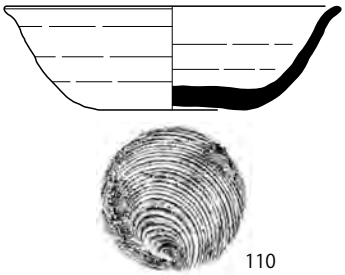
須恵器　坏

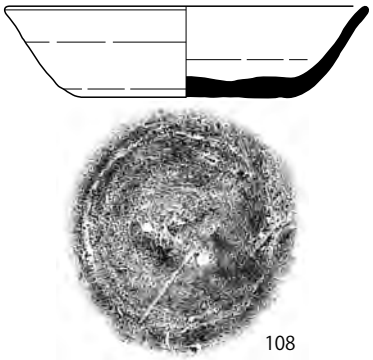

105

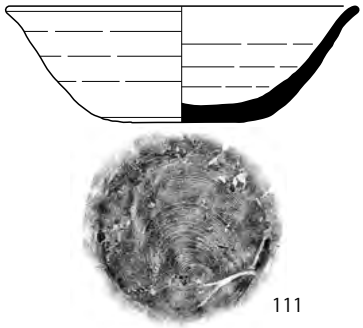

106

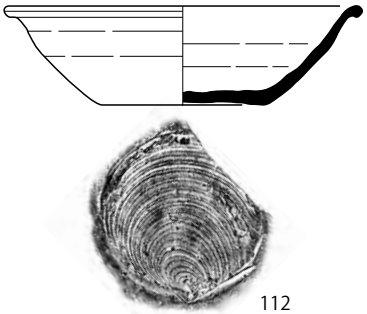

107

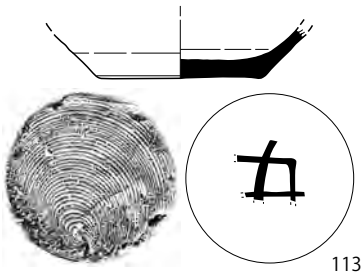

109


110

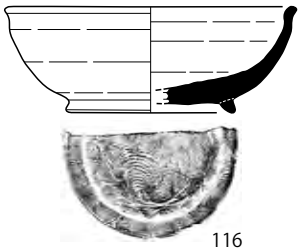

108

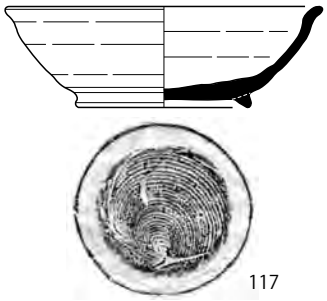

111

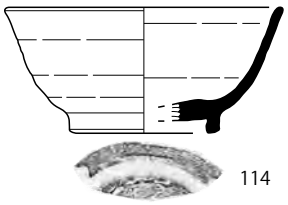

112


113

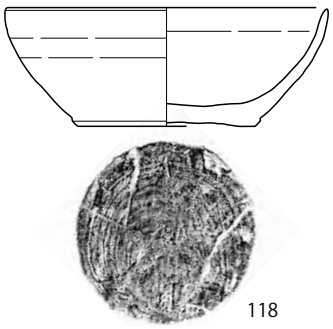
須恵器　有台坏

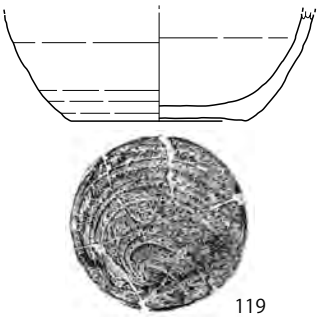

116

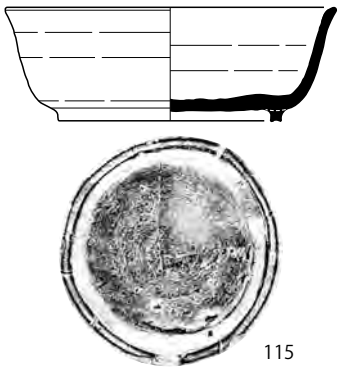

117


114

土師器　坏


118


119


115

0　15cm

1:3 (105～119)

第 78 図　出土遺物 11（1ST740-1）

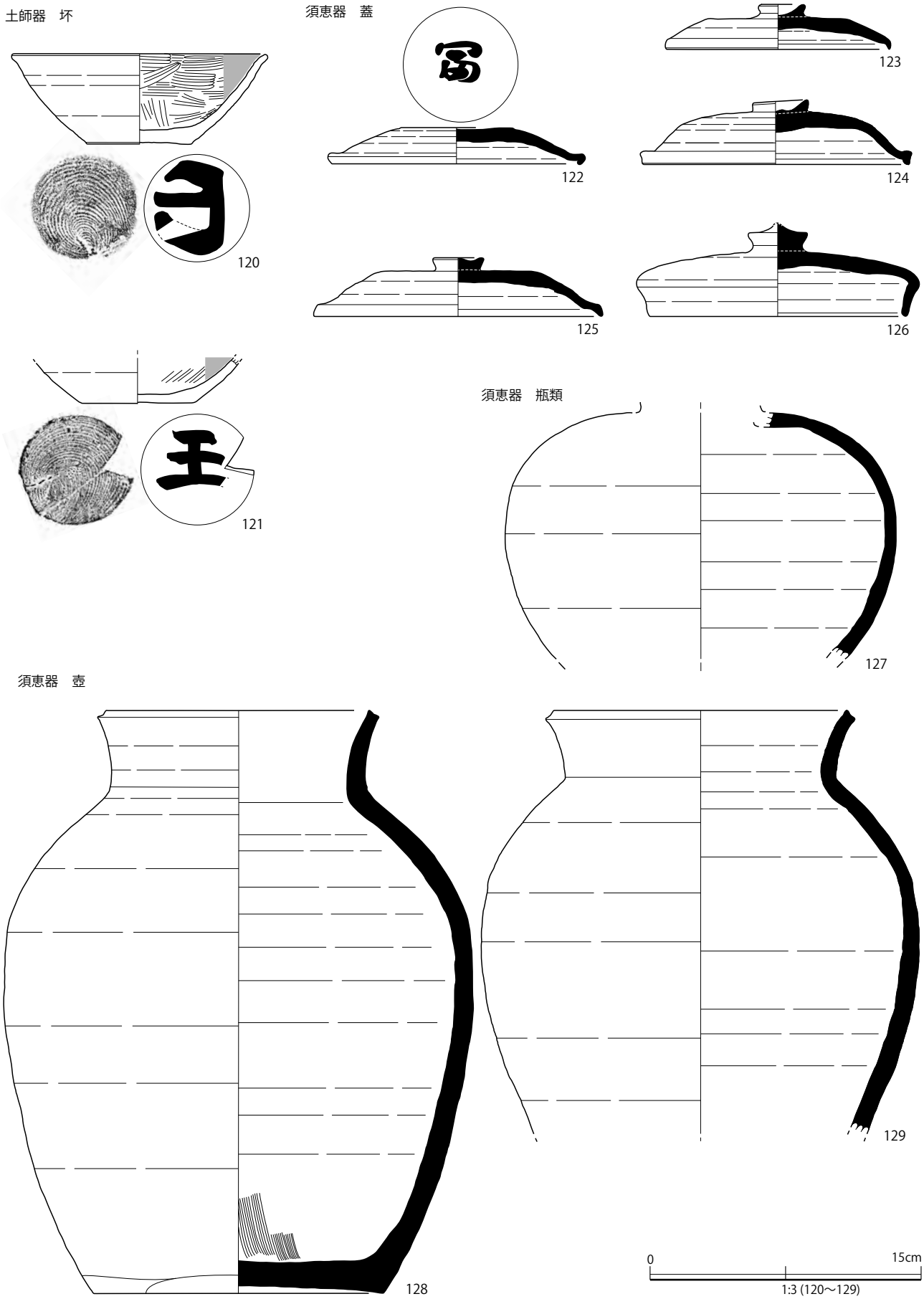
1ST740

土師器　坏

須恵器　蓋

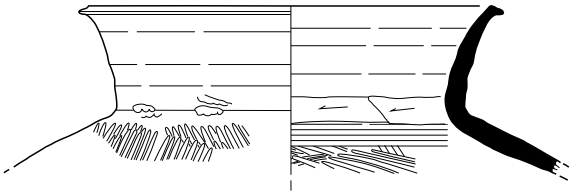
須恵器　瓶類

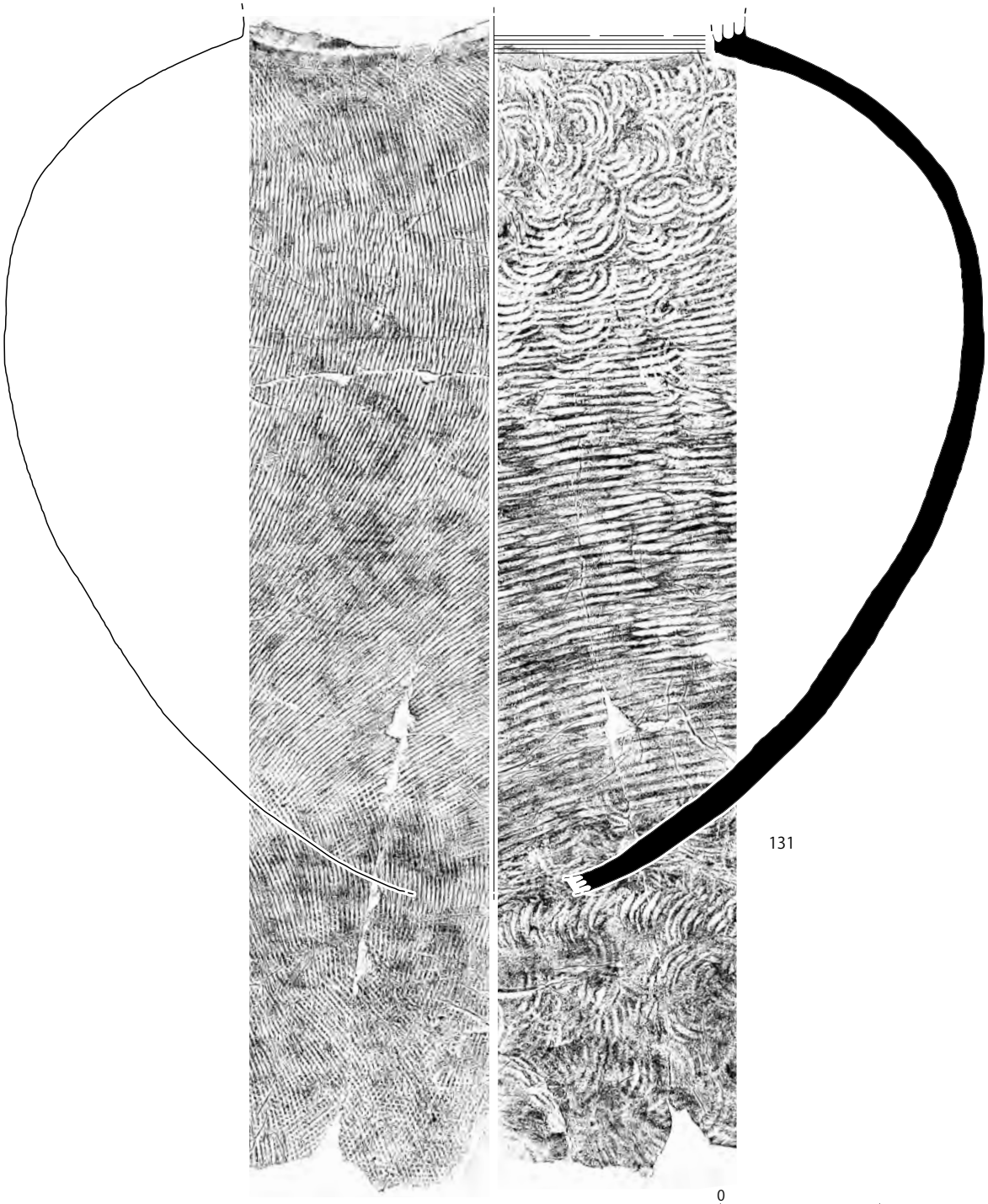
須恵器　壺



第 79 図　出土遺物 12（1ST740-2）

1ST740
須恵器　甕



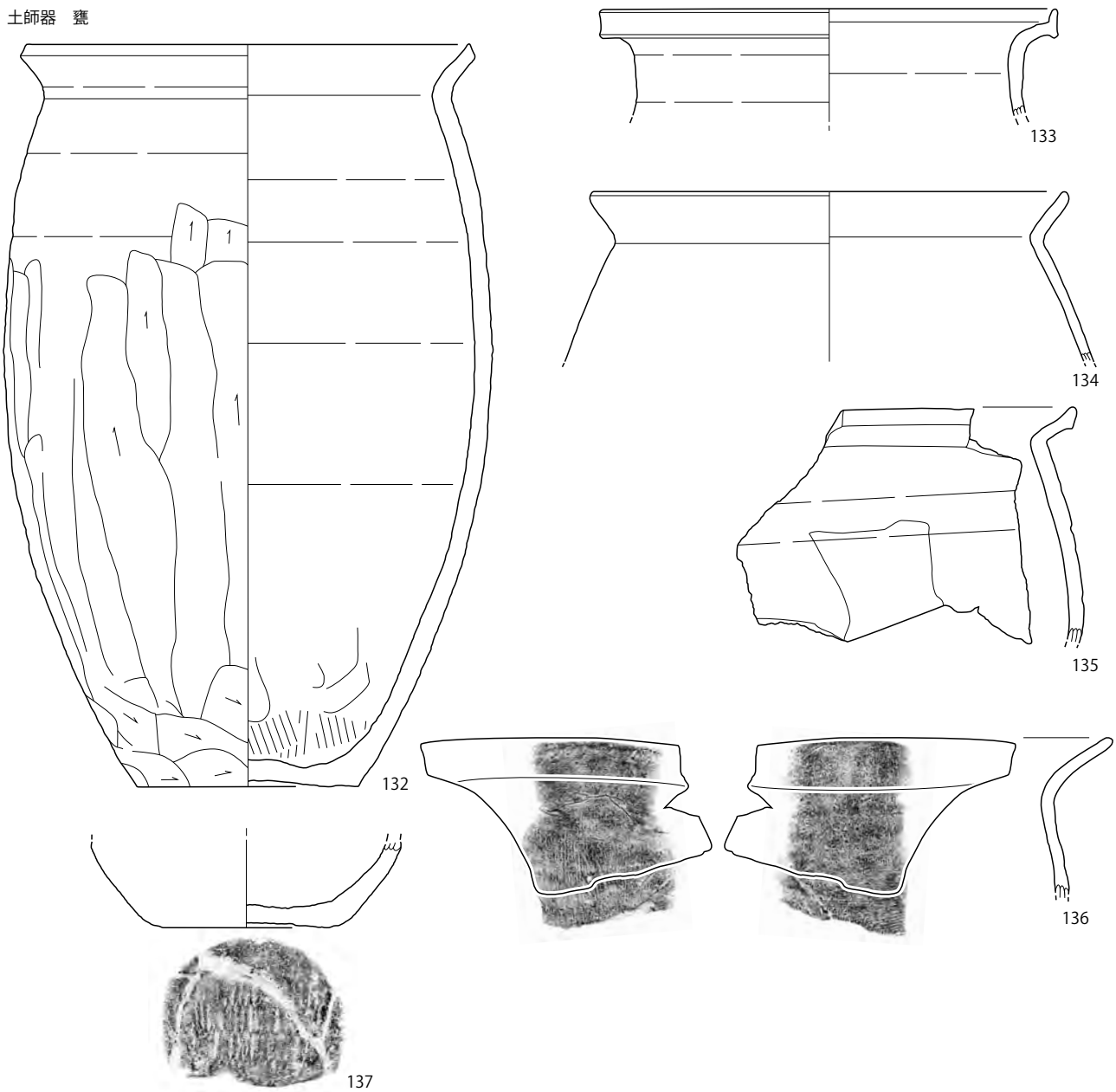


0　20cm
1:4 (130、131)

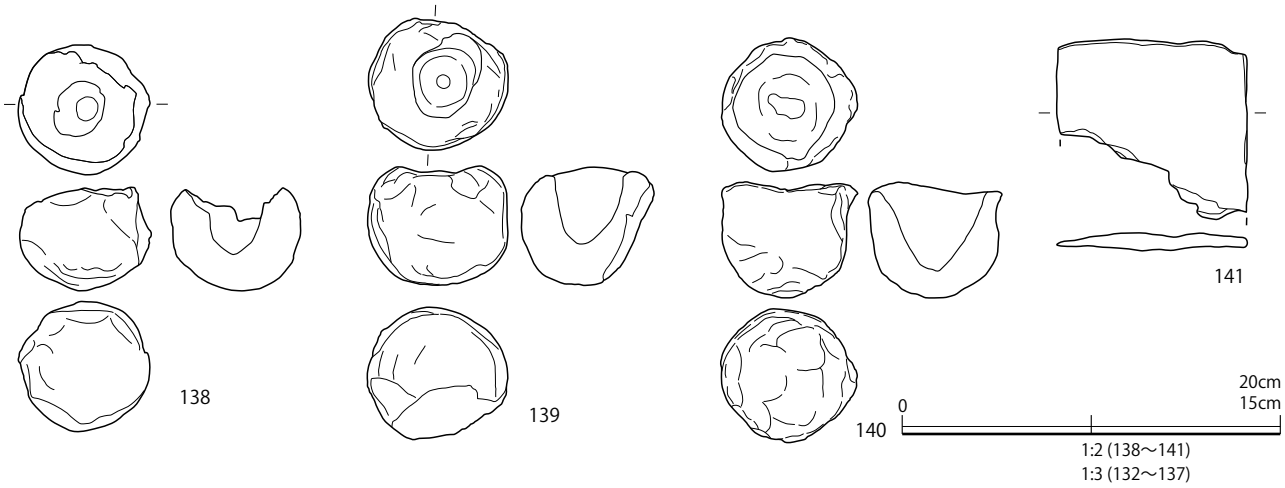
第 80 図　出土遺物 13（1ST740-3）

1ST740

土師器　甕



土製品　ミニチュア

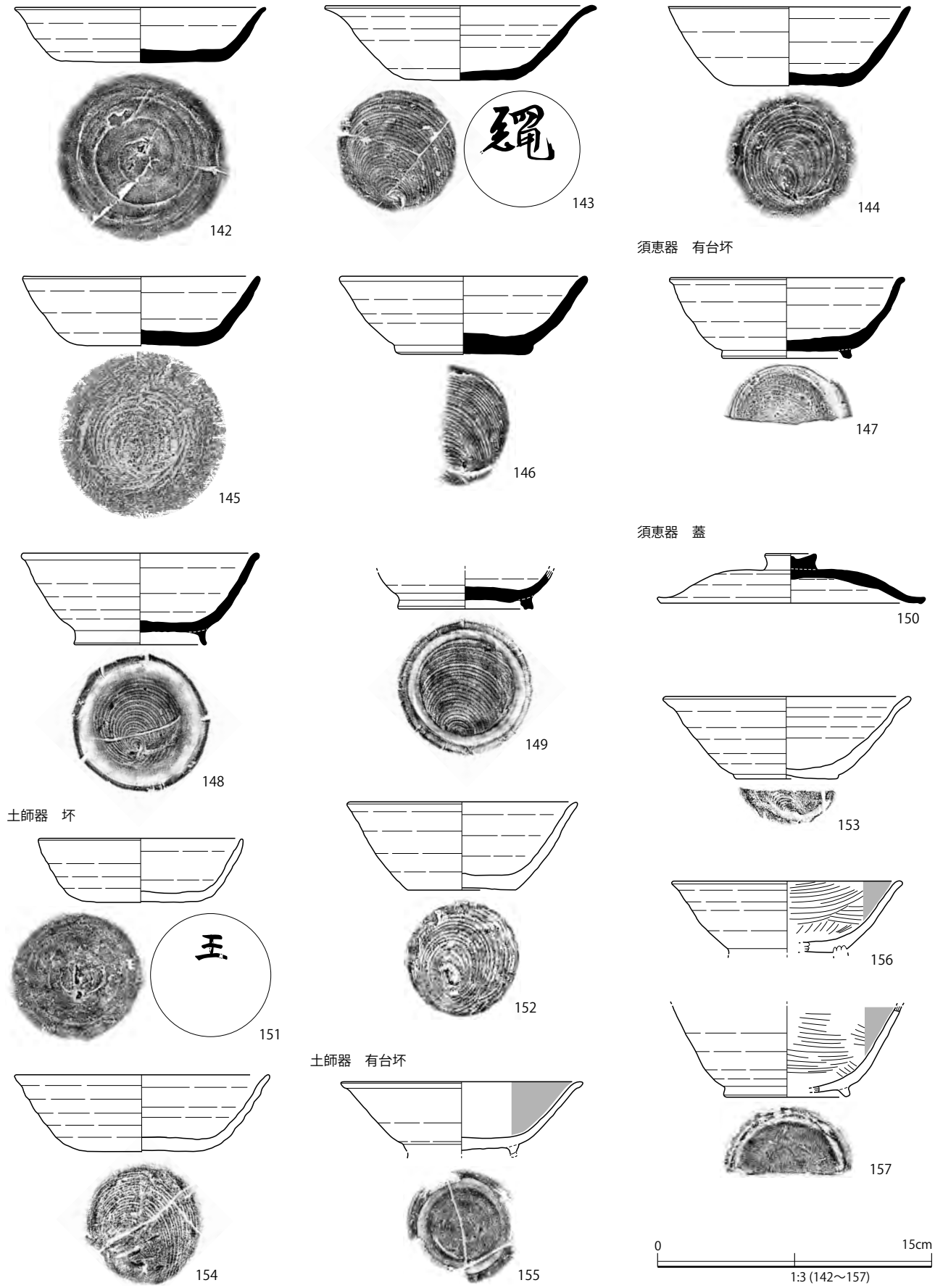


鉄製品

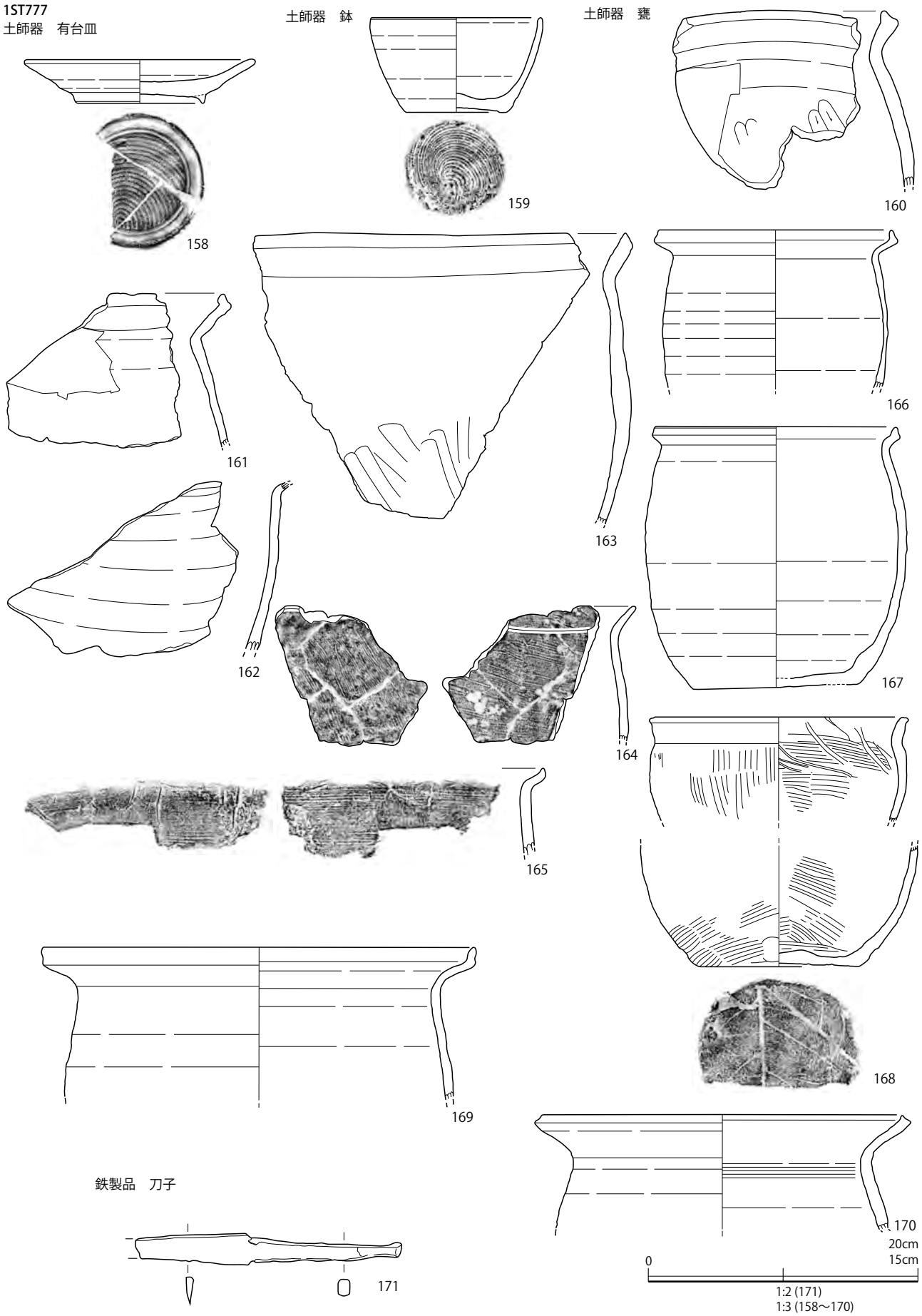
第 81 図　出土遺物 14（1ST740-4）

1ST777

須恵器　坏



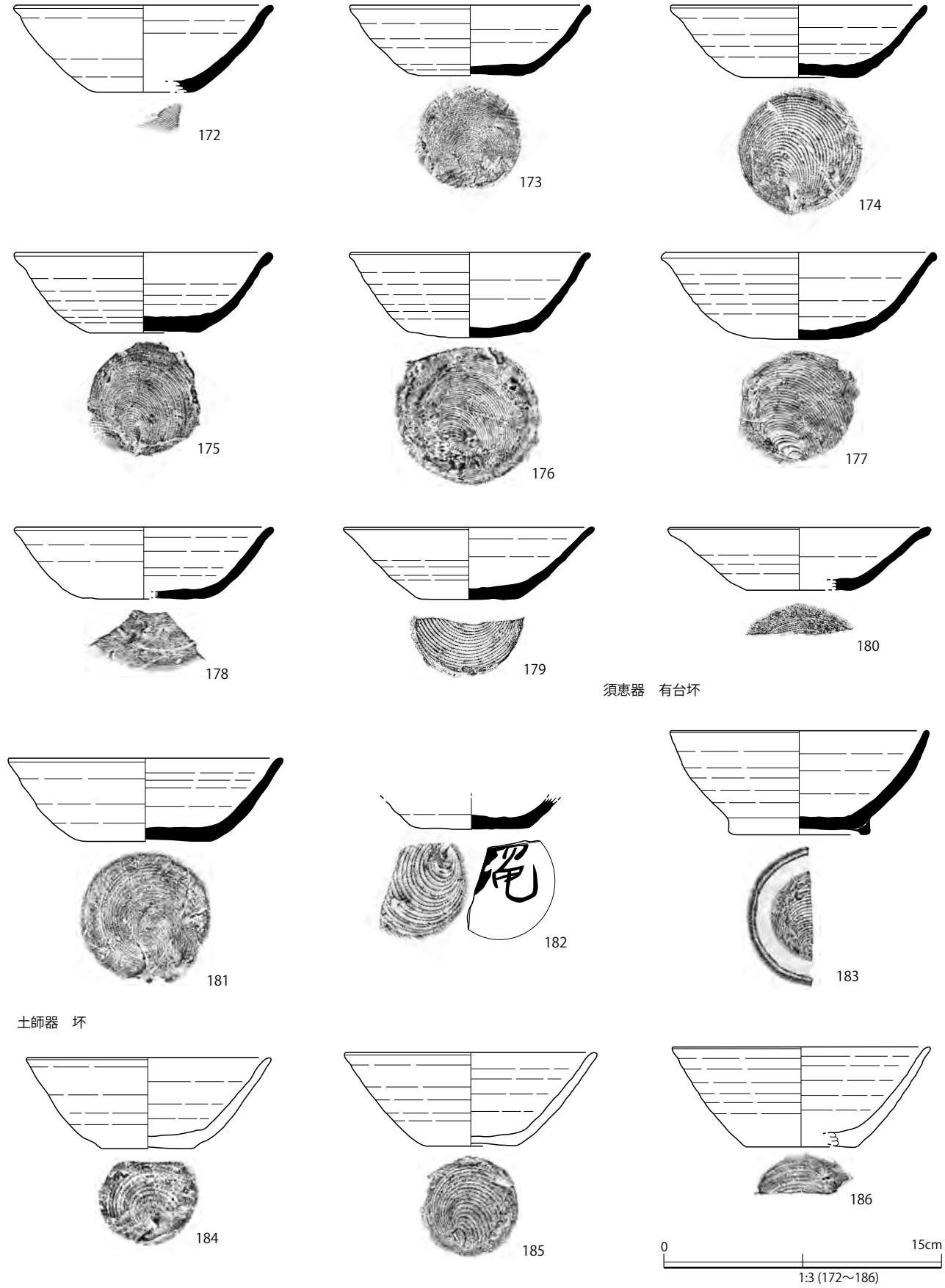
第 82 図　出土遺物 15（1ST777-1）



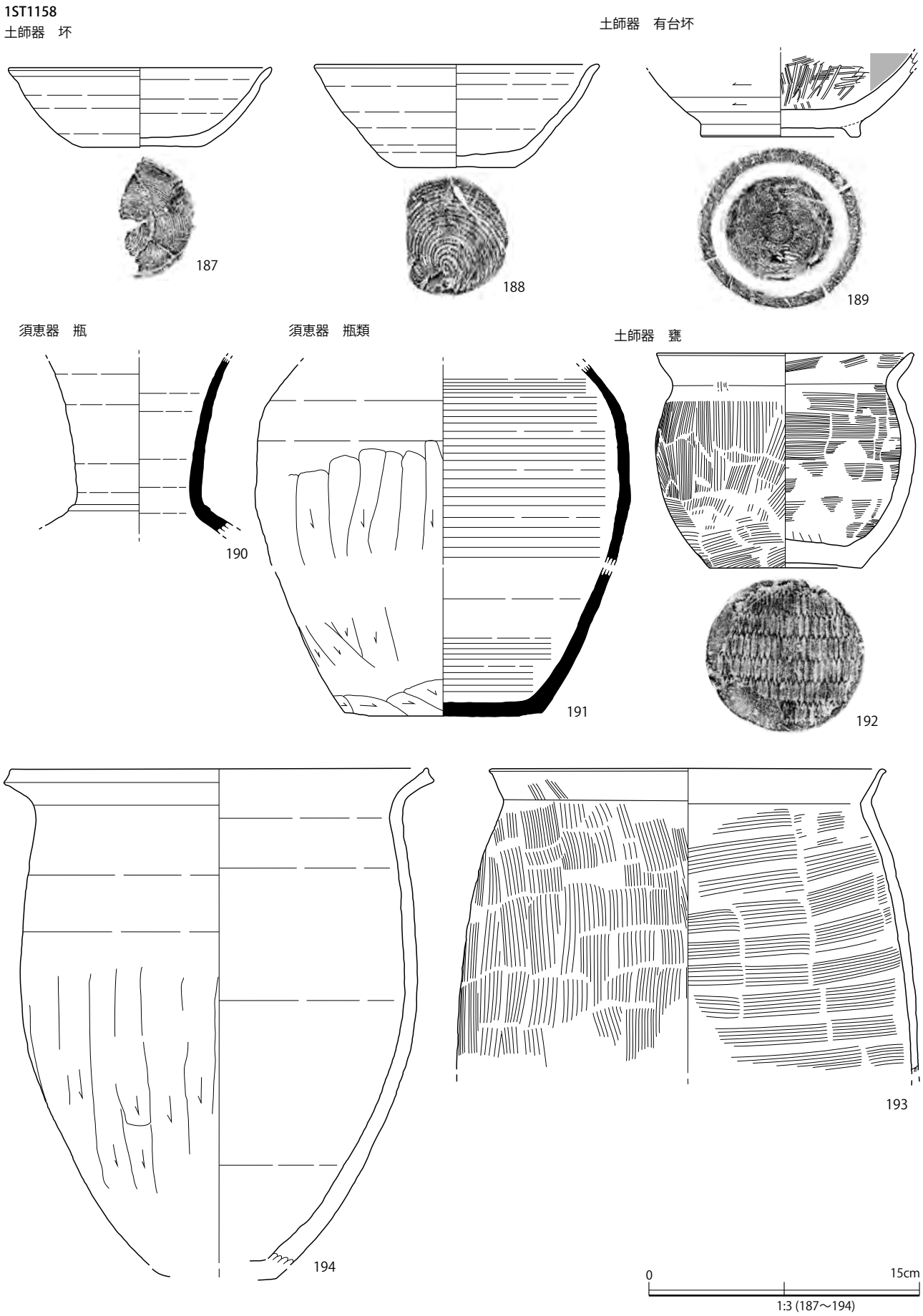
第 83 図　出土遺物 16（1ST777-2）

1ST1158

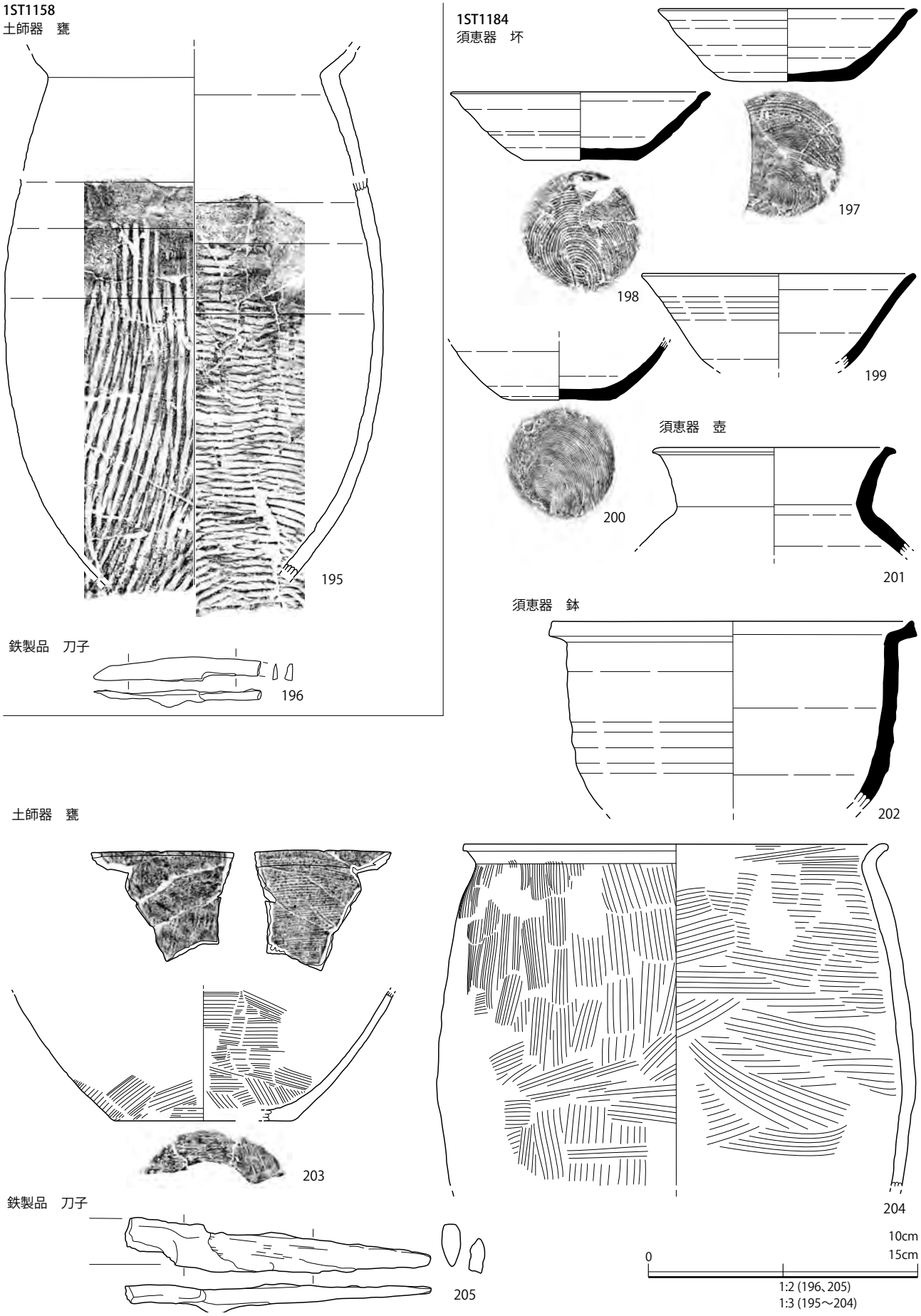
須恵器　坏



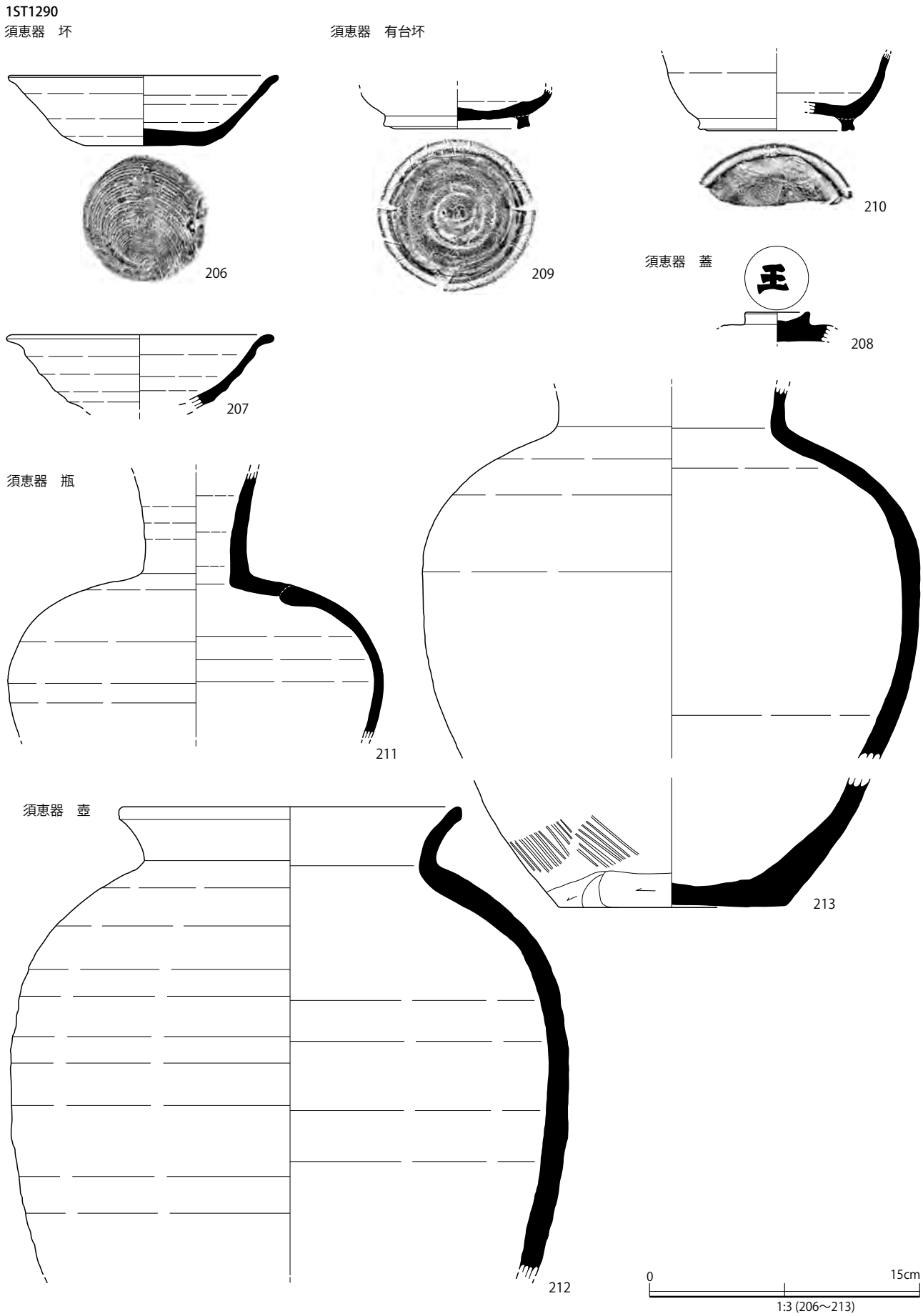
第 84 図　出土遺物 17（1ST1158-1）



第 85 図　出土遺物 18（1ST1158-2）

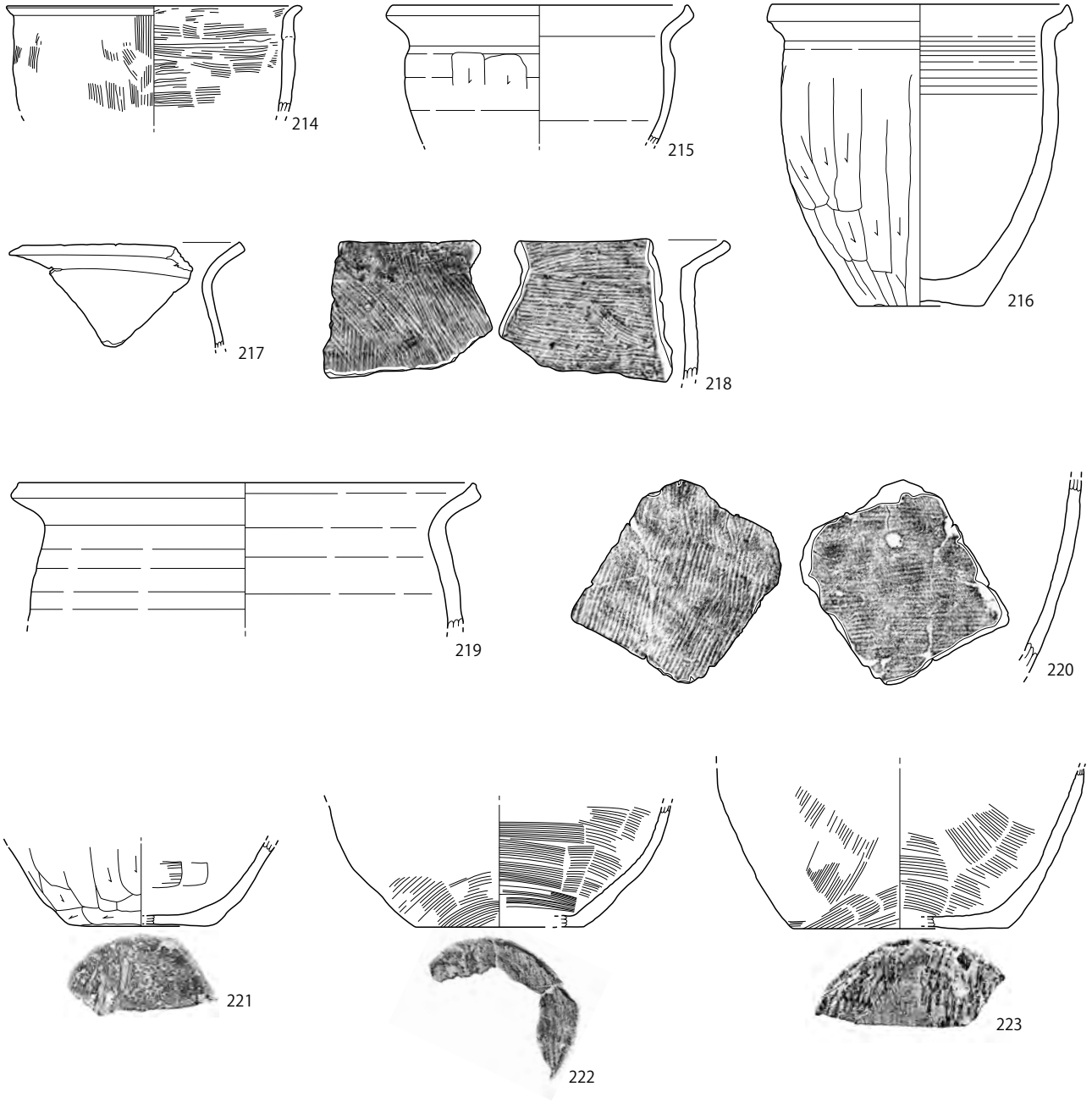


第 86 図　出土遺物 19（1ST1158-3・1184）

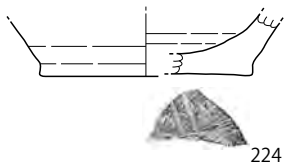


第 87 図　出土遺物 20（1ST1290-1）

1ST1290
土師器　甕

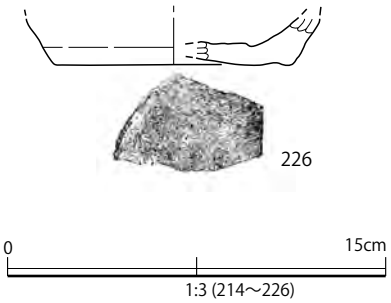


1ST1286
土師器　甕



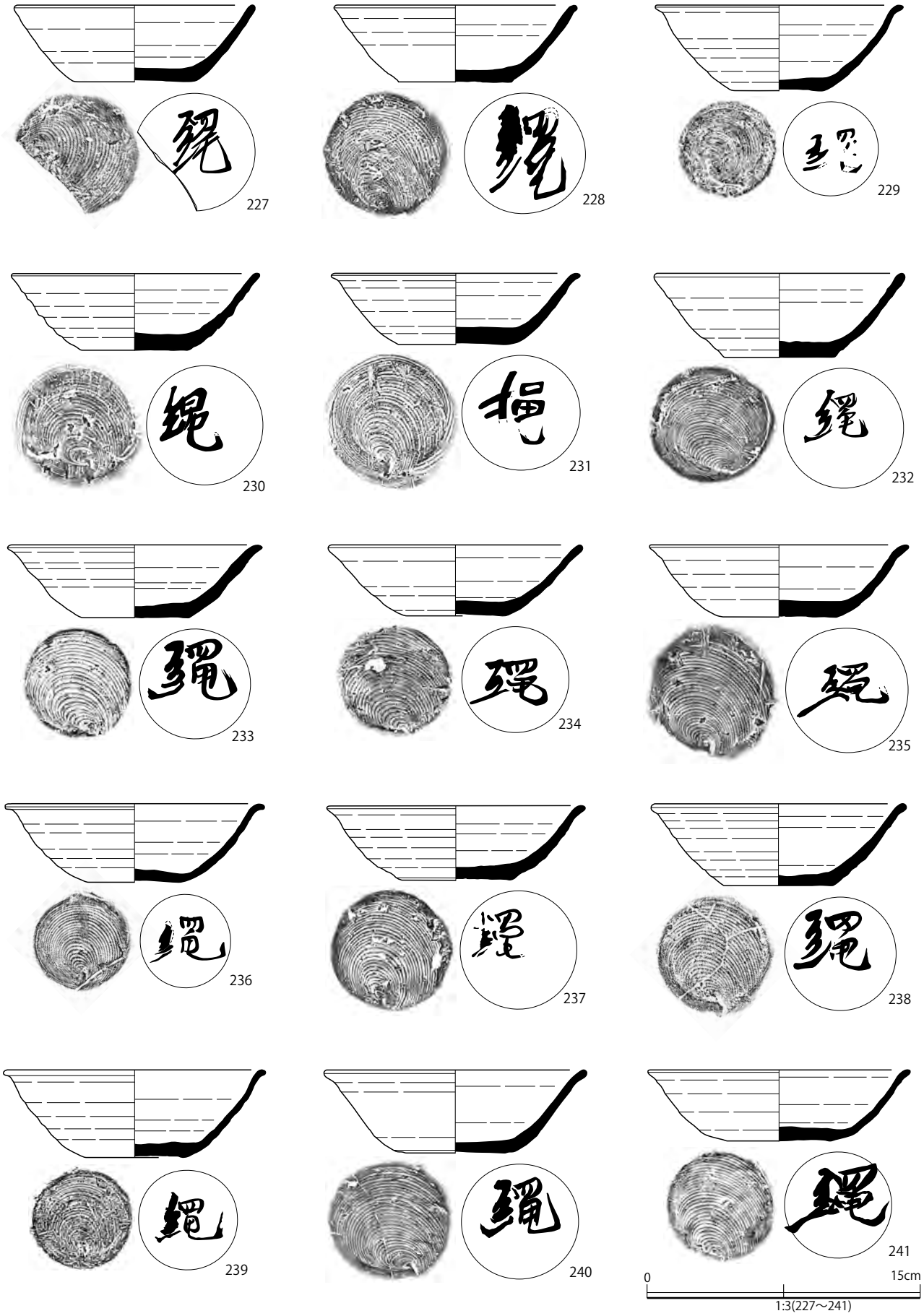
1SB665
須恵器　坏

1SB1405
土師器　甕



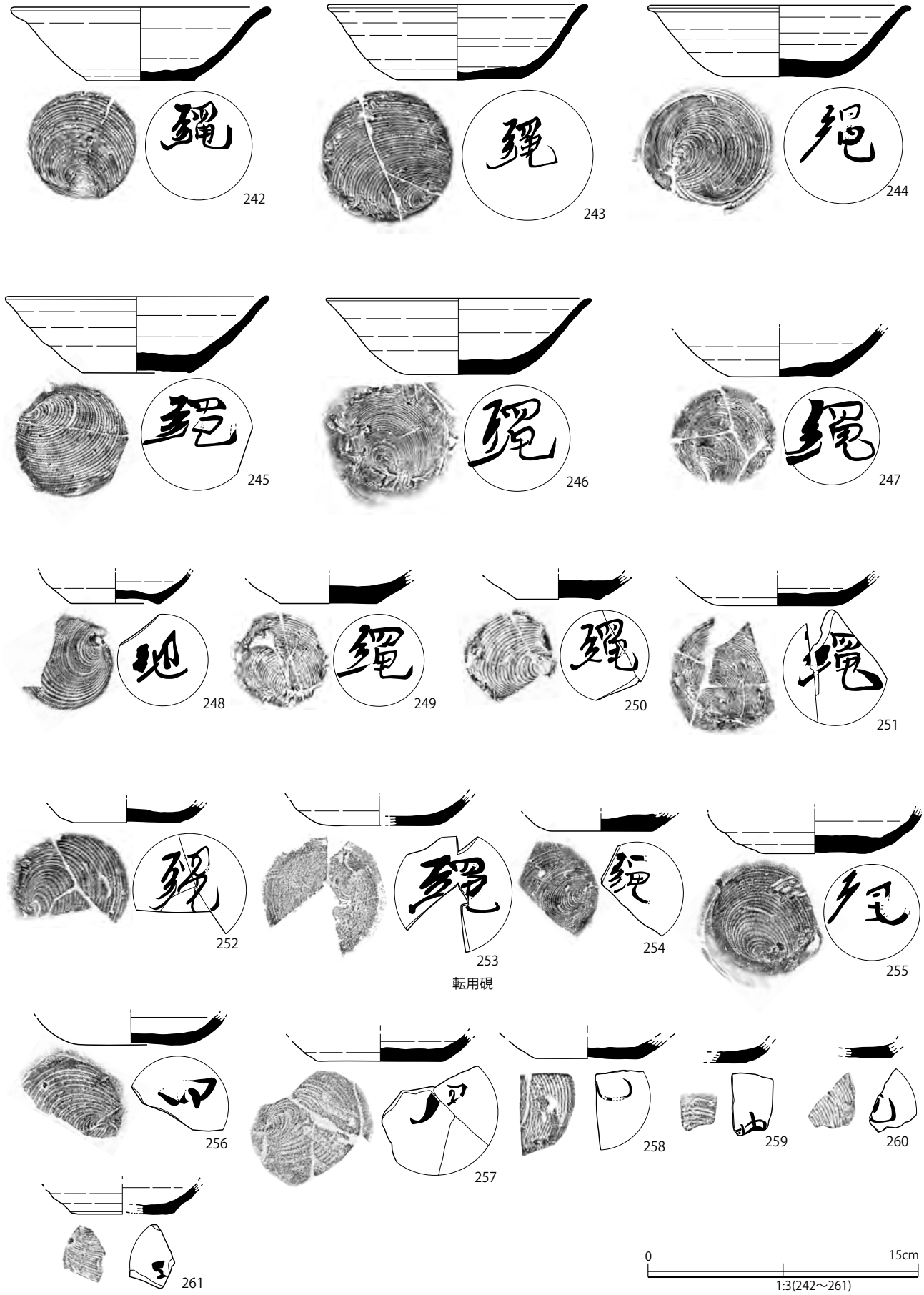
第 88 図　出土遺物 21（1ST1290-2・1286、1SB665・1405）

須恵器　坏



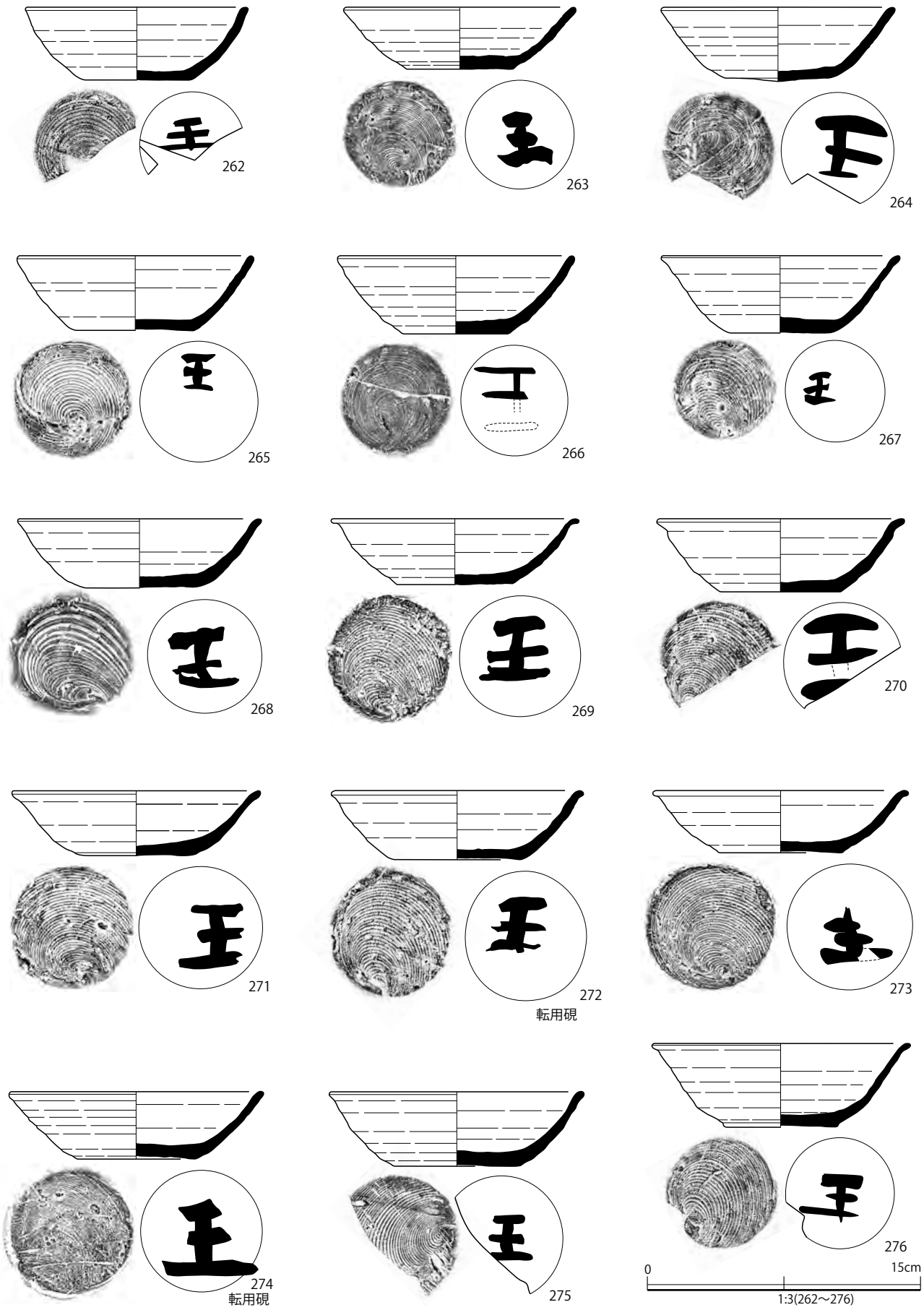
第 89 図　出土遺物 22（1SD186-1）

須恵器　坏



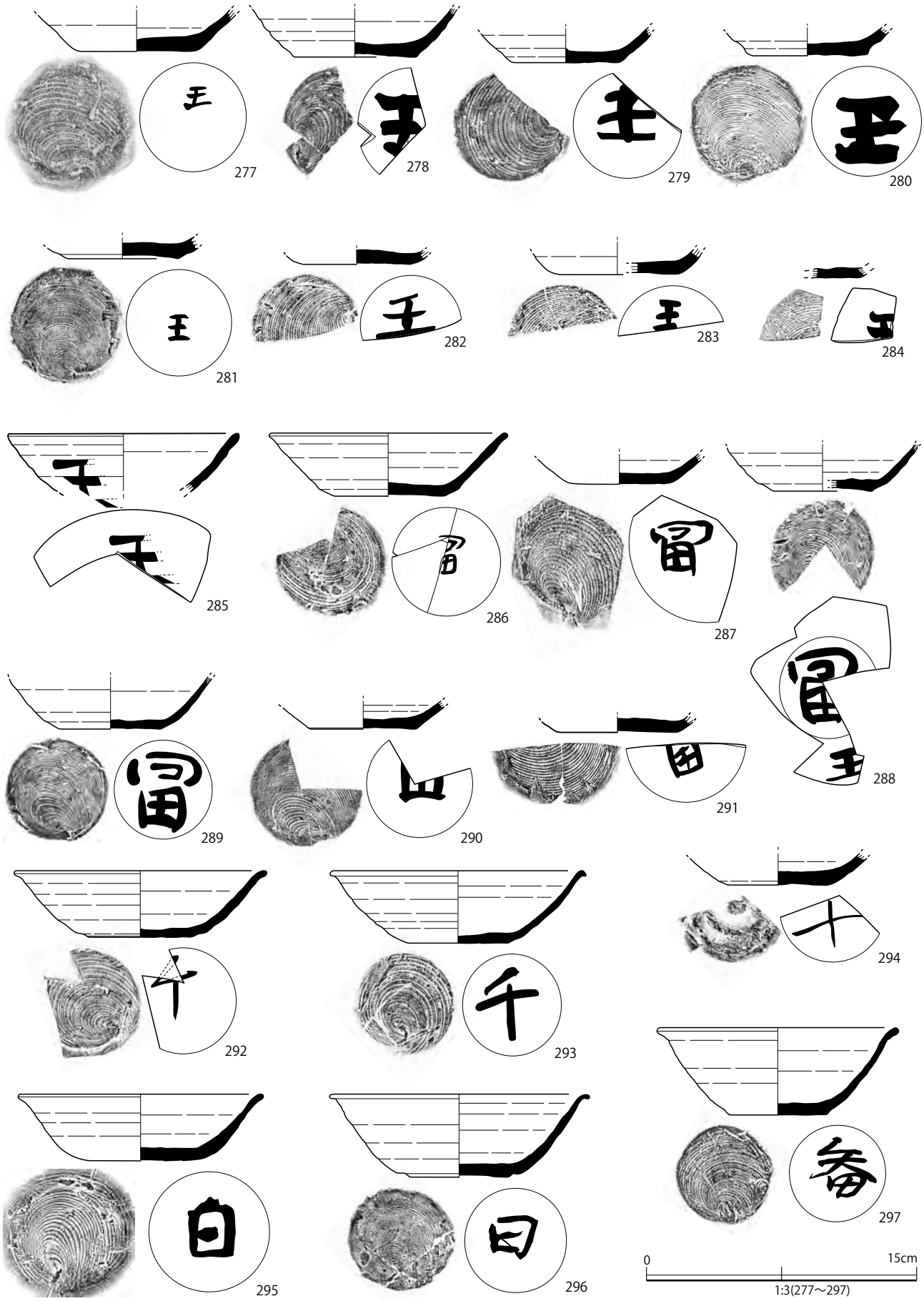
第 90 図　出土遺物 23（1SD186-2）

須恵器　坏



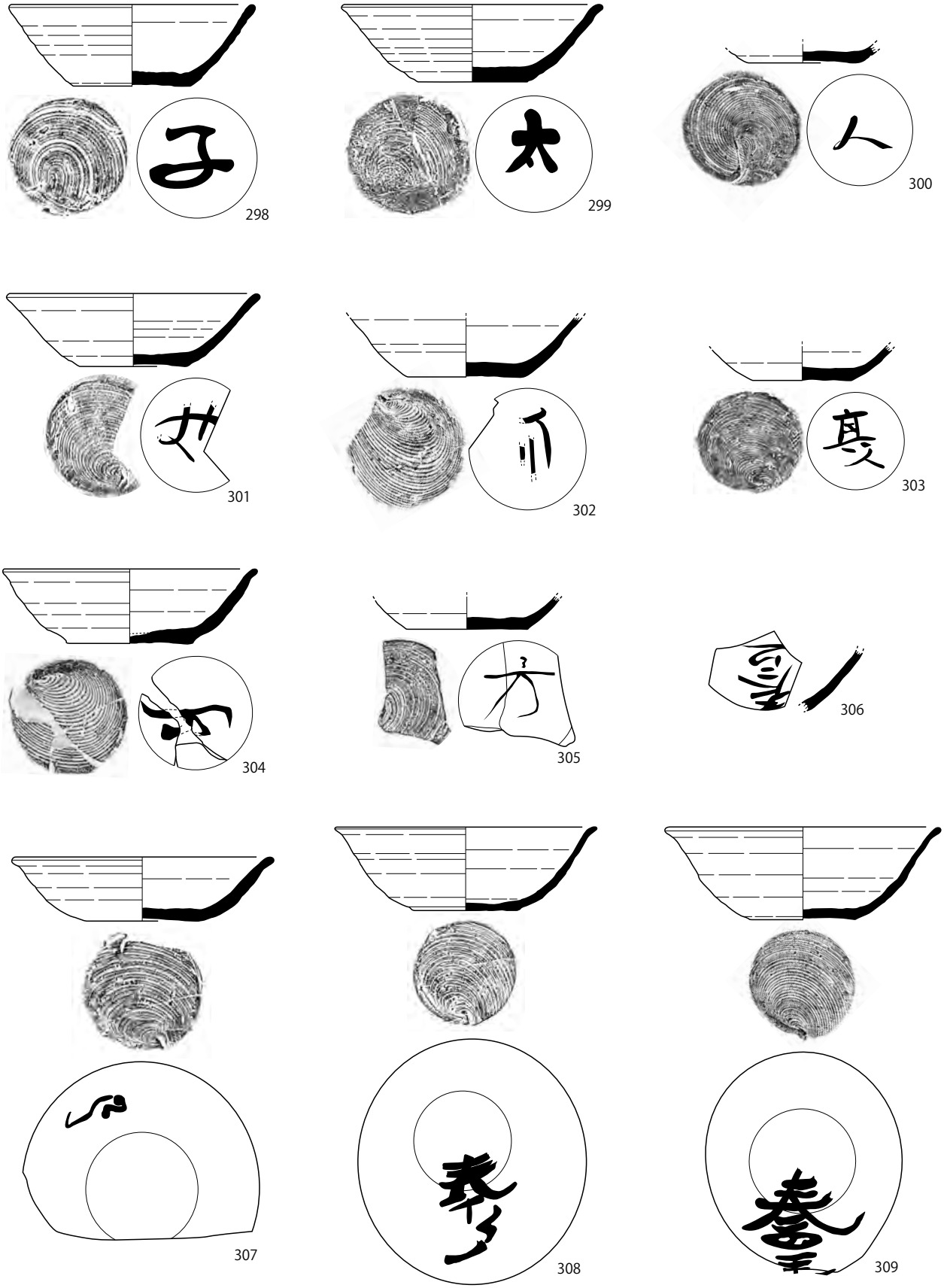
第 91 図　出土遺物 24（1SD186-3）

須恵器　坏



第 92 図　出土遺物 25（1SD186-4）

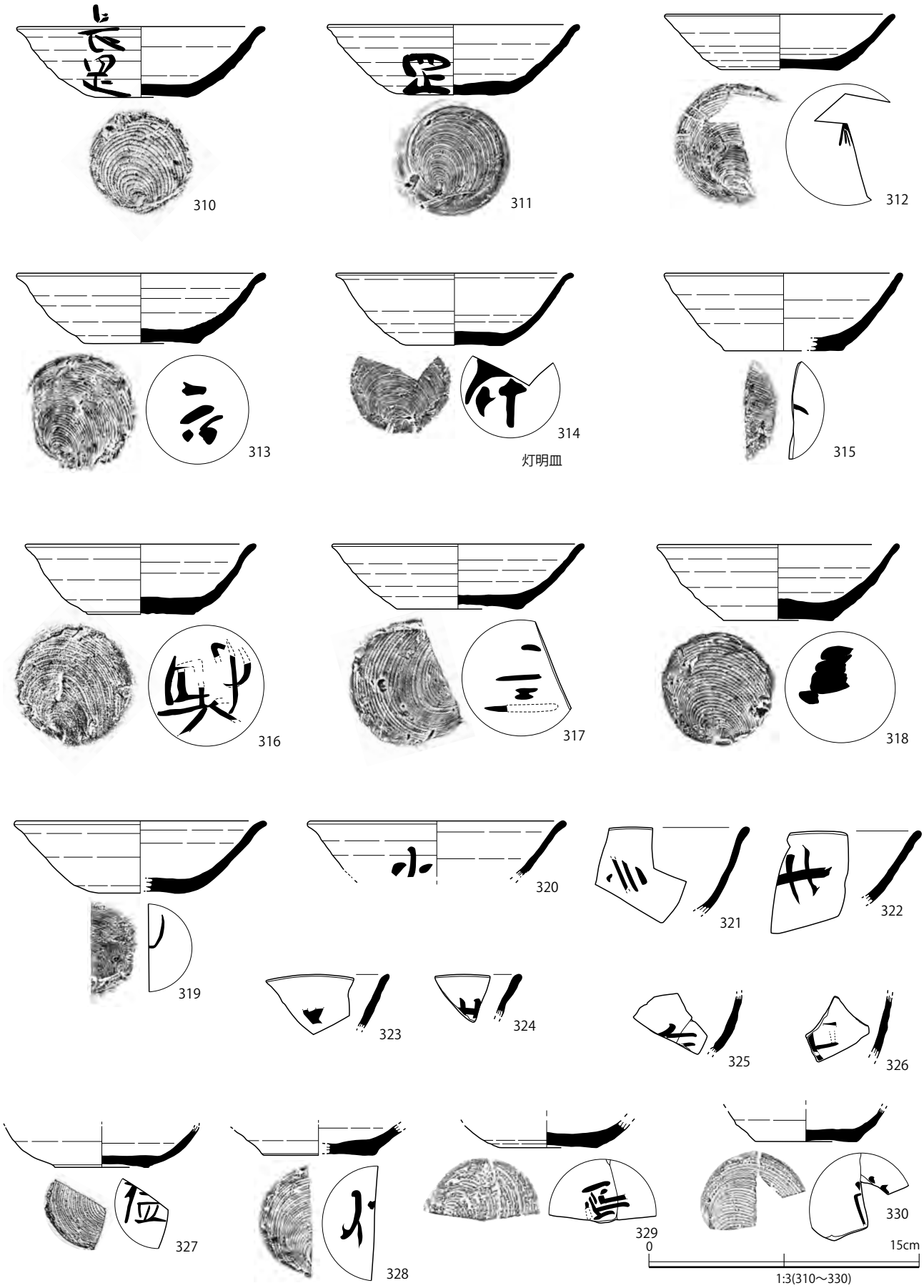
須恵器　坏



0　15cm
1:3(298～309)

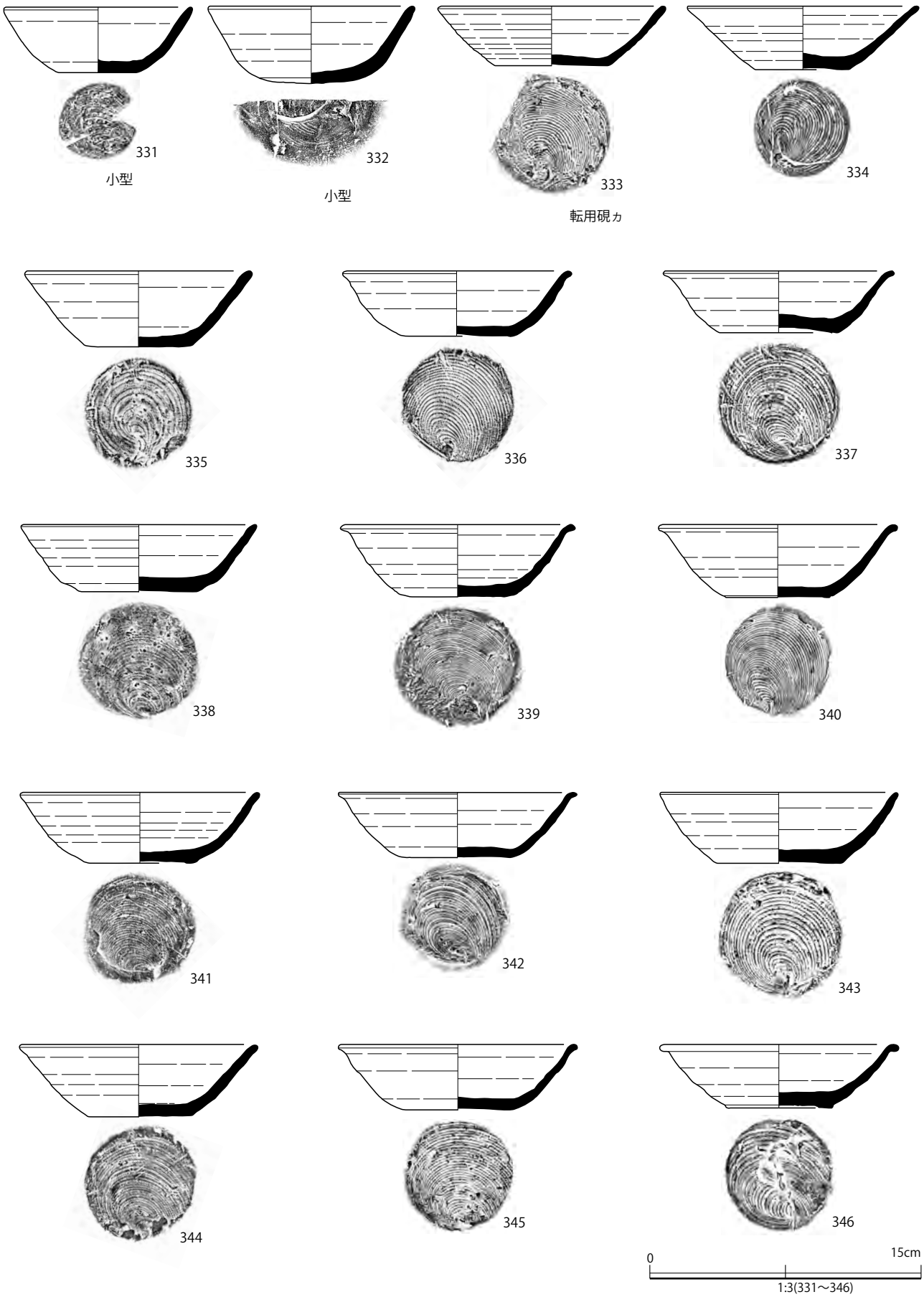
第 93 図　出土遺物 26（1SD186-5）

須恵器　坏



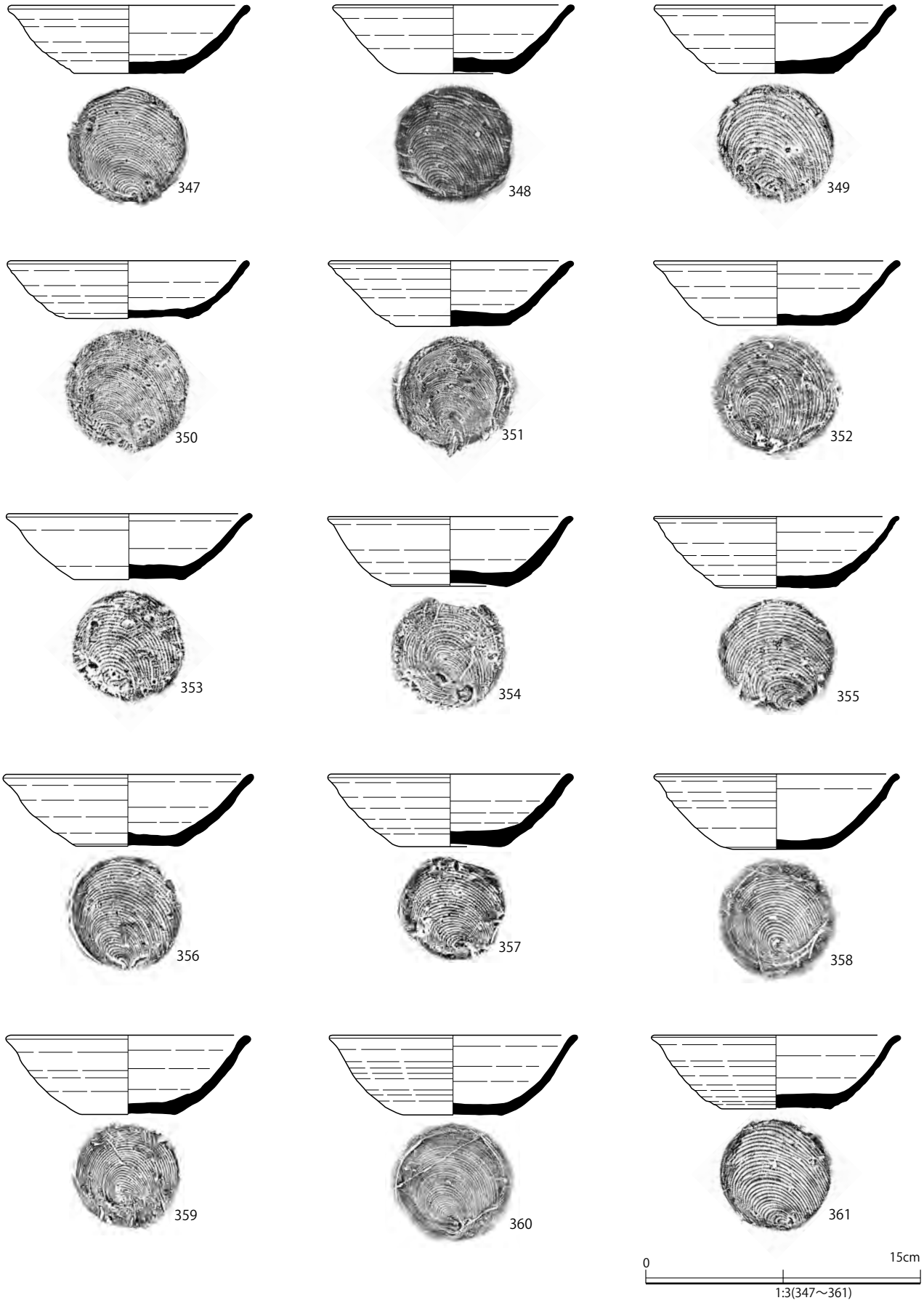
第 94 図　出土遺物 27（1SD186-6）

須恵器　坏



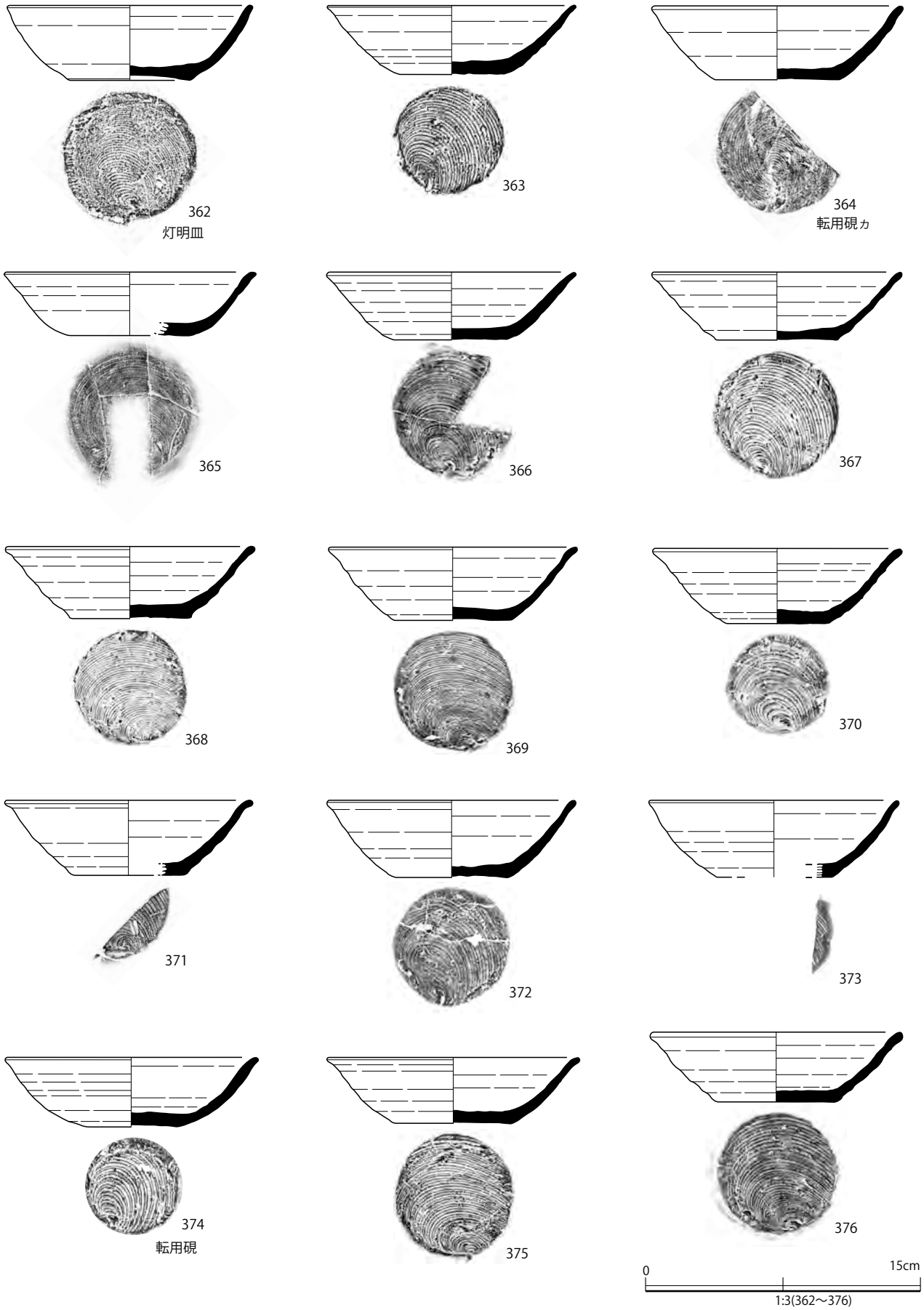
第 95 図　出土遺物 28（1SD186-7）

須恵器　坏



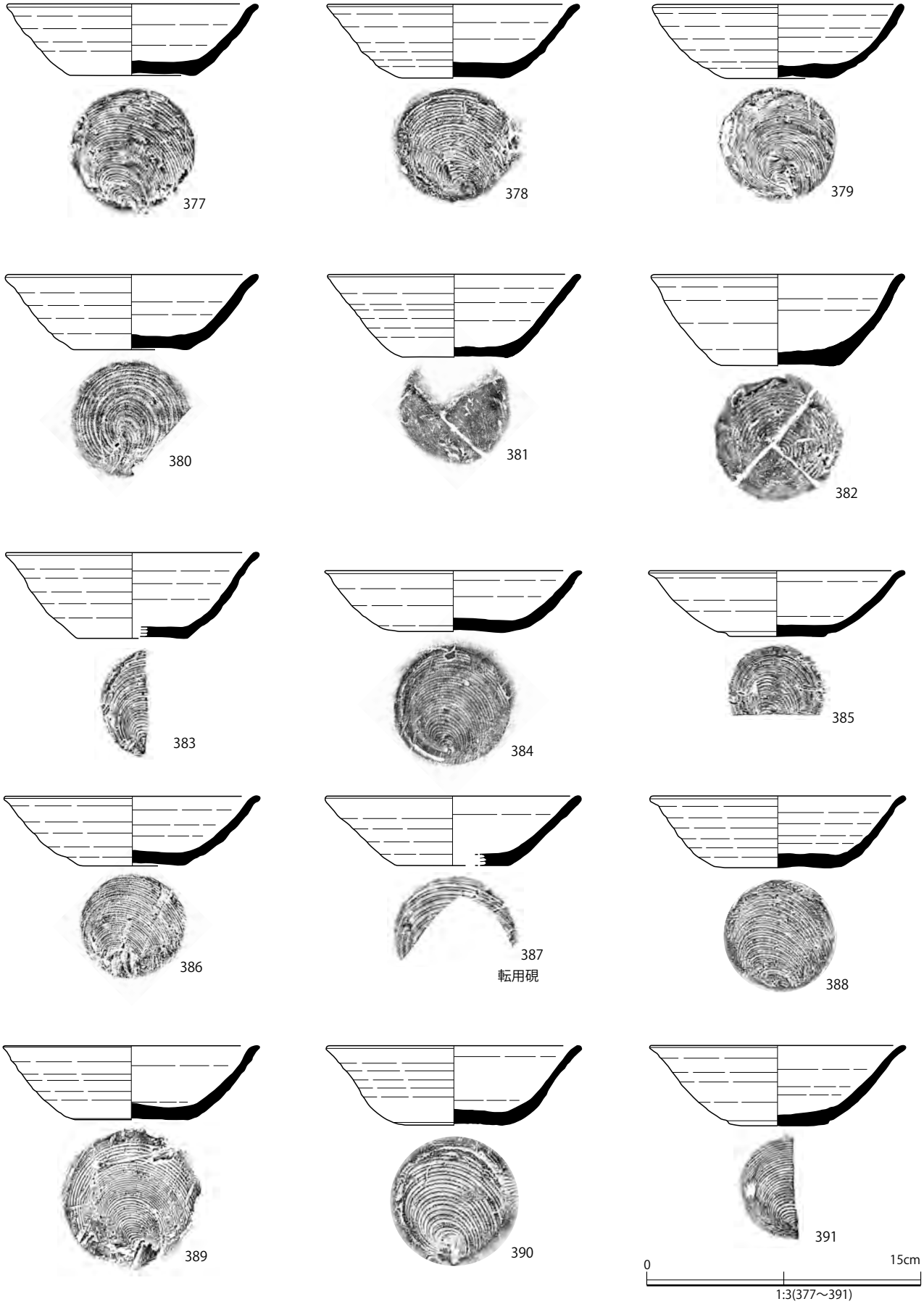
第 96 図　出土遺物 29（1SD186-8）

須恵器　坏



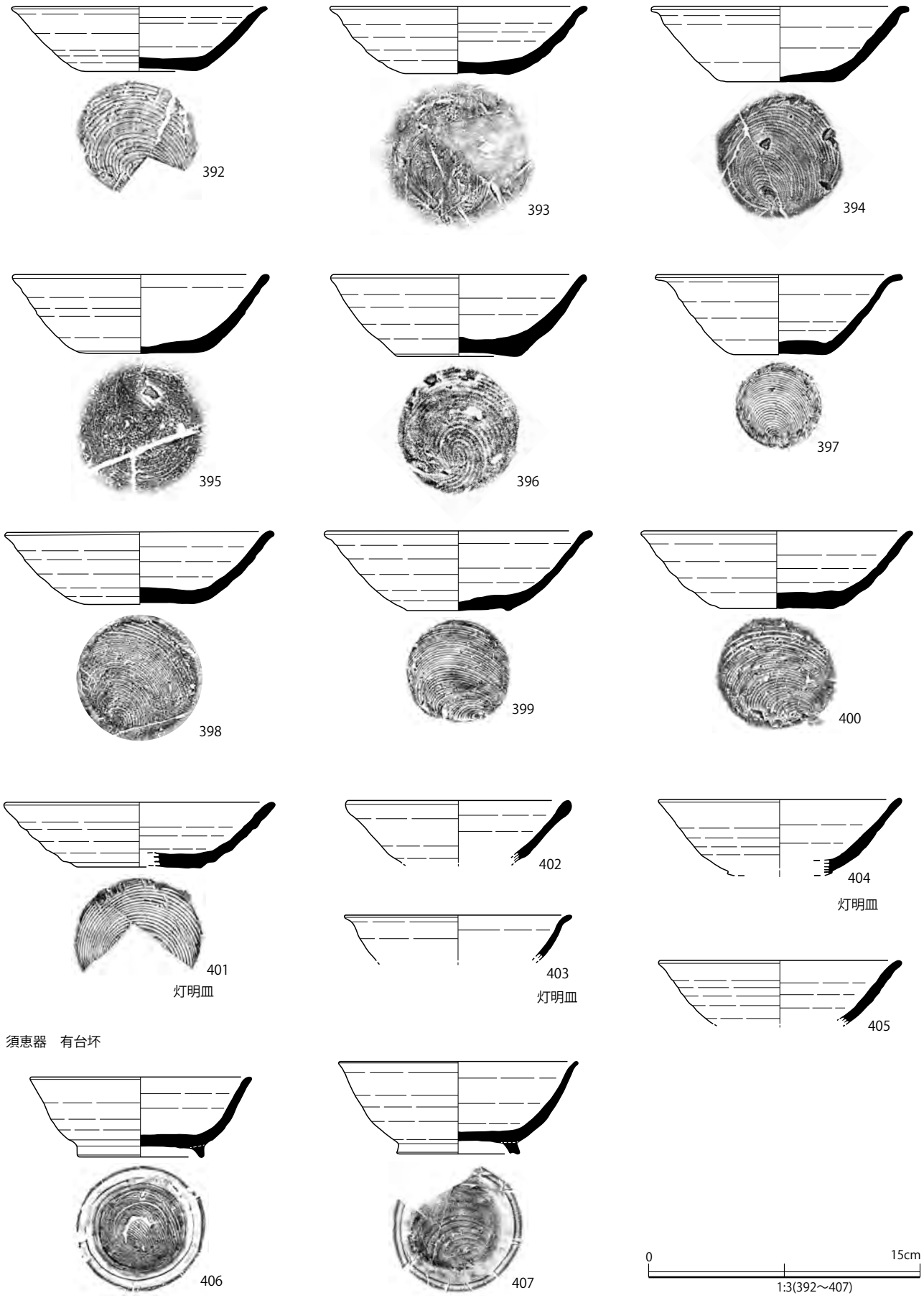
第 97 図　出土遺物 30（1SD186-9）

須恵器　坏



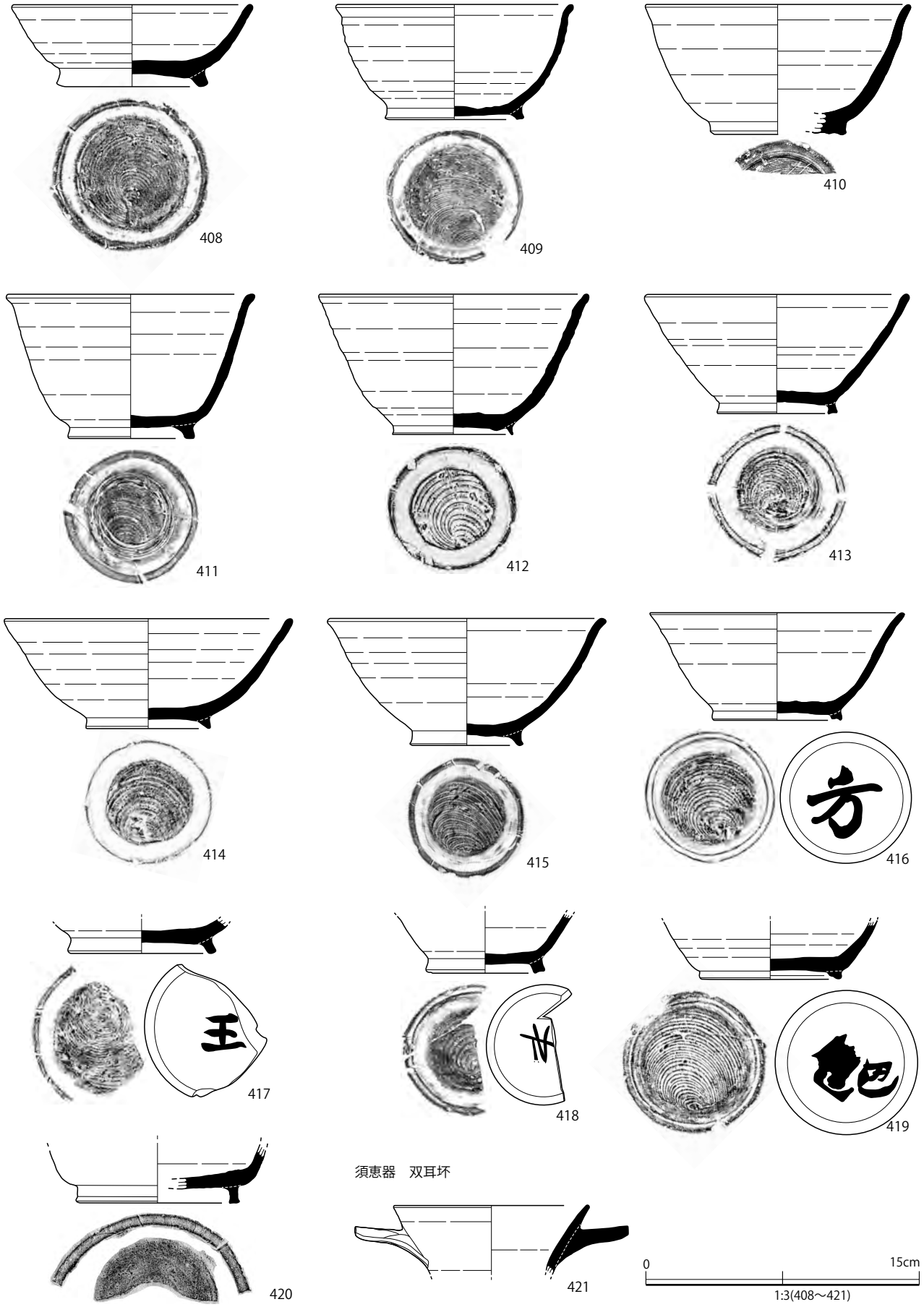
第 98 図　出土遺物 31（1SD186-10）

須恵器　坏



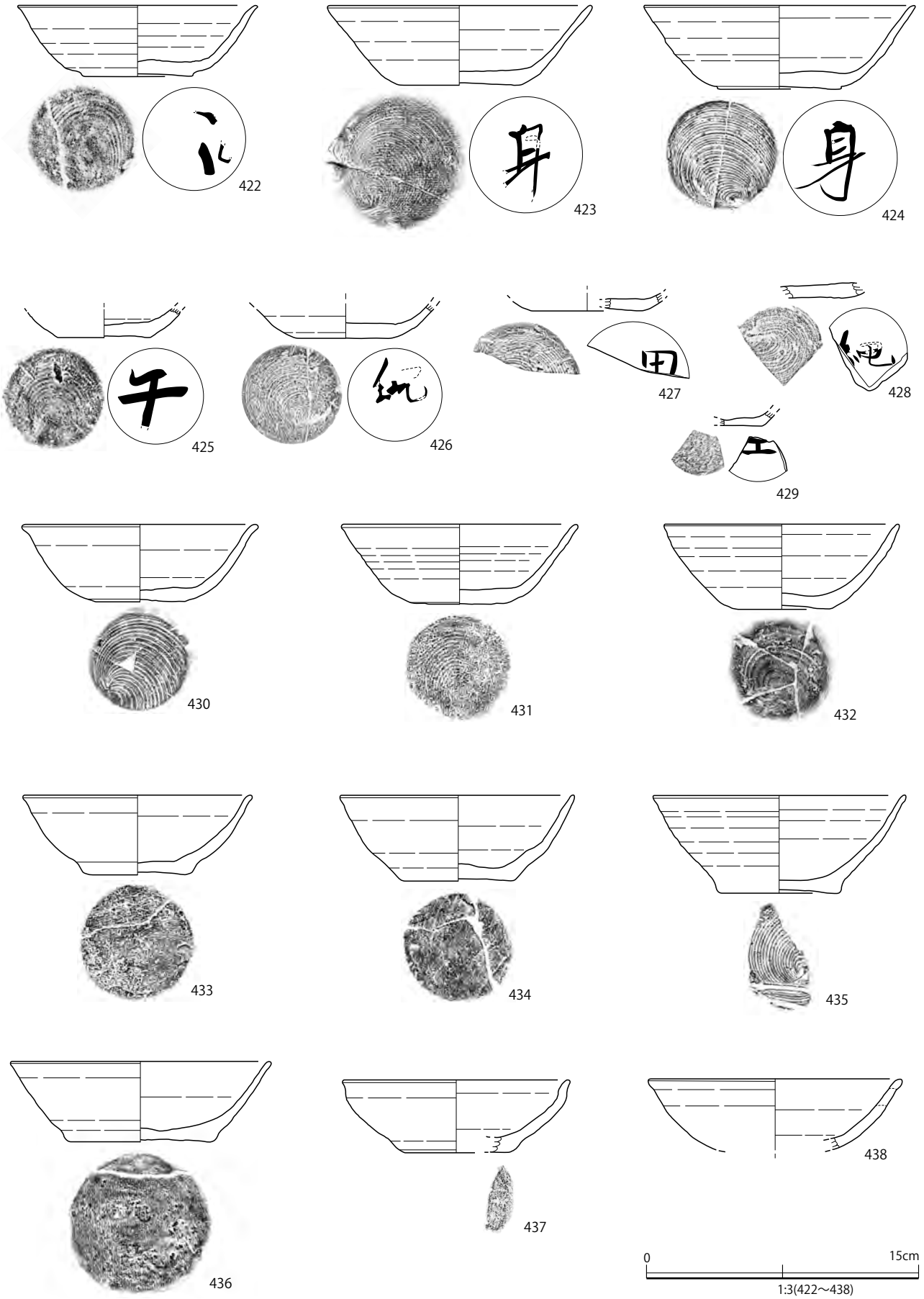
第 99 図　出土遺物 32（1SD186-11）

須恵器　有台坏



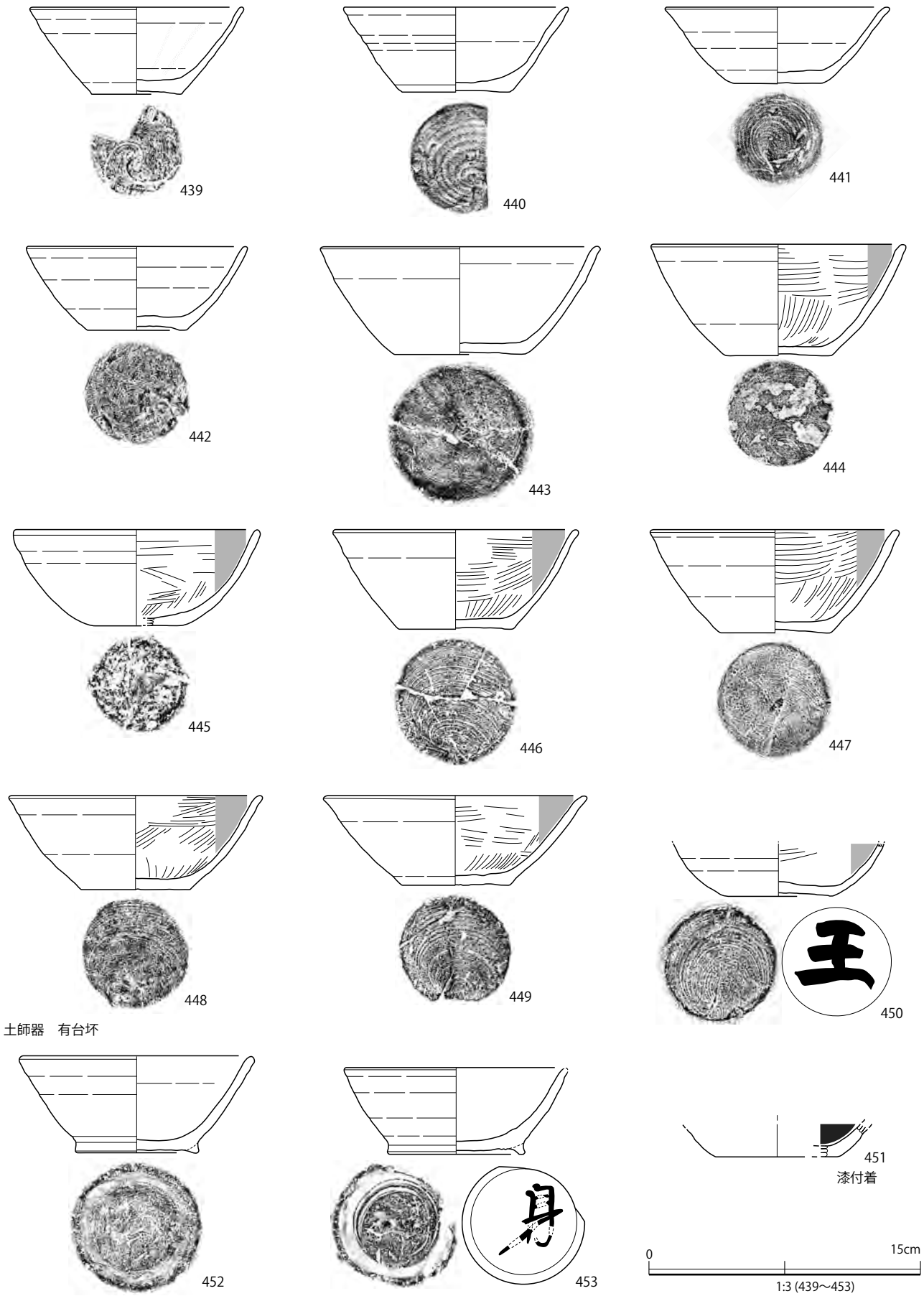
第 100 図　出土遺物 33（1SD186-12）

土師器　坏



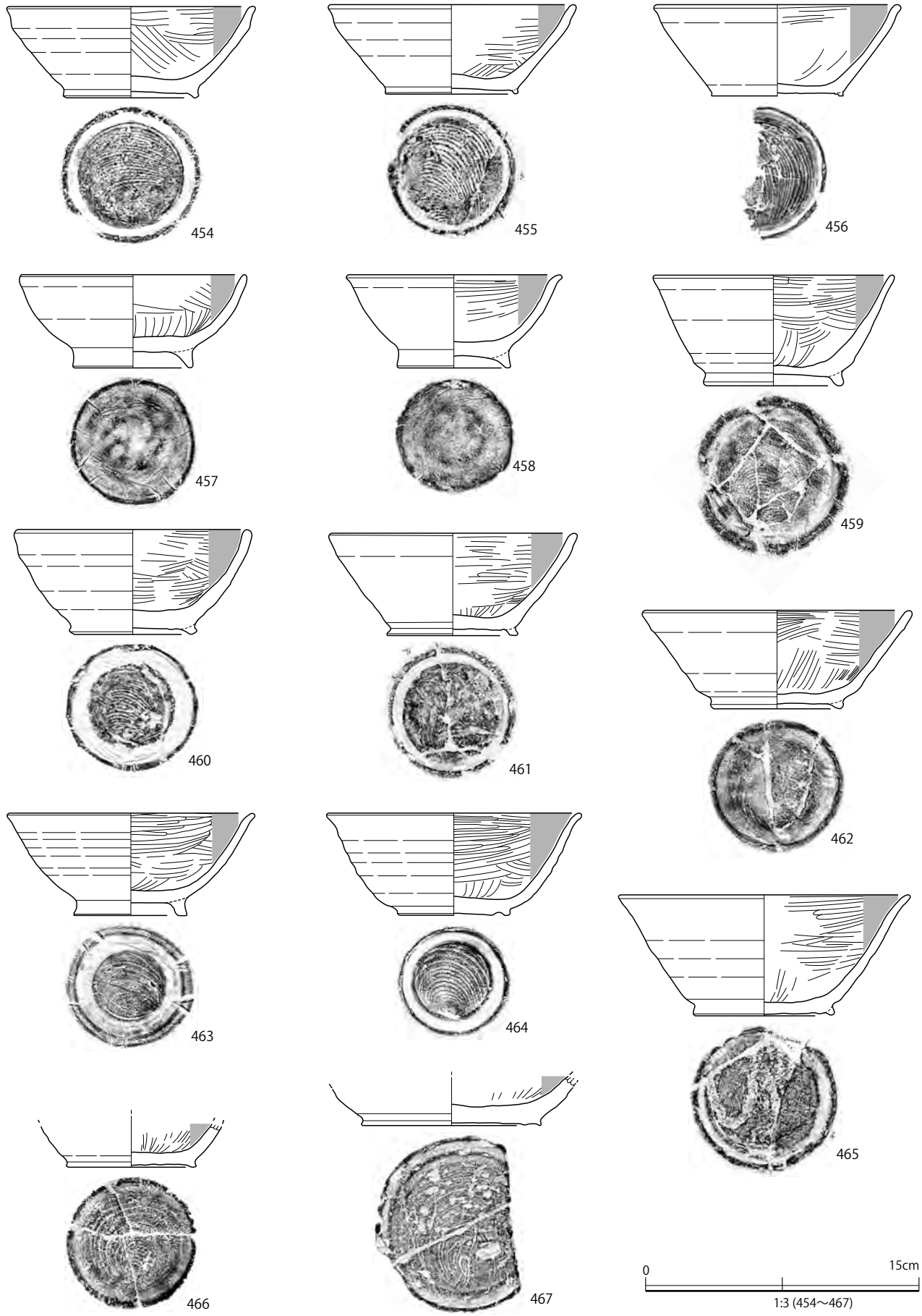
第 101 図　出土遺物 34（1SD186-13）

土師器　坏



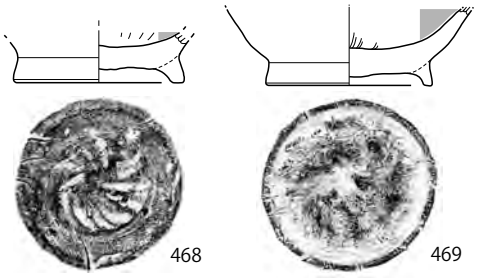
第 102 図　出土遺物 35（1SD186-14）

土師器　有台坏

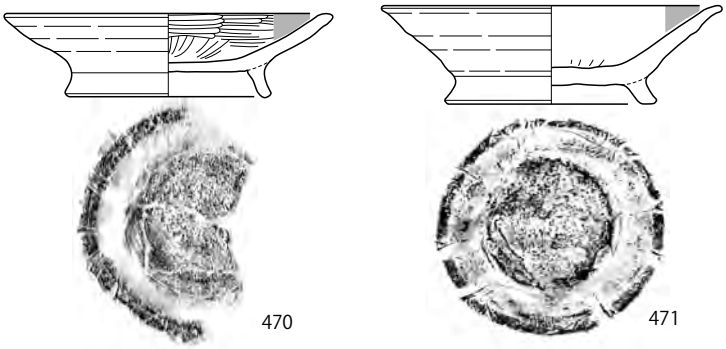


第 103 図　出土遺物 36（1SD186-15）

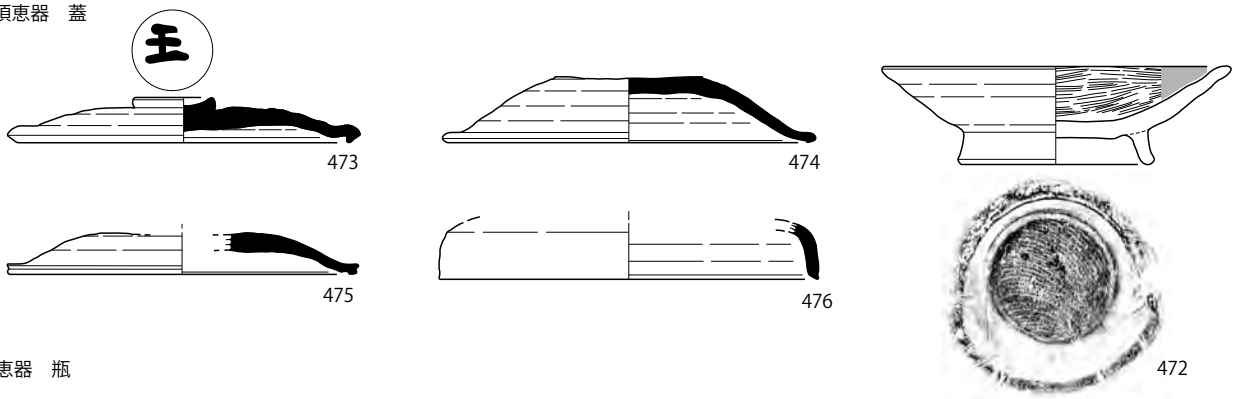
土師器　有台坏



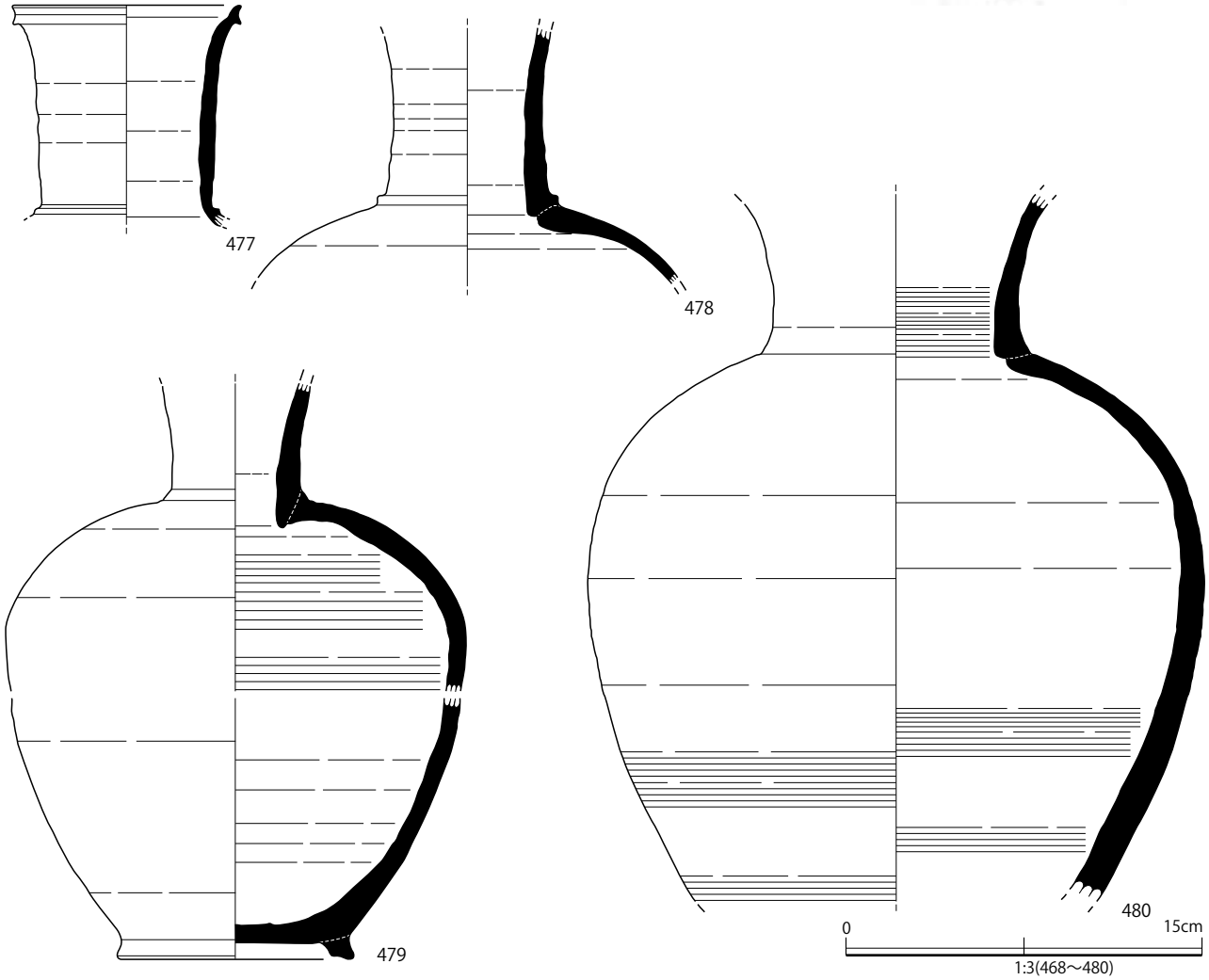
土師器　有台皿



須恵器　蓋



須恵器　瓶



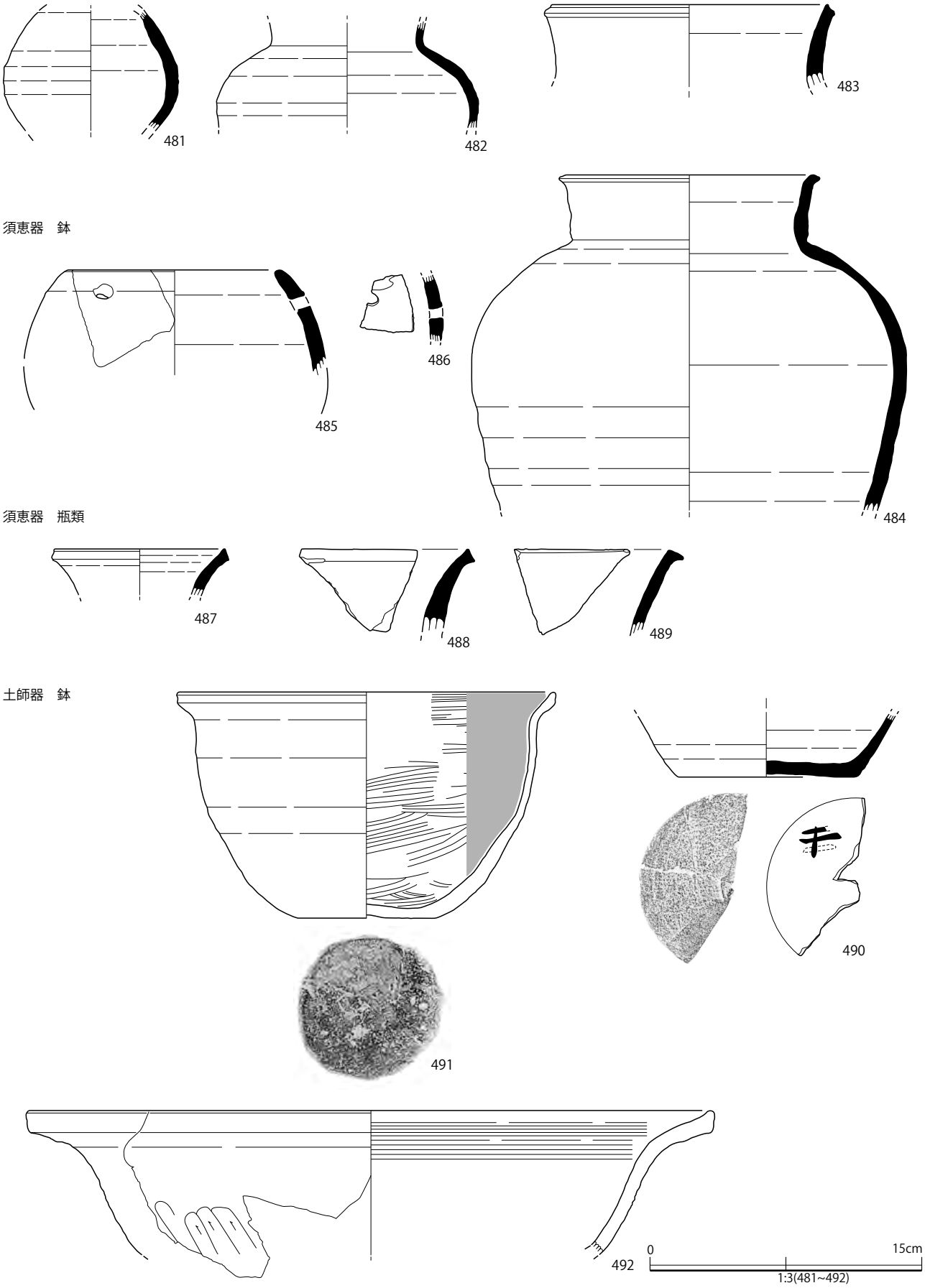
第 104 図　出土遺物 37（1SD186-16）

須恵器　壷

須恵器　鉢

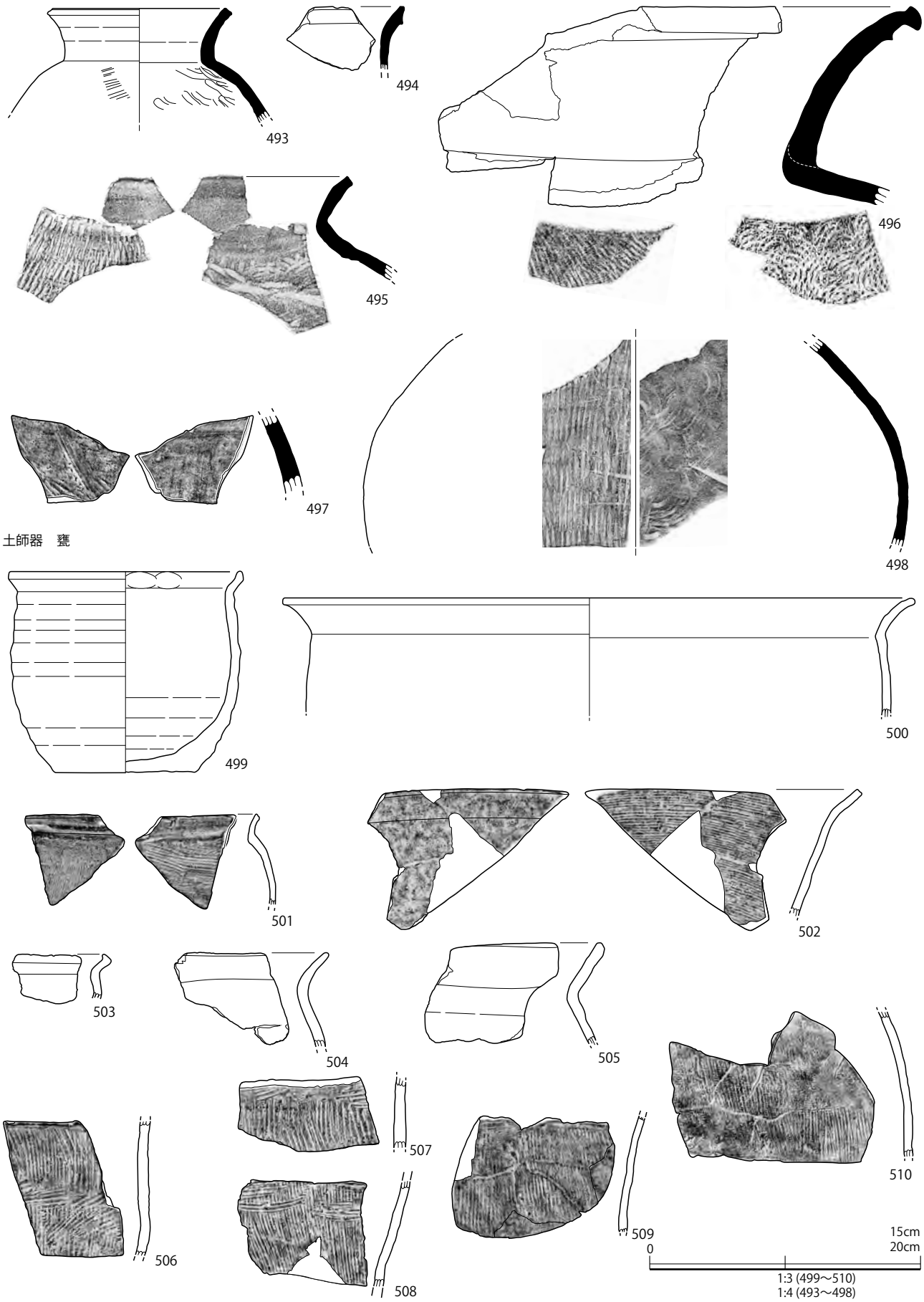
須恵器　瓶類

土師器　鉢

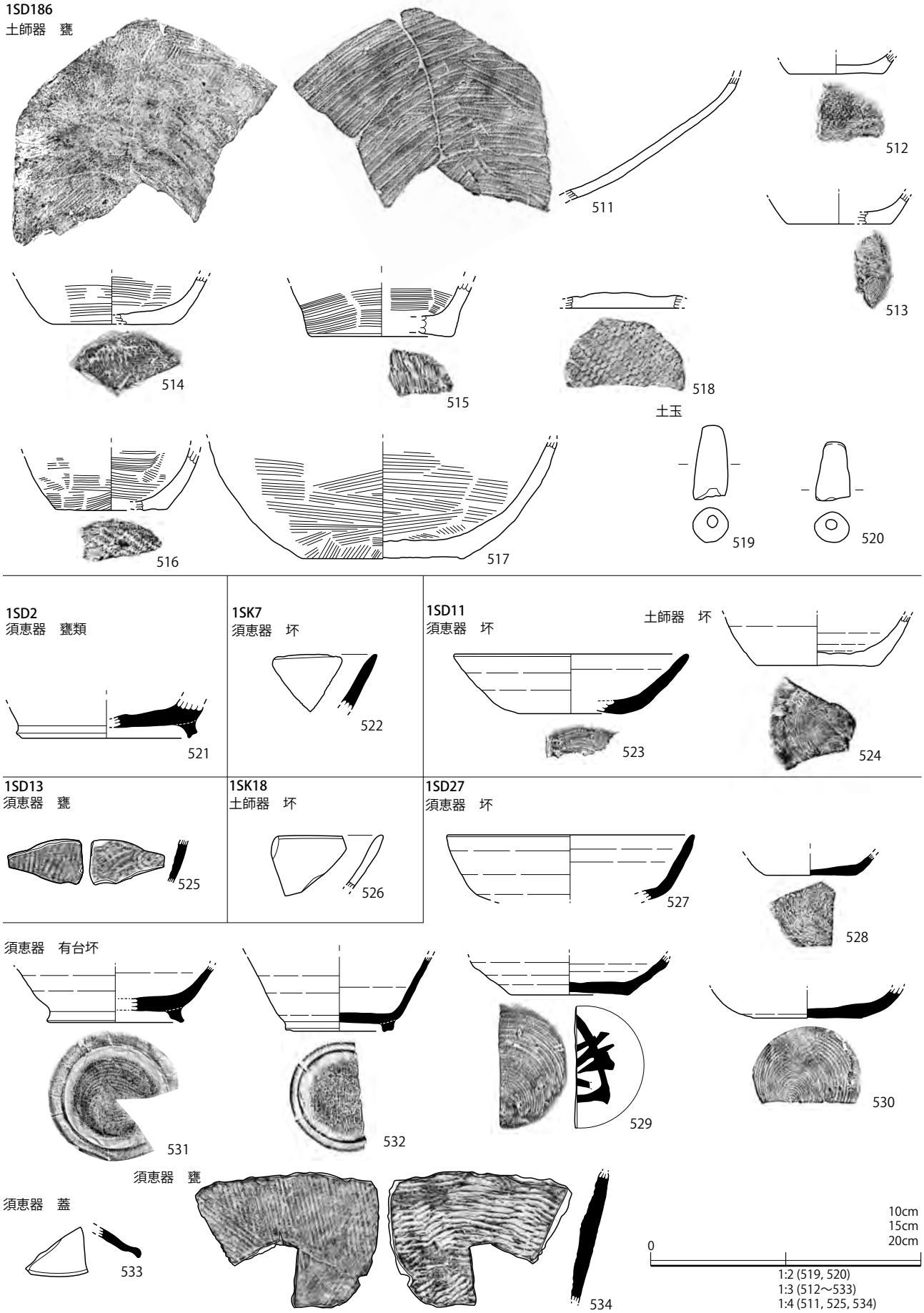


第 105 図　出土遺物 38（1SD186-17）

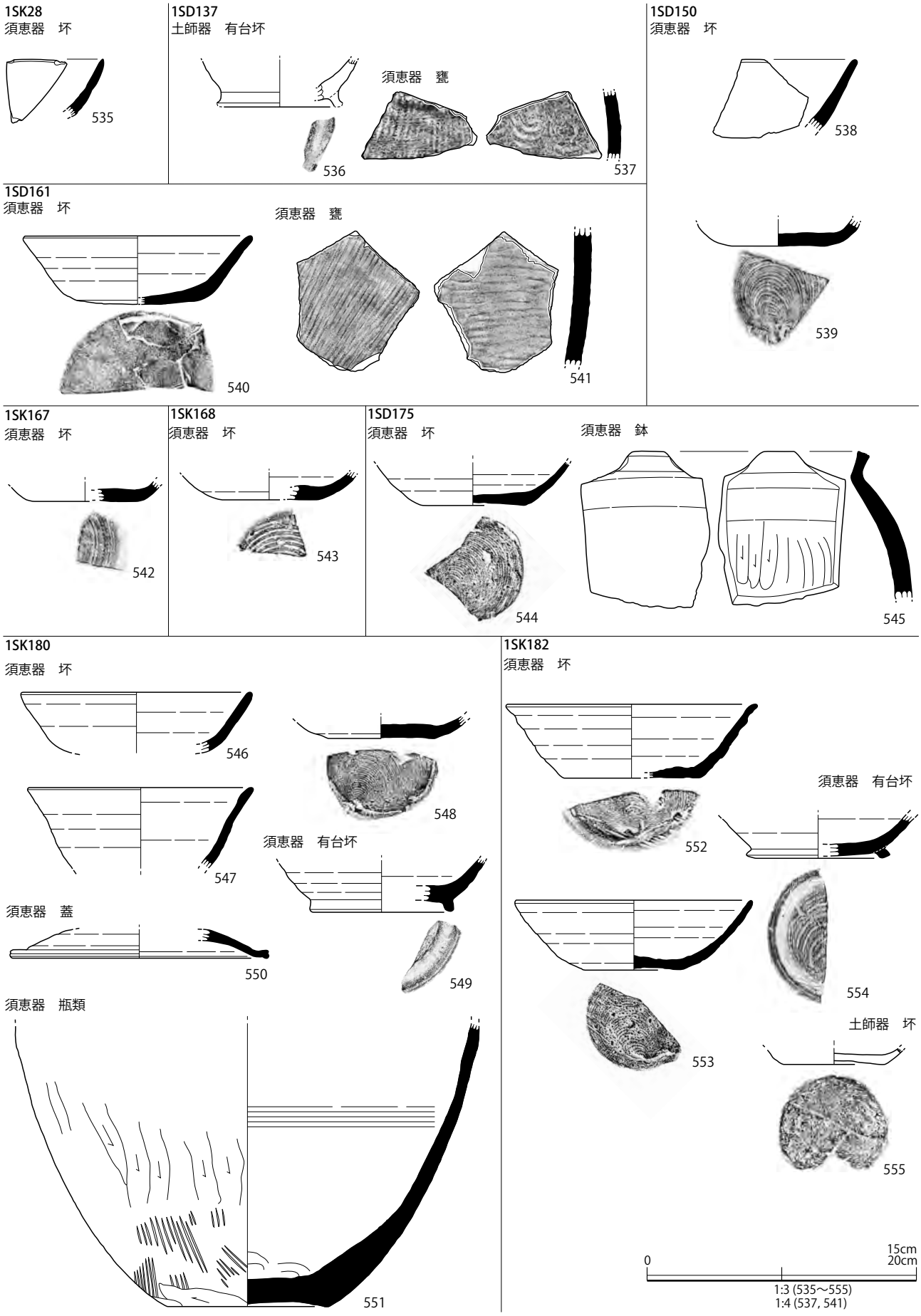
須恵器　甕



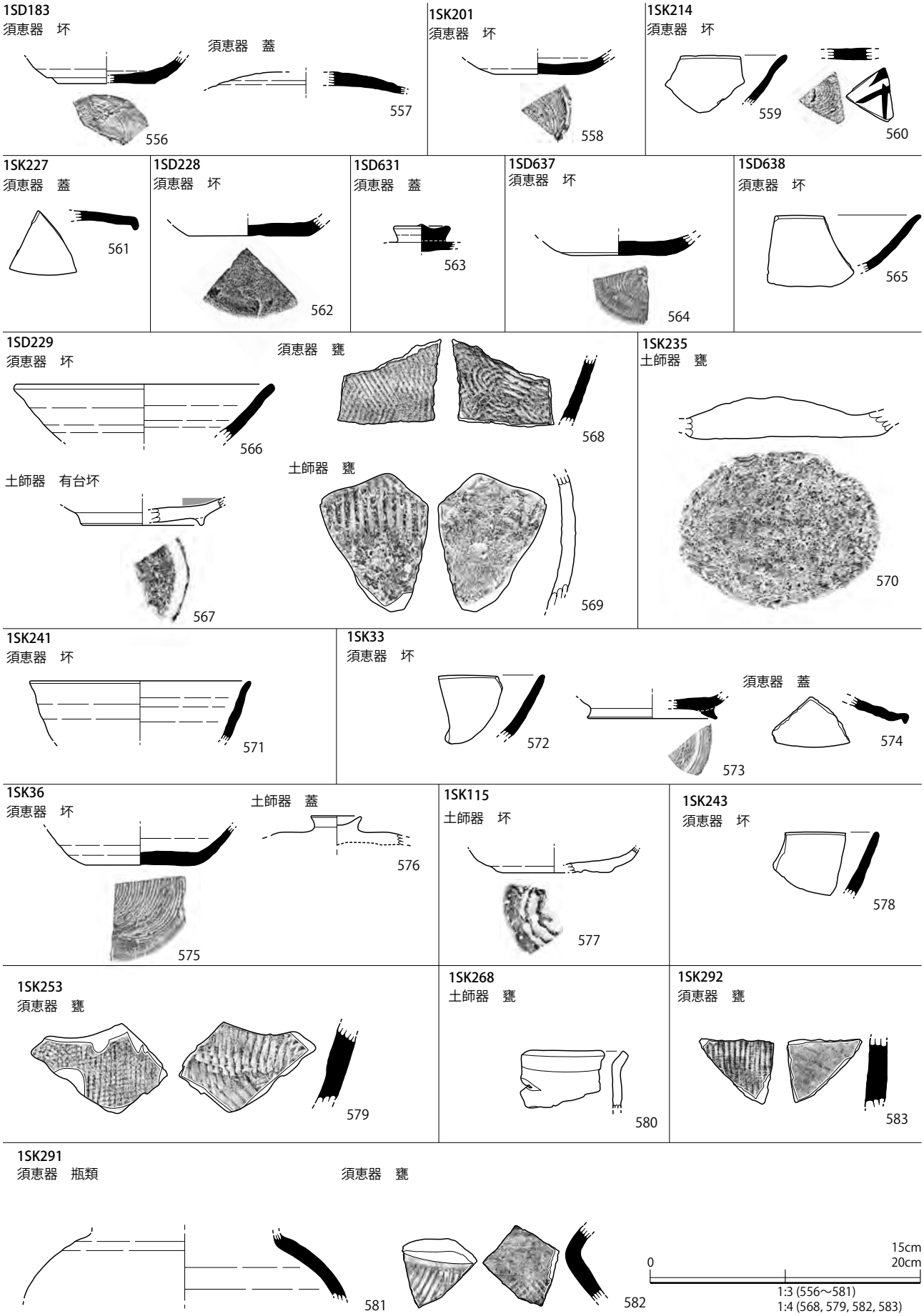
第 106 図　出土遺物 39（1SD186-18）



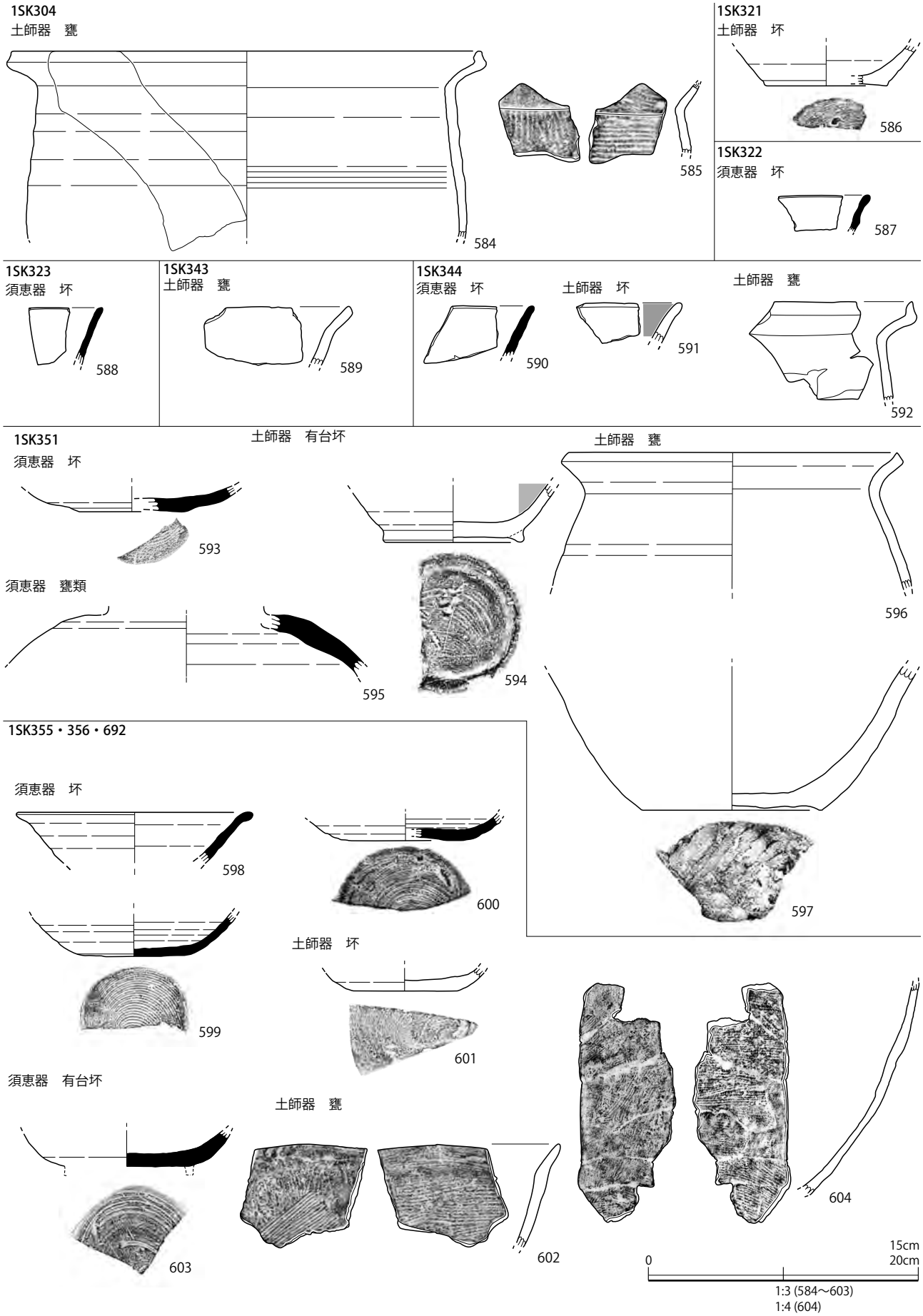
第 107 図　出土遺物 40（1SD186-19・河川跡 -1）



第 108 図　出土遺物 41（河川跡 -2）



第 109 図　出土遺物 42（河川跡 -3、土坑ほか -1）



第 110 図　出土遺物 43（土坑ほか -2）

1SK358

須恵器　坏

605

606

土師器　坏

607

須恵器　瓶類

608

609

土師器　鉢

610

須恵器　甕

611

612

土師器　甕

613

614

615

1SK369

須恵器　坏

616

土師器　坏

617

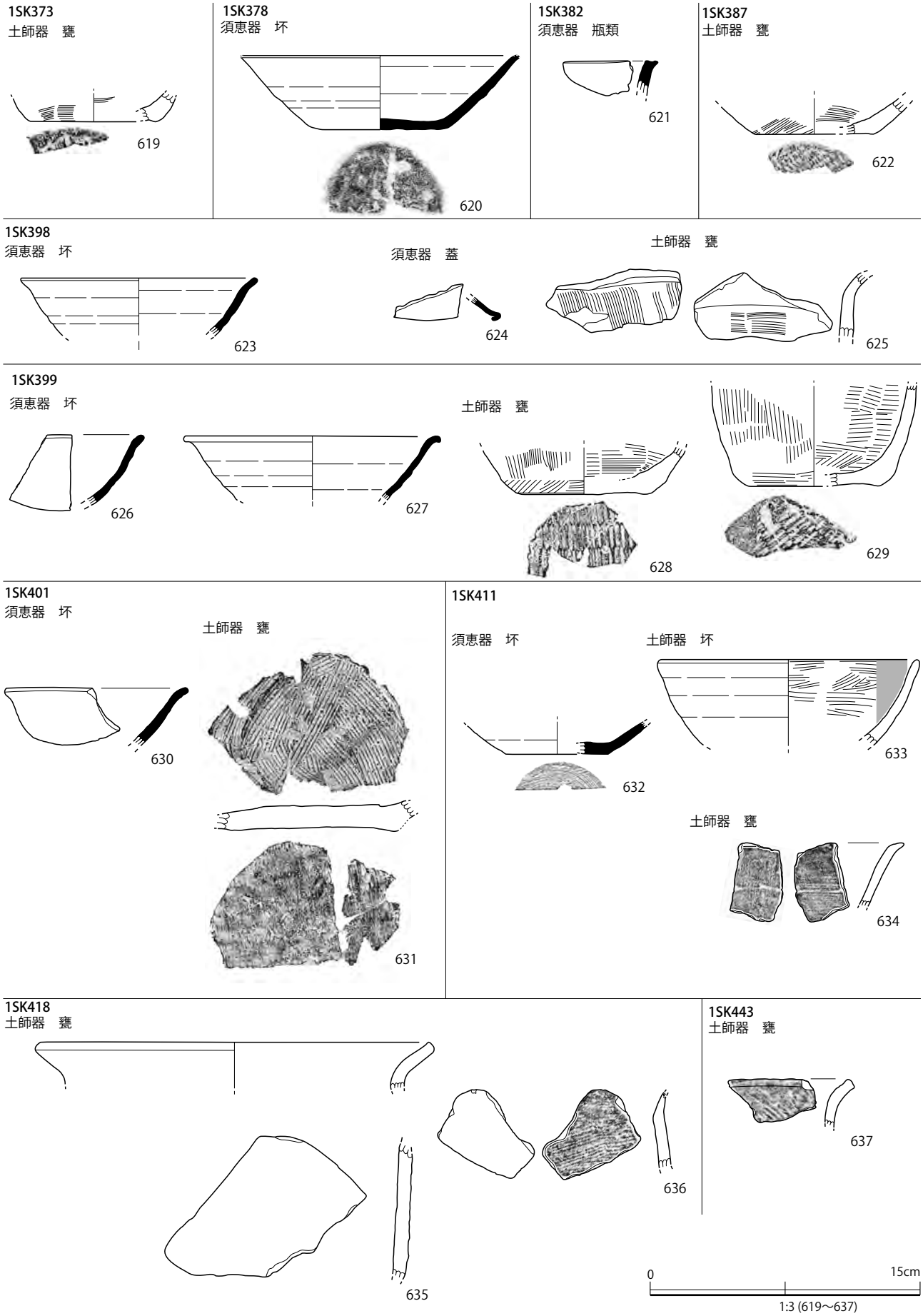
土師器　甕

618

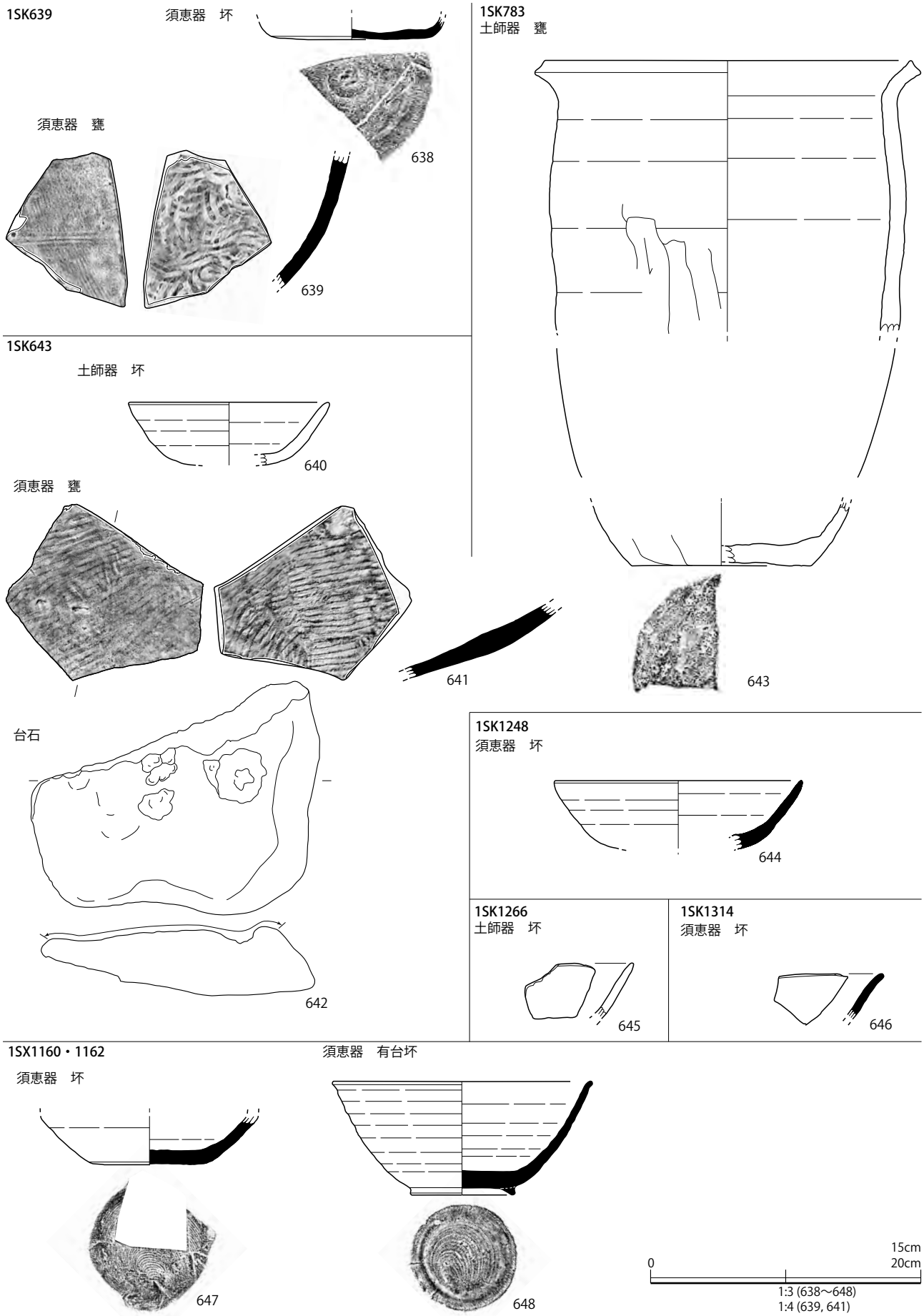
15cm
20cm
0

1:3 (605～618)
1:4 (611, 612)

第 111 図　出土遺物 44（土坑ほか -3）



第 112 図　出土遺物 45（土坑ほか -4）



第 113 図　出土遺物 46（土坑ほか -5）

調査区一括

縄文土器

649 650 651 652 653 654 655 656 657

0 15cm
1:3 (649～657)

石鏃

658 659 660 661 662 663 664

石匙

665 666 667

石箆

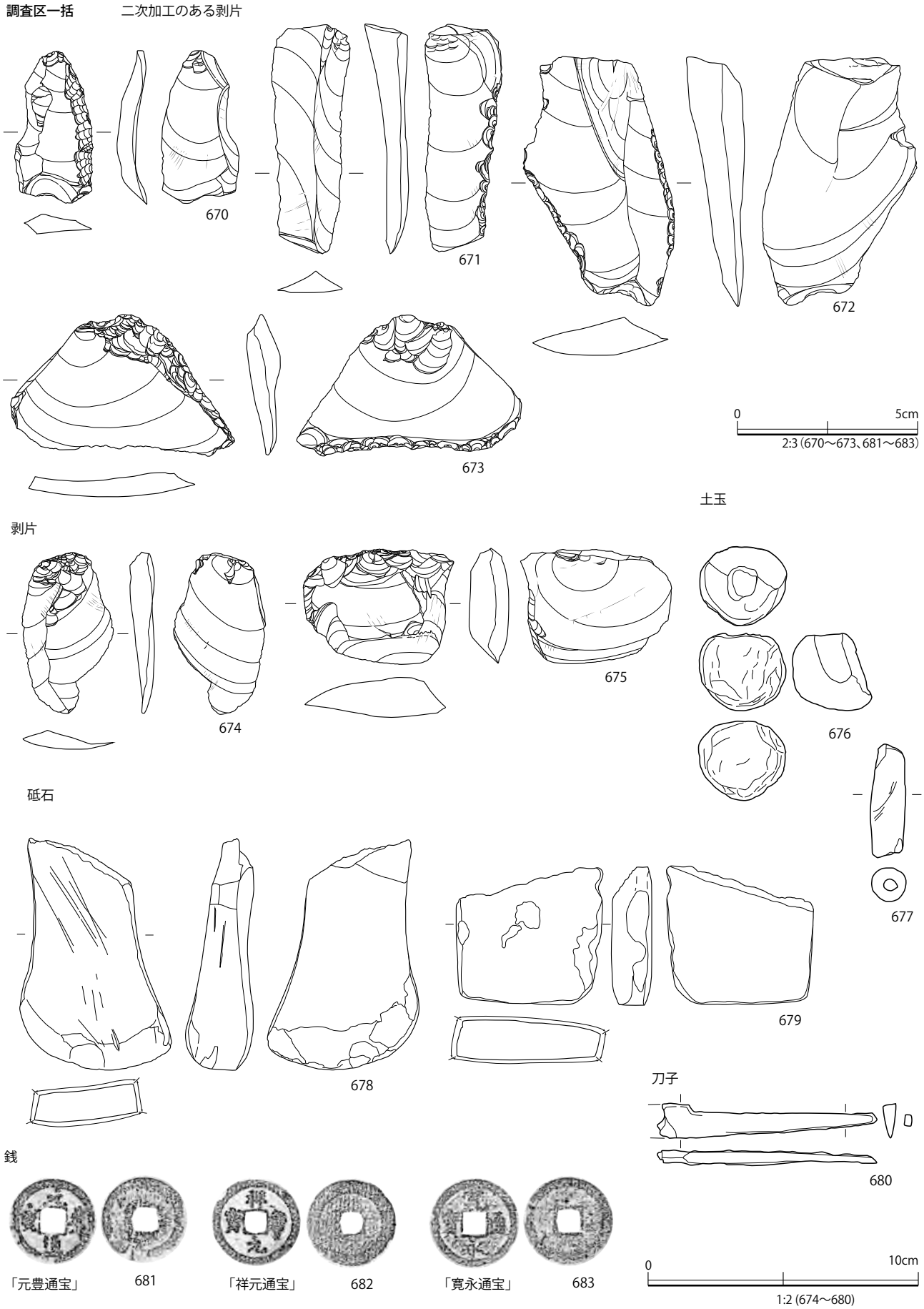
668

二次加工のある剥片

669

0 5cm
2:3 (658～669)

第 114 図　出土遺物 47（遺構外出土 -1）



第 115 図　出土遺物 48（遺構外出土 -2）

表６　出土遺物観察表　１

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考 底径 / 口径	器高 / 口径
1	須恵器　有台坏	B-1b	1ST121	(106)	3/8	62	6/8	52	4	0.58	0.49
2	土師器　甕	底部	1ST121		0/8	(70)	3/8	〈25〉	4	底：回糸切り	
3	土師器　甕	小型	1ST121	(130)	1/8		0/8	75	3	外：ロクロ　内：ロクロ	
4	土師器　甕	底部	1ST121		0/8	60	8/8	〈59〉	7	小型ヵ　外：ロクロ　下端回ケズリ　内：ロクロ 底：回糸切り "	
5	土師器　甕	胴片	1ST121		0/8		0/8	〈91〉	7	外：ロクロ　縦ケズリ　内：ロクロ　11 と同質	
6	土師器　甕	胴部	1ST121		0/8		0/8	〈61〉	8	外：ケズリ　ナデ　内：ハケメ　ユビオサエ 残胴径 182mm	
7	須恵器　有台坏	A-1a	1ST281	(130)	2/8	(80)	3/8	43	5	0.62	0.33
8	須恵器　瓶類	口縁片	1ST281	-	1/8		0/8	〈31〉	4	瓶ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ	
9	土師器　甕	小型	1ST281	(122)	3/8		0/8	〈81〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ	
10	土師器　甕	底部	1ST281		0/8	(90)	2/8	〈27〉		外：ロクロ　下端ケズリ　内：ロクロ　底：回糸切り	
11	土師器　甕	口縁片	1ST281	-	1/8		0/8	〈78〉	7	外：ロクロ　縦ケズリ　煤付着　内：ロクロ 煤付着　5 と同質	
12	土師器　甕	底部	1ST281		0/8	(116)	2/8	〈65〉	4	長胴甕ヵ　外：縦ケズリ　内：ナデ	
13	須恵器　坏	B-1	1ST330		0/8	62	8/8	〈18〉		底部　底墨書：縄	
14	須恵器　坏	B-1a	1ST330	(124)	1/8	72	5/8	37	5	0.58	0.30
15	須恵器　坏	B-1a	1ST330	144	7/8	64	8/8	47	5	0.44	0.33　底墨書：貞
16	須恵器　坏	B-1a	1ST330	(132)	3/8	62	4/8	36	4	0.47	0.27
17	須恵器　坏	B-1a	1ST330	(138)	1/8	(60)	3/8	41	4	0.43	0.30
18	須恵器　有台坏	B-1	1ST330		0/8	70	8/8	〈19〉		底部	
19	須恵器　有台坏	B-1b	1ST330	(142)	1/8	72	6/8	71	5	0.51	0.50　底墨書：真
20	須恵器　蓋		1ST330	146	6/8	34		23	5	歪み	
21	須恵器　瓶	長頸瓶	1ST330		0/8		0/8	〈141〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ　３段構成　頸径 60mm	
22	須恵器　瓶	横瓶	1ST330		0/8		0/8	〈217〉	10	外：タタキ　内：アテ具痕　カキメ	
23	須恵器　甕	長胴甕ヵ	1ST330		0/8	162	2/8	〈263〉	8	外：タタキ　内：平行アテ具痕　平底 残胴径 293mm　未接合同一個体	
24	須恵器　甕	中型	1ST330	276	4/8		0/8	〈270〉	8	外：平行タタキ　内：円形アテ具痕　胴径 408mm	
25	須恵器　甕	大型	1ST330	(448)	3/8	-	8/8	677	12	外：平行タタキ　カキメ　内：円形・平行アテ具痕 底：丸底　胴径 782mm	
26	須恵器　甕	大型	1ST330	370	5/8	-	2/8	〈431〉	12	外：タタキ　内：円形アテ具痕　平行アテ具痕 ３点未接合同一個体	
27	土師器　甕	底部	1ST330		0/8	78	8/8	〈83〉	5	小型ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕 胴径 138mm	
28	土師器　甕	長胴甕	1ST330	(220)	2/8		0/8	〈85〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ　残胴径 228mm	
29	土師器　甕	長胴甕	1ST330	(230)*	1/8		0/8	〈55〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ	
30	土師器　甕	長胴甕	1ST330	(250)*	1/8		0/8	〈84〉	5	外：ロクロ　カキメ　内：ロクロ	
31	須恵器　坏	B-1a	1ST365	(136)	2/8	56	5/8	36	4	0.41	0.26　底墨書：□
32	須恵器　坏	B-1a	1ST365	138	7/8	56	8/8	40	3	0.41	0.29　底墨書：千
33	須恵器　坏	B-1	1ST365		0/8	54	4/8	〈23〉	4		底部　底墨書：千
34	須恵器　坏	B-1	1ST365		0/8	52	4/8	〈28〉	5		底部　底墨書：□
35	須恵器　坏	B-1	1ST365		0/8	64	4/8	〈15〉	5		底部　底墨書：□
36	須恵器　坏	B-1	1ST365		0/8	68	4/8	〈26〉	4		底部　底墨書：縄
37	須恵器　坏	B-1	1ST365		0/8	56	4/8	〈14〉	6		底部　底墨書：縄

表７　出土遺物観察表　２

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
38	須恵器　坏	B-1a	1ST365	128	4/8	54	8/8	41	4	0.42	0.32	
39	須恵器　坏	B-1a	1ST365	136	6/8	57	8/8	42	4	0.42	0.31	歪み
40	須恵器　坏	B-1a	1ST365	142	4/8	60	8/8	43	3	0.42	0.30	
41	須恵器　坏	B-1a	1ST365	(138)	3/8	56	4/8	48	4	0.41	0.35	
42	須恵器　坏	B-1a	1ST365	(128)	2/8	(52)	2/8	38	3	0.41	0.30	歪み
43	須恵器　坏	-1	1ST365	(150)	3/8		0/8	〈47〉	4			
44	須恵器　有台坏	B-1a	1ST365	128	5/8	(70)	3/8	47	3	0.55	0.37	切離し不明
45	須恵器　有台坏	B-1a	1ST365	130	5/8	70	8/8	51	4	0.54	0.39	歪み
46	須恵器　有台坏	B-1b	1ST365	(126)	2/8	(66)	3/8	55	4	0.52	0.44	
47	須恵器　有台坏	B-1a	1ST365	(142)	4/8	(64)	1/8	56	3	0.45	0.39	
48	須恵器　有台坏	B-1	1ST365		0/8	68	7/8	〈47〉	4			底部　底墨書：□
49	土師器　坏	B-1	1ST365		0/8	56	5/8	23	4			底墨書：千
50	土師器　坏	B-1a	1ST365	(124)	3/8	58	5/8	43	3	0.47	0.35	
51	土師器　坏	B-1a	1ST365	144	4/8	56	8/8	47	3	0.39	0.33	
52	土師器　坏	B-1a	1ST365	(132)	2/8	(58)	3/8	50	4	0.44	0.38	
53	土師器　坏	B-1	1ST365		0/8	48	8/8	〈30〉	4			底部
54	土師器　坏	B-1	1ST365		0/8	50	8/8	〈39〉	4			底部
55	土師器　坏	B-1	1ST365		0/8	50	8/8	〈47〉	4			底部
56	土師器　坏	B-2a	1ST365	128	4/8	54	6/8	45	4	0.42	0.35	
57	土師器　坏	B-2a	1ST365	(136)	1/8	53	5/8	45	4	0.39	0.33	
58	土師器　有台坏	B-1a	1ST365	150	4/8	72	7/8	58	5	0.48	0.39	
59	土師器　有台坏	B-1	1ST365		0/8	75	8/8	〈19〉	5			底部
60	土師器　有台坏	B-2b	1ST365	(134)	3/8	68	4/8	64	4	0.51	0.48	
61	土師器　有台坏	B-2	1ST365		0/8	62	8/8	〈45〉	5			底部　内煤付着　灯明皿転用
62	須恵器　瓶	口縁片	1ST365	-	1/8		0/8	〈42〉	4	外：ロクロ　内：ロクロ		
63	須恵器　鉢	椀形鉢	1ST365	(125)	2/8		0/8	〈97〉	6	外：ロクロ　内：カキメ		
64	須恵器　瓶類	胴部	1ST365		0/8		0/8	〈109〉	6	瓶ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ　残胴径 172mm		
65	須恵器　瓶類	底部	1ST365		0/8	(103)	5/8	〈42〉	9	瓶ヵ　外：ロクロ　下端回ケズリ 内：ロクロ　ユビオサエ　底：ナデ　高台貼付		
66	土師器　鉢	鍋	1ST365	(360)	1/8	(126)	3/8	138	9	外：ロクロ　ケズリ　煤付着　内：ロクロ		
67	土師器　鉢	鍋	1ST365	(342)	3/8		0/8	〈162〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ		
68	土師器　甕	小型	1ST365	(146)	2/8	66	4/8	111	5	外：ロクロ　ケズリ　内：ロクロ　底：ケズリ　ナデ		
69	土師器　甕	口縁片	1ST365	-	1/8		0/8	〈52〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ		
70	土師器　甕	口縁片	1ST365	-	1/8		0/8	〈56〉	7	外：ロクロ　内：ロクロ		
71	土師器　甕	長胴甕	1ST365	192	4/8		0/8	〈145〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ		
72	土師器　甕	長胴甕	1ST365	(190)*	1/8		0/8	〈40〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ		
73	土師器　甕	底部	1ST365		0/8	(132)	1/8	〈45〉	5	長胴甕ヵ　外：ナデ　磨耗　内：ナデ　底：網代痕		
74	土師器　甕	口縁片	1ST365	-	1/8		0/8	-	4	外：ハケメ　内：ハケメ		
75	土師器　甕	口縁片	1ST365	-	1/8		0/8	〈72〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ		
76	土師器　甕	底部	1ST365		0/8	76	6/8	〈33〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕		

表８　出土遺物観察表　３

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考 底径 / 器高 / 口径　口径
77	土師器　甕	底片	1ST365		0/8		0/8	〈9〉		底：網代痕
78	土師器　甕	底片	1ST365		0/8	-	1/8	〈31〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
79	土師器　甕	胴片	1ST365		0/8		0/8	〈62〉	7	外：タタキ　内：平行アテ具　全面黄橙色 195 と同質
80	帯金具	巡方	1ST365	27	（横）	25	（縦）	6	1	掘方出土　青銅　4.5g
81	鉄滓	炉底	1ST365	38	（横）	39	（縦）	16	35.0	鍛冶滓
82	鉄滓	椀型	1ST365	47	（横）	59	（縦）	17	48.0	鍛冶滓
83	鉄滓	炉底	1ST365	54	（横）	87	（縦）	29	112.5	鍛冶滓
84	鉄滓	椀型	1ST365	73	（横）	77	（縦）	38	177.0	鍛冶滓
85	土製品	土玉	1ST365	39	（縦）	19	（横）	12	6	
86	土製品	土玉	1ST365	36	（縦）	12	（横）	12	5	
87	石製品	砥石	1ST365	<46>	（縦）	<40>	（横）	〈16〉	21	破片　凝灰岩
88	須恵器　坏	A-1a	1ST510	140	8/8	84	8/8	37	4	0.60　0.26　歪み
89	須恵器　坏	A-1a	1ST510	140	6/8	96	6/8	39	5	0.69　0.28　歪み
90	須恵器　坏	B-1a	1ST510		0/8	(64)	2/8	〈32〉	4	底部
91	須恵器　甕	胴片	1ST510		0/8		0/8	〈108〉	12	外：タタキ　内：平行アテ具痕
92	土師器　甕	小型	1ST510	144	5/8		0/8	〈76〉	3	外：ロクロ　内：ロクロ　カキメ
93	土師器　甕	底部	1ST510		0/8	68	7/8	〈54〉	4	小型ヵ　外：下端ケズリ　摩耗 内：ロクロ　カキメ　底：回糸切り
94	土師器　甕	長胴甕	1ST510	(192)	2/8		0/8	〈90〉	7	外：ロクロ　煤付着　内：ロクロ
95	土師器　甕	長胴甕	1ST510		0/8	84	6/8	〈269〉	5	外：ロクロ　ケズリ　内：カキメ　ケズリ
96	土師器　甕	胴片	1ST510		0/8		0/8	〈64〉	5	外：ケズリ　内：ハケメ　ユビオサエ
97	須恵器　坏	A-1	1ST566		0/8	(70)	3/8	〈7〉		底部
98	須恵器　瓶	長頸瓶	1ST566		0/8		0/8	〈95〉	7	外：ロクロ　頸部リング状凸帯　内：ロクロ ３段構成　頸径 64mm
99	須恵器　甕	胴片	1ST566		0/8		0/8	〈249〉	13	外：平行タタキ　カキメ　内：平行アテ具痕
100	須恵器　坏	A-1a	1ST581	(136)	1/8	(78)	3/8	42	4	0.57　0.31
101	須恵器　坏	A-1a	1ST581	(140)	1/8	(94)	3/8	34	4	0.67　0.24　内面煤付着　灯明皿転用
102	須恵器　蓋		1ST581	156	7/8	29		34	6	歪み
103	土師器　甕	底部	1ST581		0/8	66	8/8	〈59〉	4	小型ヵ　外：ロクロ　回ケズリ　内：ロクロ 底：回糸切り　全摩耗
104	土師器　甕	底部	1ST581		0/8	78	8/8	〈78〉	6	外：ロクロ　全磨耗　下端ケズリ　内：ロクロ 底：回糸切り　ナデ
105	須恵器　坏	A-1a	1ST740	142	4/8	80	8/8	39	3	0.56　0.27
106	須恵器　坏	A-1a	1ST740	142	6/8	80	8/8	38	3	0.56　0.27
107	須恵器　坏	A-1a	1ST740	138	6/8	76	8/8	36	4	0.55　0.26
108	須恵器　坏	A-1a	1ST740	144	8/8	84	8/8	36	4	0.58　0.25
109	須恵器　坏	B-1a	1ST740	128	7/8	62	8/8	40	4	0.48　0.31
110	須恵器　坏	B-1a	1ST740	134	7/8	60	8/8	41	4	0.45　0.31　歪み
111	須恵器　坏	B-1a	1ST740	140	6/8	64	8/8	46	4	0.46　0.33　外火襷痕
112	須恵器　坏	B-1a	1ST740	(142)	1/8	68	6/8	39	3	0.48　0.27
113	須恵器　坏	B-1	1ST740		0/8	67	8/8	〈20〉	4	底部　底墨書：其ヵ

表９　出土遺物観察表　４

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
114	須恵器　有台坏	-1b	1ST740	(110)	3/8	(60)	3/8	50	3	0.55	0.45	
115	須恵器　有台坏	A-1a	1ST740	(132)	2/8	87	8/8	45	4	0.66	0.34	
116	須恵器　有台坏	B-1a	1ST740	116	4/8	67	5/8	42	4	0.58	0.36	
117	須恵器　有台坏	B-1a	1ST740	126	6/8	70	8/8	40	4	0.56	0.32	歪み
118	土師器　坏	B-1a	1ST740	(128)	2/8	70	8/8	47	4	0.55	0.37	
119	土師器　坏	B-1	1ST740		0/8	70	8/8	〈43〉	5			底部
120	土師器　坏	B-2a	1ST740	142	4/8	58	8/8	50	5	0.41	0.35	底部　底墨書：□
121	土師器　坏	B-2	1ST740		0/8	62	8/8	〈25〉	5			底部　底墨書：王
122	須恵器　蓋	無鈕	1ST740	142	4/8			20	5	頂部墨書：冨		
123	須恵器　蓋	小型	1ST740	124	8/8	26		25	8	歪み		
124	須恵器　蓋		1ST740	150	7/8	31		36	4	歪み		
125	須恵器　蓋		1ST740	(160)	3/8	28		32	4	内重ね焼き痕		
126	須恵器　蓋	壺蓋	1ST740	(142)	1/8			51	7			
127	須恵器　瓶類	胴部	1ST740		0/8		0/8	〈136〉	6	瓶・壺ヵ　球胴形　外：ロクロ　内：ロクロ 残胴径 216mm		
128	須恵器　壺	広口壺	1ST740	(156)	3/8	(160)	3/8	324	11	外：ロクロ　下端ケズリ　内：ロクロ　下端ハケメ 胴径 260mm		
129	須恵器　壺	広口壺	1ST740	170	5/8		0/8	〈234〉	10	外：ロクロ　内：ロクロ　胴径 242mm		
130	須恵器　甕	中型	1ST740	(224)	3/8		0/8	〈89〉	7	外：口縁ナデ　肩タタキ 内：口縁ナデ　肩平行アテ具痕		
131	須恵器　甕	胴部	1ST740		0/8		0/8	〈550〉	15	大型ヵ　頸～底部付近　外：タタキ 内：円形・平行アテ具痕　胴径 760mm		
132	土師器　甕	長胴甕	1ST740	202	4/8	102	7/8	340	9	外：上半ロクロ　下半縦ケズリ 内：ロクロ　下端ハケメ　底：ケズリ		
133	土師器　甕	長胴甕	1ST740	(210)	2/8		0/8	〈49〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ　屈曲強い		
134	土師器　甕	長胴甕	1ST740	(220)	2/8		0/8	〈78〉	6	外：ロクロ　内：ロクロ		
135	土師器　甕	口縁片	1ST740	-	1/8		0/8	〈108〉	6	長胴甕ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ		
136	土師器　甕	口縁片	1ST740	-	1/8		0/8	〈72〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　復元口径が大きい。鍋ヵ		
137	土師器　甕	底部	1ST740		0/8	84	6/8	〈39〉	7	外：ナデ　内：ナデ　底：網代痕　全面摩耗		
138	土製品	ミニチュア	1ST740	35	(横)	<27>	(縦)	34	10			
139	土製品	ミニチュア	1ST740	37	(横)	32	(縦)	〈35〉	10			
140	土製品	ミニチュア	1ST740	36	(横)	31	(縦)	35	8			
141	鉄製品	工具ヵ	1ST740	<48>	(縦)	51	(横)	5	13.0	錆のため刃部不明瞭		
142	須恵器　坏	A-1a	1ST777	138	8/8	86	8/8	30	5	0.62	0.22	
143	須恵器　坏	B-1a	1ST777	148	5/8	62	8/8	41	4	0.42	0.28	底墨書：縄　、歪み
144	須恵器　坏	B-1a	1ST777	132	7/8	60	8/8	43	3	0.45	0.33	
145	須恵器　坏	B-1a	1ST777	130	7/8	60	8/8	38	5	0.46	0.29	
146	須恵器　坏	B-1a	1ST777	134	5/8	72	4/8	43	4	0.54	0.32	
147	須恵器　有台坏	B-1a	1ST777	129	4/8	(72)	1/8	44	4	0.56	0.34	
148	須恵器　有台坏	B-1a	1ST777	130	4/8	72	8/8	50	4	0.55	0.38	
149	須恵器　有台坏	B-1	1ST777		0/8	74	8/8	〈21〉	3			底部　底墨痕ヵ
150	須恵器　蓋		1ST777	146	5/8	28		27	5			

表 10　出土遺物観察表　5

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
151	土師器　坏	A-1a	1ST777	112	7/8	66	8/8	35	3	0.59	0.31	底墨書：王　、小型品
152	土師器　坏	B-1a	1ST777	(126)	7/8	60	8/8	48	5	0.48	0.38	
153	土師器　坏	B-1a	1ST777	136	4/8	56	4/8	45	4	0.41	0.33	
154	土師器　坏	B-2a	1ST777	140	6/8	64	8/8	42	4	0.46	0.30	内擦痕多数
155	土師器　有台坏	A-2	1ST777	132	6/8		0/8	〈40〉	4			底部　高台畳付欠損 内面黒色薄い
156	土師器　有台坏	-2	1ST777	126	7/8		0/8	〈42〉	4			高台剥落　切離し不明
157	土師器　有台坏	A-2	1ST777		0/8	68	4/8	〈50〉	3			底部
158	土師器　有台皿	B-1a	1ST777	(128)	3/8	73	6/8	25	6	0.57	0.20	
159	土師器　鉢	小型	1ST777	(96)	2/8	56	8/8	53	3	コップ形　外：ロクロ　内：ロクロ　底：回糸切り		
160	土師器　甕	口縁片	1ST777	-	1/8		0/8	〈98〉	6	長胴甕ヵ　外：ロクロ　ケズリ　内：ロクロ		
161	土師器　甕	口縁片	1ST777	-	1/8		0/8	〈85〉	5	長胴甕ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ		
162	土師器　甕	胴片	1ST777		0/8		0/8	〈98〉	5	長胴甕ヵ　頸～胴片　外：ロクロ　内：ロクロ		
163	土師器　甕	口縁片	1ST777	-	1/8		0/8	〈162〉	8	長胴甕ヵ　外：ロクロ　縦ケズリ　内：ナデ		
164	土師器　甕	口縁片	1ST777	-	1/8		0/8	〈75〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ		
165	土師器　甕	口縁片	1ST777	-	1/8		0/8	〈48〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ		
166	土師器　甕	小型	1ST777	136	8/8		0/8	〈88〉	3	外：ロクロ　内：ロクロ		
167	土師器　甕	小型	1ST777	138	5/8	91	8/8	145	5	内外：ロクロ　煤付着　底：ケズリ　歪み		
168	土師器　甕	小型	1ST777	(144)	2/8	88	5/8	〈68〉		外：ハケメ　内：ハケメ　底：木葉痕 未接合同一個体		
169	土師器　甕	長胴甕	1ST777	(240)	2/8		0/8	〈85〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ		
170	土師器　甕	長胴甕	1ST777	(210)	3/8		0/8	〈63〉	7	外：ロクロ　内：ロクロ　カキメ		
171	鉄製品	刀子	1ST777	<99>	（横）	12	（縦）	4	6.0	刃部 1/3 欠損		
172	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	(140)	2/8	(52)	1/8	47	5	0.37	0.34	軟質
173	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	130	4/8	56	8/8	38	3	0.43	0.29	
174	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	138	7/8	58	8/8	39	3	0.42	0.28	
175	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	140	6/8	60	8/8	43	3	0.43	0.31	歪み
176	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	130	6/8	64	8/8	46	4	0.49	0.35	底部丸み
177	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	148	6/8	58	8/8	47	4	0.39	0.32	底部丸み
178	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	(140)	2/8	64	3/8	39	4	0.46	0.28	
179	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	(136)	2/8	54	5/8	39	3	0.40	0.29	
180	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	142	2/8	(62)	2/8	34	4	0.44	0.24	
181	須恵器　坏	B-1a	1ST1158	148	8/8	70	8/8	45	4	0.47	0.30	
182	須恵器　坏	B-1	1ST1158		0/8	60	4/8	〈17〉	5			底部　底墨書：縄
183	須恵器　有台坏	B-1b	1ST1158	(140)	2/8	75	4/8	56	5	0.54	0.40	歪み
184	土師器　坏	B-1a	1ST1158	(132)	3/8	50	6/8	49	5	0.38	0.37	
185	土師器　坏	B-1a	1ST1158	(136)	2/8	50	8/8	50	4	0.37	0.37	
186	土師器　坏	B-1a	1ST1158	140	4/8	60	4/8	54	5	0.43	0.39	
187	土師器　坏	B-1a	1ST1158	(146)	3/8	64	4/8	44	5	0.44	0.30	
188	土師器　坏	B-1a	1ST1158	158	5/8	64	6/8	57	5	0.41	0.36	
189	土師器　有台坏	B-2	1ST1158		0/8	88	8/8	〈47〉	7			底部　外面回転ヘラケズリ

表 11　出土遺物観察表　6

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考 底径 / 器高 / 口径　口径
190	須恵器　瓶	長頸瓶	1ST1158		0/8		0/8	〈98〉	6	外：ロクロ　頸部リング状凸帯　内：ロクロ ２段構成　頸径 70mm
191	須恵器　瓶類	底胴部	1ST1158		0/8	(110)	2/8	〈195〉	6	壺ヵ　外：ロクロ　縦ケズリ　下端横ケズリ 内：カキメ　残胴径 208mm　未接合同一個体
192	土師器　甕	小型	1ST1158	142	7/8	86	8/8	119	6	外：ハケメ　内：ハケメ　ユビオサエ 底：網代痕　歪み
193	土師器　甕	長胴甕	1ST1158	(220)*	1/8		0/8	〈169〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　残胴径 236mm
194	土師器　甕	長胴甕	1ST1158	(238)*	1/8		0/8	〈275〉	8	外：ロクロ　ヘラケズリ　内：ナデ 縦長に残存、底部板を欠く
195	土師器　甕	長胴甕	1ST1158		0/8		0/8	〈294〉	7	出羽型甕ヵ　外：上半ロクロ　下半タタキ 内：平行アテ具痕　全黄橙色　未接合同一個体 残胴径 228mm
196	鉄製品	刀子	1ST1158	<62>	（横）	9	（縦）	7	2.5	刃部のみ　小型品
197	須恵器　坏	B-1a	1ST1184	144	5/8	70	5/8	40	4	0.49　0.28
198	須恵器　坏	B-1a	1ST1184	144	6/8	64	5/8	38	4	0.44　0.26
199	須恵器　坏	-1	1ST1184	(152)	2/8		0/8	〈53〉	4	口縁部
200	須恵器　坏	B-1	1ST1184		0/8	60	8/8	〈33〉	4	底部
201	須恵器　壺	広口壺	1ST1184	(136)	2/8		0/8	〈60〉	8	口縁部のみ　外：ロクロ　降灰 内：ロクロ　自然釉
202	須恵器　鉢	括れ鉢	1ST1184	(204)	3/8		0/8	〈105〉	8	外：ロクロ　内：ロクロ
203	土師器　甕	底部	1ST1184		0/8	(98)	2/8	〈72〉	5	長胴甕ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ　底：ケズリ
204	土師器　甕	長胴甕	1ST1184	(230)	2/8		0/8	〈190〉	8	外：ハケメ　内：ハケメ
205	鉄製品	刀子	1ST1184	<113>	（横）	20	（縦）	11	14.5	刃部欠損　茎に木質付着
206	須恵器　坏	B-1a	1ST1290	(150)	3/8	66	8/8	39	4	0.44　0.26
207	須恵器　坏	-1	1ST1290	148	4/8		0/8	〈41〉	4	口縁部
208	須恵器　蓋		1ST1290		0/8	36		〈16〉	8	鈕墨書：王
209	須恵器　有台坏	A-1	1ST1290		0/8	80	8/8	〈22〉	4	底部
210	須恵器　有台坏	B-1	1ST1290		0/8	(86)	3/8	〈43〉	4	底部
211	須恵器　瓶	長頸瓶	1ST1290		0/8		0/8	〈147〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ　頸径 58mm 胴径 208mm　３段構成
212	須恵器　壺	広口壺	1ST1290	(190)	3/8		0/8	〈260〉	9	外：ロクロ　内：ロクロ　カキメ　胴径 310mm
213	須恵器　壺	広口壺	1ST1290		0/8	126	6/8	〈278〉	10	外：ロクロ　下半タタキ　下端ケズリ　内：ロクロ 降灰　胴径 276mm　摩耗　未接合同一個体
214	土師器　甕	小型	1ST1290	(138)	2/8		0/8	〈50〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ
215	土師器　甕	小型	1ST1290	(144)	3/8		0/8	〈65〉	4	外：ロクロ　縦ケズリ　内：ロクロ
216	土師器　甕	小型	1ST1290	143	8/8	60	8/8	141	6	外：ロクロ　ケズリ　内：ロクロ　カキメ 底：ケズリ
217	土師器　甕	口縁片	1ST1290	-	1/8		0/8	〈50〉	4	長胴甕ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ
218	土師器　甕	口縁片	1ST1290	-	1/8		0/8	〈60〉	6	長胴甕ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ
219	土師器　甕	長胴甕	1ST1290	(220)	2/8		0/8	〈68〉	7	外：ロクロ　内：ロクロ
220	土師器　甕	胴片	1ST1290		0/8		0/8	〈91〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ
221	土師器　甕	底部	1ST1290		0/8	66	4/8	〈44〉	5	小型ヵ　外：ケズリ　内：ハケメ　煤付着 底：ケズリ
222	土師器　甕	底部	1ST1290		0/8	(80)	5/8	〈57〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
223	土師器　甕	底部	1ST1290		0/8	(100)	3/8	〈75〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕

表 12　出土遺物観察表　7

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
224	土師器　甕	底部	1ST1286		0/8	(84)	1/8	〈25〉	9			外：ロクロ　内：ロクロ　底：回糸切り
225	須恵器　坏	B-1	1SB665		0/8	58	8/8	〈18〉	4			底部
226	土師器　甕	底部	1SB1405		0/8	(90)	2/8	〈19〉	10			長胴甕ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ 底：ケズリ　ナデ
227	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	4/8	68	6/8	42	5	0.52	0.32	底墨書：縄　、歪み
228	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	62	8/8	42	4	0.46	0.31	底墨書：縄　、歪み
229	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(136)	2/8	54	8/8	47	3	0.40	0.35	底墨書：縄　、歪み
230	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(136)	3/8	58	8/8	42	4	0.43	0.31	底墨書：縄
231	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	8/8	64	8/8	39	4	0.47	0.29	底墨書：「縄」
232	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	8/8	62	8/8	46	4	0.45	0.33	底墨書：縄
233	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	7/8	60	8/8	40	5	0.43	0.29	底墨書：縄
234	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(140)	1/8	59	8/8	39	4	0.42	0.28	底墨書：縄
235	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	6/8	64	8/8	39	4	0.45	0.27	底墨書：縄
236	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	6/8	51	8/8	43	3	0.36	0.30	底墨書：縄
237	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	6/8	65	8/8	41	5	0.46	0.29	底墨書：縄
238	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(142)	3/8	60	8/8	45	4	0.42	0.32	底墨書：縄　、歪み
239	須恵器　坏	B-1a	1SD186	144	8/8	54	8/8	48	3	0.38	0.33	底墨書：縄
240	須恵器　坏	B-1a	1SD186	144	7/8	64	8/8	45	4	0.44	0.31	内塗膜ヵ　底墨書：縄
241	須恵器　坏	B-1a	1SD186	144	6/8	58	8/8	39	3	0.40	0.27	底墨書：縄　、歪み
242	須恵器　坏	B-1a	1SD186	144	8/8	60	8/8	41	5	0.42	0.28	底墨書：縄
243	須恵器　坏	B-1a	1SD186	144	4/8	68	8/8	42	3	0.47	0.29	底墨書：縄　、歪み
244	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(146)	4/8	60	8/8	39	5	0.41	0.27	底墨書：縄　、口縁端部屈曲
245	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(146)	3/8	62	7/8	42	4	0.42	0.29	底墨書：縄
246	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(147)	3/8	59	8/8	42	4	0.40	0.29	底墨書：縄
247	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	56	8/8	〈27〉	4			底墨書：縄
248	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	50	8/8	〈17〉	3			底部　底墨書：□〔縄ヵ〕
249	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	54	8/8	〈16〉				底部　底墨書：縄
250	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	48	7/8	〈14〉				底部　底墨書：縄
251	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	64	5/8	〈17〉				底部　底墨書：縄
252	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	60	6/8	〈13〉				底部　底墨書：縄
253	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	58	7/8	〈16〉				底部　底墨書：縄　、内摩耗　転用硯
254	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	58	4/8	〈10〉				底部　底墨書：縄
255	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	58	8/8	〈25〉				底部　底墨書：縄
256	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	58	4/8	〈17〉	5			底部　底墨書：縄ヵ
257	須恵器　坏		1SD186		0/8	70	2/8	〈15〉				底部　底墨書：縄
258	須恵器　坏		1SD186		0/8	(58)	3/8	〈12〉				底部　底墨書：縄ヵ
259	須恵器　坏	底片	1SD186		0/8	-	1/8	〈11〉				底片　底墨書：□〔縄ヵ〕
260	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	-	1/8	〈8〉				底片　底墨書：縄ヵ
261	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	(52)	8/8	〈17〉	3			底部　底墨書：縄ヵ
262	須恵器　坏	B-1a	1SD186	122	5/8	(58)	4/8	40	5	0.48	0.33	底墨書：王

表 13　出土遺物観察表　8

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
263	須恵器　坏	B-1a	1SD186	128	7/8	58	8/8	34	4	0.45	0.27	底墨書：王
264	須恵器　坏	B-1a	1SD186	128	7/8	56	8/8	41	4	0.44	0.32	底墨書：王
265	須恵器　坏	B-1a	1SD186	130	4/8	64	8/8	41	4	0.49	0.32	底墨書：王
266	須恵器　坏	B-1a	1SD186	130	7/8	57	8/8	43	4	0.44	0.33	底墨書：王
267	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(130)	3/8	55	8/8	42	3	0.42	0.32	底墨書：王
268	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	6/8	60	8/8	38	4	0.45	0.28	底墨書：王
269	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	7/8	64	8/8	36	4	0.47	0.26	底墨書：王　、歪み
270	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	4/8	67	8/8	40	5	0.49	0.29	底墨書：王
271	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(136)	7/8	64	8/8	36	4	0.47	0.26	底墨書：王
272	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	6/8	70	8/8	38	4	0.51	0.28	底墨書：王　、内墨痕　転用硯
273	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	6/8	68	8/8	34	4	0.49	0.24	底墨書：王　、歪み
274	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	5/8	64	8/8	37	4	0.46	0.26	底墨書：王　、内墨痕　転用硯
275	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(140)	3/8	70	5/8	41	5	0.50	0.29	底墨書：王
276	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	7/8	60	8/8	46	3	0.42	0.32	底墨書：「王」
277	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	62	8/8	〈23〉	4			底部　底墨書：王
278	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	(68)	3/8	〈27〉	4			底部　底墨書：王
279	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	58	5/8	〈19〉	5			底部　底墨書：王
280	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	62	8/8	〈16〉				底部　底墨書：王
281	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	62	7/8	〈12〉				底部　底墨書：王
282	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	60	4/8	〈8〉				底部　底墨書：王
283	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	(66)	4/8	〈14〉				底部　底墨書：王
284	須恵器　坏	底片	1SD186		0/8	-	1/8	〈6〉				底片　底墨書：王ヵ
285	須恵器　坏	-1	1SD186	(128)	3/8		0/8	〈32〉	4			口縁部　外墨書：王
286	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(132)	1/8	61	8/8	35	4	0.46	0.27	底墨書：冨　、歪み
287	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	56	5/8	〈17〉				底部　底墨書：冨
288	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	56	7/8	〈26〉	3			底部　外墨書：王　、底墨書：冨
289	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	56	8/8	〈29〉	3			底部　底墨書：冨
290	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	60	6/8	〈15〉				底部　底墨書：□〔冨ヵ〕
291	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	64	4/8	〈9〉				底部　底墨書：□〔冨ヵ〕
292	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	4/8	60	7/8	37	4	0.43	0.26	底墨書：千
293	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	6/8	56	8/8	40	3	0.39	0.28	底墨書：千　、口縁端部屈曲
294	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	(56)	3/8	〈18〉				底部　底墨書：千
295	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	4/8	58	8/8	37	4	0.43	0.27	底墨書：白
296	須恵器　坏	B-1a	1SD186	144	7/8	57	8/8	46	4	0.40	0.32	底墨書：日
297	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	52	8/8	48	3	0.39	0.36	底墨書：矢田　、歪み
298	須恵器　坏	B-1a	1SD186	130	7/8	62	8/8	43	4	0.48	0.33	底墨書：子　、歪み
299	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	5/8	58	8/8	41	4	0.42	0.30	底墨書：太
300	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	60	8/8	〈10〉				底部　底墨書：人
301	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	6/8	58	6/8	38	4	0.43	0.28	底墨書：□〔身ヵ〕
302	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	62	7/8	〈31〉	4			底部　底墨書：□〔身ヵ〕

表 14　出土遺物観察表　9

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
303	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	52	8/8	〈18〉				底部　底墨書：真人
304	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	60	8/8	39	5	0.45	0.29	底墨書：□〔方ヵ〕
305	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	64	4/8	〈17〉				底部　底墨書：方
306	須恵器　坏	-1	1SD186		0/8		0/8	〈32〉	4			胴片　外墨書：□□〔秦善ヵ〕
307	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	5/8	60	7/8	44	6	0.43	0.32	外墨書：□（記号）
308	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	7/8	54	8/8	44	3	0.39	0.32	底～外墨書：秦□〔善ヵ〕、歪み大
309	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(146)	2/8	56	8/8	49	2	0.38	0.34	底～外墨書：秦□〔善ヵ〕
310	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	7/8	56	8/8	39	4	0.41	0.28	外墨書：□〔長ヵ〕岡　、歪み
311	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	8/8	58	8/8	39	4	0.41	0.28	外墨書：岡
312	須恵器　坏	B-1a	1SD186	128	5/8	66	7/8	31	3	0.52	0.24	
313	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	6/8	62	8/8	39	4	0.45	0.28	底墨書：□〔六ヵ〕
314	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	4/8	54	5/8	40	3	0.41	0.30	底墨書：□〔六ヵ〕　内煤ヵ付着 灯明皿転用
315	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	4/8	(66)	3/8	43	4	0.48	0.33	底墨書：□
316	須恵器　坏	B-1a	1SD186	128	8/8	60	8/8	39	4	0.47	0.30	歪み　底部に火ぶくれ　、底墨書：□
317	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(140)	5/8	66	5/8	36	4	0.47	0.26	歪み大　底墨書：□
318	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	7/8	60	8/8	42	4	0.45	0.31	底墨書：□
319	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	5/8	50	4/8	40	4	0.36	0.29	底墨書：□
320	須恵器　坏	-1	1SD186	(146)	0/8		0/8	〈31〉	3			口縁片　外墨書：□
321	須恵器　坏	-1	1SD186	-	1/8		0/8	〈48〉	3			口縁片　外墨書：□
322	須恵器　坏	-1	1SD186	-	1/8		0/8	〈41〉	4			口縁片　外墨書：□〔廾ヵ〕
323	須恵器　坏	-1	1SD186	-	1/8		0/8	〈30〉	4			口縁片　外墨書：□
324	須恵器　坏	-1	1SD186	-	1/8		0/8	〈24〉	4			口縁片　外墨書：□
325	須恵器　坏	-1	1SD186		0/8		0/8	〈4〉	4			胴片　外墨書：□
326	須恵器　坏	-1	1SD186		0/8		0/8	〈35〉	4			胴片　外墨書：□
327	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	(52)	3/8	〈23〉	3			底部　底墨書：□
328	須恵器　坏	B-1	1SD186		0/8	64	4/8	〈17〉	5			底部　底墨書：□〔イ〕
329	須恵器　坏		1SD186		0/8	56	5/8	〈15〉				底部　底墨書：□
330	須恵器　坏		1SD186		0/8	56	5/8	〈18〉				底部　底墨書：□
331	須恵器　坏	B-1a	1SD186	106	7/8	43	8/8	37	5	0.41	0.35	小型品　、内重ね焼き接着痕
332	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(114)	1/8	58	4/8	44	6	0.51	0.39	小型品　、歪み
333	須恵器　坏	B-1a	1SD186	126	4/8	62	7/8	33	3	0.49	0.26	内摩耗　転用硯ヵ
334	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(128)	1/8	52	8/8	35	3	0.41	0.27	
335	須恵器　坏	B-1a	1SD186	126	8/8	60	8/8	42	5	0.48	0.33	歪み
336	須恵器　坏	B-1a	1SD186	127	7/8	58	8/8	36	5	0.46	0.28	歪み
337	須恵器　坏	B-1a	1SD186	128	5/8	64	8/8	34	3	0.50	0.27	
338	須恵器　坏	B-1a	1SD186	130	7/8	66	8/8	37	4	0.51	0.28	
339	須恵器　坏	B-1a	1SD186	130	5/8	62	8/8	40	3	0.48	0.31	歪み
340	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	8/8	58	8/8	40	4	0.44	0.30	
341	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	8/8	56	8/8	39	4	0.42	0.30	

表 15　出土遺物観察表　10

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
342	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	5/8	58	8/8	36	4	0.44	0.27	歪み
343	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	5/8	68	8/8	39	4	0.52	0.30	
344	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	4/8	58	8/8	40	4	0.44	0.30	
345	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	7/8	60	8/8	36	4	0.45	0.27	底～体部下半に黒斑　、歪み
346	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	5/8	60	8/8	35	4	0.45	0.27	口縁端部屈曲
347	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	8/8	60	8/8	37	4	0.45	0.28	歪み
348	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	7/8	60	8/8	37	4	0.45	0.28	
349	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	6/8	64	8/8	38	4	0.48	0.29	
350	須恵器　坏	B-1a	1SD186	132	8/8	66	8/8	32	3	0.50	0.24	歪み
351	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	60	8/8	31	4	0.45	0.23	
352	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(134)	1/8	66	8/8	35	4	0.49	0.26	
353	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	5/8	60	8/8	36	4	0.45	0.27	
354	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(134)	3/8	64	6/8	38	5	0.48	0.28	歪み大
355	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	64	8/8	39	3	0.48	0.29	歪み
356	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	60	8/8	39	4	0.45	0.29	
357	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	4/8	58	8/8	40	5	0.43	0.30	歪み
358	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	8/8	58	8/8	41	4	0.43	0.31	歪み
359	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(134)	2/8	52	8/8	43	5	0.39	0.32	
360	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	4/8	54	8/8	44	3	0.40	0.32	
361	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	8/8	60	8/8	40	3	0.44	0.29	歪み
362	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	5/8	70	8/8	37	5	0.52	0.28	内煤付着　灯明皿転用
363	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	7/8	58	8/8	38	4	0.43	0.28	歪み
364	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(136)	2/8	70	5/8	41	5	0.51	0.30	内摩耗　転用硯ヵ
365	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(136)	1/8	66	7/8	35	4	0.49	0.26	内外火襷痕
366	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(136)	2/8	60	7/8	37	4	0.44	0.27	歪み
367	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	6/8	66	8/8	38	3	0.49	0.28	歪み
368	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	7/8	62	8/8	39	3	0.46	0.29	
369	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	6/8	64	8/8	40	3	0.47	0.29	
370	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	5/8	54	8/8	41	4	0.40	0.30	歪み
371	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	4/8	(60)	3/8	41	4	0.44	0.30	
372	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	7/8	60	8/8	42	4	0.44	0.31	歪み
373	須恵器　坏	B-1a	1SD186	136	7/8	(64)	2/8	42	4	0.47	0.31	歪み
374	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(138)	2/8	48	8/8	38	5	0.35	0.28	内摩耗　転用硯
375	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	4/8	64	8/8	36	4	0.46	0.26	歪み
376	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	8/8	64	8/8	38	4	0.46	0.28	歪み
377	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	7/8	68	8/8	39	4	0.49	0.28	歪み
378	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	7/8	60	8/8	40	4	0.43	0.29	歪み
379	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	5/8	63	8/8	40	4	0.46	0.29	歪み
380	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(138)	2/8	64	6/8	41	4	0.46	0.30	

表 16　出土遺物観察表　11

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
381	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(138)	3/8	58	6/8	45	4	0.42	0.33	
382	須恵器　坏	B-1a	1SD186	138	8/8	66	8/8	50	5	0.48	0.36	全摩耗　、歪み
383	須恵器　坏	B-1a	1SD186	139	5/8	60	4/8	47	3	0.43	0.34	歪み
384	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(140)	3/8	61	7/8	33	4	0.44	0.24	歪み
385	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(140)	1/8	52	5/8	37	4	0.37	0.26	歪み
386	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	5/8	58	8/8	38	4	0.41	0.27	歪み
387	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	7/8	62	5/8	38	4	0.44	0.27	内墨痕　転用硯
388	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	5/8	58	8/8	39	3	0.41	0.28	
389	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	7/8	64	8/8	40	4	0.46	0.29	歪み
390	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	5/8	62	8/8	43	3	0.44	0.31	
391	須恵器　坏	B-1a	1SD186	140	4/8	56	5/8	44	4	0.40	0.31	
392	須恵器　坏	B-1a	1SD186	141	5/8	63	7/8	36	5	0.45	0.26	
393	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	8/8	60	5/8	37	5	0.42	0.26	
394	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	7/8	66	8/8	42	5	0.46	0.30	歪み
395	須恵器　坏	B-1a	1SD186	142	7/8	66	8/8	44	4	0.46	0.31	全面摩耗
396	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(142)	3/8	70	8/8	45	5	0.49	0.32	全摩耗
397	須恵器　坏	B-1a	1SD186	146	7/8	56	8/8	44	3	0.38	0.30	
398	須恵器　坏	B-1a	1SD186	148	5/8	60	8/8	40	4	0.41	0.27	
399	須恵器　坏	B-1a	1SD186	148	6/8	57	8/8	44	3	0.39	0.30	歪み
400	須恵器　坏	B-1a	1SD186	(150)	6/8	62	8/8	43	4	0.41	0.29	歪み
401	須恵器　坏	B-1a	1SD186	150	4/8	68	6/8	36	4	0.45	0.24	内煤付着　灯明皿転用
402	須恵器　坏	-1	1SD186	122	8/8		0/8	〈34〉	4			口縁部　口縁玉縁状　、歪み
403	須恵器　坏	B-1	1SD186	(126)	3/8	-	0/8	〈25〉	3			内外煤付着　灯明皿転用
404	須恵器　坏	B-1a	1SD186	134	6/8	-	1/8	43	5		0.32	内煤付着　灯明皿転用
405	須恵器　坏	-1	1SD186	134	8/8		0/8	〈35〉	4			口縁部　歪み
406	須恵器　有台坏	B-1a	1SD186	(122)	2/8	69	8/8	44	4	0.57	0.36	
407	須恵器　有台坏	B-1a	1SD186	(132)	1/8	68	7/8	51	4	0.52	0.39	
408	須恵器　有台坏	B-1a	1SD186	132	6/8	83	8/8	45	5	0.63	0.34	
409	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	130	7/8	72	8/8	63	4	0.55	0.48	歪み
410	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	144	4/8	(70)	2/8	71	5	0.49	0.49	内外火襷痕
411	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	(136)	2/8	70	8/8	79	4	0.51	0.58	外降灰　、歪み
412	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	148	8/8	66	8/8	77	5	0.45	0.52	歪み
413	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	145	8/8	66	8/8	65	4	0.46	0.45	歪み
414	須恵器　有台坏	B-1a	1SD186	(158)	4/8	68	8/8	60	5	0.43	0.38	歪み
415	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	(152)	4/8	62	8	69	5	0.41	0.45	
416	須恵器　有台坏	B-1b	1SD186	(140)	3/8	72	8/8	59	4	0.51	0.42	底墨書：方
417	須恵器　有台坏	B-1	1SD186		0/8	80	4/8	〈19〉				底部　底墨書：王
418	須恵器　有台坏	B-1	1SD186		0/8	66	5/8	〈33〉	4			底部　墨書：□〔真ヵ〕
419	須恵器　有台坏	B-1	1SD186		0/8	78	8/8	〈32〉	4			底部　墨書：□〔縄ヵ〕

表 17　出土遺物観察表　12

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
420	須恵器　有台坏	B-1	1SD186		0/8	90	4/8	〈32〉				底部
421	須恵器　双耳坏	-1	1SD186	(108)	2/8		0/8	〈38〉	4			口縁部　高台付くものか
422	土師器　坏	B-1a	1SD186	132	5/8	60	8/8	39	4	0.45	0.30	底墨書：□　、歪み
423	土師器　坏	B-1a	1SD186	146	5/8	64	8/8	44	3	0.44	0.30	底墨書：身
424	土師器　坏	B-1a	1SD186	150	8/8	68	8/8	46	3	0.45	0.31	底墨書：身
425	土師器　坏	B-1a	1SD186		0/8	54	8/8	〈16〉	5			底部　底墨書：千　、全摩耗
426	土師器　坏	B-1a	1SD186		0/8	52	8/8	〈19〉	4			底部　底墨書：縄
427	土師器　坏	B-1a	1SD186		0/8	(62)	3/8	〈10〉				底部　底墨書：縄ヵ
428	土師器　坏	B-1	1SD186		0/8	-	1/8	〈8〉				底片　底墨書：縄
429	土師器　坏	底片	1SD186		0/8	-	1/8	〈8〉				底片　底墨書：王ヵ
430	土師器　坏	B-1a	1SD186	130	8/8	50	8/8	43	4	0.38	0.33	歪み
431	土師器　坏	B-1a	1SD186	(130)	1/8	56	8/8	44	4	0.43	0.34	
432	土師器　坏	B-1a	1SD186	130	8/8	50	8/8	47	5	0.38	0.36	底摩耗　、歪み
433	土師器　坏	-1a	1SD186	(126)	2/8	59	8/8	44	3	0.47	0.35	全摩耗　切離し不明
434	土師器　坏	-1a	1SD186	130	6/8	60	8/8	47	4	0.46	0.36	内外器表剥落、　切離し不明　、歪み
435	土師器　坏	B-1a	1SD186	139	6/8	65	5/8	53	4	0.47	0.38	黒色斑　、歪み
436	土師器　坏	-1a	1SD186	(144)	1/8	76	8/8	44	3	0.53	0.31	切離し不明　、全摩耗
437	土師器　坏	B-1a	1SD186	(126)	2/8	(60)	2/8	40	4	0.48	0.32	
438	土師器　坏	B-1a	1SD186	(140)	2/8		0/8	〈39〉	5			粘土紐接合痕
439	土師器　坏	B-1b	1SD186	118	7/8	50	8/8	48	3	0.42	0.41	内火襷痕
440	土師器　坏	B-1a	1SD186	124	4/8	60	8/8	47	4	0.48	0.38	
441	土師器　坏	B-1a	1SD186	124	5/8	48	8/8	42	3	0.39	0.34	
442	土師器　坏	B-1a	1SD186	(122)	2/8	54	8/8	46	3	0.44	0.38	
443	土師器　坏	B-1a	1SD186	154	8/8	72	8/8	60	4	0.47	0.39	底摩耗
444	土師器　坏	B-2b	1SD186	(140)	3/8	59	8/8	61	5	0.42	0.44	外下端ケズリ
445	土師器　坏	-2a	1SD186	(136)	2/8	50	8/8	53	5	0.37	0.39	切離し不明
446	土師器　坏	B-2b	1SD186	(136)	2/8	64	8/8	55	4	0.47	0.40	
447	土師器　坏	B-2b	1SD186	137	8	60	8/8	57	4	0.44	0.42	
448	土師器　坏	B-2a	1SD186	(140)	2/8	60	8/8	52	4	0.43	0.37	
449	土師器　坏	B-2a	1SD186	(146)	1/8	60	8/8	49	5	0.41	0.34	
450	土師器　坏	B-2	1SD186		0/8	60	8/8	〈29〉	3			底部　外下端ケズリ　、底墨書：王
451	土師器　坏	B-2	1SD186		0/8	(69)	2/8	〈18〉				内面に漆塗膜付着
452	土師器　有台坏	-1b	1SD186	130	5/8	66	8/8	54	5	0.51	0.42	内、底摩耗　切離し不明
453	土師器　有台坏	-1a	1SD186	123	4/8	76	8/8	48	5	0.62	0.39	切離し不明　、底墨書：身
454	土師器　有台坏	B-2a	1SD186	136	5/8	74	8/8	50	5	0.54	0.37	歪み
455	土師器　有台坏	B-2a	1SD186	136	7/8	72	8/8	49	5	0.53	0.36	
456	土師器　有台坏	B-2a	1SD186	(135)	3/8	(70)	4/8	50	4	0.52	0.37	ミガキ弱　、歪み
457	土師器　有台坏	-2b	1SD186	124	4/8	66	8/8	51	5	0.53	0.41	切離し不明　、歪み
458	土師器　有台坏	-2b	1SD186	118	4/8	62	8/8	51	5	0.53	0.43	切離し不明

表 18　出土遺物観察表　13

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 口径	器高 / 口径	調整・備考
459	土師器　有台坏	-2b	1SD186	(132)	2/8	72	8/8	61	5	0.55	0.46	全摩耗　糸切痕
460	土師器　有台坏	B-2b	1SD186	(136)	2/8	70	7/8	57	6	0.51	0.42	外黒斑
461	土師器　有台坏	-2b	1SD186	136	5/8	72	8/8	56	5	0.53	0.41	切離し不明
462	土師器　有台坏	-2a	1SD186	148	7/8	73	8/8	54	5	0.49	0.36	切離し不明
463	土師器　有台坏	B-2b	1SD186	136	8/8	63	8/8	56	4	0.46	0.41	
464	土師器　有台坏	B-2b	1SD186	140	5/8	30	8/8	56	5	0.21	0.40	削り高台ヵ　、歪み
465	土師器　有台坏	-2b	1SD186	(160)	3/8	78	8/8	66	5	0.49	0.41	切離し不明
466	土師器　有台坏	-2	1SD186		0/8	70	8/8	〈23〉				底部
467	土師器　有台坏	-2	1SD186		0/8	98	4/8	〈27〉				底部
468	土師器　有台坏	-2	1SD186		0/8	66	8/8	〈20〉				底部　菊花状押圧文　切離し不明
469	土師器　有台坏	-2	1SD186		0/8	66	8/8	〈31〉	4			底部　菊花状押圧文　切離し不明
470	土師器　有台皿	-2a	1SD186	130	6/8	80	5/8	33	5	0.62	0.25	切離し不明
471	土師器　有台皿	-2a	1SD186	(136)	1/8	84	8/8	39	6	0.62	0.29	切離し不明
472	土師器　有台皿	B-2a	1SD186	138	6/8	78	4/8	39	6	0.57	0.28	
473	須恵器　蓋		1SD186	140	4/8	32		〈20〉	4	鈕墨書：王　、歪み		
474	須恵器　蓋		1SD186	148	6/8			26	5			
475	須恵器　蓋		1SD186	138	4/8			〈16〉	4			
476	須恵器　蓋		1SD186	(150)	1/8			〈22〉				
477	須恵器　瓶	長頸瓶	1SD186	(96)＊	1/8		0/8	〈93〉	6	外：ロクロ　内：ロクロ　頸径 74mm		
478	須恵器　瓶	長頸瓶	1SD186	(94)	2/8		0/8	〈108〉	6	外：ロクロ　頸部リング状凸帯　内：ロクロ ３段構成　頸径 72mm"		
479	須恵器　瓶	長頸瓶	1SD186		0/8	(100)	7/8	〈297〉	8	外：ロクロ　リング状凸帯　内：ロクロ　カキメ 底：回ケズリ　高台貼付　未接合同一個体 頸径 52mm　胴径 194mm		
480	須恵器　瓶	広口瓶	1SD186		0/8		0/8	〈298〉	10	外：タタキ　ロクロ　カキメ　内：ロクロ　カキメ 頸径 102mm　胴径 260mm		
481	須恵器　壷	胴部	1SD186		0/8		0/8	〈66〉	6	小型品　外：ロクロ　内：ロクロ　残胴径 96mm		
482	須恵器　壷	広口壺ヵ	1SD186		0/8		0/8	〈59〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ　残胴径 144mm		
483	須恵器　壷	口縁部	1SD186	(160)	2/8		0/8	〈46〉	7	外：ロクロ　内：ロクロ		
484	須恵器　壺	広口壺	1SD186	160	6/8		0/8	〈185〉	7	外：ロクロ　内：ロクロ　胴径 240mm		
485	須恵器　鉢	仏鉢ヵ	1SD186	(118)*	1/8		0/8	〈58〉	7	口縁片、 焼成前穿孔 1 箇所　内→外		
486	須恵器　鉢	仏鉢ヵ	1SD186		0/8		0/8	〈36〉	6	胴片、 焼成前穿孔 1 箇所		
487	須恵器　瓶類	口縁部	1SD186	-	1/8		0/8	〈26〉		瓶・壺ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ		
488	須恵器　瓶類	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈43〉	8	瓶ヵ　外：ロクロ　自然釉　内：ロクロ		
489	須恵器　瓶類	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈48〉	6	瓶ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ		
490	須恵器　瓶類	底部	1SD186		0/8	98	4/8	〈36〉	4	底墨書：王		
491	土師器　鉢	括れ鉢	1SD186	(210)	2/8	78	8/8	125	4	外：ロクロ　下半ケズリ　内：ミガキ黒色処理 底：ナデ		
492	土師器　鉢	鍋ヵ	1SD186	(380)＊	1/8		0/8	〈80〉	8	口縁片、 外：ロクロ　ヘラケズリ 内：ロクロ　カキメ		
493	須恵器　甕	小型	1SD186	134	5/8		0/8	〈84〉	8	外：タタキ　内：円形アテ具痕		
494	須恵器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈28〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ		

表 19　出土遺物観察表　14

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考 底径 / 器高 / 口径　口径
495	須恵器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈77〉	9	外：平行タタキ　内：円形アテ具痕
496	須恵器　甕	特大	1SD186	(594)*	1/8		0/8	〈143〉	17	口縁片　外：ナデ　平行タタキ　内：円形アテ具痕
497	須恵器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈45〉	9	外：カキメ　自然釉　内：ロクロ 胎土白色で緻密、隔地搬入品か
498	須恵器　甕	胴部	1SD186		0/8		0/8	〈164〉	7	外：平行タタキ　内：円形アテ具痕　残胴径 402mm
499	土師器　甕	小型	1SD186	(130)	4/8	78	4/8	112	5	内外：ロクロ　口縁部ユビオサエ　底：ケズリ　歪み
500	土師器　甕	口縁片	1SD186	-	2/8		0/8	〈65〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ　歪み大
501	土師器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈52〉	3	外：ハケメ　内：ハケメ
502	土師器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈70〉	4	外：ロクロ　内：ハケメ
503	土師器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈25〉	4	外：ロクロ　内：ロクロ　煤付着
504	土師器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8		5	外：ナデ　内：ナデ　全摩耗
505	土師器　甕	口縁片	1SD186	-	1/8		0/8	〈54〉	6	外：ロクロ　内：ロクロ
506	土師器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈75〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ
507	土師器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈40〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ
508	土師器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈58〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ、煤付着
509	土師器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈64〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ
510	土師器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈80〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ
511	土師器　甕	胴片	1SD186		0/8		0/8	〈90〉	6	内外：ハケメ　底部付近　細いヘラ状工具による調整
512	土師器　甕	小型	1SD186		0/8	(52)	2/8	〈11〉		外：ロクロ　内：ロクロ　底：回糸切り
513	土師器　甕	小型	1SD186		0/8	(58)	2/8	〈17〉		外：ロクロ　内：ロクロ　底：回糸切り
514	土師器　甕	底部	1SD186		0/8	(66)	2/8	〈26〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ
515	土師器　甕	底部	1SD186		0/8	(80)	1/8	〈30〉	7	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
516	土師器　甕	小型	1SD186		0/8	(62)	2/8	〈35〉		外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
517	土師器　甕	底部	1SD186		0/8	(88)	3/8	〈65〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕ヵ
518	土師器　甕	底片	1SD186		0/8		0/8	＜7＞		底：網代痕
519	土製品	土玉	1SD186	(27)		12		13	4	管玉形
520	土製品	土玉	1SD186	(22)		13		11	3	管玉形
521	須恵器　瓶類	底部	1SD2		0/8	(98)	2/8	〈21〉		瓶ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ　底：ナデ　高台貼付
522	須恵器　坏	-1	1SK7	-	1/8		0/8	〈30〉	6	口縁片
523	須恵器　坏	B-1a	1SD11	(130)	2/8	(56)	2/8	33	5	0.43　0.25
524	土師器　坏	A-1	1SD11		0/8	(68)	2/8	〈28〉	7	底部　小型鉢・甕ヵ
525	須恵器　甕	胴片	1SD13		0/8		0/8	〈31〉	4	外：タタキ　内：円形アテ具痕
526	土師器　坏	-1	1SP18	-	1/8		0/8	〈30〉	4	口縁片
527	須恵器　坏	-1	1SD27	(137)	2/8		0/8	〈36〉	5	口縁部
528	須恵器　坏	B-1	1SD27		0/8	(50)	3/8	〈12〉	3	底部
529	須恵器　坏	B-1	1SD27		0/8	64	5/8	〈22〉	4	底墨書：□
530	須恵器　坏	B-1	1SD27		0/8	(62)	2/8	〈17〉	5	底部
531	須恵器　有台坏	B-1	1SD27		0/8	74	8/8	〈31〉	4	底部
532	須恵器　有台坏	B-1	1SD27		0/8	60	4/8	〈41〉	3	底部
533	須恵器　蓋	口縁片	1SD27	-	1/8			-	4	

表 20　出土遺物観察表　15

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	底径 / 器高 / 口径　口径	調整・備考
534	須恵器　甕	胴片	1SD27		0/8		0/8	〈97〉	10		外：タタキ　内：平行アテ具痕
535	須恵器　坏	B-1	1SK28	-	1/8		0/8	〈32〉	4		口縁片
536	土師器　有台坏	-1	1SD137		0/8	(70)	2/8	〈26〉			底部　切離し不明
537	須恵器　甕	胴片	1SD137		0/8		0/8	〈50〉	8		外：タタキ　内：円形アテ具痕
538	須恵器　坏	-1	1SD150	-	1/8		0/8	〈39〉	5		口縁片
539	須恵器　坏	B-1	1SD150		0/8	(54)	3/8	〈15〉	5		底部
540	須恵器　坏	-1a	1SD161	128	4/8	(68)	3/8	38	5	0.53　0.30	切り離し不明
541	須恵器　甕	胴片	1SD161		0/8		0/8	〈101〉	12		外：タタキ　内：平行アテ具痕
542	須恵器　坏	B-1	1SK167		0/8	(60)	2/8	〈11〉	4		底部
543	須恵器　坏	B-1	1SK168		0/8	(54)	2/8	〈15〉	5		底部
544	須恵器　坏	B-1	1SD175		0/8	58	4/8	〈24〉	3		底部
545	須恵器　鉢	括れ鉢	1SD175	-	1/8		0/8	〈82〉	10		口縁～胴部片　外：ロクロ　内：ロクロ　ケズリ
546	須恵器　坏	-1	1SK180	(128)	2/8		0/8	〈34〉	5		口縁部
547	須恵器　坏	-1	1SK180	(126)	2/8		0/8	〈45〉	4		口縁部　軟質
548	須恵器　坏	B-1	1SK180		0/8	60	5/8	〈12〉	5		底部
549	須恵器　有台坏	B-1	1SK180		0/8	(82)	2/8	29	5		底部
550	須恵器　蓋		1SK180	(144)	1/8			〈16〉	4		
551	須恵器　瓶類	底胴部	1SK180		0/8	90	6/8	〈158〉	8		壺ヵ　外：ロクロ　縦ケズリ　タタキ 内：カキメ　ナデ　ユビオサエ　残胴径 258mm
552	須恵器　坏	B-1a	1SK182	(140)	3/8	76	4/8	41	5	0.54　0.29	
553	須恵器　坏	B-1a	1SK182	132	4/8	54	4/8	39	4	0.41　0.30	
554	須恵器　有台坏	B-1	1SK182		0/8	(80)	3/8	〈24〉	5		底部　底墨書：□
555	土師器　坏	-1	1SK182		0/8	58	7/8	〈9〉	4		底部　内・底摩耗　切離し不明　黒斑
556	須恵器　坏	B-1	1SD183		0/8	(54)	2/8	〈15〉	4		底部
557	須恵器　蓋		1SD183		0/8			〈13〉	5		
558	須恵器　坏	B-1	1SK201		0/8	(50)	2/8	〈12〉	4		底部
559	須恵器　坏	-1	1SK214	-	1/8		0/8	〈27〉	3		口縁片
560	須恵器　坏	B-1	1SK214		0/8	-	1/8	〈6〉			底部　底墨書：千
561	須恵器　蓋		1SK227	-	1/8			〈11〉	4		
562	須恵器　坏	B-1	1SD228		0/8	(66)	3/8	〈10〉	6		底部
563	須恵器　蓋		1SD631		0/8	32		〈15〉	4		
564	須恵器　坏	B-1	1SD637		0/8	(58)	2/8	〈11〉			底部
565	須恵器　坏	-1	1SD638	-	1/8		0/8	〈31〉	3		口縁片
566	須恵器　坏	-1	1SD229	(146)	2/8		0/8	〈32〉	5		口縁部
567	土師器　有台坏	A-2	1SD229		0/8	(68)	2/8	〈15〉	5		底部　内摩耗
568	須恵器　甕	胴片	1SD229		0/8		0/8	〈47〉	8		外：タタキ　内：平行アテ具痕
569	土師器　甕	胴片	1SD229		0/8		0/8	〈75〉	7		外：タタキ　内：円形アテ具痕　全黄橙色　全磨耗
570	土師器　甕	底片	1SK235		0/8	-	1/8	〈23〉			底部板のみ　底：ナデ
571	須恵器　坏	-1	1SK241	(124)	2/8		0/8	〈33〉	4		口縁部
572	須恵器　坏	B-1	1SK33	-	1/8		0/8	〈35〉	5		口縁片

表 21　出土遺物観察表　16

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考 底径 / 器高 / 口径　口径
573	須恵器　有台坏	B-1	1SK33		0/8	(72)	2/8	〈13〉	5	底部
574	須恵器　蓋	口縁片	1SK33	-	1/8			〈11〉	5	
575	須恵器　坏	B-1	1SK36		0/8	(60)	3/8	〈22〉	5	底部
576	土師器　蓋		1SK36		0/8	(28)		〈16〉	6	内摩滅
577	土師器　坏	A-1	1SK115		0/8	(60)	2/8	〈14〉	4	底部　底：渦巻状ヘラキリ痕
578	須恵器　坏	-1	1SK243	-	1/8		0/8	〈35〉	4	口縁片
579	須恵器　甕	胴片	1SK253		0/8		0/8	〈59〉	14	外：タタキ　内：アテ具痕
580	土師器　甕	口縁片	1SK268		0/8		0/8	〈32〉	4	外：ロクロ　内：ロクロ
581	須恵器　瓶類	肩胴部	1SK291		0/8		0/8	〈37〉	6	壺ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ　残胴径 180mm
582	須恵器　甕	頸片	1SK291		0/8		0/8	〈56〉	10	外：タタキ　内：平行アテ具痕
583	須恵器　甕	胴片	1SK292		0/8		0/8	〈64〉	14	外：タタキ　内：平行アテ具痕
584	土師器　甕	長胴甕	1SK304	(204)	1/8		0/8	〈107〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ　カキメ
585	土師器　甕	胴片	1SK304		0/8		0/8	〈38〉	5	頸部片　外：ハケメ　内：ハケメ
586	土師器　坏	B-1	1SK321		0/8	(68)	2/8	〈22〉	5	底部
587	須恵器　坏	-1	1SK322	-	1/8		0/8	〈20〉	3	口縁片
588	須恵器　坏	-1	1SK323	-	1/8		0/8	〈34〉	3	口縁片
589	土師器　甕	口縁片	1SK343	-	1/8		0/8	〈33〉	6	外：ロクロ　内：ロクロ
590	須恵器　坏		1SK344	-	1/8		0/8	〈29〉	4	口縁片
591	土師器　坏	-2	1SK344	-	1/8		0/8	〈24〉	5	口縁片
592	土師器　甕	口縁片	1SK344	-	1/8		0/8	〈51〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ
593	須恵器　坏	B-1	1SK351		0/8	(62)	2/8	〈14〉	5	底部
594	土師器　有台坏	-2	1SK351EP2		0/8	(78)	6/8	〈32〉	6	底部
595	須恵器　瓶類	肩胴部	1SK351		0/8		0/8	〈34〉	7	壺ヵ　外：ロクロ　内：ロクロ　残胴径 196mm
596	土師器　甕	長胴甕	1SK351	190	4/8		0/8	〈76〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ
597	土師器　甕	底部	1SK351		0/8	(100)	3/8	〈80〉	10	長胴甕ヵ　外：ナデ　粘土付着　内：ナデ 底：棒状工具によるケズリ
598	須恵器　坏	-1	1SK355	(130)	2/8		0/8	〈28〉	4	口縁部
599	須恵器　坏	B-1	1SK355		0/8	62	4/8	〈24〉	3	底部
600	須恵器　坏	B-1a	1SK356		0/8	64	4/8	〈15〉	5	底部
601	土師器　坏	B-1	1SK356		0/8	(60)	2/8	〈13〉	5	底部
602	土師器　甕	口縁片	1SK356	-	1/8		0/8	〈55〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　括れ弱い
603	須恵器　有台坏	A-1	1SK692		0/8		0/8	〈20〉	7	底部　高台剥落
604	土師器　甕	胴片	1SK355		0/8		0/8	〈158〉	6	外：ハケメ　内：ハケメ　1SK356 出土片とも接合
605	須恵器　坏	B-1a	1SK358	(160)	1/8	63	4/8	43	5	0.39　0.27
606	須恵器　坏	B-1a	1SK358		0/8	(64)	3/8	〈33〉	4	底部
607	土師器　坏	-1	1SK358	(150)	2/8		0/8	〈20〉	4	口縁部
608	須恵器　瓶類	底部	1SK358		0/8	(146)	3/8	〈49〉	10	壺ヵ　外：下端ケズリ　内：底部から放射状のナデ
609	須恵器　瓶類	底胴部	1SK358		0/8		0/8	〈106〉	8	瓶ヵ　外：ケズリ　内：放射状のナデ　底：高台貼付
610	土師器　鉢	鍋ヵ	1SK358		0/8		0/8	〈57〉	10	底部付近の胴片　外：ケズリ　内：ロクロ
611	須恵器　甕	胴片	1SK358		0/8		0/8	〈68〉	7	外：タタキ　内：アテ具痕

表 22　出土遺物観察表　17

番号	器種	細別	帰属遺構	口径 長軸	残	底径 鈕径 幅	残	器高 厚さ	器厚 重さ	調整・備考 底径 / 器高 / 口径　口径
612	須恵器　甕	胴部	1SK358		0/8		0/8	〈133〉	7	底部付近　外：タタキ　内：アテ具痕 残胴径 345mm
613	土師器　甕	胴片	1SK358		0/8		0/8	〈54〉	6	頸部片　外：ハケメ　内：ハケメ
614	土師器　甕	胴片	1SK358		0/8		0/8	〈46〉	5	外：ハケメ　内：ハケメ
615	土師器　甕	胴片	1SK358		0/8		0/8	〈102〉	8	外：ハケメ　煤付着　内：ハケメ
616	須恵器　坏	B-1	1SK369		0/8	(60)	5/8	〈9〉		底部
617	土師器　坏	B-1	1SK369		0/8	(54)	3/8	〈17〉	5	底部
618	土師器　甕	小型	1SK369	(113)	1/8	-	1/8	〈41〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕 底部縁辺摩滅　未接合同一個体
619	土師器　甕	底部	1SK373		0/8	(70)	2/8	〈16〉		小型ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
620	須恵器　坏	B-1a	1SK378	(156)	1/8	68	4/8	41	4	0.44　0.26
621	須恵器　瓶類	口縁片	1SK382	-	1/8		0/8	〈19〉	5	外：ロクロ　内：ロクロ
622	土師器　甕	底部	1SK387		0/8	(66)	2/8	〈20〉		小型ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
623	須恵器　坏	-1	1SK398	(130)	2/8		0/8	〈32〉	3	口縁部
624	須恵器　蓋		1SK398		0/8			〈13〉	2	
625	土師器　甕	胴片	1SK398		0/8		0/8	〈36〉	5	頸部片　外：ハケメ　内：ハケメ
626	須恵器　坏	-1	1SK399	-	1/8		0/8	〈39〉	3	口縁片
627	須恵器　坏	-1	1SK399	(142)	2/8		0/8	〈35〉	3	口縁部
628	土師器　甕	底部	1SK399		0/8	(74)	3/8	〈26〉		小型ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ　見込み器表剥落 底：網代痕
629	土師器　甕	底部	1SK399		0/8	(72)	3/8	〈56〉	6	小型ヵ　外：ハケメ　内：ハケメ　底：網代痕
630	須恵器　坏	-1	1SK401	-	1/8		0/8	〈32〉	4	口縁片
631	土師器　甕	底片	1SK401		0/8	-	1/8	〈17〉		内：ハケメ　底：網代痕
632	須恵器　坏	B-1	1SK411		0/8	(56)	2/8	〈18〉	4	底部
633	土師器　坏	-2	1SK411	(146)	2/8		0/8	〈48〉	4	口縁部
634	土師器　甕	口縁片	1SK411		0/8		0/8	〈35〉	4	外：ハケメ　内：ハケメ
635	土師器　甕	長胴甕	1SK418	(222)	2/8		0/8	〈26〉	7	外：ロクロ　内：ロクロ
636	土師器　甕	胴片	1SK418		0/8		0/8	〈41〉	6	頸部片　外：ナデ　内：ハケメ
637	土師器　甕	口縁片	1SK443		0/8		0/8	〈27〉	5	外：ハケメ　内：ナデ
638	須恵器　坏	A-1	1SK639		0/8	(90)	2/8	〈12〉	4	底部
639	須恵器　甕	胴片	1SK639		0/8		0/8	〈108〉	10	外：タタキ　カキメ　内：円形アテ具痕
640	土師器　坏	-1	1SK643	(112)	1/8		0/8	〈34〉	5	口縁部
641	須恵器　甕	胴片	1SK643		0/8		0/8	〈53〉	11	外：平行タタキ　内：平行アテ具痕　底部付近
642	石製品	金床石	1SK643	〈122〉		156		36	840	
643	土師器　甕	長胴甕	1SK783	(214)	3/8	(100)	3/8	〈186〉	9	外：ロクロ　ケズリ　内：ロクロ　底：ケズリ 未接合同一個体
644	須恵器　坏	-1	1SK1248	(138)	2/8		0/8	〈38〉	4	口縁部
645	土師器　坏	-1	1SK1266	-	1/8		0/8	〈33〉	4	口縁片　外面黒色
646	須恵器　坏	-1	1SK1314	-	1/8		0/8	〈25〉	3	口縁片
647	須恵器　坏	B-1	1SX1160		0/8	64	6/8	〈27〉	5	底部　1SX1162 出土片とも接合
648	須恵器　有台坏	B-1b	1SX1160	144	5/8	58	8/8	63	5	0.40　0.44　1SX1162 出土片とも接合

Ⅲ　理化学分析

1　清水遺跡１地区における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

A　測定対象試料

測定対象試料は、旧河川流路や竪穴建物跡等の遺構から出土した種子と炭化物の合計９点である（表 23）。なお、種子の同定が行われており、C001、C006 がオニグルミ核、C002、C005、C009 がモモ核に同定されている（２節、種実同定参照）。

1SD186、1SD161 は溝跡（旧河川流路）、1SD379 は溝跡（撹乱）、1ST365、1ST1184 は竪穴住居跡、1SK411 は土坑と捉えられている。1SD186、1SD161、1ST365、ST1184、1SK411 は、出土遺物から９世紀代と考えられている。1SD379 も同様の遺物が出土しているが、畑の耕作に伴う溝跡と平行していることから、現代の可能性が指摘されている。

B　測定の意義

試料が出土した遺構の継続期間を検討するため測定を実施する。

C　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では､通常 1mol/ ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 23 に記載する。

（３）試料を燃焼させ､二酸化炭素（CO2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

D　測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

E　算出方法

（１）δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 23）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）14C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には､Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C 年代はδ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 23 に、補正していない値を参考値として表 24 に示した。14C 年代と誤差は、下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％を意味する。

（３）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。pMC が小さい（14C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（14C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値もδ 13C によって補正する

必要があるため、補正した値を表 23 に、補正していない値を参考値として表 24 に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し､実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ＝ 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝ 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ 13C 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に､IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については､特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 24 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

F　測定結果

試料の測定結果を表 23、24 に示す。

1SD186 出土試料 4 点の 14C 年代は、1310 ± 20yrBP（C001）から 1250 ± 30yrBP（C006）の狭い範囲に収まる。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い C001 が 663 ～ 763cal AD の間に 2 つの範囲、最も新しい C006 が 691 ～ 772cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

その他の遺構から出土した試料の 14C 年代は、C009 が Modern、C011 が 1400 ± 30yrBP、C012 が 1260 ± 20yrBP、C013 が 1750 ± 20yrBP、C014 が 1360 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、C011 が 632 ～ 661cal AD の範囲、C012 が 690 ～ 769cal AD の間に 2 つの範囲、C013 が 245 ～ 329cal AD の間に 2 つの範囲、C014 が 651 ～ 672cal AD の範囲で示される。

C009 は、現代の可能性が指摘されており、測定結果もそれに整合するものとなった。時期不明の C014 は、7 世紀半ばから後半頃を主とする年代値を示した。他の 7 点については、出土遺物から 9 世紀代と推定されているが、測定結果は 7 世紀から 8 世紀を中心とし、全体的に古い傾向がある。C002、C005、C006 は、2 σ暦年代範囲で 9 世紀にかかるが､その確率はいずれも低い。7 点の中でも C013 は特に古く、弥生時代後期から古墳時代前期頃に相当する値となっている（小林 2009）。各遺構内における出土遺物のあり方等と年代測定結果を合わせた検討が必要と考えられる。

なお、試料 C013 が含まれる 1 ～ 3 世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾嵜 2009、坂本 2010 など）。その日本版較正曲線を用いて試料 C013 の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて 50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

引用文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散 , 西本豊弘編 , 新弥生時代のはじまり　第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代 , 雄山閣 , 55-82

尾嵜大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代 , 設楽博己 , 藤尾慎一郎 , 松木武彦編弥生時代の考古学 1　弥生文化の輪郭 , 同成社 , 225-235

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木－弥生から古墳へ－ , 第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集 , （株）加速器分析研究所 , 85-90

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 23　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-150490	C001	1SD186　最下層砂層 0799	種子	AAA	-27.27 ± 0.37	1,310 ± 20	84.95 ± 0.26
IAAA-150491	C002	1SD186　F1 黒色層 0402	種子	AAA	-27.22 ± 0.46	1,260 ± 30	85.49 ± 0.27
IAAA-150492	C005	1SD186　RN2317	種子	AAA	-23.81 ± 0.61	1,260 ± 30	85.49 ± 0.27
IAAA-150493	C006	1SD186　RN2106	種子	AAA	-22.74 ± 0.49	1,250 ± 30	85.54 ± 0.27
IAAA-150494	C009	1SD379（撹乱）- ①	種子	AAA	-26.15 ± 0.52	Modern	137.22 ± 0.37
IAAA-150495	C011	1ST365	炭化物	AAA	-26.45 ± 0.53	1,400 ± 30	84.04 ± 0.26
IAAA-150496	C012	1ST1184	炭化物	AAA	-25.61 ± 0.56	1,260 ± 20	85.45 ± 0.25
IAAA-150497	C013	1SD161	炭化物	AAA	-30.02 ± 0.56	1,750 ± 20	80.39 ± 0.24
IAAA-150498	C014	1SK411	炭化物	AAA	-26.16 ± 0.43	1,360 ± 20	84.48 ± 0.26

表 24　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-150490	1,350 ± 20	84.55 ± 0.25	1,310 ± 24	663calAD - 694calAD (48.4%) 747calAD - 763calAD (19.8%)	658calAD - 721calAD (69.5%) 741calAD - 768calAD (25.9%)
IAAA-150491	1,300 ± 20	85.10 ± 0.25	1,259 ± 25	691calAD - 749calAD (59.6%) 761calAD - 770calAD (8.6%)	670calAD - 778calAD (90.6%) 792calAD - 804calAD (1.6%) 814calAD - 824calAD (0.9%) 841calAD - 861calAD (2.3%)
IAAA-150492	1,240 ± 20	85.69 ± 0.25	1,259 ± 25	691calAD - 749calAD (59.6%) 761calAD - 770calAD (8.6%)	670calAD - 778calAD (90.6%) 792calAD - 804calAD (1.6%) 814calAD - 824calAD (0.9%) 841calAD - 861calAD (2.3%)
IAAA-150493	1,220 ± 20	85.94 ± 0.26	1,254 ± 25	691calAD - 749calAD (58.4%) 761calAD - 772calAD (9.8%)	674calAD - 779calAD (86.3%) 791calAD - 827calAD (5.2%) 839calAD - 864calAD (3.9%)
IAAA-150494	Modern	136.90 ± 0.33	Modern		
IAAA-150495	1,420 ± 20	83.79 ± 0.25	1,396 ± 25	632calAD - 661calAD (68.2%)	607calAD - 666calAD (95.4%)
IAAA-150496	1,270 ± 20	85.34 ± 0.23	1,263 ± 23	690calAD - 750calAD (60.3%) 761calAD - 769calAD (7.9%)	670calAD - 776calAD (95.4%)
IAAA-150497	1,840 ± 20	79.57 ± 0.22	1,753 ± 24	245calAD - 263calAD (16.2%) 276calAD - 329calAD (52.0%)	229calAD - 354calAD (93.7%) 367calAD - 379calAD (1.7%)
IAAA-150498	1,370 ± 20	84.28 ± 0.25	1,355 ± 24	651calAD - 672calAD (68.2%)	639calAD - 690calAD (94.2%) 752calAD - 760calAD (1.2%)

[参考値]

2　種実同定

（株）加速器分析研究所

本分析調査では、古代（9 世紀代）とされる溝跡より出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用に関する資料を作成する。

A　試料

試料は、1SD186(試料番号 C001 ～ 008)、1SD379(C009・010) より出土した種実遺体 10 個である。試料は全て乾燥しており、表面に泥が付着した状態である。

1SD186 は旧河川流路で、出土遺物から 9 世紀代と考えられている。1SD379 は、9 世紀代の遺物が出土しているが、畑の耕作に伴う溝跡と平行していることから、現代の可能性が指摘されている。

なお、これらの試料の一部について放射性炭素年代測定が実施されている。1SD186 出土試料 C001、C002、C005、C006 は、7 世紀後半から 8 世紀後半頃を主とする年代値が得られており、出土土器が示す時期より古い傾向がある。1SD379 出土試料 C009 は Modern で、調査所見と整合する（1 節、年代測定参照)。

B　分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本や石川 (1994)、中山ほか (2000)、鈴木ほか (2012) 等を参考に実施し、結果を一覧表で示す。また、種実遺体全個体を対象として、デジタルノギスで長さと幅、厚さを計測し、結果を一覧表に併記する。欠損等で完全な計測値を得られない場合は、残存値にプラス「+」で表示する。

C　結果

試料は、落葉広葉樹 2 分類群 (オニグルミ、モモ) に同定された (表 25)。栽培種は、モモの核が 8 個 (C002 ～ 005,007 ～ 010) 確認された。栽培種を除いた分類群は、高木になるオニグルミの核が 2 個 (C001,006) 確認された。各分類群の写真を第 116 図に示し、形態的特徴等を以下に述べる。

・オニグルミ (Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitamura)　クルミ科クルミ属

核 (内果皮) は灰褐色、長さ 3.2cm、径 2.7cm の広卵体を呈す。頂部は尖り、1 本の明瞭な縦の縫合線がある。内果皮は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い維管束の彫紋が走り、ごつごつしている (第 116 図 -1、2)。内部には子葉が入る 2 つの大きな窪みと隔壁がある。C006 の核は縫合線に沿って割れた個体で、片側の側面から下部にかけてと、隔壁に欠損がみられることから、人為による打撃痕の可能性がある (第 116 図 -2)。

・モモ (Prunus persica Batsch)　バラ科サクラ属

核 (内果皮) は灰褐色、長さ 2.2 ～ 3.2cm、幅 1.5 ～ 2.2cm、厚さ 1.3 ～ 1.8cm のやや偏平な楕円体を呈す。頂部はやや～鋭く尖り湾曲し、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる (第 116 図 -3 ～ 10)。

出土核 8 個は形態に違いがみられ、小型・丸みを帯びて頂部がやや尖る個体が 3 点 (C002,005,008)、中型細身で頂部が鋭く尖る個体が 2 点 (C007,010)、大型偏平で頂部が尖る個体が 3 点 (C003,004,009)、確認された。

D　考察

出土した種実遺体には、栽培種のモモが確認された。1SD186、1SD379 より確認されたモモは、栽培のために持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に利用される。果樹のモモは、遺跡周辺で栽培されていたか、近辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料と示唆される。

ただし、今回のモモ核には、古代に多くみられる小型で丸い形状や、近世以降によくみられる大型・偏平で頂部が鋭く尖り湾曲する形状等の複数の系統が含まれる。さらに、年代測定結果によれば、1SD186 の C002、C005 は、較正年代（1 σ）で 7 世紀末から 8 世紀後半頃の年代値、1SD379 の C009 は Modern となっており、大幅に年代の離れた試料が確認されている。近世以降に多い形状の試料 3 点のうち、年代測定された C009 が

Modern であることなども注意され、出土状況および年代も考慮して検討する必要がある。

栽培種を除いた分類群は、1SD186 よりオニグルミが確認された。オニグルミは、高木になる落葉広葉樹で、川沿い等の湿潤な肥沃地に生育する河畔林要素である。当時の最上川流域の河畔林などに生育していたと考えられる。また、オニグルミは、核内部の子葉が食用可能で、収量も多く長期保存も可能な有用植物であることから、古くより植物質食料として利用され、遺跡出土例も多い。最下層砂層より出土した核 C001 には、人が食用のために利用した痕跡は認められない。一方、C006 には、打撃痕の可能性がある欠損が確認されたため、食用のために核を叩き割り、中の子葉を取り出した食料残滓の可能性がある。

引用・参考文献

石川茂雄　1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑 (2010 年改訂版)』東北大学出版会 ,678p.

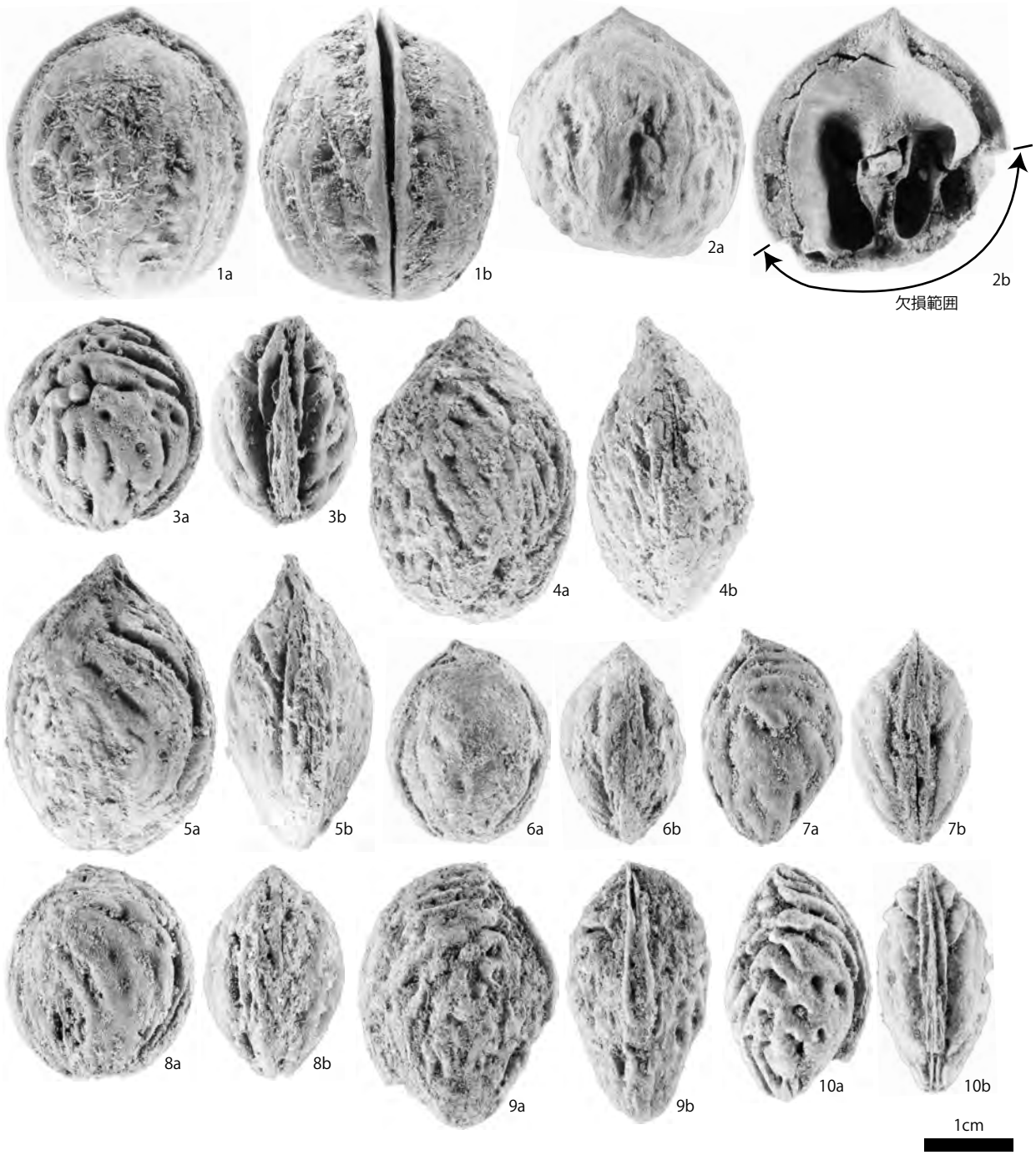
鈴木庸夫・高橋冬・安延尚文　2012 『ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632 種－』誠文堂新光社 ,272p.

※）本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

表 25　種実同定結果

委託番号	試料番号	出土地点		種名	部位	状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	図版番号	備考
1	C001	SD186 最下砂層	0799	オニグルミ	核	完形	31.9	26.9	26.3	1	頂部縫合線わずかに開裂
2	C002	SD186F1 黒色層	0402	モモ	核	完形	22.6	20.8	15.7	3	頂部やや尖る , 側面一部欠損
3	C003	SD186	RN2261	モモ	核	完形	32.3+	21.8	17.5	4	表面泥付着 , 頂部鋭く尖り , 先端を僅かに欠損する
4	C004	SD186	RN2222	モモ	核	完形	32.0	22.2	16.1	5	表面泥付着 , 頂部鋭く尖る
5	C005	SD186	RN2317	モモ	核	完形	21.8	16.8	13.1	6	表面泥付着 , 頂部やや尖る
6	C006	SD186	RN2106	オニグルミ	核	破片	27.6+	25.9+	15.0+	2	半分厚 , 下部 (3 ～ 8 時)・隔壁欠損
7	C007	SD186	RN1933	モモ	核	完形	22.8	15.0+	12.5	7	表面泥付着 , 頂部鋭く尖る , 腹面縫合線欠損
8	C008	SD186	RN1970	モモ	核	完形	22.7	20.0	15.0	8	表面泥付着 , 頂部やや尖る
9	C009	SD379-①	2106	モモ	核	完形	28.0+	22.0+	15.2	9	表面泥付着 , 縫合線の大半を欠損
10	C010	SD379-②	2106	モモ	核	完形	29.1	18.0	14.5	10	腹面基部縫合線欠損

注) 計測はデジタルノギスを使用し、欠損は残存値に「+」で示す。



1．オニグルミ 核(C001;1SD186最下砂層)
2．オニグルミ 核(C006;1SD186)
3．モモ(C002;1SD186F1黒色層)
4．モモ(C003;1SD186)
5．モモ(C004;1SD186)
6．モモ(C005;SD186)
7．モモ(C007;1SD186)
8．モモ(C008;1SD186)
9．モモ(C009;1SD379-①)
10．モモ(C010;1SD379-②)

第 116 図　種実遺体

3　火山灰の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

各遺構覆土で確認された火山灰 (テフラ) とされる堆積物の特性を明らかにし、それがテフラである場合には給源火山と噴出年代を特定することで遺構に関わる年代資料を作成する。

A　試料

調査対象とした遺構は、1 次調査で得られた 1SD186、1SK182、1SK321、1ST566、1SK643、1ST510、1SD161、1ST581 の計 8 基である。これらの遺構について断面調査を行った後、遺構覆土から試料を採取した。以下に各遺構の産状を述べる。

1SD186 は、試料採取地点では幅約 3 m の溝状遺構であり、検出面から溝底までは深さ 50cm ほどである。検出面直下に厚さ約 5cm のにぶい黄橙色を呈する砂質シルトのブロックが散在する。試料はこのブロック状堆積物から採取した。

1SK182 は、縁辺の検出面からの中心に向かって、側壁の傾斜に沿うようににぶい黄橙色の砂質シルトブロックの堆積が認められた。ブロックの厚さは最大で約 7cm ほど、ブロックの堆積する最も深い場所でも、土坑底からは 20cm ほど上位にある。試料は、ブロックの最も厚い部分より採取した。

1SK321 は、現地表面から土坑底面までの厚さ約 90cm の土層断面が作成されている。土坑底より約 3cm 上位に、厚さ約 3cm の薄層をなすにぶい黄橙色砂質シルトが堆積する。試料は、この薄層より採取した。

1ST566 は、底より約 15cm 上位に、最も厚い部分で厚さ約 8cm のにぶい黄橙色砂質シルト層が堆積する。この砂質シルト層は、土坑の平面形の半分ほどを覆っている。試料は、にぶい黄橙色砂質シルト層の最も厚い部分より採取した。

1SK643 は、底より約 25cm 上位に最大の厚さ約 12cm のにぶい黄橙色砂質シルト層が堆積する。この堆積層は、土坑全面を覆っている。試料は、にぶい黄橙色砂質シルト層の最も厚い部分から採取した。

1ST510 は、床面より 30cm ほど上位に厚さ数 cm のにぶい黄橙色砂質シルト層が堆積する。この砂質シルト層は、建物跡の中心部に直径約 2m ほどの広がりを示す。試料は、にぶい黄橙色砂質シルト層から採取した。

1SD161 は、最も深いところで検出面から厚さ約 36cm の土層断面が作成されている。土層断面の上部、検出面から約 10cm ほど下位の層位に、直径数 cm の灰白色を呈するシルトブロックが散在している。試料は、このシルトブロックを複数採取した。

1ST581 は、平面形の中心付近に直径約 20cm、厚さ数 cm ほどのにぶい黄橙色を呈する砂質シルトのブロックが確認されている。試料は、この砂質シルトブロックから採取した。

B　分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤 (1995) の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

C　結果

結果を表 26 に示す。1SD161 以外の 7 試料では多量の細砂～極細砂径の火山ガラスが検出された。火山ガラスのほとんどは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものも混在し、微量の無色透明のバブル型も認められた。スコリアおよび軽石はいずれの試料からも認められなかった。また、これら 7 試料の火山ガラスの屈折率測定結果を第 117 図に示す。いずれも n1.505 前後 -1.509 のレンジを示し、概ね n1.506-1.507 にモ

ードがある。

1SD161 では、無色透明の軽石型火山ガラスが極めて微量認められたのみであった。砂分の主体は、極粗砂径の石英や長石類の鉱物粒であり、細礫径の風化した凝灰岩礫や粗砂径以下の斜方輝石や角閃石の鉱物粒が混在する。火山ガラスの屈折率は、レンジを特定できるほどの量が得られなかったが、n1.505 付近を示す火山ガラスとそれよりも低い n1.501 付近を示す火山ガラスとが測定された。

D　考察

1SD161 以外の黄灰色を呈する砂質シルト層は、分析により確認された砕屑物の特徴と遺構覆土中における産状から、いずれも火山ガラスからなるテフラの降下堆積物と判断される。なお、1SD161 で認められた灰白色を呈するブロック状堆積物は、分析結果からテフラと言えないが､火山ガラスの粘土化した堆積物の可能性がある。

本遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状 (町田ほか (1981;1984)、Arai et al.(1986)、町田・新井 (2003) など) との比較から、各遺構覆土で認められたテフラは十和田 a テフラ (To-a) と考えられる。To-a は平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラで、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばない地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている (町田ほか ,1981)。その噴出年代は､早川･小山 (1998) の詳細な調査によれば、西暦 915 年とされている。なお、町田・新井 (2003) に記載された To-a の火山ガラスの屈折率は、n1.496 ～ 1.508 と広いレンジを示す。ただし、n1.502 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとされている (町田ほか ,1981)。今回検出されたテフラは、低屈折率の火山ガラスを含まない To-a に相当するものと考えられる。

今回の試料を採取した 1SD186 の溝や 1SK182 をはじめとする各土坑では、前述したように、テフラ層は遺構の基底よりも数 cm から数 10cm の土壌を挟んだ上位に堆積が認められた。また､竪穴建物跡の 1ST510 では、住居の中心部に堆積している。これらの産状は、テフラの降下堆積した頃には、すでに遺構は廃絶された後であり、降灰後は自然に放置されたことにより、遺構内では比較的良好に保存されたものと考えられる。上述したように To-a の降灰年代は 915 年であるから、清水遺跡で確認された集落は、10 世紀初め頃にはすでに廃絶されていたことが、今回の分析結果により示唆される。

引用文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・Yamagata,K　1986　Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan Ⅱ－Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido－　Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250

古澤明　1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』101,123-133.

早川由紀夫・小山真人　1998 「日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－」『火山』43,403-407

町田洋・新井房夫　2003 『新編　火山灰アトラス』東京大学出版会 ,336p

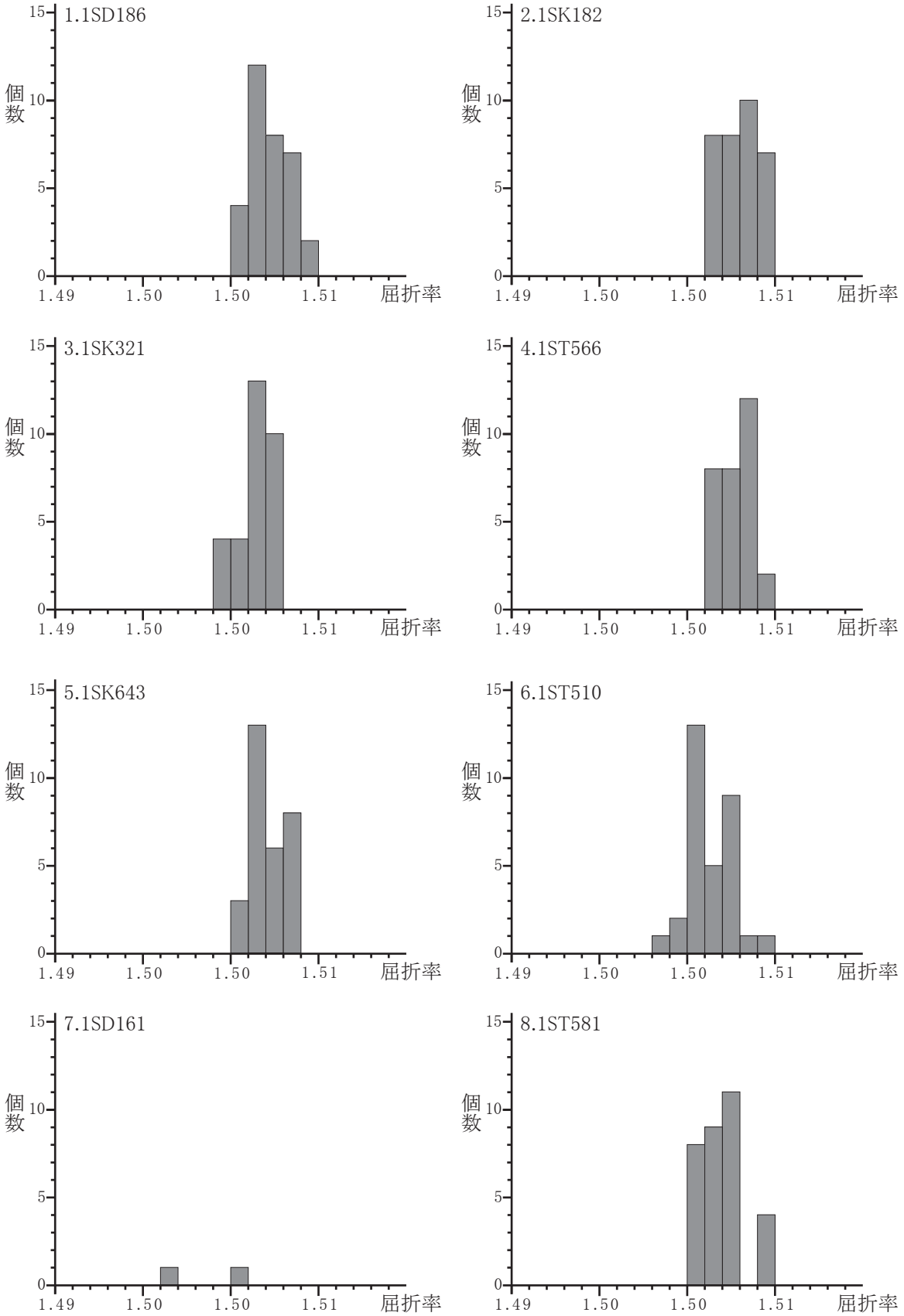
町田洋・新井房夫・森脇広　1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51,562-569

町田洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦　1984 「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」渡辺直経 (編)『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』同朋舎 ,865-928

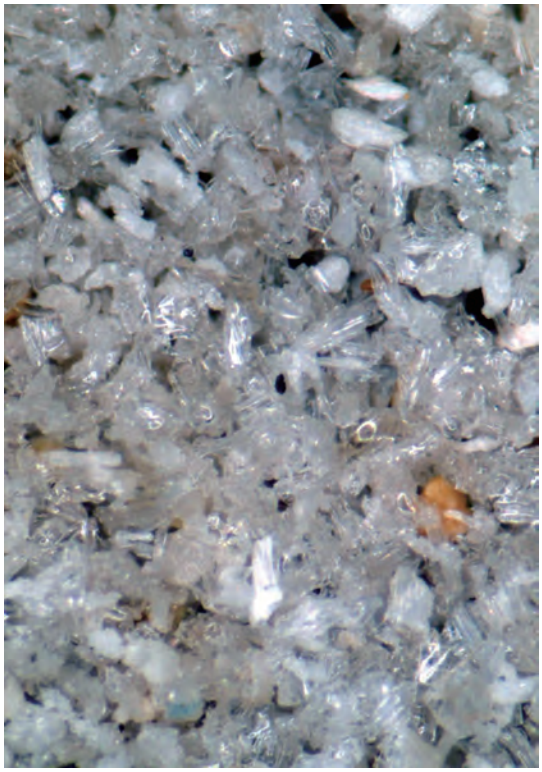
表 26　テフラ分析結果

No.	遺構名	スコリア	火山ガラス		軽石
		量	量	色調・形態	量
1	1SD186	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－
2	1SK182	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－
3	1SK321	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－
4	1ST566	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－
5	1SK643	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－
6	1ST510	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－
7	1SD161	－	(+)	cl･pm	－
8	1ST581	－	＋＋＋＋	cl･pm>>cl･bw	－

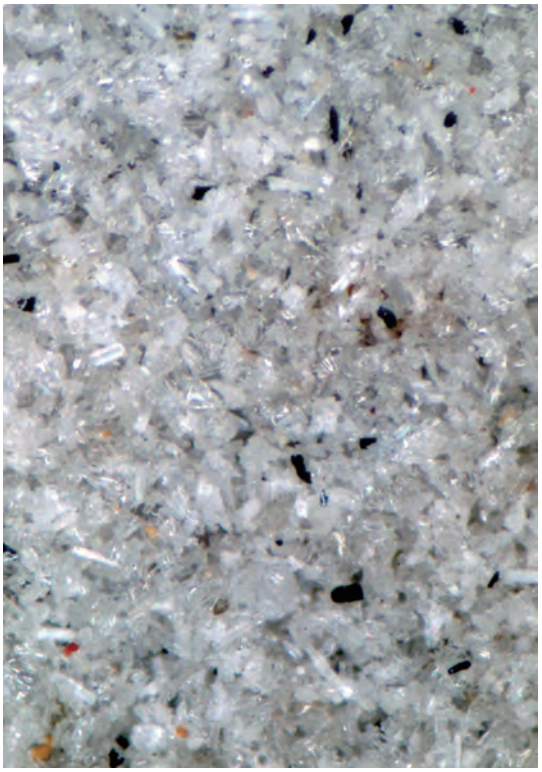
凡例　－ : 含まれない．(+): きわめて微量．＋ : 微量．＋＋ : 少量．
＋＋＋ : 中量．＋＋＋＋ : 多量．
cl: 無色透明．br: 褐色．bw: バブル型．md: 中間型．pm: 軽石型



第 117 図　火山ガラスの屈折率

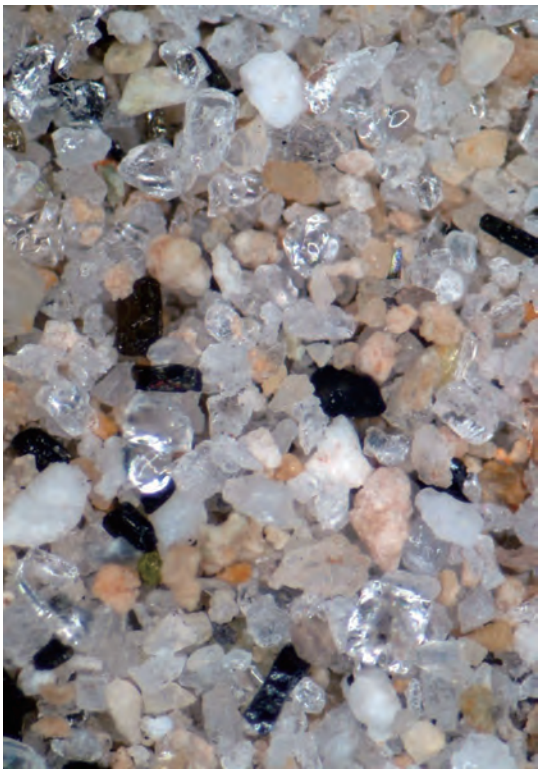


1.To-aの火山ガラス(1SK182)



2.To-aの火山ガラス(1ST566)

3.To-aの火山ガラス(拡大)(1ST566)



4.砂分の状況(1SD161)

0.5mm　0.1mm　1.0mm

1,2　3　4

第 118 図　テフラ・砂分の状況

Ⅳ　ま　と　め

1　1地区出土の墨書土器について

今回の調査で出土した墨書土器は、字種不明であっても墨痕が認められる小片をすべて数えると176点に及ぶ。うち図化したものの総数は142点である。この図化総数の84％にあたる119点が1SD186溝跡からの出土である。墨書される器種は、82％にあたる117点が須恵器の無台坏であり、墨書の部位は、87％にあたる124点が底部のみになされる。

字種で最も多いものは、想定されるものを含めて「縄」で、44点、次に多いものは「王」で32点である。以下は表27・28にまとめ、字種ごとの集成は第119・120図に、赤外線写真を写真図版53～55にまとめている。

本遺跡において特徴的なのは「縄」の文字の大量出土である。墨書土器としては稀なこの文字が44点もまとまっており、39点が1SD186、5点が竪穴建物からの出土で、すべて坏の底部に記されている。県内の遺跡では、河北町の熊野台遺跡（第3図）で1点出土しているのみ。ほか隣県を見れば秋田県の秋田城跡（小松ほか1976）で「縄」が1点、宮城県の市川橋遺跡（千葉ほか2003）で「縄米」が1点、新潟県の釈迦堂遺跡（江口ほか2000）で「千縄」が2点程度のものである。このような出土状況下において注目されるのが、富山県富山市の任海宮田遺跡（武田ほか2008）である。「縄」あるいは「縄足」と記されるものが、95点も出土している。同遺跡C20区のSD001を中心にまとまって出土し、分布に広がりはない。時期は9世紀中頃から後半で、ほぼ清水遺跡と同時期である。

「縄」の書き方では、本遺跡のものは糸偏の崩し方に特徴があり、一画目の入り方が斜めではなく、横に入っているものが多く見られる（第119図37、143、242～246）。他の遺跡においては糸偏の一画目が横に入るものはみられないため、本遺跡の特徴と言えよう。糸偏の崩し方は各遺跡に特徴があり、任海宮田遺跡では、糸偏が立心偏（忄）のように崩れたものがあり、新潟県の釈迦堂遺跡では糸偏はかなりシンプルな形に崩され「ｔ」のようになる。

清水遺跡1地区　任海宮田遺跡　釈迦堂遺跡

「縄」のもつ意味については、「縄足」であれば人名の可能性もあるだろう。出土資料では、平城京の木簡に「内蔵伊美吉縄足」と記されるものがある。他にも六国史を通じて「縄」の記される人名は少なくはない。8世紀中葉の藤原継縄、乙縄、縄麻呂の兄弟から9世紀前～中葉の春澄善縄をはじめ、主として名に用いられる。このように当時広く用いられるものであったならば、任海宮田遺跡と本遺跡で用いられる「縄」は、それぞれ別の人物を指す可能性もあり、両者を早急に結びつけるわけにはいかない。また、氏族や姓ではなく、名を1文字記すことにどのような意味があったのかも検討を要する。

「王」は、32点を数える。坏の底面に記されるものが多いが、外面に記されるものや、蓋や甕類の底に記されるものなどバリエーションが増える。また、151や265、267、277、281のように底面に対して小さく記されるものもある。画数が少ないこともあろうが、比較的小さいものが目立つ。崩れ方や消えてしまっているものは、「千」との判断に悩む場合もある。その他字種で複数あるものは、「冨」が6点ある。これらとは別に、288は底部に「冨」外面に「王」と記されている。

他にも人名や地名を表す可能性のあるものがいくつかみられる。「貞」、「真」、「身」は、別の文字なのか、同じ文字を書こうとしているのか、崩し方が一定ではなく安定しない印象を受ける。「身」の3点は1SD186出土で、すべて土師器坏に記される。303の「真人」は姓か。

306や308、309は、いずれも大きく崩れており解読困難であるものの、すべて外面に逆位で書かれている点が共通することなどから同一の文字ではないかと思われる。「秦善」を想定している。310と311も共通する「罡（岡）」の字を持つ。310の上の文字は、判読し難いが「長」で「長岡」となると判断した。県内寒河江市の高瀬山遺

跡は長岡郷に比定され、同名の墨書土器も出土している。297 の「矢田」は氏族の矢田部を指すか。

他にも判読可能な文字は、「方」や「子」、「太」、「人」、「白」、「日」、「六」などがある。327 と 328 は欠損により判読できないが、人偏の共通する文字と思われる。

これら墨書土器の判読については、国立歴史民俗博物館の三上喜孝教授のご教示を得た。

2　火山灰の堆積について

東北北部を中心に古代の遺跡から検出される十和田火山灰（To-a）は、その降灰年を『扶桑略記』の記述から 915 年と限定することができる重要な資料である。東北地方に広く分布し、これを用いて古代土器編年の指標とするものや、噴火という自然災害を受けての集落の消長を分析するものなどの研究が示されてきた。

十和田火山から直線距離で 220km ほど離れた本遺跡においても、灰白色のシルトが黒ボク土中の遺構覆土に見え、これらを理化学分析した結果、いずれも To-a と分析結果が得られた。よって分析を経ずしても目視で灰白色のシルトが確認できるものは、十和田火山灰と判断している。十和田火山灰のこれまでの県内の検出状況については、植松氏がまとめているが（植松 2013）、その後の中央道関連の発掘調査によって新たな資料が得られている。よって、ここでは清水遺跡を中心に中央道関連の発掘調査で検出された 36 件を集成しておく。

表 29 は、清水遺跡および東北中央道関連の発掘調査で検出、分析された十和田火山灰の一覧である。清水遺跡内には、遺構覆土の上位に火山灰のみが集積する単純層をもつ遺構が多数検出され、中でも 1ST1158 竪穴建物では最大層厚 22cm に及び、遺構覆土の多くが火山灰で埋められていた。表土や地山と混じらないこれらの単純層は、人為的に集められたものではなく、風などに運ばれて窪みに溜まったものと考えられよう。火山灰の検出量は、清水遺跡で見れば、低地部分に比較的少なく、丘陵斜面に立地する遺構の覆土中に厚く含まれる傾向がある。

火山灰の堆積は、遺構の覆土の上位に堆積するものがほとんどで、下位に含まれるものがあっても床面に堆積するものは見られない。よってこれらの遺構は 915 年の噴火降灰時にはすでに廃絶していたことを示している。火山灰の検出した遺構から出土する遺物の年代観の大部分は、9 世紀代であり、10 世紀初頭や前半のものは、ほとんどの遺構でみられない。これらの状況は、十和田火山の降灰の影響により集落が廃絶したのではないことを示している。また、火山灰が遺構覆土の中位に堆積している場合、火山灰より下位で出土した遺物と上位で出土した遺物で年代差を設定できよう。しかし、1 地区の場合では、火山灰の下位で出土したものと、上位のものとが接合することも多い。これは降灰前に周辺で廃棄されたものが、降灰の前後に流れ込んだことを示している。同地区では、10 世紀代の遺物がみられないため、降灰後の新しい土地利用はほとんどなされなかったと考えられる。

竪穴建物等が埋没しきるまで、どれくらいの時間がかかるのか。立地環境や周辺の土地利用の状況に大きく左右されるのであろうから、一概に述べることは困難であろう。本遺跡の場合に限れば、出土遺物の様相から、数 10 ～ 50 年程度は竪穴が開口していたと考える必要がある。廃棄後の土地利用がほぼ認められない場合の埋没時間を示す事例として提示できるかもしれない。

十和田火山灰の降灰範囲は、なお不明な点が多い。これについては植松氏も言及しているが（植松前掲）、本遺跡より更に南の山形市や東の仙台市においても検出されており、降灰域の限界は明確ではない。とはいえ供給源である十和田火山から 200km を超えた本遺跡周辺地域においても、非常に厚い堆積状況を示していることから、その範囲は更に拡大する可能性があるだろう。

『火山灰アトラス』に掲載される To-a の火山ガラス屈折率は、n1.496-1.508 と広い範囲を示すものであるのに対し、中央道関連の発掘調査で分析に出された火山灰の屈折率は、1.505 以上の範囲にピークをもつものが多い。これに対して低屈折率の火山灰は南方に広がらず、分布が限られるとされている（町田ほか 1981）。また、火山灰試料の置かれた状況による風化や汚染も考慮しなければならないだろう。とはいえ、複数の遺跡、多様な遺構から検出した試料が、このように近似した値を示していることは、注目すべきもののように思える。

3　調査のまとめ

清水遺跡の 1 地区の調査区は、遺跡の南端部にあた

り、平成22年に第1次、23年に第3次、26年に第7次調査を行った。合計の調査面積は1,1570㎡に及ぶ。検出した遺構は、竪穴建物13軒、掘立柱建物4棟、土坑425基、複数の溝状遺構は、ひとつの河川の流路変化によるものと思われる。

竪穴建物の規模は、4～5.5mほどのものが多く、カマドが設置されるものは、すべて南壁に設置されているなどの共通点を持っている。そんな中で特殊な様相を示しているのは、1ST365で、1辺8mほどの大型の竪穴を有し、鉄滓の出土や火床面の形成は鍛冶工房などの存在をうかがわせる。掘方から出土した帯金具の巡方(80)は、県内では希少で、3例目のものである。

竪穴建物の出土遺物からそれぞれの時期を判断すると、大きな差は感じられず、従来の編年観（阿部・水戸1999）では9世紀の中～後葉に収まるものである。建物同士の重複関係はないが、1ST330の床面で検出した大型の須恵器甕（25)、(26）が1ST365・1184でも出土している。これらの大部分は1ST330側で出土していることから、同建物の廃絶後、1ST365・1184がつくられていることがわかる。とはいえ出土遺物の内容や、共通する「縄」の墨書土器の存在から、両者に大きな時間差はないものと考えられよう。

一般的に遺構の時期判断には、覆土中に含まれる遺物の最も新しいものを用い、古いものがある場合は混入と解釈されることが多い。1ST510、1ST740、1ST777などで出土する須恵器坏には、器形が扁平で底部切り離しがヘラ切りのものがあり、単体でみれば8世紀後半代のものとして判断されるだろう。同じ遺構内で出土する底径の小さい糸切りの坏などとの共伴を考えるには、両者に50年以上の時間差を考えねばならない。とはいえ、これら古手の坏類を混入として解釈するには、多くのもので残存率がよく、床面で出土するものが多いことや、複数の遺構で同じ状況が確認でき、他に同様の坏類を主体として出土する遺構は検出していないことなどから困難である。なお、1SD186には坏類が大量に出土するが、ヘラ切りの坏は、1点も含まれていない。このような出土状況を踏まえて、どのように判断されるべきかは、今後の課題である。

河川跡からは、1SD186を中心に多数の遺物が出土した。249点の坏類を掲載し、うち119点は墨書が施されたものである。墨書は「縄」や「王」など特定の字種が多く用いられている。1SD186の大量に遺物の出土する地点では、底面に礫を敷き詰め、縁辺を木杭で囲う様子が確認されており、人工的に水場を作り出しているものと考えられる。このような状況からは、河川祭祀の事例として解釈されよう。近隣では清水遺跡の2地点や蝉田遺跡においても同様の出土状況が検出され、蝉田遺跡では斎串なども出土している。

出土遺物にみられる時期は、9世紀の中～後葉に収まる。遺物集中地点の最上層には、火山灰がブロック状に堆積しており、915年の十和田火山灰と分析されている。また、覆土中から出土したモモやクルミの種実を用いて炭素年代を測定したところ、火山灰と同等の最上層から出土したもので、670-778calAD（90.6％）という値が出ている。火山灰の年代とは、最も新しい値をとっても100年以上の差が生じる。炭素年代は、最下層から出土したものでも658-721calAD（69.5％）を示している。周辺の遺跡の発掘調査で炭素年代を測定しているものをみても、多くの遺跡で類似した7～8世紀という値が出ている。しかし、出羽国建国以前の7世紀に内陸奥地の本遺跡周辺に開発が及ぶことや、出土遺物の様相からも、この結果をそのまま受け入れるのは難しい。炭素年代と古代史、土器編年上の齟齬がなぜ生じているのか、どのように解釈すべきかは、残された課題である。

土坑などはその性格を判断することが難しいものばかりである。1SK351だけは、四隅に柱穴と思しきピットをもち、底面が強く被熱することから、隣接する1ST365とともに、鍛冶関係の遺構として解釈できるかもしれない。また、1SK321は、底面近くに十和田火山灰が堆積していることから、他のものよりも時期が新しくなる可能性がある。黒ボク土中に火山灰が溝状に平行して堆積する1SX1160～1162なども同様に考えられよう。

以上、これらの調査成果を総合すると、清水遺跡1地区の性格は、9世紀中葉に新規に開拓され、50年前後の短い期間に営まれた村落との評価を与えることができよう。本遺跡の営まれた9世紀中～後葉の東北地方は、戦乱に加え飢饉や大地震など多数の自然災害に見舞われていた時代でありながら、盛んに新規開拓が行われた時代でもある。県内の遺跡数は、この時代に一気に増加し

ており、９世紀の後半には、本遺跡周辺を含む山形盆地北部が村山郡として分郡されるのも、こういった盛んな開発活動の結果であろう。

清水遺跡１地区では、丘陵の裾部に竪穴建物が展開し、東側の調査区外には更に建物が存在することが予想される。掘立柱建物は４棟検出しているが、小型で柱通りも悪く、規格性も薄い。一方で北側の清水遺跡の３地区には大型の掘方を持つ掘立柱建物が規格的に並ぶ様が検出されているため、集落の中心地は彼の地に求められよう。低地部分では祭祀儀礼を行っており、おそらく当時の田畑も低地部にあったと思われるが、今回の調査ではそれを示すものは検出していない。１地区の調査区内に10 世紀以降の遺物はほとんど出土していないことから、集落は９世紀後半まで存続したが、その後は廃絶し、里山や耕地としての利用はあったとしても、居住はされなかったと考えられる。比較的短期間に大量に廃棄された坏類は、今後の当該時期の研究における編年的指標となるだろう。

引用文献

小松正夫ほか　1976 「第 17 次発掘調査」『昭和 50 年度秋田城跡発掘調査概報』秋田市教育委員会
阿部明彦・水戸弘美　1999 「山形県の古代土器編年」『第 25 回古代城柵官衙遺跡検討会資料』 古代城柵官衙検討会
江口友子ほか　2000 『釈迦堂遺跡』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
松村恵司　2002 「銙帯金具の位階表示機能」『銙帯をめぐる諸問題』 独立行政法人奈良文化財研究所
千葉孝弥ほか　2003 『市川橋遺跡』多賀城市埋蔵文化財調査センター
武田健次郎ほか　2008 『任海宮田遺跡発掘調査報告書Ⅲ』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
植松暁彦　2013 「古代東北の火山噴火と遺跡から見た災害規模－青森県十和田 a 広域火山灰を通して－」『年報　平成 24 年度』 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

表 27　掲載墨書土器集成１

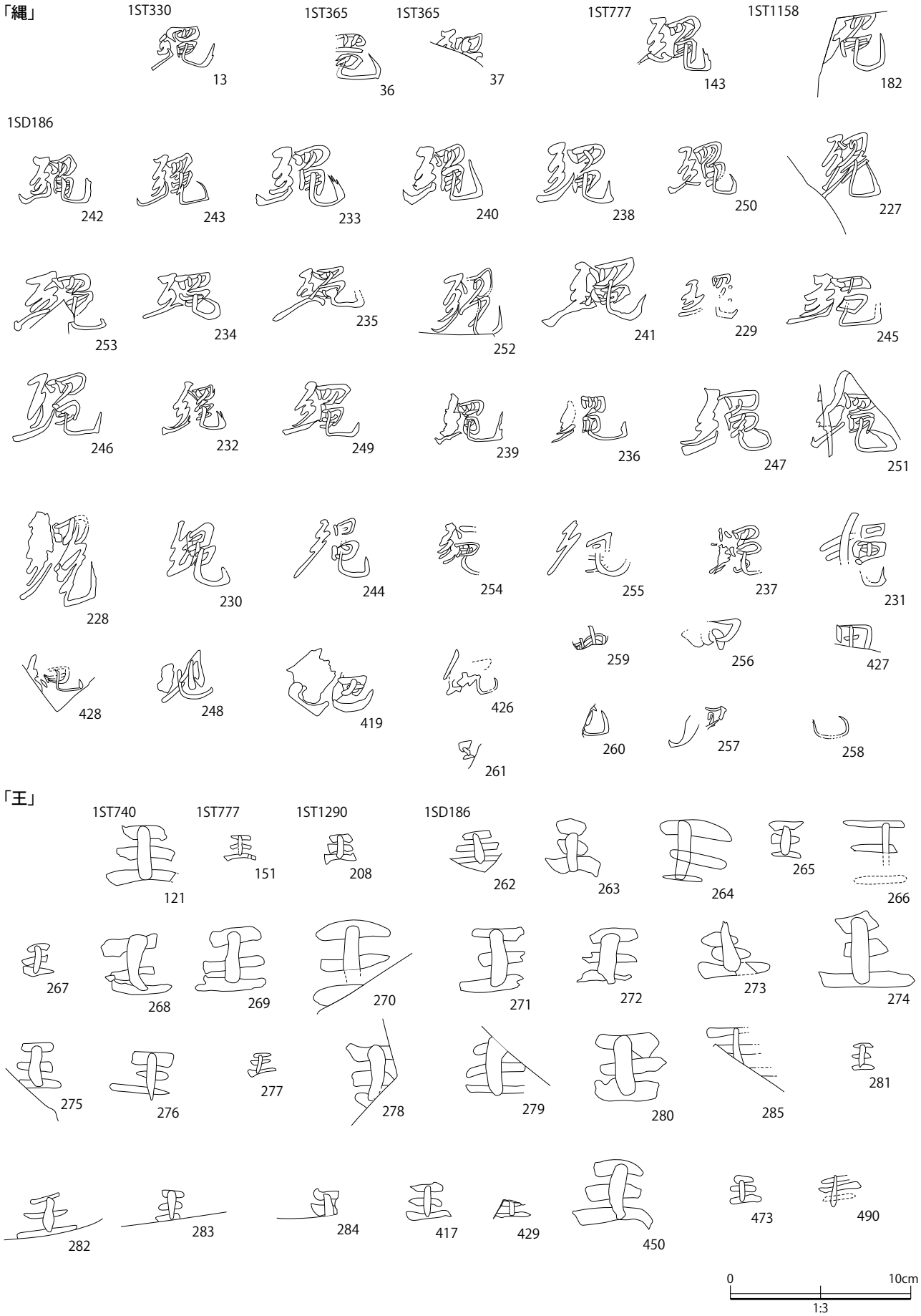
番号	遺構名	器種	墨書部位	字種
13	ST330	須恵器　坏	底	縄
15	ST330	須恵器　坏	底	貞
19	ST330	須恵器　有台坏	底	真
31	ST365	須恵器　坏	底	□
32	ST365	須恵器　坏	底	千
33	ST365	須恵器　坏	底	千
34	ST365	須恵器　坏	底	□
35	ST365	須恵器　坏	底	□
36	ST365	須恵器　坏	底	縄
37	ST365	須恵器　坏	底	縄
48	ST365	須恵器　有台坏	底	□
49	ST365	土師器　坏	底	千
113	ST740	須恵器　坏	底	其ヵ
120	ST740	土師器　坏	底	□
121	ST740	土師器　坏	底	王
122	ST740	須恵器　蓋	頂部	冨
143	ST777	須恵器　坏	底	縄
151	ST777	土師器　坏	底	王
182	ST1158	須恵器　坏	底	縄
208	ST1290	須恵器　蓋	鈕	王
227	SD186	須恵器　坏	底	縄
228	SD186	須恵器　坏	底	縄
229	SD186	須恵器　坏	底	縄
230	SD186	須恵器　坏	底	縄
231	SD186	須恵器　坏	底	「縄」
232	SD186	須恵器　坏	底	縄
233	SD186	須恵器　坏	底	縄
234	SD186	須恵器　坏	底	縄
235	SD186	須恵器　坏	底	縄
236	SD186	須恵器　坏	底	縄
237	SD186	須恵器　坏	底	縄
238	SD186	須恵器　坏	底	縄
239	SD186	須恵器　坏	底	縄
240	SD186	須恵器　坏	底	縄
241	SD186	須恵器　坏	底	縄
242	SD186	須恵器　坏	底	縄
243	SD186	須恵器　坏	底	縄
244	SD186	須恵器　坏	底	縄
245	SD186	須恵器　坏	底	縄
246	SD186	須恵器　坏	底	縄
247	SD186	須恵器　坏	底	縄
248	SD186	須恵器　坏	底	□〔縄ヵ〕
249	SD186	須恵器　坏	底	縄
250	SD186	須恵器　坏	底	縄
251	SD186	須恵器　坏	底	縄
252	SD186	須恵器　坏	底	縄
253	SD186	須恵器　坏	底	縄
254	SD186	須恵器　坏	底	縄
255	SD186	須恵器　坏	底	縄
256	SD186	須恵器　坏	底	縄ヵ
257	SD186	須恵器　坏	底	縄
258	SD186	須恵器　坏	底	縄ヵ
259	SD186	須恵器　坏	底	□〔縄ヵ〕
260	SD186	須恵器　坏	底	縄ヵ
261	SD186	須恵器　坏	底	縄ヵ
262	SD186	須恵器　坏	底	王
263	SD186	須恵器　坏	底	王
264	SD186	須恵器　坏	底	王
265	SD186	須恵器　坏	底	王
266	SD186	須恵器　坏	底	王
267	SD186	須恵器　坏	底	王
268	SD186	須恵器　坏	底	王
269	SD186	須恵器　坏	底	王
270	SD186	須恵器　坏	底	王

表 28　掲載墨書土器集成２

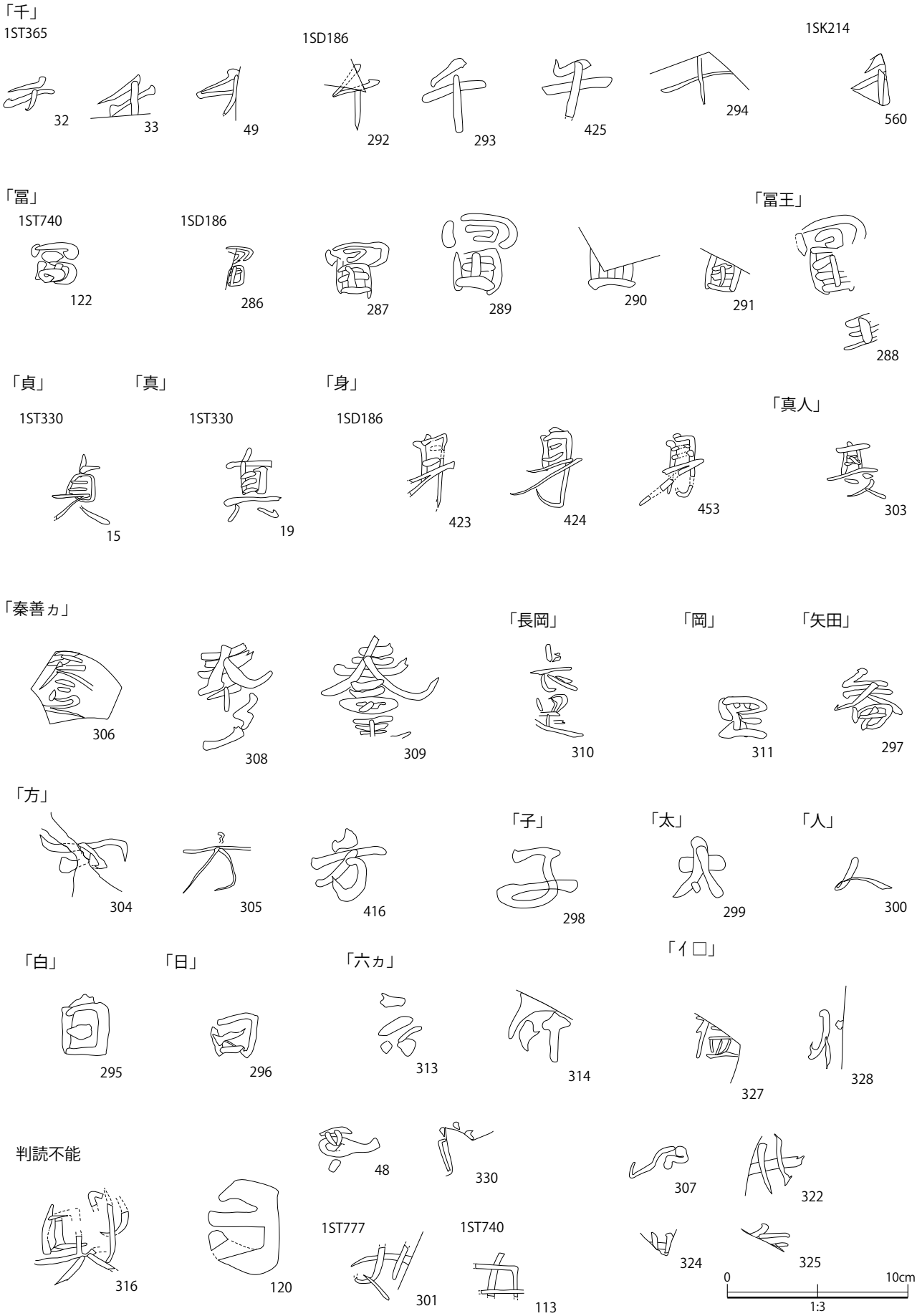
番号	遺構名	器種	墨書部位	字種
271	SD186	須恵器　坏	底	王
272	SD186	須恵器　坏	底	王
273	SD186	須恵器　坏	底	王
274	SD186	須恵器　坏	底	王
275	SD186	須恵器　坏	底	王
276	SD186	須恵器　坏	底	「王」
277	SD186	須恵器　坏	底	王
278	SD186	須恵器　坏	底	王
279	SD186	須恵器　坏	底	王
280	SD186	須恵器　坏	底	王
281	SD186	須恵器　坏	底	王
282	SD186	須恵器　坏	底	王
283	SD186	須恵器　坏	底	王
284	SD186	須恵器　坏	底	王ヵ
285	SD186	須恵器　坏	外	王
286	SD186	須恵器　坏	底	冨
287	SD186	須恵器　坏	底	冨
288	SD186	須恵器　坏	外＋底	王　、　冨
289	SD186	須恵器　坏	底	冨
290	SD186	須恵器　坏	底	□〔冨ヵ〕
291	SD186	須恵器　坏	底	□〔冨ヵ〕
292	SD186	須恵器　坏	底	千
293	SD186	須恵器　坏	底	千
294	SD186	須恵器　坏	底	千
295	SD186	須恵器　坏	底	白
296	SD186	須恵器　坏	底	日
297	SD186	須恵器　坏	底	矢田
298	SD186	須恵器　坏	底	子
299	SD186	須恵器　坏	底	太
300	SD186	須恵器　坏	底	人
301	SD186	須恵器　坏	底	□〔身ヵ〕
302	SD186	須恵器　坏	底	□〔身ヵ〕
303	SD186	須恵器　坏	底	真人
304	SD186	須恵器　坏	底	□〔方ヵ〕
305	SD186	須恵器　坏	底	方
306	SD186	須恵器　坏	外	□□〔秦善ヵ〕
307	SD186	須恵器　坏	外	□（記号）
308	SD186	須恵器　坏	底～外	秦□〔善ヵ〕
309	SD186	須恵器　坏	底～外	秦□〔善ヵ〕
310	SD186	須恵器　坏	外	□〔長ヵ〕岡
311	SD186	須恵器　坏	外	岡
313	SD186	須恵器　坏	底	□〔六ヵ〕
314	SD186	須恵器　坏	底	□〔六ヵ〕
315	SD186	須恵器　坏	底	□
316	SD186	須恵器　坏	底	□
317	SD186	須恵器　坏	底	□
318	SD186	須恵器　坏	底	□
319	SD186	須恵器　坏	底	□
320	SD186	須恵器　坏	外	□
321	SD186	須恵器　坏	外	□
322	SD186	須恵器　坏	外	□〔廾ヵ〕
323	SD186	須恵器　坏	外	□
324	SD186	須恵器　坏	外	□
325	SD186	須恵器　坏	外	□
326	SD186	須恵器　坏	外	□
327	SD186	須恵器　坏	底	□
328	SD186	須恵器　坏	底	□〔イ〕
329	SD186	須恵器　坏	底	□
330	SD186	須恵器　坏	底	□
416	SD186	須恵器　有台坏	底	方
417	SD186	須恵器　有台坏	底	王
418	SD186	須恵器　有台坏	底	□〔真ヵ〕
419	SD186	須恵器　有台坏	底	□〔縄ヵ〕
422	SD186	土師器　坏	底	□
423	SD186	土師器　坏	底	身
424	SD186	土師器　坏	底	身
425	SD186	土師器　坏	底	千
426	SD186	土師器　坏	底	縄
427	SD186	土師器　坏	底	縄ヵ
428	SD186	土師器　坏	底	縄
429	SD186	土師器　坏	底	王ヵ
450	SD186	土師器　坏	底	王
453	SD186	土師器　有台坏	底	身
473	SD186	須恵器　蓋	鈕	王
490	SD186	須恵器　瓶類	底	王
529	SD27	須恵器　坏	底	□
554	SK182	須恵器　有台坏	底	□
560	SK214	須恵器　坏	底	千

表 29　中央道調査による火山灰検出遺構

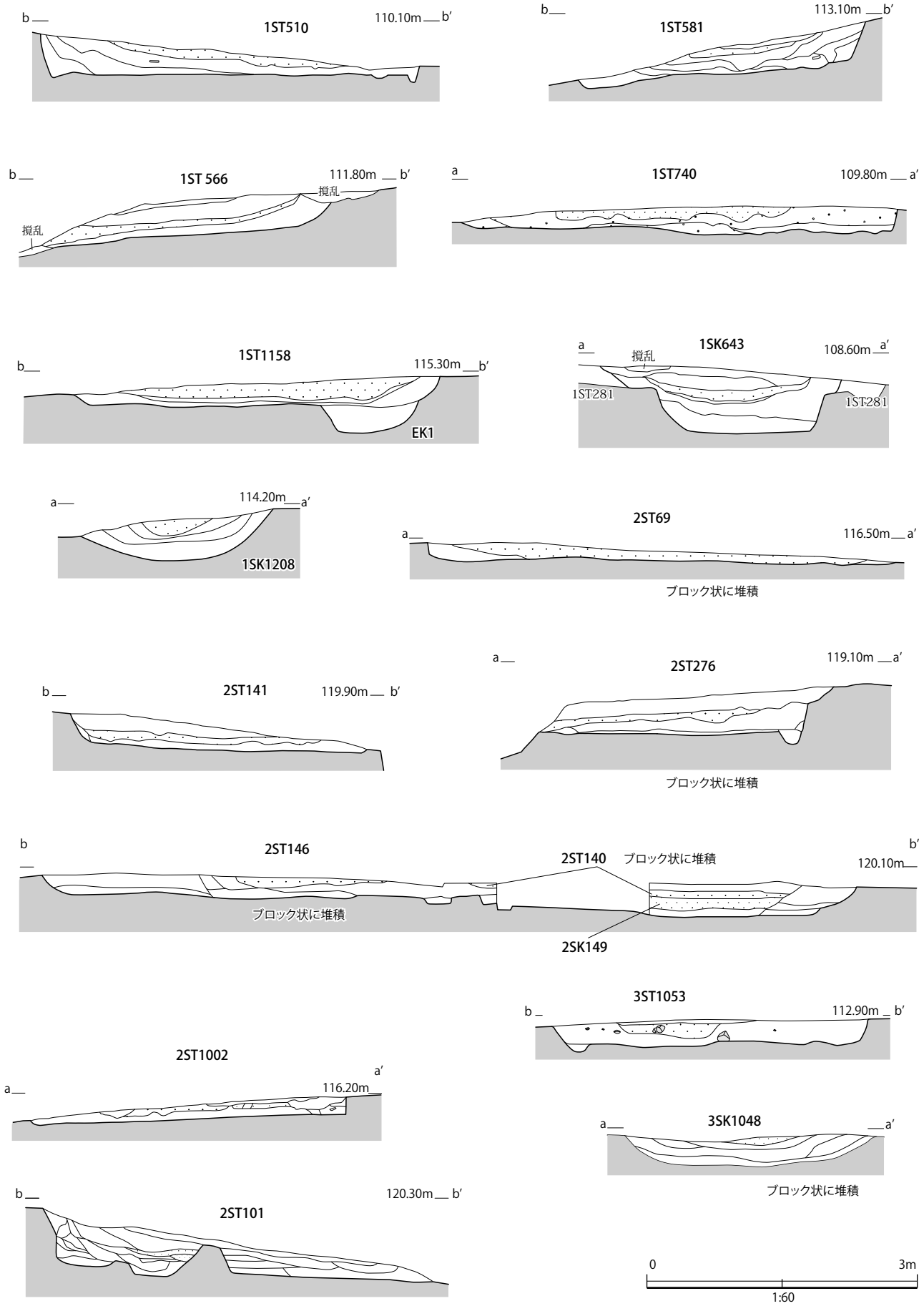
遺跡名	遺構名	堆積	層厚	屈折率
清水遺跡１地区	1SK182	覆土中位	ブロック	1.506-1.509
清水遺跡１地区	1SD186	覆土最上	4cm	1.505-1.509
清水遺跡１地区	1SK321	覆土下位	8cm	1.504-1.507
清水遺跡１地区	1ST365EK1	覆土中位	ブロック	-
清水遺跡１地区	1ST510	覆土最上	8cm	1.503-1.509
清水遺跡１地区	1ST566	覆土中位	15cm	1.505-1.509
清水遺跡１地区	1ST581	覆土中位	11cm	1.506-1.509
清水遺跡１地区	1SK643	覆土中位	8cm	1.505-1.508
清水遺跡１地区	1ST740	覆土最上	12cm	-
清水遺跡１地区	1ST777	覆土最上	4cm	-
清水遺跡１地区	1ST1158	覆土最上	22cm	-
清水遺跡１地区	1SX1160 他	覆土全体	ブロック	-
清水遺跡１地区	1SK1208	覆土最上	12cm	-
清水遺跡１地区	1SK1232	覆土下層	ブロック	-
清水遺跡２地区	2ST9EP8	覆土上位	含む	1.501-1.504
清水遺跡２地区	2ST69	覆土最上	18cm	1.500-1.506
清水遺跡２地区	2ST101	覆土中位	14cm	1.498-1.506
清水遺跡２地区	2ST140	覆土中位	ブロック	1.494-1.504
清水遺跡２地区	2ST141	覆土中位	12cm	1.499-1.509
清水遺跡２地区	2ST141	覆土中位	12cm	1.503-1.506
清水遺跡２地区	2ST146	覆土中位	ブロック	1.498-1.502
清水遺跡２地区	2SK149	覆土中位	13cm	-
清水遺跡２地区	2SG266			1.502-1.508
清水遺跡２地区	2ST276	覆土中位	ブロック	1.502-1.506
清水遺跡２地区	2ST1002	覆土上位	8cm	1.502-1.506
清水遺跡３地区	3SK1047	覆土最上	ブロック	1.497-1.509
清水遺跡３地区	3SK1048	覆土最上	ブロック	1.498-1.508
清水遺跡３地区	3ST1053	覆土上位	17 ㎝	1.505-1.509
清水遺跡８次	ST448	-	ブロック	1.506-1.509
松橋遺跡	SE101	覆土中位	8cm	1.498-1.514
松橋遺跡	SK555	覆土中位	4cm	1.505-1.512
田向２遺跡１・２次	ST68	覆土中位	ブロック	1.507-1.510
蝉田遺跡１・２次	グリッド	-	ブロック	1.505-1.509
沼田２遺跡	SK23	覆土下位	4cm	1.507-1.510
沼田２遺跡	SG158	覆土中位	10cm	1.505-1.506
東熊野苗畑遺跡	SG54	覆土中位	ブロック	1.506-1.508



第 119 図　1 地区出土の墨書土器の集成 1



第 120 図　1 地区出土の墨書土器の集成 2



第 121 図　清水遺跡から検出した火山灰の堆積状況の集成

写真図版

1　調査前風景（南から）

2　A 区検出状況（南から）

3　B 区検出状況（南から）

4　C 区全景（北から）

5　G 区検出状況（北から）

6　H 区検出状況（西から）

7　空撮 A~C 区全景（南から）

8　空撮 E~F 区全景（北から）

9　空撮 E~F 区全景（北東から）

10　空撮 A・D 区下層全景（南から）

11　1ST121EL1 遺物出土状況（北東から）

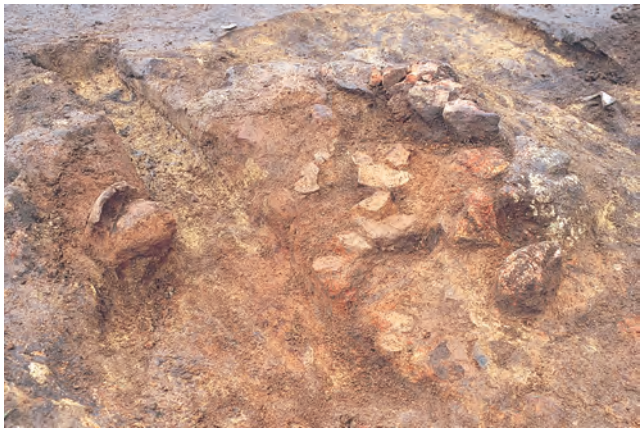
12　1ST121 完掘（東から）

13　1ST281 断面（南から）

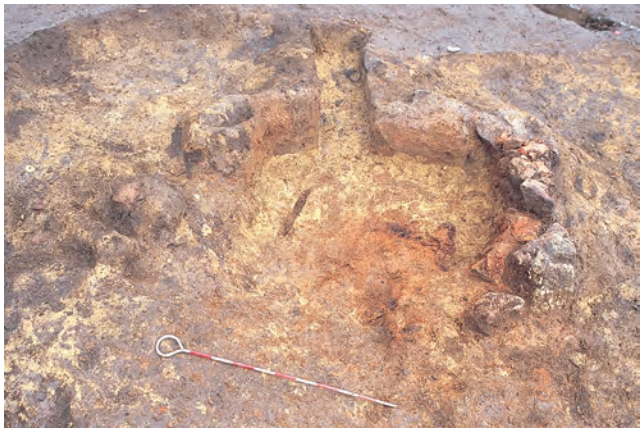
14　1ST281 完掘（北から）

15　1ST330 遺物（25）出土状況（北から）

16　1ST330 遺物（21）出土状況（東から）



17　1ST330EL1 遺物出土状況（北東から）



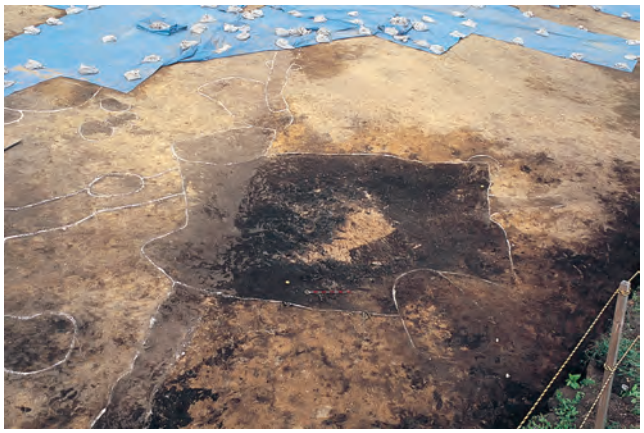
18　1ST330EL1 完掘（北から）

19　1ST330 完掘（北から）

20　1ST330 掘方（北から）

21　1ST365 完掘（北から）

22　1ST365 掘方（北から）



23　1ST510 火山灰検出状況（南西から）

24　1ST510 断面（東から）

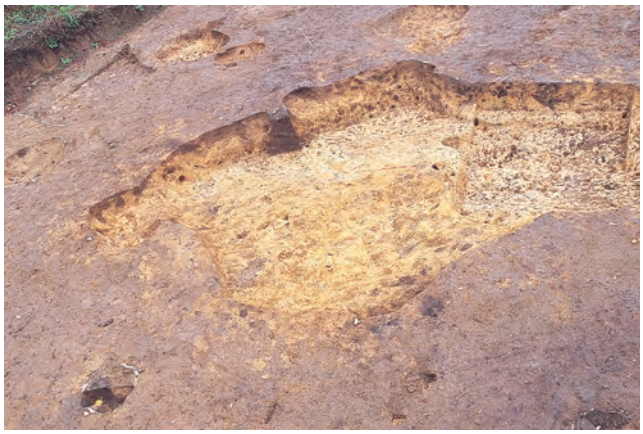
25　1ST510 完掘（北から）

26　1ST510 掘方（北から）

27　1ST566 断面（南西から）

28　1ST566 完掘（西から）

29　1ST581 断面（南東から）



30　1ST581 完掘（西から）

31　1ST740 断面 3（東から）

32　1ST740 遺物出土状況（北から）

33　1ST740 遺物（131 ほか）出土状況（北から）

34　1ST740EL1 遺物出土状況（北から）

35　1ST740 完掘（北から）

36　1ST740 掘方（南から）

37　1ST777 断面（西から）

38　1ST777 遺物出土状況（北西から）

39　1ST777 完掘（南西から）

40　1ST777 空撮（南から）

41　1ST1158 検出（西から）

42　1ST1158 断面（西から）

43　1ST1158EL1 遺物出土状況（北西から）

44　1ST1158EL1 遺物（192+194）出土状況（北から）

45　1ST1158 完掘（北西から）

46　1ST1158 掘方（北から）

47　1ST1184 完掘（北から）

48　1ST1184 掘方（北から）

49　1ST1290 出土状況（北から）

50　1ST1290EK2 完掘（西から）

51　1ST1290 完掘（北から）

52　1ST1290 掘方（北から）

53　1ST1286・1290 完掘（北から）

54　1SB1405・1SA1406 完掘（東から）

55　第 1 次調査風景　1ST330（東から）

56　第 1 次調査風景　1SD186（北から）

57　第 3 次調査風景　1ST1158（南から）

58　A 区全景（南から）

59　1SD186 完掘（北から）

60　1SD186 断面（北東から）

61　1SD186 断面 d-d'（南から）

62　1SD186 断面 e-e'（南東から）

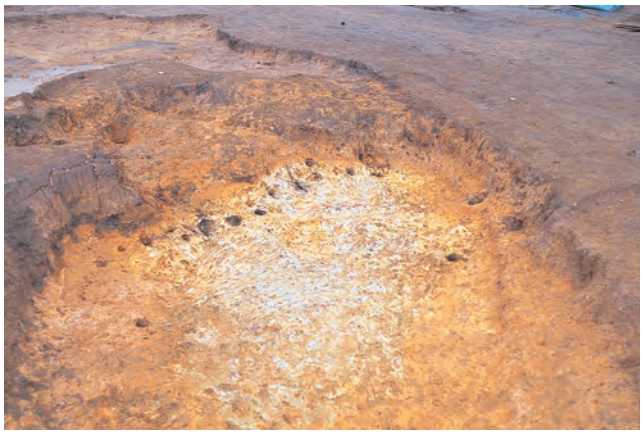
63　1SD186 断面 i-i'（南東から）

64　1SD186 遺物出土状況（北東から）

65　1SD186 遺物出土状況（南から）

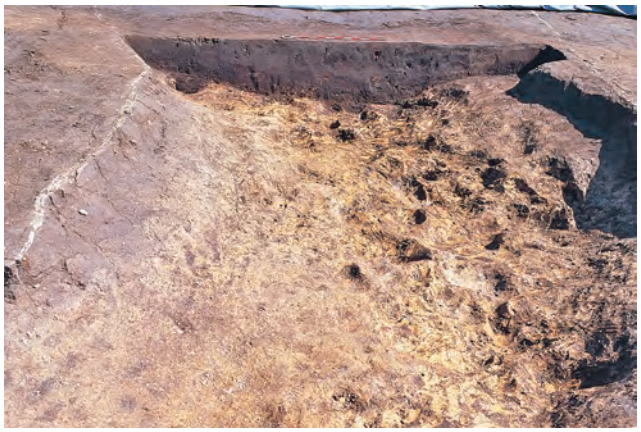
66　1SD186 遺物出土状況（東から）

67　1SD186 遺物出土状況（北から）



68　1SD186 杭列検出（南から）

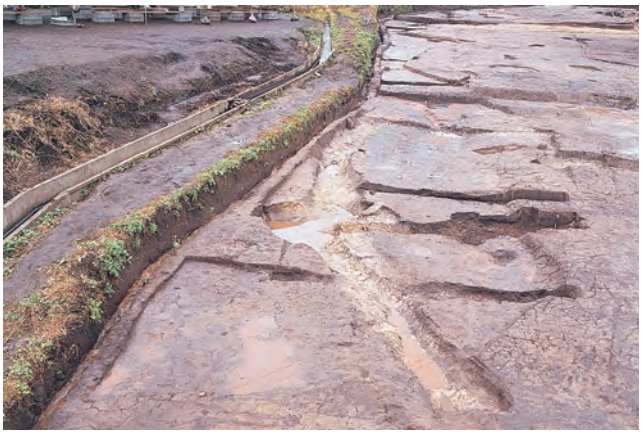
69　1SD186 完掘（南から）



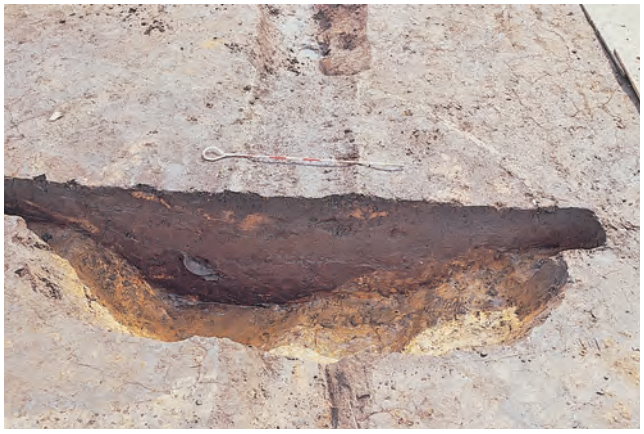
70　1SD27 断面（北から）

71　1SD27 完掘（北から）

72　1SD161 完掘（北から）



73　1SD137 完掘（南から）

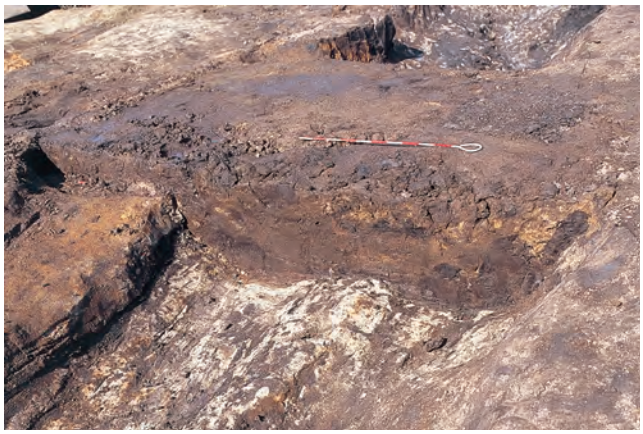


74　1SK182 断面（北から）

75　1SD183 完掘（北から）

76　1SD1358 完掘（南西から）

77　1SD1378 断面 aa-aa'（南から）



78　1SD1378 断面 av-av'（南から）

79　1SD1378 断面（南から）

80　1SD1378+1383 完掘（南から）

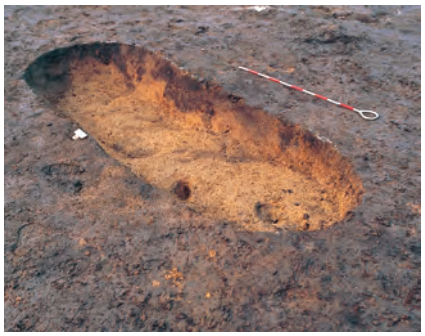
81　A・D 区下層完掘（南から）

82　第 1 次調査風景（南から）

83　第 1 次調査風景（北から）

84　第 3 次調査風景（北から）

85　第 3 次調査風景（北から）


86　1SK98 完掘（南から）

87　1SK100 完掘（北東から）

88　1SK119+120 完掘（南から）

89　1SK243 完掘（東から）

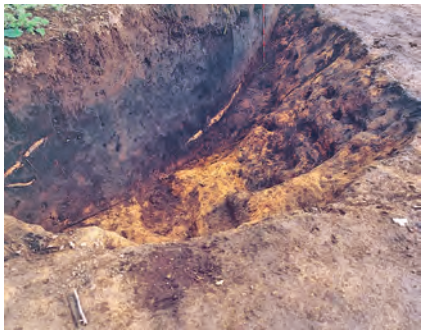
90　1SK289 完掘（北から）

91　1SK251+252 完掘（北から）

92　1SK301 完掘（東から）

93　1SK308+309 完掘（東から）

94　1SK310 完掘（北から）

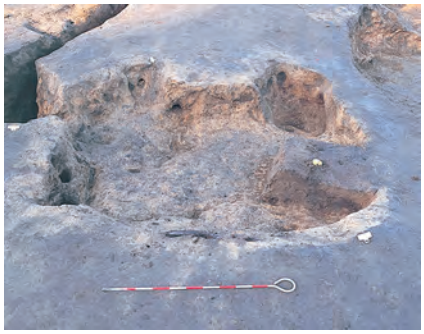

95　1SK321 断面（北から）

96　1SK322 完掘（北から）

97　1SK324 完掘（西から）

98　1SK344 完掘（西から）

99　1SK351 断面（南から）


100　1SK351 完掘（東から）

101　1SK353+354+358 断面（南から）

102　1SK355+356+692 完掘（南から）

103　1SK369 完掘（東から）

104　1SK378 完掘（東から）

105　1SK387 完掘（西から）

106　1SK398 完掘（北東から）

107　1SK399 断面（南東から）

108　1SK399 完掘（東から）

109　1SK401 完掘（東から）

110　1SK411 断面（北西から）

111　1SK411 完掘（北東から）

112　1SK419 完掘（西から）

113　1SK544+545 断面（南から）

114　1SK544-546 完掘（南西から）

115　1SK571 完掘（西から）

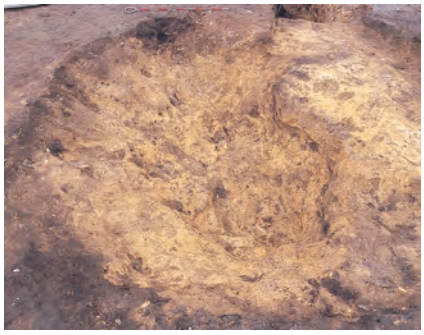
116　1SK639 完掘（北から）

117　1SK643 完掘（南から）

118　1SK759 完掘（南から）

119　1SK771 完掘（東から）

120　1SK1111+1112 完掘（南東から）



121　1SK1169 完掘（南から）

122　1SK1141 完掘（西から）

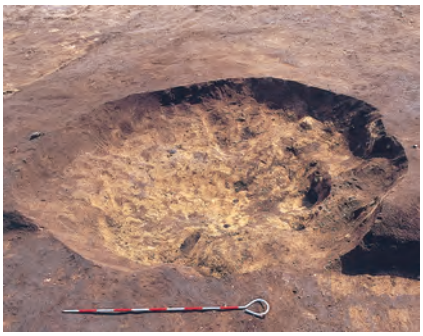
123　1SK1164 断面（南から）

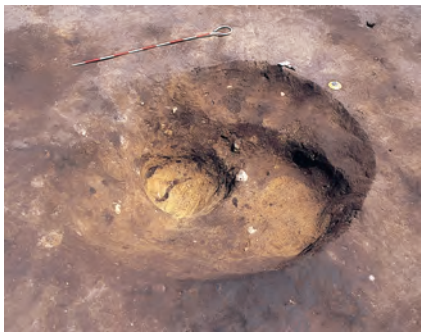
124　1SX1175 断面（南から）

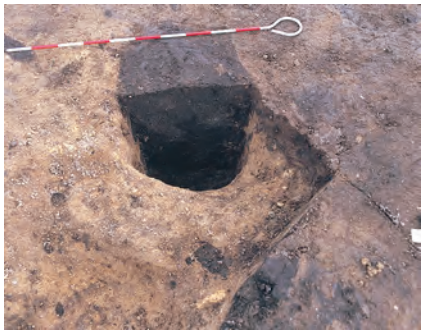
125　1SX1160-1162 断面（北から）

126　1SX1160-1163 完掘（南から）

127　1SK1208 検出（東から）


128　1SK1208 完掘（北から）

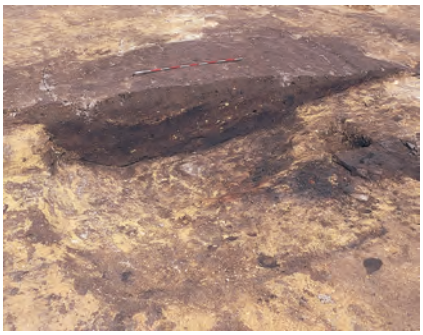

129　1SK1215 完掘（南から）


130　1SK1228 断面（北から）

131　1SK1235 完掘（南から）

132　1SK1248 完掘（南から）

133　1SK1251+1252 完掘（南から）


134　1SK1266 断面（南から）

135　1SK1266 完掘（南から）

136　1SK1332 完掘（南から）

137　1SK1343+1344 完掘（南から）

138　1SK1020 完掘（東から）

139　1SK1023 完掘（東から）

140　1SK1035 完掘（南から）

141　1SK1062 完掘（南から）

竪穴建物出土遺物写真１（上段：1ST121、中段：1ST281、下段：1ST330）

竪穴建物出土遺物写真２（1ST330）

竪穴建物出土遺物写真３（1ST330）

31

32

33

34

35

36

38

39

40

41

42

43

44

45

46

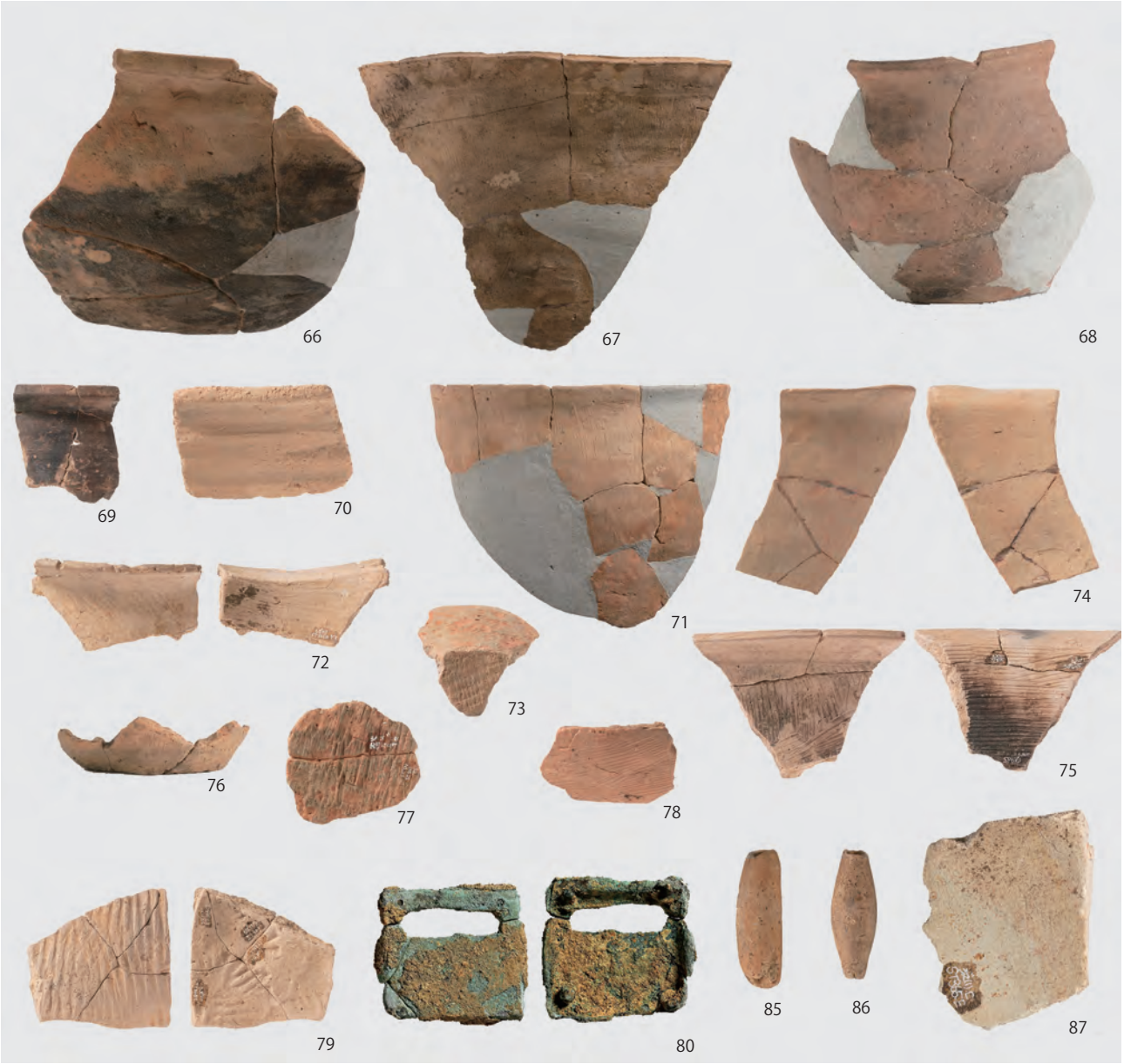
47

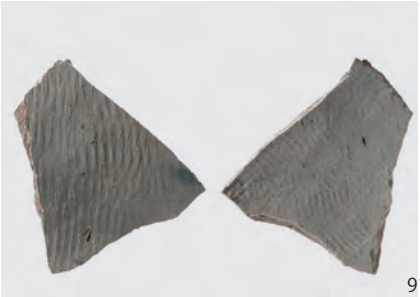
48

49

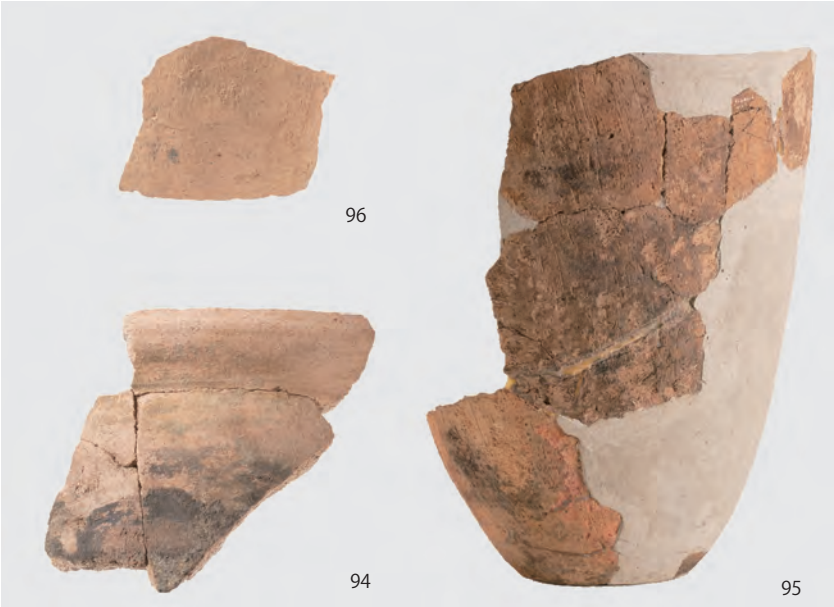
竪穴建物出土遺物写真４（1ST365）

竪穴建物出土遺物写真５（1ST365）





竪穴建物出土遺物写真６（上段：1ST365、下段 1ST510）



竪穴建物出土遺物写真７（上段左：1ST510、上段右：1ST566、中段：1ST581、下段：1ST740）

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

126

124

125

127

竪穴建物出土遺物写真８（1ST740）

竪穴建物出土遺物写真９（1ST740）

竪穴建物出土遺物写真 10（上段：1ST740、下段：1ST777）

竪穴建物出土遺物写真 11（1ST777）

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

竪穴建物出土遺物写真 12（1ST1158）

190

191

192

193

196

194

195

竪穴建物出土遺物写真 13（1ST1158）

竪穴建物出土遺物写真 14（上段：1ST1184、下段：1ST1290）

竪穴建物出土遺物写真 15（上段：1ST1290、下段左：1ST1286、下段中：1SB665、下段右：1SB1405）

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

河川出土遺物写真 1（1SD186）

245

246

247

262

263

264

265

266

267

268

269

270

河川出土遺物写真 2（1SD186）

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

河川出土遺物写真 3（1SD186）

292

293

294

295

296

297

298

299

301

304

307

308

309

310

311

312

313

314

河川出土遺物写真 4（1SD186）

河川出土遺物写真 5（1SD186）

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

河川出土遺物写真 6（1SD186）

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373

河川出土遺物写真 7（1SD186）

374

375

376

377

378

379

380

381

382

383

384

385

386

387

388

389

390

391

河川出土遺物写真 8（1SD186）

392

393

394

395

396

397

398

399

400

401

402
403

404

405

406

407

408

409

410

河川出土遺物写真 9（1SD186）

411

412

413

414

415

416

422

423

424

432

430

431

河川出土遺物写真 10（1SD186）

433

434

435

436

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

450

河川出土遺物写真 11（1SD186）

451

452

453

454

455

456

457

458

459

460

461

462

463

464

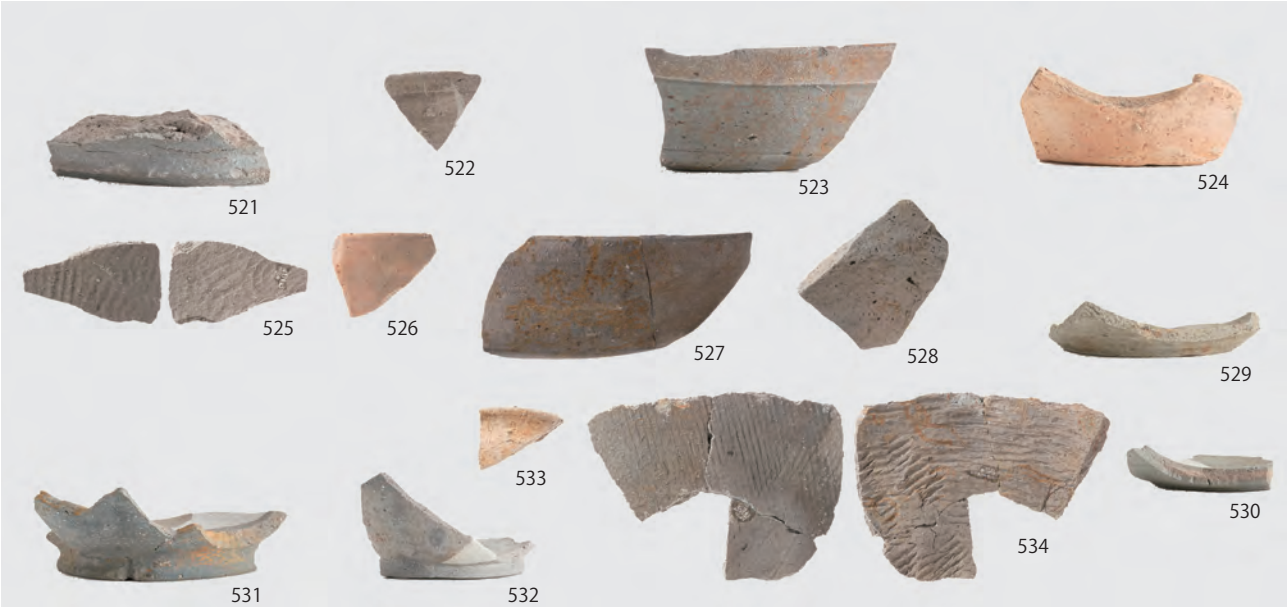
465

466 467 468 469

河川出土遺物写真 12（1SD186）

河川出土遺物写真 13（1SD186）

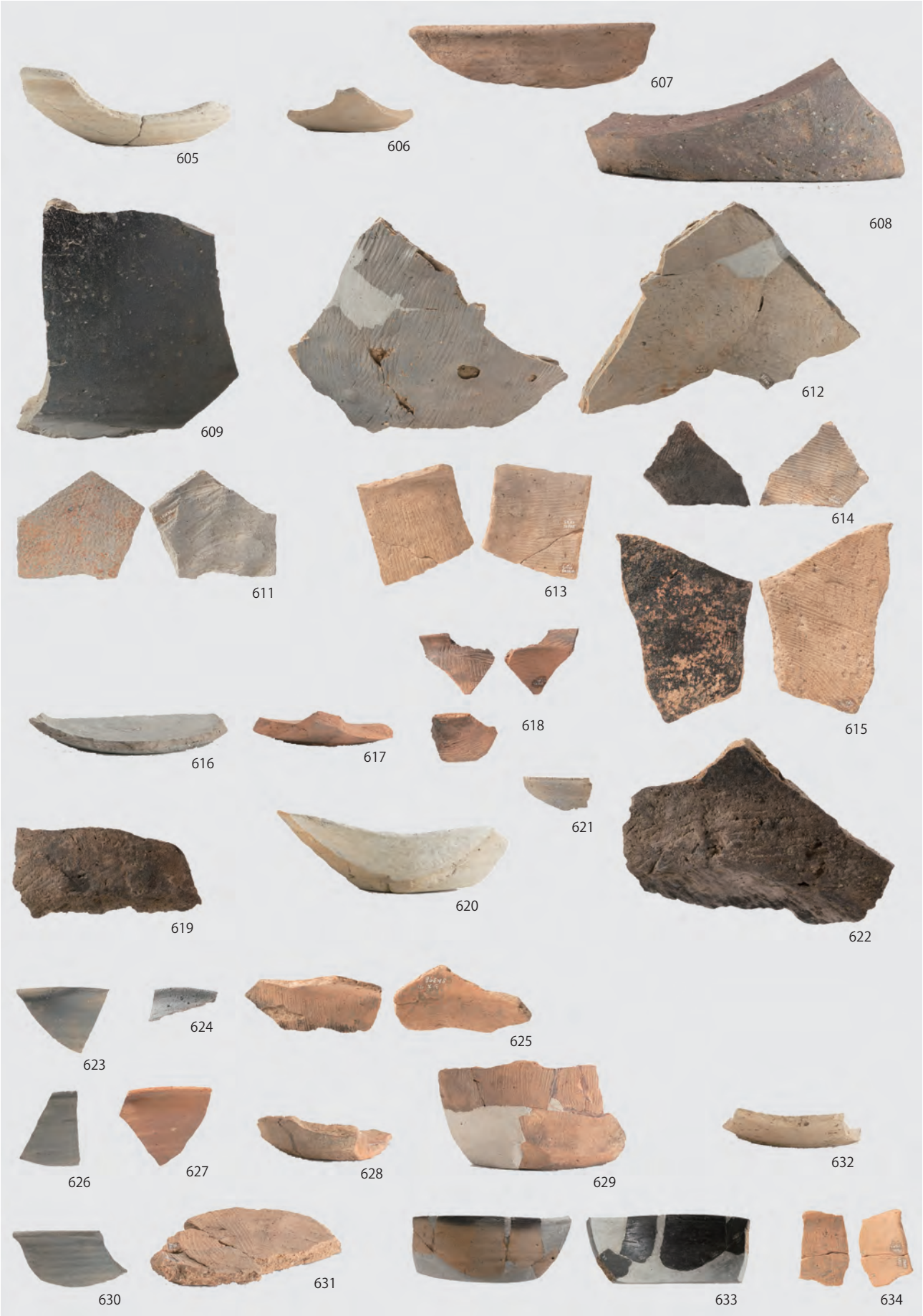
河川出土遺物写真 14（1SD186）



河川出土遺物写真 15（上段：1SD186、下段：1SD27）

河川出土遺物写真 16（1SK28-1SK241）

土坑ほか出土遺物写真 1（1SK33-1SK692）



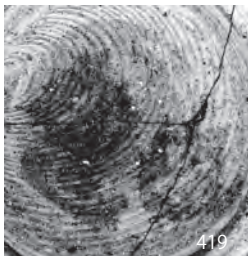
土坑ほか出土遺物写真 2（1SK358-1SK411）

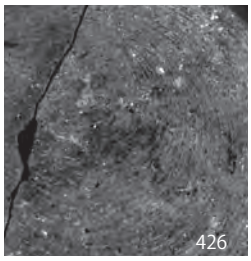
上段：土坑ほか出土遺物写真 3（1SK418-1SX1162）、下段：調査区一括出土遺物写真 1

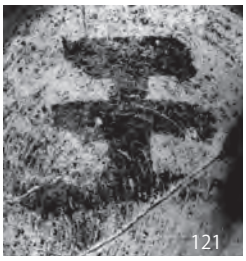
調査区一括出土遺物写真 2

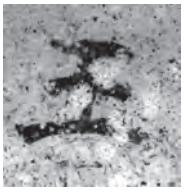
13
36
37
143
182
242
243
233
240
238
250
227
253
234
235
252
241
229
245
246
232
249
239
236
247
251
228
230
244
254
255
237
231
428
248

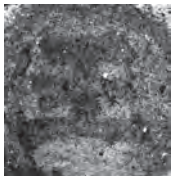
墨書土器赤外線写真 1

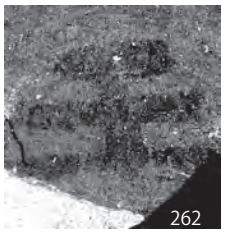

419

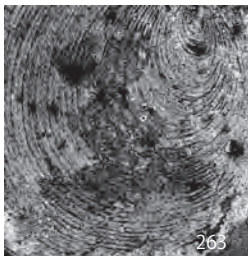

426

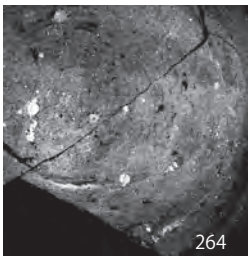

121

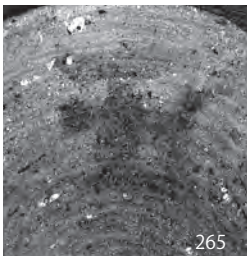

151

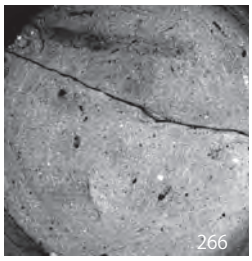

208

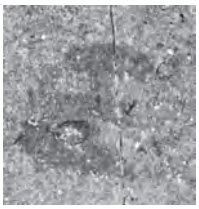

262

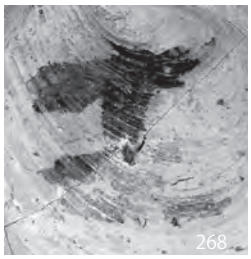

263

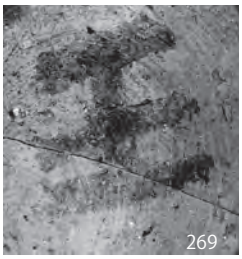

264

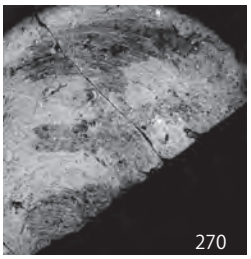

265

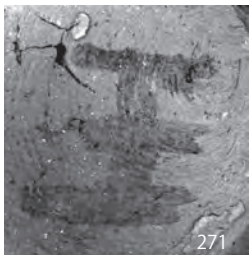

266

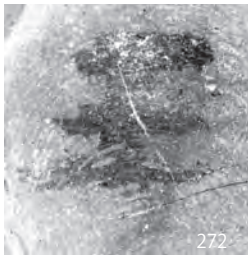

267

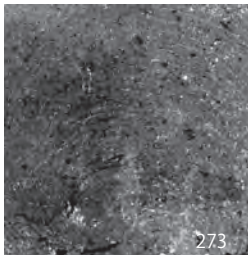

268

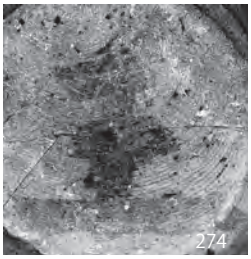

269

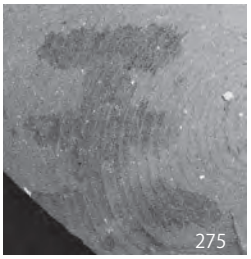

270

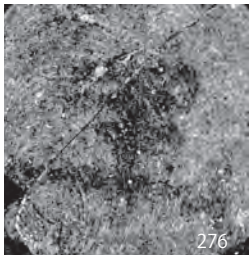

271

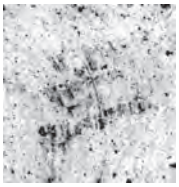

272

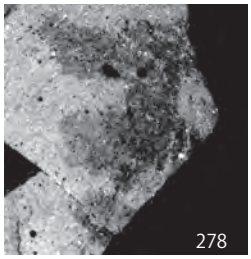

273

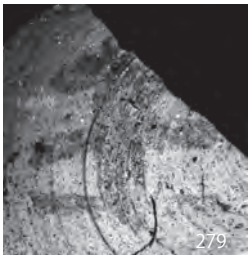

274

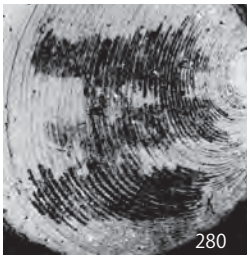

275

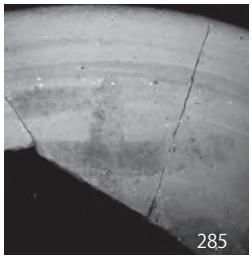

276

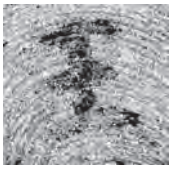

277

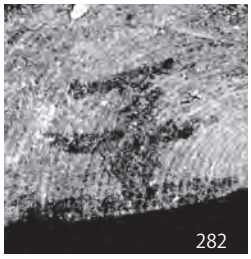

278

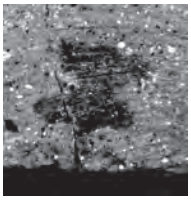

279

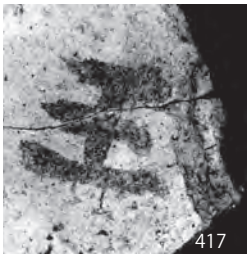

280

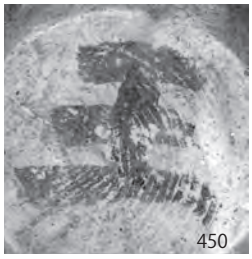

285

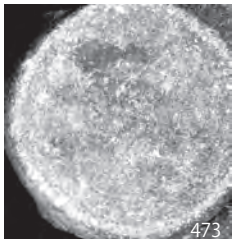

281

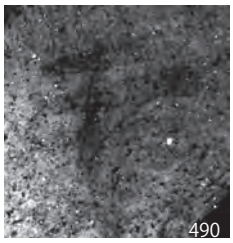

282


283

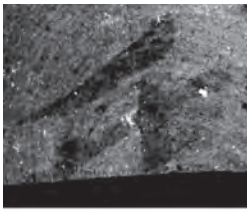

417

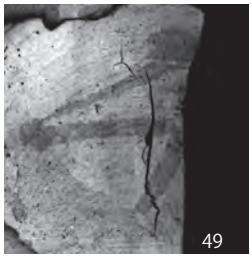

450


473

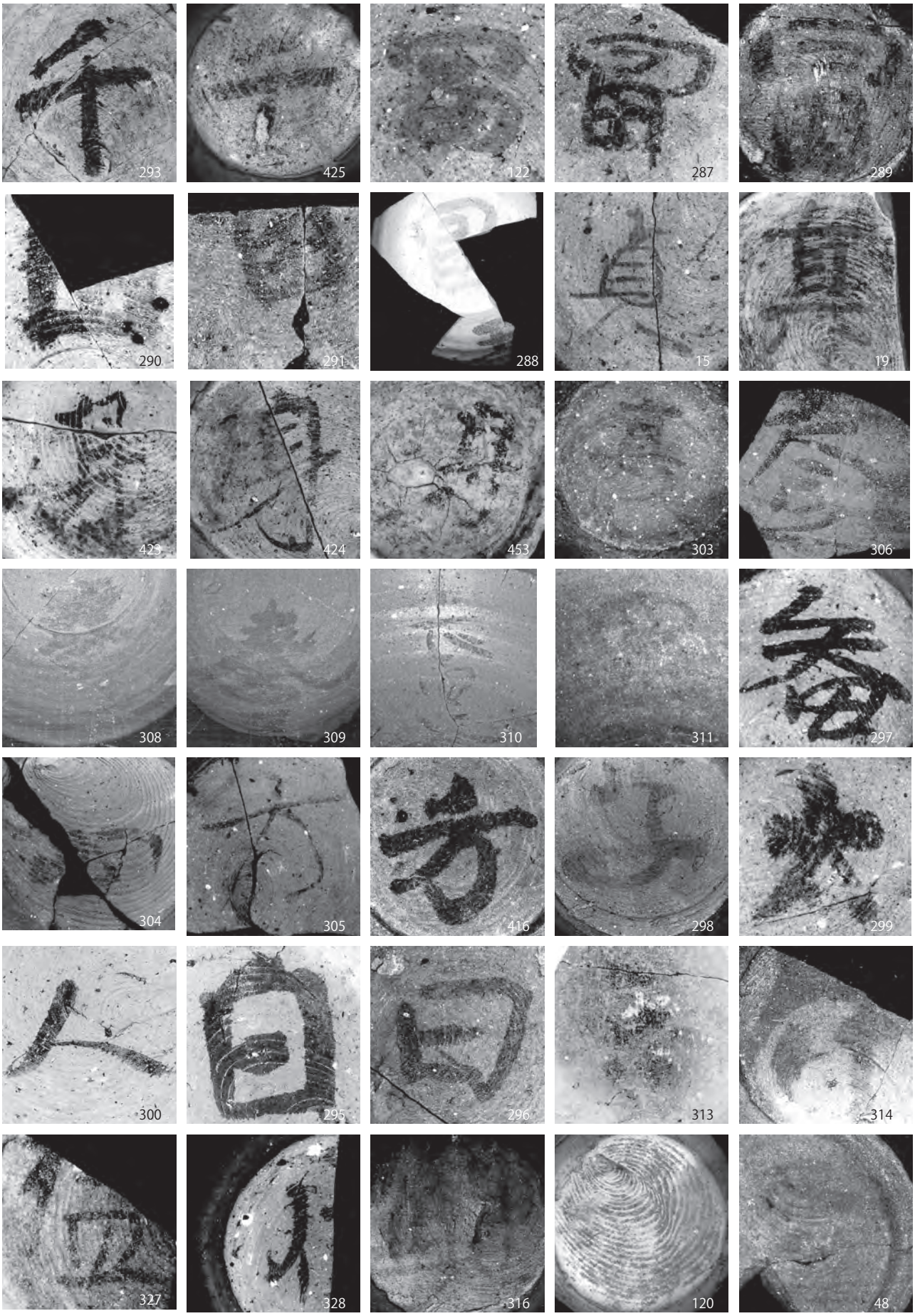

490

32


33


49

墨書土器赤外線写真 2


293
425
122
287
289
290
291
288
15
19
423
424
453
303
306
308
309
310
311
297
304
305
416
298
299
300
295
296
313
314
327
328
316
120
48

墨書土器赤外線写真 3

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 238 集

清水遺跡第 1 ～ 7 次発掘調査報告書

2020 年 3 月 31 日発行

発行　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒 999 - 3246　山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話　023-672-5301
印刷　田宮印刷株式会社
〒 990-2251　山形県山形市立谷川三丁目 1410 番地の 1
電話　023 - 686 - 6111

このPDFデータは下記の報告書を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。
底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。
所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：清水遺跡第1～7・9次発掘調査報告書　第一分冊
発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
電話:023-672-5301
URL:http://www.yamagatamaibun.or.jp/
mail:yac@yamagatamaibun.or.jp
電子版作成日：2020年3月31日